（4）金属製品

銭（第130図，*1*～*17*，図版80）

*1*は開元通寶である。「通」字の下に星文を有する。開元通寶は唐銭で初鋳は621年（武徳４）であるが，1350年頃には本邦でも模鋳される。*2*は乾元重寶当十銭である。唐銭で，初鋳は758年（乾元元）であるが，本邦でも中世に模鋳される。*3*は至道元寶である。北宋銭で，初鋳は995年（至道元）であるが，本邦でも中世に模鋳される。字体は真書体である。*4*は咸平元寶である。北宋銭で初鋳は998年であり，本邦でも中世に模鋳されている。*5*は天禧通寶である。北宋銭で，1017年（天禧元）に鋳られたものである。*6*は天聖元寶である。*7*・*8*は皇宋通寶である。北宋銭で初鋳は1038年（寶元元）であり，本邦でも1340年頃に模鋳される。*7*・*8*とも篆書体であるが，字形は異なる。*9*は熙寧元寶である。北宋銭で，初鋳は1068（熙寧元）である。字体は篆書体である。*10*～*12*は元祐通寶である。北宋銭で，初鋳は1086年（元祐元）であるが，本邦でも中世に模鋳される。字体は*10*～*12*は篆書体である。*12*は鋳不足による円形の欠けが２箇所みられ，模鋳銭と考えられる。*13*は聖宋元寶である。北宋銭で，初鋳は1101年（建中靖国元）であり，本邦でも中世に模鋳される。*13*は鋳不足による孔が多くみられ，模鋳銭と考えられる。字体は篆書体である。*14*は大観通寶である。北宋銭で，初鋳は1107年（大観元）であり，本邦でも中世に模鋳される。*15*は政和通寶である。北宋銭で，初鋳は1111年（政和元）であり，本邦でも中世に模鋳される。*15*は鋳不足による孔があり，模鋳銭と考えられる。字体は分楷体である。*16*は大定通寶である。金銭で，初鋳は1178年（大定元）である。*17*は寛永通寶である。

遺構の供伴資料として複数枚出土した銭貨は，以下のとおりである。ＳＤ301からは咸平元寶（*4*），皇宋通寶（*7*），この他に図示していないが開元通寶２枚，皇宋通寶１枚，元豊通寶（北宋銭，初鋳1078年）２枚の計７枚。ＳＫ1371からは開元通寶（*1*），乾元重寶（*2*），至道元寶（*3*），皇宋通寶（*8*），熙寧元寶（*9*），元祐通寶（*10*・*11*），大観通寶（*14*），政和通寶（*15*），銭文不明の図示していない１点の計10枚。ＳＫ1208からは，天禧通寶（*5*）の他に，図示していないが皇宋通寶１枚の計２枚が出土している。

刀子（第131図，*18*～*20*，図版79）

*18*はＳＫ1108，*19*・*20*はＳＥ508から出土した。鉄製の本体のみの出土で柄は無い。*20*は関部から切先まで遺存しており残存長は14.5㎝である。両関作りとなっている。

雁股鏃（第131図，*21*，図版79）

*21*はＳＥ1001から出土した。刃部と茎部の先端を欠損し，残存長は5.7㎝である。刃部は薄く扁平で，関部と茎部は断面楕円形を呈する。関部は台形状に広がっている。

握り鋏（第131図，*22*，図版80）

*22*はＳＫ1278から出土した。片側半分と刃部を欠損する。

釣針状製品（第131図，*23*，図版79）

*23*はＳＥ508から出土した。長さは2.9㎝で，断面は直径0.3㎝の円形を呈する。輪状の湾曲部に至る前に一旦屈折させる。先端は尖り，逆刺は無い。

釘（第131図，*24*～*29*，図版80）

*24*は包含層，*25*はＳＥ1229，*26*はＳＫ743，*27*はＳＥ1299，*28*はＳＫ1296から出土した。*24*は頭部が細く，*26*・*27*は両端を欠損しているため確実ではないが釘と考える鉄製品である。断面は*25*・*26*・*29*が正方形，*24*・*27*・*28*は長方形である。*28*・*29*は頭部を折り曲げ扁平につぶしている。*29*は完形で，

全長8.1cm，断面は一辺0.7cmの大型の釘である。

引き手金具（第131図，*30*）

*30*はＳＤ401から出土した。環状部の断面は直径４㎜の円形を呈し，打ち込み部は重ねて扁平に延ばす。

煙管（第131図，*31*・*32*，図版79）

*31*は雁首で，銀製か。火皿は小型で，油返しの湾曲がほとんどなく首部が火皿に直接取り付く。首部は舟形を呈し，上面は浅く窪む。

*32*は銅製である。羅宇は首部と吸口より太く，段ができているが，雁首から吸口までが一体となった延煙管である。油返しの湾曲は羅宇部を曲げることにより作り出している。火皿は欠損しているが，残存部の内面に塗金がみられる。

用途不明品（第131図，*33*）

*33*はＳＥ693から出土した。厚さ0.8cmの板状で先端は斜めに切って尖らせる。

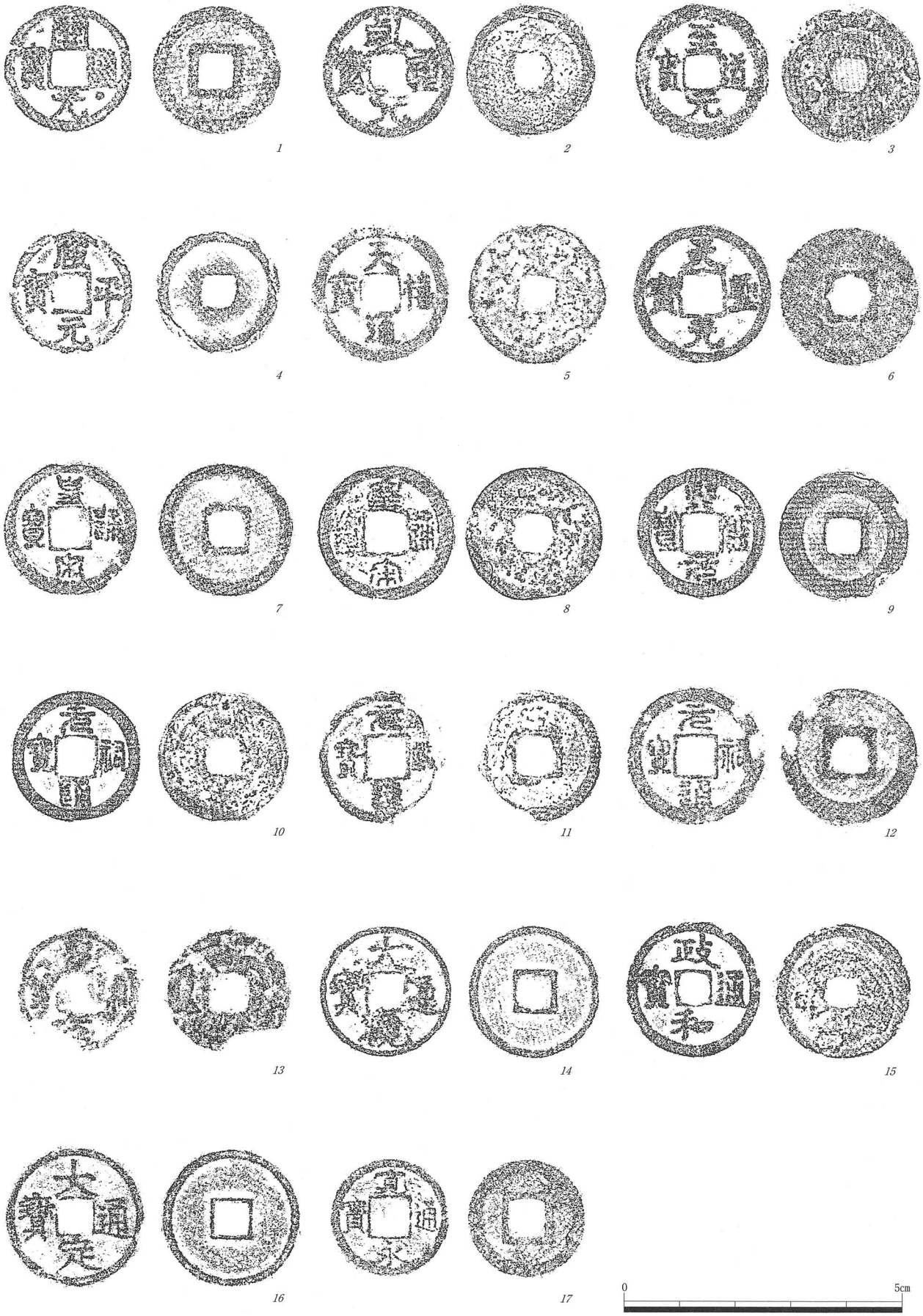
鞴羽口（第131図，*34*～*39*）

35・*38*はＳＫ404，*36*はＳＤ301，*37*・*39*はＳＥ850から出土した。*34*は先端部が残存しない破片でガラス化した気泡の多い溶解物が付着する。一方は使用過程における二次的被熱のため黒変し，もう一方は素焼き本来の橙色を呈する。*35*・*36*・*38*・*39*は炉側の先端部で，先端部を中心にガラス化した溶解物が付着し，*35*・*38*・*39*の溶解物には鉄も含まれる。先端部から外面にかけては二次的被熱のため黒変する。*37*は付着物がなく被熱による変色も少ないため送風口側の破片とみられるが先端部・基部は欠損する。径は６～７cmに復原され，小振りのものである。外面は不定方向にナデて仕上げる。*37*～*39*は胎土に骨針を多く含む。

鉄滓（第132図，*40*～*61*，図版81～83）

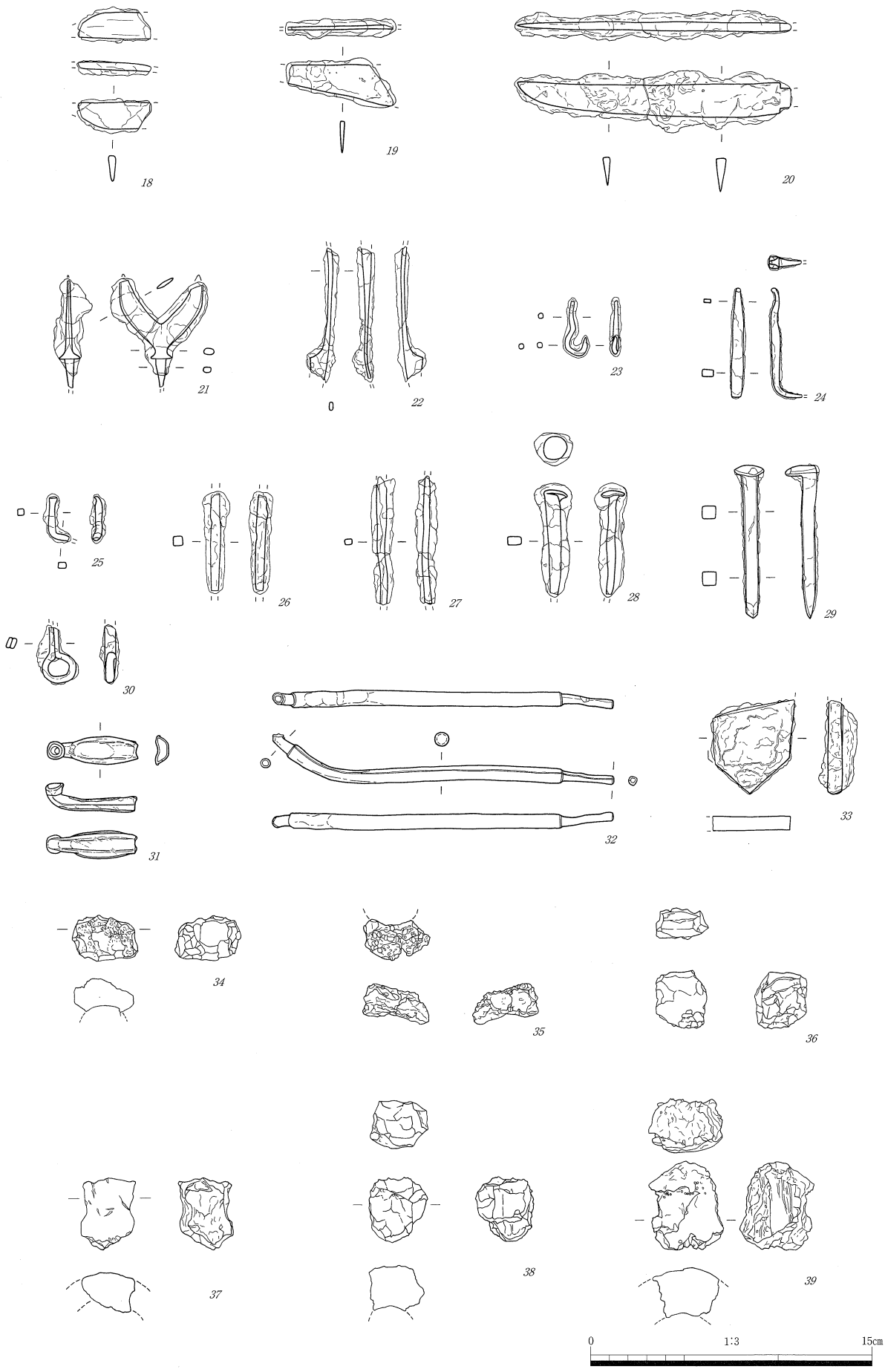
40～*61*は鉄滓で，径は1.9～9.0cm，重量は6.2～153.8ｇである。*40*はＳＢ18を構成するＳＰ676，*41*はＳＥ503，*42*・*59*はＳＥ508，*43*～*45*・*48*はＳＤ401，*46*・*51*・*54*・*61*はＳＫ404，*47*はＳＥ1204，*49*はＳＫ527，*50*はＳＥ451，*56*・*57*はＳＤ453，*58*はＳＤ1485，*60*はＳＥ504から出土した。すべてに，磁石に対しての微弱な反応が見られる。小振りのものが多く，形状は*51*～*55*・*57*～*61*等椀形を呈するものがある。*40*・*49*・*51*・*52*・*61*は木炭痕が残る。規格や形状等から，ほとんどが鍛冶滓と考えられる。

（越前慎子）



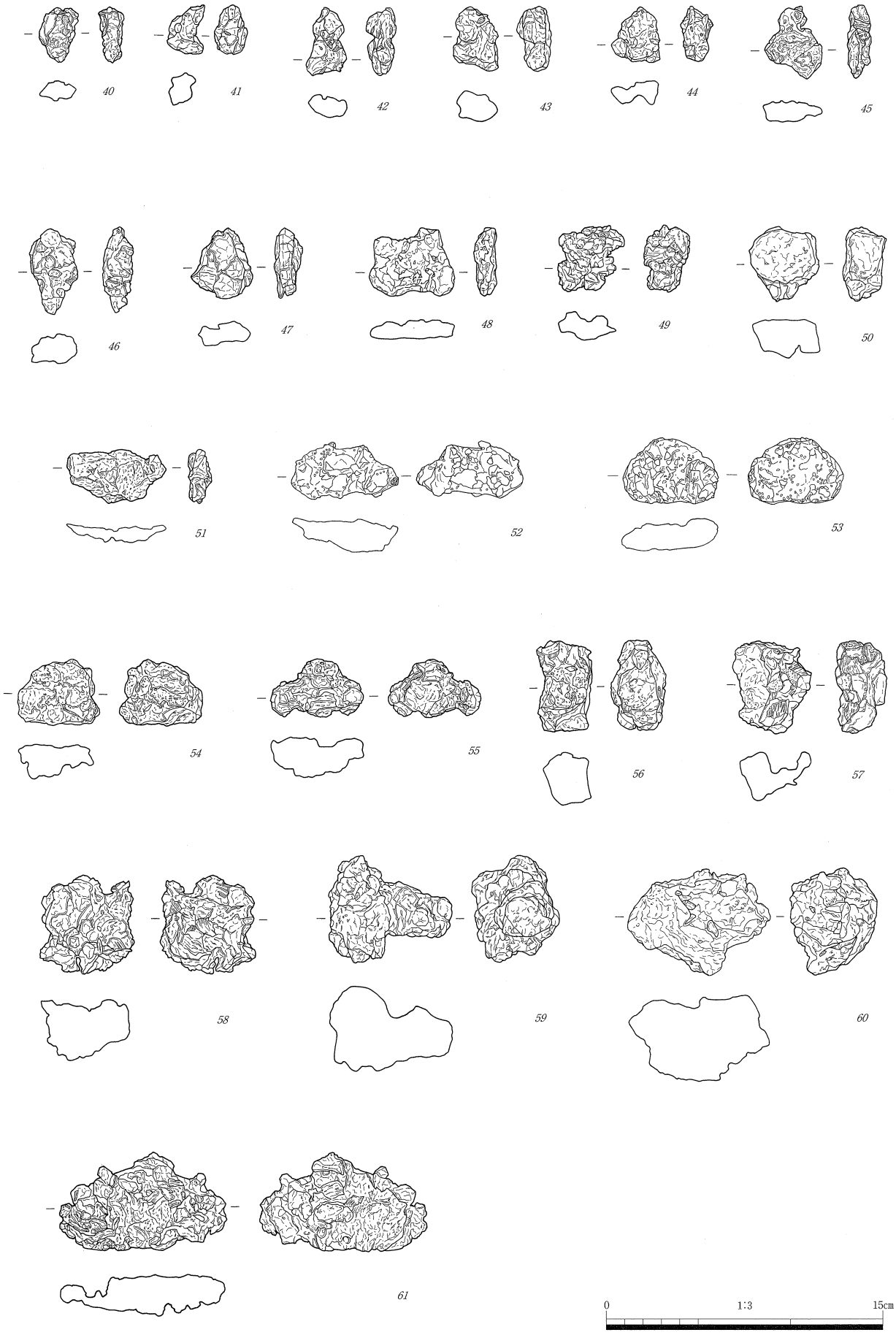
第130図　岩坪岡田島遺跡　遺物実測図　金属製品

SD301（*4・7*）　SK1208（*5*）　SK1371（*1～3・8～11・14・15*）　包含層（*6・12・13・16・17*）



第131図　岩坪岡田島遺跡　遺物実測図　金属製品　(1/3)

SD301（*36*）　SD401（*30*）　SE508（*19・20・23*）　SE693（*33*）　SE850（*37・39*）
SE1001（*21*）　SE1229（*25*）　SE1229（*27*）　SK404（*35・38*）　SK743（*26*）　SK1108（*18*）
SK1278（*22*）　SK1296（*28*）　包含層（*24・29・31・32・34*）



第132図　岩坪岡田島遺跡　遺物実測図　金属製品　(1/3)

SB18　SP676（*40*）　SD401（*43*～*45*・*48*）　SD453（*56*・*57*）　SD1485（*58*）　SE451（*50*）
SE503（*41*）　SE504（*60*）　SE508（*42*・*59*）　SE850（*52*・*53*）　SE1204（*47*）
SK404（*46*・*51*・*54*・*61*）　SK527（*49*）　包含層（*55*）

第17表　岩坪岡田島遺跡　土器・陶磁器・土製品一覧（1）

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	器種	法量（cm）			時期	胎土色調		胎土の特徴	釉色調		釉薬	備考
							口径	器高	底径								
79	1	32	SX 1121		縄文土器	深鉢				前期後葉	10YR6/2	灰黄褐色	赤色粒・骨針				胴部内外面に黒斑,微隆起線文,羽状縄文
	2	32	SX 1121		縄文土器	深鉢	37.2			前期後葉	10YR5/2	灰黄褐色	骨針				内外面スス付着,微隆起線文,羽状縄文
80	3		SX 1121		縄文土器	深鉢				前期後葉	10YR5/3	にぶい黄褐色	骨針				微隆起線文
	4		SX 1121	X128Y160 Ⅷ層	縄文土器	深鉢				前期後葉	10YR6/3	にぶい黄橙色	赤色粒・骨針				微隆起線文
	5		SX 1121	X128Y160 Ⅷ層	縄文土器	深鉢				前期後葉	10YR5/3	にぶい黄褐色	赤色粒・骨針				羽状縄文
	6		SX 1121		縄文土器	深鉢			11.0	前期後葉	10YR5/3	にぶい黄褐色	赤色粒・骨針				
	7	32	SX 1121		縄文土器	浅鉢	26.2			前期後葉	10YR6/1	褐灰色					ヘラ状工具痕
	8		SX 1121	X127Y155 Ⅷ層	縄文土器	深鉢			7.8	前期後葉	10YR7/3	にぶい黄橙色	骨針				内外面スス付着,内面に輪積み痕
	9		SX 1121		縄文土器	深鉢	26.6			前期後葉 前期後葉	10YR6/2	灰黄褐色	赤色粒・骨針				口縁部外面一部と胴部内外面一部に黒斑,微隆起線文
81	10		1号土器集中地点		縄文土器	深鉢				前期後葉	2.5Y6/3	にぶい黄色	骨針				細隆起線文,羽状縄文,内面に輪積み痕
	11	32	6号土器集中地点		縄文土器	深鉢	22.8			前期後葉 前期後葉	10YR7/3	にぶい黄橙色	赤色粒・骨針				内外面スス付着,微隆起線文,穿孔羽状縄文
	12	32	8号土器集中地点		縄文土器	深鉢				前期後葉	2.5Y6/2	灰黄色					微隆起線文,羽状縄文
	13		8号土器集中地点		縄文土器	深鉢			7.4	前期後葉	10YR6/3	にぶい黄橙色					羽状縄文
82	14	33	8号土器集中地点	X136Y148 Ⅶb層	縄文土器	深鉢	31.4			前期後葉	10YR6/2	灰黄褐色					微隆起線文,羽状縄文
	15	33	8号土器集中地点		縄文土器	深鉢				前期後葉	7.5YR5/1	褐灰色	赤色粒・砂粒				羽状縄文,輪積み痕
83	16		SX 1121	下層	縄文土器	深鉢				前期後葉	2.5Y7/3	浅黄色					半截竹管刺突
	17		8号土器集中地点		縄文土器	深鉢			9.8	前期後葉	2.5Y5/2	暗灰黄色	骨針				
	18	33	8号土器集中地点		縄文土器	鉢	14.0			前期後葉	10YR6/2	灰黄褐色	骨針				草茎状工具による施文
	19		8号土器集中地点		縄文土器	浅鉢				前期後葉	10YR4/2	灰黄褐色					
	20		8号土器集中地点	X138Y148 Ⅷb層	縄文土器	台部?				前期後葉	2.5Y3/1	黒褐色					
	21		8号土器集中地点		縄文土器	鉢?				前期後葉	10YR5/1	褐灰色	骨針				円形浮文
	22			X121Y146 Ⅷb層	縄文土器	深鉢?				前期後葉	10YR5/2	灰黄褐色					内外面にスス付着,耳朶状突起
	23	33	9号土器集中地点		縄文土器	鉢	9.0			前期末葉	10YR6/3	にぶい黄橙色					半隆起線文
	24	34	9号土器集中地点	下層	縄文土器	鉢				前期末葉	10YR6/2	灰黄褐色	骨針				半隆起線文,結節浮線文
	25	34	9号土器集中地点		縄文土器	深鉢			14.5	前期末葉	10YR6/2	灰黄褐色	骨針				半隆起線文,結節浮線文
84	26	34	9号土器集中地点		縄文土器	深鉢				前期末葉	10YR6/2	灰黄褐色	砂粒				木目状撚糸文,半隆起線文
	27	33	7号土器集中地点		縄文土器	深鉢			15.5	前期末葉	10YR6/3	にぶい黄橙色	骨針				内外面にスス付着,木目状撚糸文
85	28		SI 1		縄文土器	深鉢			4.0		5YR6/6	橙色	砂粒				
	29		SI 1		製塩土器					7世紀	5YR6/8	橙色	赤色粒・骨針				
	30		SI 1		土師器	高杯	16.8				7.5YR8/6	浅黄橙色	赤色粒・骨針				
	31		SI 1		土師器	高杯?					7.5YR6/8	橙色	赤色粒・骨針				底部に黒斑
	32	39	SI 1		黒色土器	高杯			6.6	7世紀	7.5YR7/6	橙色					内黒
	33	36	SI 1		須恵器	杯H蓋	13.1			7世紀第1四半期	5PB6/1	青灰色					
	34	36	SI 1		須恵器	杯H	11.0			7世紀第1四半期	2.5Y6/1	黄灰色	砂粒				
	35		SI 1		須恵器	杯H	13.0			7世紀第1四半期	5PB7/1	明青灰色					
	36		SD 506		黒色土器	椀	12.1				10YR6/4	にぶい黄橙色					
	37		SD 506		土師器	椀	11.8			古墳	7.5YR7/3	にぶい橙色	赤色粒・骨針				
	38		SD 506		須恵器	杯H蓋				7世紀第1四半期	10YR7/1	灰白色					
	39		SD 579		土師器	高杯	20.0				5YR6/8	橙色	赤色粒・骨針				
	40		SD 579		土師器	高杯	21.8				5YR6/6	橙色	赤色粒・骨針				
	41		SD 579		土師器	甕	15.8				7.5YR6/4	にぶい橙色	赤色粒				
	42		SD 579		土師器	高杯					2.5YR6/6	橙色	骨針・砂粒				
	43	40	SD 696		製塩土器		13.4			7世紀	10YR7/4	にぶい黄橙色	骨針				
	44	40	SD 696		製塩土器		14.0			7世紀	5YR6/4	にぶい橙色	骨針				
	45		SD 696		土師器	椀	10.8				5Y5/1	灰色	砂粒				
	46		SD 696		土師器	壺	12.8				10YR7/2	にぶい黄橙色	赤色粒・砂粒				
86	47	39	SD 697		黒色土器	高杯			7.1	7世紀	7.5YR8/4	浅黄橙色	赤色粒・骨針				赤彩・内黒
	48		SD 697	X114Y116 上面	黒色土器	有台椀				10世紀	7.5YR7/4	にぶい橙色	赤色粒・骨針				内黒
	49		SD 697	X114Y116 上面	黒色土器	椀			5.0		7.5YR8/3	浅黄橙色	赤色粒・骨針				内黒
	50		SD 697	X114Y116 上面	土師器	有台椀					7.5YR7/4	にぶい橙色	赤色粒・骨針				
	51		SD 697	X111Y130	須恵器	杯A			9.5		7.5Y7/1	灰白色	骨針				
	52	37	SD 697	X115Y111	須恵器	甕				7世紀	N6/0	灰色					
	53		SD 697	X114Y118	珠洲	甕					N6/0	灰色					
	54		SD 697	X114Y118	珠洲	擂鉢	27.0			Ⅰ～Ⅱ期	N6/0	灰色	骨針				
	55	57	SD 697	X111Y131	土製品	土人形					10YR7/2	にぶい黄橙色					観音菩薩像か

第17表　岩坪岡田島遺跡　土器・陶磁器・土製品一覧(2)

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	時期	胎土色調		胎土の特徴	釉色調		釉薬	備考
	56	35	SK 507		須恵器	杯H蓋	12.8	4.3	6.5	7世紀前半	N6/0	灰色					
	57	37	SK 847	上面	須恵器	甕	22.8			7世紀	N6/0	灰色					
	58	40	SK 1297	X121Y136	土師器	甕	22.8	10.7		7世紀	10YR6/3	にぶい黄橙色	骨針				
	59		SK 1298	X125Y133	須恵器	杯H蓋			5.0		5Y6/1	灰色					
	60		SK 1298	X125Y123	黒色土器	椀	12.8	3.5		古墳	5YR7/4	にぶい橙色	赤色粒・砂粒・骨針				内黒
	61	35	SK 1378		須恵器	高杯				7世紀後半	N8/0	灰白色					
	62		SK 1432		須恵器	杯G蓋	12.0		かえり径(9.7)	7世紀第4四半期	N7/0	灰白色	砂粒				
87	63	40	10号土器集中地点	X123Y134	弥生土器	広口壺	16.4			中期中葉	7.5YR6/6	橙色	砂粒				刺突文
	64		10号土器集中地点	X123Y134	須恵器	杯H蓋			14.0	7世紀第1四半期	5Y7/1	灰白色	赤色粒				
	65	35	10号土器集中地点	X123Y134	須恵器	杯H	11.6	3.6	6.8	7世紀第1四半期	N6/0	灰色					重ね焼
	66		10号土器集中地点	X123Y134	土師器	甕			5.6		5YR6/4	にぶい橙色	骨針				
	67	39	10号土器集中地点	X123Y134	土師器	椀	12.0			7世紀	10YR6/4	にぶい黄橙色	骨針				
	68	39	10号土器集中地点	X123Y134	土師器	椀	14.1			7世紀	10YR7/4	にぶい黄橙色	赤色粒・骨針				黒変
	69	39	10号土器集中地点	X123Y134	黒色土器	椀	14.0			7世紀	7.5YR7/4	にぶい橙色	骨針				内黒
	70	39	10号土器集中地点	X123Y134	黒色土器	椀	14.0	3.6		7世紀	10YR7/4	にぶい黄橙色	骨針				内黒
	71		10号土器集中地点	X123Y134	土師器	鍋	32.0				7.5YR7/4	にぶい橙色	砂粒・骨針				
	72		10号土器集中地点	X123Y134	土師器	高杯					7.5YR7/6	橙色	赤色粒・骨針				
	73		10号土器集中地点	X123Y134 下層	土師器	高杯					5YR6/6	橙色	赤色粒				
	74		10号土器集中地点	X123Y134	土師器	把手					7.5YR7/4	にぶい橙色	砂粒・骨針				
	75	40	10号土器集中地点	X123Y134 下層	製塩土器		12.0			7世紀	5YR6/6	橙色	赤色粒・骨針				
	76	40	10号土器集中地点	X123Y134 下層	製塩土器		12.0			7世紀	5YR6/6	橙色	赤色粒・骨針				
88	77		SP 149		中世土師器	皿	9.0				2.5Y7/2	灰黄色	骨針・雲母				スス付着
	78		SP 201	底面	中世土師器	皿			5.9	12世紀後半	10YR8/4	浅黄橙色					スス付着
	79		SP 610		須恵器	甕					N6/0	灰色					
	80		SP 613		中世土師器	皿	10.7				7.5YR7/3	にぶい橙色					灯芯油痕
	81		SP 1222	X110Y124 Ⅱ層	珠洲	擂鉢	17.0			Ⅱ期	5Y7/1	灰白色	骨針				
	82		SP 1424		珠洲	擂鉢				Ⅱ期	N6/0	灰色	赤色粒・砂粒				
	83	41	SP 1436		中世土師器	皿	8.0	1.9			7.5YR7/4	にぶい橙色	赤色粒・骨針				灯芯油痕
	84	41	SP 1436		中世土師器	皿	11.4	3.3			7.5YR8/2	灰白色	赤色粒				
	85		SP 124		中世土師器	皿			3.8	12世紀後半	10YR7/3	にぶい黄橙色					
	86		SP 106		中世土師器	皿	12.8			12世紀後半	10YR6/2	灰黄褐色	赤色粒・骨針・雲母				
	87		SP 217		中世土師器	皿			6.0	12世紀後半	10YR6/1	褐灰色	骨針・雲母				
89	88		SD 4	X61Y55 下層	須恵器	甕					N6/0	灰色					
	89		SD 4	X63Y56 下層	須恵器	壺					N6/0	灰色					
	90		SD 4	X61Y54 上面	中世土師器	皿	13.0				10YR7/2	にぶい黄橙色	白色粒				
	91		SD 4	X60Y47 下層	中世土師器	皿			5.6	12世紀中頃	5Y7/1	灰白色	白色粒・骨針・雲母				
	92	58	SD 4	X62Y55	土製品	土錘	(6.3)	5.0	1.6		2.5Y7/2	灰黄色	白色粒・雲母				重量147.3g
	93	58	SD 4	X64Y55 下層	土製品	土錘	6.2	4.8	1.8		2.5Y8/1	灰白色	白色粒・石英・雲母				重量117.0g
	94		SD 4	X65Y56 下層	土製品	土錘	(5.5)	(4.9)	(1.6)		10YR7/2	にぶい黄橙色	赤色粒・骨針				重量52.9g
	95		SD 11	X89Y67 肩部	須恵器	壺					7.5YR8/4	浅黄橙色	赤色粒・骨針				
	96		SD 11	X63Y78 下層	土師器	甕	13.0				10YR6/3	にぶい黄橙色	赤色粒・砂粒・骨針				
	97	39	SD 11	X64Y86 下層	黒色土器	有台椀			6.5		2.5Y7/2	灰白色	雲母				内黒
	98		SD 11	X67Y89	中世土師器	有台皿			5.7		10YR7/2	にぶい黄橙色	骨針・雲母				
	99		SD 11	X68Y87 下層	中世土師器	有台皿			6.8		2.5Y7/2	灰黄色	骨針・雲母				
	100		SD 11	X65Y87 下層	中世土師器	有台皿					7.5YR7/3	にぶい橙色	骨針・雲母				
	101		SD 11	X75Y86 上層	中世土師器	有台皿			8.1		7.5YR8/3	浅黄橙色	骨針・雲母				
	102		SD 11	X75Y86 上層	中世土師器	皿	9.8			12世紀	10YR8/3	浅黄橙色	骨針・雲母				
	103		SD 11	X68Y87 下層	中世土師器	皿			3.6	12世紀前半～中頃	2.5Y7/2	灰黄色	骨針・雲母				
	104	42	SD 11	X66Y72 上層	中世土師器	皿	8.4	3.3	4.3	12世紀前半～中頃	10YR8/2	灰白色	白色粒・黒色粒・骨針・雲母				
	105		SD 11	X75Y85 上層	中世土師器	皿			5.5	12世紀前半～中頃	7.5YR8/3	浅黄橙色	赤色粒・骨針				黒変
	106		SD 11	X73Y80	中世土師器	皿	14.7			12世紀	7.5YR7/4	にぶい橙色					
	107		SD 11	X73Y67 上層	珠洲	擂鉢	28.1			Ⅳ期	N6/0	灰色	骨針				
	108		SD 11	X73Y78 下層	珠洲	甕			17.0		N7/0	灰白色	骨針				
	109	54	SD 11	X73Y68 上層	古瀬戸	卸皿			7.4	中期様式Ⅰ～Ⅱ期	2.5Y7/1	灰白色		5Y6/2	灰オリーブ色	灰釉	

第17表　岩坪岡田島遺跡　土器・陶磁器・土製品一覧（3）

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	器種	法量（cm）			時期	胎土色調		胎土の特徴	釉色調		釉薬	備考
							口径	器高	底径								
	110		SD 11	X72Y84 上面	越中瀬戸	皿			4.9	17～18世紀	7.5YR7/4	にぶい橙色	雲母	7.5YR3/2	黒褐色	鉄釉	
	111		SD 11	X74Y83 上層	土製品	土錘	6.5	5.1	1.8		2.5Y7/2	灰黄色	雲母				重量75.2g
	112	58	SD 11	X73Y81 下層	土製品	土錘	5.9	5.1	1.3		2.5Y7/1	灰白色	砂粒・雲母				重量124.4g
	113		SD 11・102	X63Y84 下層　X69Y83 下層	土製品	土錘	(5.7)	(4.9)	2.1		2.5YR7/2	灰黄色	骨針				重量67.5g
	114	58	SD 11	X67Y82 下層	土製品	土錘	5.0	4.2	1.7		2.5Y7/1	灰白色	雲母				重量75.2g
	115		SD 11	X60Y86 上層	土製品	土錘	(5.1)	(5.4)	2.1		5Y7/1	灰白色	白色粒・骨針・雲母				重量66.6g
	116	58	SD 11	X73Y82 下層	土製品	土錘	(4.9)	4.7	1.7		2.5Y7/1	灰白色	砂粒・雲母				重量80.8g
	117		SD 11	X63Y76 上層	土製品	土錘	(4.2)	4.0	1.1		7.5YR8/3	浅黄橙色					重量36.3g
	118		SD 11	X70Y87	土製品	土錘	(5.2)	(5.4)	1.5		7.5YR8/3	浅黄橙色	赤色粒・砂粒				重量45.9g
90	*119*		SD 102	X71Y85 下層	中世土師器	皿			4.5	12世紀前半	10YR8/1	灰白色	雲母				
	120		SD 102	X72Y89 上面	中世土師器	皿			5.4	12世紀後半	10YR8/2	灰白色	骨針・雲母				
	121		SD 103	X73Y88	土製品	土錘	(4.3)	(4.8)	1.2		10YR8/3	浅黄橙色	赤色粒				重量63.1g
	122	58	SD 104		土製品	土錘	5.2	4.2	1.4		2.5Y7/1	灰白色	雲母				重量93.0g
	123		SD 104		中世土師器	皿			4.6	12世紀前半	10YR8/2	灰白色	赤色粒・骨針				
	124		SD 140		中世土師器	皿			4.6	12世紀後半	10YR8/2	灰白色	骨針・雲母				
	125		SD 140		中世土師器	皿	13.8			12世紀	2.5Y6/2	灰黄色	骨針・雲母				スス付着
	126		SD 140		中世土師器	皿			7.8		7.5YR7/4	にぶい橙色	骨針・雲母				
	127	53	SD 140		中国製白磁	碗				11世紀後半～12世紀前半	N8/0	灰白色		7.5Y8/1	灰白色	白磁釉	太宰府碗Ⅳ類
	128	58	SD 140		土製品	土錘	5.4	4.8	1.7		2.5Y7/1	灰白色	雲母				重量97.8g
	129		SD 301	X107Y142 炭層	土師器	鍋?	30.0				2.5Y7/2	灰黄色					
	130		SD 301	X103Y140 ④（旧①）層	土師器	高杯（脚部）				7世紀	2.5Y7/3	浅黄色	骨針				
	131	37	SD 301	X106Y141 炭層	須恵器	甕				7世紀末～8世紀	N6/0	灰色					波状文
	132		SD 301	X104Y144 ④（旧①）層	須恵器	杯G蓋	11.8		かえり径（9.3）	7世紀第4四半期	N6/0	灰色					
	133	36	SD 301	X107Y141 炭層	須恵器	杯G蓋	14.0		かえり径（10.7）	7世紀第4四半期	N6/0	灰色					
	134		SD 301	X103Y136 ④（旧①）層	須恵器	杯B			10.4		N6/0	灰色	骨針				
	135	39	SD 301	X104Y137 ④（旧①）層	黒色土器	椀			6.0		10YR7/2	にぶい黄橙色	骨針				
	136		SD 301	X106Y139 炭層	中世土師器	皿	7.0	2.0		12世紀後半	7.5YR7/4	にぶい橙色	赤色粒・骨針				
	137		SD 301	X107Y139 炭層	中世土師器	皿	7.8	1.9	4.7	12世紀後半	2.5Y7/2	灰黄色	骨針				
	138		SD 301	X107Y142 炭層	中世土師器	皿	7.4	1.4			7.5YR8/4	浅黄橙色	赤色粒				
	139		SD 301	X105Y143 ④（旧①）層	中世土師器	皿	7.6	1.4			7.5YR7/6	橙色	赤色粒				
	140		SD 301	X105Y143 ④（旧①）層	中世土師器	皿	8.0	1.3			5YR7/8	橙色	赤色粒				
	141	42	SD 301	X107Y142 炭層	中世土師器	皿	8.1	1.6			7.5YR7/4	にぶい橙色	赤色粒				
	142		SD 301	X105Y143 ④（旧①）層	中世土師器	皿	9.0	1.6			7.5YR6/4	にぶい橙色					
	143		SD 301	X107Y143 炭層	中世土師器	皿	8.6	1.2			10YR7/3	にぶい黄橙色					
	144		SD 301	X105Y136 ④（旧①）層	中世土師器	皿	9.6	1.5			7.5YR7/4	にぶい橙色					
	145		SD 301	X106Y143 ④（旧①）層	中世土師器	皿	11.0				10YR7/3	にぶい黄橙色	赤色粒				
	146		SD 301	X107Y146 ④（旧①）層	中世土師器	皿	12.0	2.3			5YR7/6	橙色	赤色粒				
	147		SD 301	X106Y140 炭層	中世土師器	皿	12.1				2.5Y8/1	灰白色					
	148		SD 301	X107Y142 炭層	中世土師器	皿	12.0				7.5YR7/6	橙色	赤色粒				
	149		SD 301	X107Y141 炭層	中世土師器	皿	12.0	2.3			5YR6/6	橙色					
	150		SD 301	X105Y142 ④（旧①）層	中世土師器	皿	13.4	2.5			7.5YR7/4	にぶい橙色					
	151		SD 301	X105Y143 ④（旧①）層	中世土師器	皿	12.0				5YR7/6	橙色	赤色粒				
	152		SD 301	X107Y146 ④（旧①）層	中世土師器	皿	13.0				7.5YR7/6	橙色	赤色粒				
	153		SD 301	X107Y143 炭層	中世土師器	皿	14.0				7.5YR7/4	にぶい橙色	赤色粒				
	154		SD 301	X105Y143 ④（旧①）層	中世土師器	皿	14.0				10YR8/4	浅黄橙色	赤色粒				
	155		SD 301	X102Y143 ⑤（旧②）層 X106Y141 ④（旧①）層	中世土師器	皿			6.8	12世紀前半	2.5Y7/2	灰黄色	骨針				ハケ状工具痕
	156		SD 301	X101Y133 ④（旧①）層	中世土師器	皿			5.8	12世紀中頃	2.5YR7/2	灰黄色	骨針				
	157		SD 301	X101Y138 ④（旧①）層 X103Y134 ④（旧①）層	土師器	椀			5.0		7.5YR8/3	浅黄橙色	赤色粒・骨針				
	158		SD 301	X106Y146 ④（旧①）層	珠洲	甕				Ⅱ～Ⅲ期	N6/0	灰色	骨針				
	159		SD 301	X107Y141 ④（旧①）層	珠洲	甕				Ⅳ期	N5/0	灰色	骨針				
91	*160*		SD 301	X105Y143 ④（旧①）層	珠洲	甕	44.0			Ⅱ期	N5/0	灰色	骨針				

第17表　岩坪岡田島遺跡　土器・陶磁器・土製品一覧(4)

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	時期	胎土色調		胎土の特徴	釉色調		釉薬	備考
	161		SD 301	X104Y140 ④(旧①)層	珠洲	甕	44.0			Ⅱ～Ⅲ期	N5/0	灰色	骨針				
	162		SD 301	X105Y135 ④(旧①)層 X104Y136 ④(旧①)層 X101Y136 Ⅰb層	珠洲	甕	41.9			Ⅱ～Ⅲ期	N5/0	灰色	骨針				
	163	50	SD 301	X107Y144 ④(旧①)層	珠洲	甕	44.0			Ⅱ～Ⅲ期	N6/0	灰色					
	164	50	SD 301	X105Y143 ④(旧①)層	珠洲	甕	46.1			Ⅱ～Ⅲ期	N6/0	灰色					
	165		SD 301	X106Y142 ④(旧①)層 X102Y132 Ⅰb層　X104Y133 Ⅰb層	珠洲	甕	48.2			Ⅱ～Ⅲ期	N6/0	灰色	骨針				
	166		SD 301	X105Y138 ④(旧①)層 X106Y142 ④(旧①)層	珠洲	甕	48.0			Ⅱ～Ⅲ期	N6/0	灰色	骨針				
	167	50	SD 301	X104Y134 ④(旧①)層	珠洲	甕	60.0			Ⅱ期	N5/0	灰色	骨針				
92	*168*	50	SD 301	X107Y138 ④(旧①)層	珠洲	甕	65.9			Ⅱ～Ⅲ期	N5/0	灰色	骨針				漆継ぎ
	169		SD 301	X107Y139 炭層	珠洲	甕			13.7		N6/0	灰色	骨針				砂付着
	170		SD 301	X104Y136 ④(旧①)層　X107Y147 Ⅰb層	珠洲	甕			13.0		N7/0	灰白色	骨針				砂付着
	171		SD 301	X106Y144　X116Y125	珠洲	甕			16.0		N6/0	灰色					砂付着　外面黒斑
	172		SD 301	X106Y141 ④(旧①)層 X106Y145 ④(旧①)層	珠洲	甕			18.0		N4/0	灰色	骨針				底部板状圧痕・砂付着
	173		SD 301	X103Y136 ④(旧①)層 X105Y138 ④(旧①)層　X98Y126 Ⅰb層	珠洲	甕			14.0		10Y5/1	灰色	白色粒・骨針				砂付着
	174		SD 301	X106Y139 ④(旧①)層	珠洲	壺	42.0			Ⅱ～Ⅲ期	N5/0	灰色					漆継ぎ　櫛目波状文
	175		SD 301	X102Y142 ④(旧①)層	珠洲	壺	22.0			Ⅲ～Ⅳ期	N5/0	灰色					
	176		SD 301	X102Y137 ④(旧①)層	珠洲	四耳壺				Ⅰ期	N5/0	灰色					
	177		SD 301	X184Y141 ④(旧①)層	珠洲	壺				Ⅱ期	N6/0	灰色					櫛目波状文
	178		SD 301	X106Y143 ④(旧①)層　X103Y131 Ⅰb層	珠洲	壺			9.6		N6/0	灰色	骨針				
	179	48	SD 301	X106Y130 ④(旧①)層　X103Y133 Ⅰb層	珠洲	壺			8.5		N7/0	灰白色					板状圧痕
93	*180*		SD 301	X105Y135 ④(旧①)層	珠洲	鉢	16.1			Ⅰ～Ⅱ期	N5/0	灰色	赤色粒				
	181		SD 301	X106Y130	珠洲	擂鉢	22.0			Ⅱ期	N6/0	灰色	骨針				
	182		SD 301	X105Y136 ④(旧①)層　X96Y127 Ⅰb層	珠洲	擂鉢	24.0			Ⅱ期	N8/0	灰白色	骨針				
	183		SD 301	X104Y135 ④(旧①)層	珠洲	擂鉢	24.9			Ⅱ期	N7/0	灰白色	骨針				
	184	51	SD 301	X105Y138 ④(旧①)層	珠洲	擂鉢	25.2			Ⅱ期	N5/0	灰色	骨針				卸目2.3cm11条
	185		SD 301	X104Y136 ④(旧①)層	珠洲	擂鉢	25.5			Ⅱ～Ⅲ期	N6/0	灰色					
	186		SD 301	X106Y137 ④(旧①)層	珠洲	擂鉢	25.8			Ⅱ～Ⅲ期	N6/0	灰色	砂粒				
	187		SD 301	X90Y125 ④(旧①)層	珠洲	鉢	27.8			Ⅱ期	N6/0	灰色	骨針				
	188		SD 301	X105Y136 ④(旧①)層	珠洲	擂鉢	33.6			Ⅱ期	N5/0	灰色	砂粒				卸目2.5cm16条
	189	51	SD 301	X107Y142 炭層	珠洲	片口鉢	34.6			Ⅱ期	7.5Y5/0	灰色	骨針				
	190		SD 301	X101Y133 ④(旧①)層　X102Y132 Ⅰb層	珠洲	擂鉢	30.9			Ⅱ期	N6/0	灰色	骨針				
	191		SD 301	X101Y137 ④(旧①)層 X105Y138 ④(旧①)層	珠洲	擂鉢	30.0			Ⅱ期	N7/0	灰白色	砂粒				卸目2.4cm11条
	192		SD 301	X106Y146 ④(旧①)層	珠洲	擂鉢	33.6			Ⅱ期	7.5Y8/1	灰白色	砂粒・骨針				
	193		SD 301	X104Y135 ④(旧①)層	珠洲	擂鉢	34.3			Ⅱ期	N5/0	灰色	骨針				
	194		SD 301	X106Y145 Ⅰ層 X107Y142 Ⅰ層　X107Y141 Ⅳ層	珠洲	擂鉢	25.8			Ⅳ期	N7/0	灰白色					卸目2.4cm9条
	195	48	SD 301	X95Y124 ④(旧①)層 X107Y143 ④(旧①)層	珠洲	擂鉢	34.0	11.2	11.7	Ⅳ期	5Y7/1	灰白色	砂粒				内外面スス付着卸目1.7cm7条
94	*196*		SD 301	X105Y138 ④(旧①)層 X106Y142 ④(旧①)層 X107Y143 ④(旧①)層	珠洲	鉢			9.0		N5/0	灰色	骨針				板状圧痕
	197		SD 301	X105Y143 ④(旧①)層 X107Y146 ④(旧①)層	珠洲	鉢			10.7		N6/0	灰色	骨針				
	198		SD 301	X103Y133 ④(旧①)層	珠洲	鉢			8.1		N8/0	灰白色	骨針				
	199		SD 301	X104Y135 ④(旧①)層	珠洲	鉢			10.0		N6/0	灰色	骨針				
	200	51	SD 301	X100Y133 ④(旧①)層 X103Y138 ④(旧①)層 X104Y135 ④(旧①)層	珠洲	擂鉢			12.0		N4/0	灰色	骨針				卸目2.2cm9条

第17表　岩坪岡田島遺跡　土器・陶磁器・土製品一覧(5)

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	時期	胎土色調		胎土の特徴	釉色調		釉薬	備考
	201		SD 301	X104Y139 ④(旧①)層	珠洲	擂鉢			11.6		10Y7/1	灰白色	砂粒				板状圧痕　卸目1.7cm8条
	202		SD 301	X103Y138 ④(旧①)層　X99Y124 Ⅰb層	珠洲	擂鉢			12.0		N7/0	灰白色	砂粒				砂付着　卸目1.6cm8条
	203	51	SD 301	X106Y144 ④(旧①)層 X107Y144 ④(旧①)層	珠洲	擂鉢			13.0		N6/0	灰色					卸目3.0cm13条
	204		SD 301	X106Y143 ④(旧①)層	珠洲	擂鉢			13.4		N7/0	灰白色	砂粒				板状圧痕　卸目2.1cm13条
	205	51	SD 301	X105Y146 ④(旧①)層	珠洲	擂鉢			14.6		10Y7/1	灰白色	砂粒				卸目3.3cm10条
	206	54	SD 301	X106Y141 ④(旧①)層 X106Y142 ④(旧①)層 X103Y131 Ⅰb層	古瀬戸	瓶子				中期様式Ⅰ～Ⅱ期	10YR8/1	灰白色		10YR5/2	灰黄褐色	鉄釉	唐草文・梅文
	207	54	SD 301	X107Y140 ④(旧①)層	瀬戸美濃	天目茶椀	12.0			大窯Ⅳ期前半	10YR7/1	灰白色		10YR4/3	にぶい黄褐色	鉄釉	
	208	53	SD 301	X106Y142 ④(旧①)層	中国製白磁	碗	14.4			12世紀後半	N7/0	灰白色		7.5Y7/1	灰白色	白磁釉	太宰府碗Ⅴ4a類
	209	53	SD 301	X94Y125 ④(旧①)層	中国製白磁	碗	11.0			13世紀後半～14世紀前半	N8/0	灰白色		2.5GY7/1	明オリーブ灰色	白磁釉	口禿　太宰府碗Ⅸ類
	210	53	SD 301	X107Y140 ④(旧①)層	中国製白磁	碗			5.2		5Y8/1	灰白色		2.5GY9/1	明るい灰緑色	白磁釉	
95	211	53	SD 301	X103Y141 ④(旧①)層	中国製青磁	碗	15.0			13世紀中頃	5Y7/1	灰白色		5Y6/2	灰オリーブ色	青磁釉	龍泉窯系太宰府碗Ⅱb類　蓮弁文
	212	53	SD 301	X93Y123 ④(旧①)層	中国製青磁	碗	14.0				N7/0	灰白色		2.5GY6/1	緑灰色	青磁釉	
	213	53	SD 301	X106Y141 ④(旧①)層	中国製白磁	瓶	11.0		3.9		N8/0	灰白色		7.5Y7/1	灰白色	白磁釉	太宰府壺Ⅲ類
	214	58	SD 301	X101Y133 ④(旧①)層	土製品	土錘	5.8	3.6	1.8		7.5YR7/4	にぶい橙色	赤色粒・骨針				重量55.8g
	215	58	SD 301	X104Y139 ④(旧①)層	土製品	土錘	5.2	4.7	1.8		2.5Y7/2	灰黄色					重量107.3g
	216	58	SD 301	X103Y134 ④(旧①)層	土製品	土錘	4.4	4.4	1.3		2.5Y7/2	灰黄色	赤色粒				重量75.0g
	217	58	SD 301	X94Y123 ④(旧①)層	土製品	土錘	4.8	4.3	1.5		2.5Y7/2	灰黄色					重量84.5g
	218		SD 301	X107Y138 炭層	土製品	土錘		(4.1)	(1.4)		7.5YR7/4	にぶい橙色					重量24.7g
	219		SD 301	X97Y127 ④(旧①)層	土製品	土錘	4.2	3.1	1.1		5YR7/6	橙色	赤色粒				重量26.0g
	220		SD 301	X106Y140 ④(旧①)層	土製品	土錘	(4.5)	3.9	1.7		2.5Y6/2	灰黄色	赤色粒				重量36.4g
	221	58	SD 301	X106Y137 ④(旧①)層	土製品	土錘	4.9	3.7	1.6		7.5YR7/3	にぶい橙色	赤色粒・骨針				重量46.4g
	222		SD 401	X113Y116	須恵器	杯B			6.0		5Y7/1	灰白色					
	223		SD 401		土師器	椀			4.0		5YR8/4	淡橙色					
	224		SD 401	X111Y109	中世土師器	皿	7.8	1.5			7.5YR8/3	浅黄橙色	赤色粒				スス付着
	225		SD 401	X109Y109	中世土師器	皿	13.4				7.5YR8/4	浅黄橙色					灯芯油痕
	226	54	SD 401	X125Y145	古瀬戸	天目茶椀			3.2	後期様式Ⅰ期	2.5Y7/1	灰白色		N1.5/0	黒色	鉄釉	
	227		SD 401	X111Y107	中国製青磁	碗	17.0			12世紀中頃～後半	N7/1	灰白色		7.5Y6/2	灰オリーブ色	青磁釉	龍泉窯系太宰府碗Ⅰ1a類
	228		SD 401	X122YY137	中国製青磁	皿	10.0			12世紀後半～13世紀前半	10Y7/1	灰白色		5Y6/3	オリーブ黄色	青磁釉	同安窯系太宰府Ⅰ2b類
	229		SD 401	X112Y112	土製品	土錘	(3.7)	(3.0)			7.5YR5/3	にぶい褐色	赤色粒				重量20.2g
	230	48	SD401・SK404	X108Y107	珠洲	甕	27.3			Ⅰ2期	7.5Y4/1	灰色	骨針				
	231	50	SD 401	X114Y118	珠洲	甕	25.0			Ⅰ2期	N4/0	灰色	骨針				
	232		SD 401		珠洲	甕			12.8	Ⅳ期	2.5Y8/3	淡黄色	骨針				板状圧痕
	233		SD 401	X125Y144	珠洲	甕	58.2			Ⅳ期	N6/0	灰色	砂粒・骨針				
	234	50	SD 401	X124Y142	珠洲	甕	43.0			Ⅳ期	N6/0	灰色	砂粒				
96	235		SD 401	X108Y107 床面　X106Y114 Ⅱ層	珠洲	壺					N6/0	灰色					
	236		SD 401	X124Y140　X123Y141 Ⅰ層	珠洲	壺	21.5			Ⅰ2期	N6/0	灰色	砂粒				
	237	52	SD 401	X110Y108	珠洲	四耳壺				Ⅰ期	5YR8/4	淡橙色	骨針				
	238	52	SD 401	X122Y136	珠洲	四耳壺				Ⅰ期	N7/0	灰白色	骨針				波状文
	239		SD 401	X119Y130	珠洲	壺			7.4		N7/0	灰白色	骨針				
	240		SD 401	X113Y117	珠洲	壺			9.8		2.5Y8/1	灰白色	骨針				
	241		SD 401	X129Y141	珠洲	壺			12.1		N6/0	灰色	赤色粒				
	242		SD 401	X115Y120	珠洲	片口鉢	27.0			Ⅰ期	5Y6/1	灰色	骨針				
	243		SD 401	X112Y113	珠洲	擂鉢	26.3			Ⅰ期	7.5Y4/1	灰色	砂粒・骨針				
	244		SD 401	X111Y110	珠洲	擂鉢				Ⅰ期	N5/0	灰色	骨針				
	245	51	SD 401	X125Y145　X123Y136 Ⅰ層	珠洲	擂鉢				Ⅱ期	5Y6/1	灰色	骨針				卸目1.7cm11条
	246	51	SD 401	X108Y110	珠洲	擂鉢	34.3			Ⅱ期	N4/0	灰色	白色粒・骨針				卸目1.2cm11条
	247	51	SD 401	X123Y141	珠洲	擂鉢	31.0			Ⅲ～Ⅳ期	5Y6/1	灰色	白色粒・骨針				波状文
	248		SD 401	X111Y107	珠洲	擂鉢	31.0			Ⅳ期	N5/0	灰色	骨針				卸目1.9cm9条
	249	48	SD 401	X111Y109	珠洲	鉢	17.6	8.0	7.0	Ⅰ期	N6/0	灰色					
	250		SD 401	X123Y143 下層　X124Y144	珠洲	鉢	21.0			Ⅱ期	N7/0	灰白色	砂粒				
	251		SD 401	X124Y138	珠洲	擂鉢			7.0		2.5Y7/1	灰白色	砂粒・骨針				板状圧痕
	252		SD 401	X115Y119	珠洲	擂鉢?			7.0		N6/0	灰色	骨針				
	253		SD 401	X115Y119	珠洲	擂鉢			9.2		2.5Y7/1	灰白色	骨針				

第17表　岩坪岡田島遺跡　土器・陶磁器・土製品一覧(6)

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	時期	胎土色調		胎土の特徴	釉色調		釉薬	備考
	254		SD 401	X112Y113	珠洲	擂鉢			10.8		N6/0	灰色	骨針				
97	255		SD 402	X112Y109	珠洲	甕	31.4			Ⅰ期	5Y6/1	灰色	骨針				
	256		SD 414		珠洲	擂鉢	24.8			Ⅰ～Ⅱ期	10Y6/1	灰色	骨針				
	257		SD 415		珠洲	擂鉢			9.0		N5/0	灰色					
	258		SD 415		珠洲	擂鉢			18.0		N6/0	灰色	赤色粒				卸目2.1cm8条
	259		SD 453	X132Y148 下層	弥生土器	高杯(脚部)				後期	10YR7/2	にぶい黄橙色	雲母				
	260		SD 453	X133Y146	須恵器	杯B			8.2		N6/0	灰色					
	261		SD 453	X129Y148 下層	須恵器	杯B			8.1		N6/0	灰色					
	262		SD 453	X133Y148 下層	須恵器	杯B			8.9		N6/0	灰色					
	263		SD 453	X133Y148 下層	須恵器	杯B			10.4		5Y7/1	灰白色					
	264		SD 453	X134Y148 下層	須恵器	高杯				7世紀第1四半期	N6/0	灰色					三方透かし
	265		SD 453	X133Y146	須恵器	高杯					N6/0	灰色					
	266		SD 453		須恵器	鍋?		1.8			N6/0	灰色	骨針				
	267		SD 453	X134Y148 上層	中世土師器	皿	8.7				5YR8/3	浅橙色	赤色粒				灯芯油痕 スス付着
	268		SD 453	X130Y149	中世土師器	皿	10.7				5YR7/4	にぶい橙色	赤色粒				
	269		SD 453	X133Y146 下層	古瀬戸	合子か			2.6	中期様式	2.5Y7/1	灰白色		10Y6/2	オリーブ灰色	灰釉	
	270		SD 453	X132Y148 上層	古瀬戸	天目茶椀			4.0	後期様式Ⅱ期	10YR7/1	灰白色		10YR2/1	黒色	鉄釉・錆釉	
	271		SD 453	X134Y148 下層	中国製青磁	碗	15.0			12世紀後半～13世紀前半	5Y7/1	灰白色		5Y6/2	灰オリーブ色	青磁釉	同安窯系太宰府Ⅰ1b類 櫛描文
	272		SD 453	X134Y148 下層	中国製青磁	碗			5.2		N7/0	灰白色		2.5GY6/1	オリーブ灰色	青磁釉	
	273		SD 453	X132Y148 下層	中国製白磁	碗			7.0		N7/0	灰白色		7.5Y7/1	灰白色	白磁釉	
	274		SD 453	X130Y149 下層	珠洲	壷	29.0				N6/0	灰色					
	275		SD 453	X133Y148 下層	珠洲	甕	42.0			Ⅰ期	N6/0	灰色	骨針				
	276		SD 453	X129Y149 下層	珠洲	甕	49.8			Ⅰ期	N6/0	灰色					
	277		SD 453	X134Y148 下層	珠洲	甕			16.0		N6/0	灰色	骨針				底部砂付着,板状圧痕
	278		SD 453	X133Y146	珠洲	甕			14.0		N5/0	灰色	骨針				
	279	58	SD 453	X135Y145	土製品	土錘	5.3	4.5	1.4		5YR7/3	にぶい橙色	赤色粒・砂粒・骨針				重量93.5g
	280	58	SD 453	X132Y148 下層	土製品	土錘	(5.0)	(5.1)	1.7		5YR8/3	浅橙色	骨針				重量54.6g
98	281		SD 453	X135Y145	珠洲	壺	13.1			Ⅰ～Ⅱ期	N6/0	灰色					
	282		SD 453	X129Y149 下層	珠洲	壺	17.3			Ⅰ2期	N6/0	灰色					
	283		SD 453	X134Y148 下層	珠洲	壺	15.8			Ⅰ2期	7.5Y5/1	灰色					
	284		SD 453	X128Y148 下層 X134Y148 下層	珠洲	壺	17.4			Ⅰ2期	N6/0	灰色	砂粒・骨針				
	285		SD 453	X134Y148 下層	珠洲	壺	19.6			Ⅰ～Ⅱ期	7.5Y5/1	灰色	骨針				
	286		SD 453	X129Y149 下層	珠洲	壺	24.0			Ⅰ～Ⅲ期	7.5Y4/1	灰色					
	287		SD 453	X128Y148 下層	珠洲	壺			9.6		N6/0	灰色	骨針				
	288		SD 453	X133Y148 下層	珠洲	壺			6.8		N6/0	灰色	黒色粒・骨針				
	289		SD 453	X134Y148 上層	珠洲	壺			9.0		N5/0	灰色	骨針				
	290		SD 453	X134Y148 下層	珠洲	鉢	15.2			Ⅰ期	N5/0	灰色	骨針				
	291		SD 453	X132Y148 下層　X133Y146	珠洲	鉢	17.4			Ⅰ期	10Y5/1	灰色	骨針				
	292		SD 453	X129Y148 下層 X130Y149 下層 X134Y148 下層	珠洲	片口鉢	20.8			Ⅰ期	N6/0	灰色	砂粒				
	293		SD 453	X134Y148 下層	珠洲	擂鉢	23.9			Ⅰ期	N5/0	灰色					
	294		SD 453	X133Y146	珠洲	擂鉢	28.2			Ⅱ期	5Y5/1	灰色	骨針				
	295		SD 453	X135Y145　X129Y147	珠洲	擂鉢			10.4		N6/0	灰色	白色粒・骨針				
	296		SD 453	X132Y148 上層 X101Y124 Ⅰb層	珠洲	擂鉢			14.2		5Y7/1	灰白色	骨針				卸目2.5cm14条
	297		SD 453	X129Y149	加賀	甕				13世紀後半～14世紀初頭	2.5Y7/1	灰白色					湯上谷窯　刻印
	298	48	SD 914		珠洲	擂鉢			12.0		N6/0	灰色	白色粒・骨針				卸目2.9cm11条
	299		SD 1104		須恵器	杯	19.1				N6/0	灰色	砂粒				
	300		SD 1104		中世土師器	皿	11.2	2.5			10YR7/3	にぶい黄橙色	赤色粒・骨針				
	301	38	SD 1209	X124Y142	土師器	鍋(把手)					10YR7/3	にぶい黄橙色	赤色粒・砂粒・骨針・雲母				
	302	36	SD 1485	X121Y144	須恵器	杯G蓋	12.7			7世紀第4四半期	7.5Y6/1	灰色					
	303	36	SD 1504		須恵器	杯G蓋	20.0		かえり径(17.2)	7世紀第4四半期	5Y6/1	灰色					重ね焼

第17表　岩坪岡田島遺跡　土器・陶磁器・土製品一覧（7）

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	器種	法量（cm）			時期	胎土色調		胎土の特徴	釉色調		釉薬	備考
							口径	器高	底径								
99	*304*		SE 451		縄文土器	深鉢			11.2	後期前葉か	7.5YR7/2	明褐灰色	砂粒				
	305		SE 451		須恵器	杯H	12.6　受部径（14.0）			7世紀	N7/0	灰白色					
	306		SE 451		中世土師器	皿	10.9	2.0			5YR7/6	橙色	赤色粒				
	307		SE 503		中世土師器	皿	8.4				7.5YR7/4	にぶい橙色					
	308	42	SE 503	上層	中世土師器	皿	7.9	1.7			5YR7/3	にぶい橙色					スス付着
	309		SE 504	上層	中国製白磁	碗				11世紀後半～12世紀後半	N7/0	灰白色		7.5Y7/1	灰白色		太宰府ⅤorⅥ類
	310		SE 508	X127Y132	土師器	甕	11.9				5YR7/6	橙色					
	311		SE 508	下層	土師器	甕	16.0			古墳	10YR7/3	にぶい黄橙色	砂粒				
	312		SE 508		土師器	甕	17.0				2.5YR7/4	淡赤橙色	砂粒				
	313		SE 508	下層	須恵器	杯B蓋			12.3	9世紀	5B7/1	明青灰色	赤色粒				
	314		SE 508	上層	須恵器	杯	11.3			古代	N6/0	灰色	赤色粒・砂粒				
	315		SE 508	上層	須恵器	壺	16.5			古代	N7/0	灰白色					
	316	43	SE 508	上層	中世土師器	皿	7.6	1.5			10YR7/4	にぶい黄橙色	骨針				
	317		SE 508	上層	中世土師器	皿	7.5	1.5			10YR7/4	にぶい黄橙色	骨針				
	318		SE 508		中世土師器	皿	7.5				10YR7/4	にぶい黄橙色	骨針				
	319		SE 508	上層	中世土師器	皿	7.7	1.5			10YR7/4	にぶい黄橙色	骨針				
	320		SE 508	上層	中世土師器	皿	7.7	1.5			10YR7/4	にぶい黄橙色	骨針				
	321	43	SE508・SK509	上層	中世土師器	皿	7.8	1.7			10YR7/4	にぶい黄橙色	赤色粒・骨針				
	322		SE 508	上層	中世土師器	皿	7.6	1.9			10YR7/4	にぶい黄橙色	骨針				
	323		SE 508	上層	中世土師器	皿	7.9	1.7			10YR7/4	にぶい黄橙色	骨針				
	324	43	SE 508	上層	中世土師器	皿	7.8	1.6			10YR7/4	にぶい黄橙色	骨針				土器成分分析№10
	325		SE 508	上層	中世土師器	皿	7.8				10YR7/4	にぶい黄橙色	骨針				
	326		SE 508	上層	中世土師器	皿	8.0	1.3			7.5YR4/1	褐色	骨針				全面黒変
	327		SE 508	上層	中世土師器	皿	8.0	1.6			10YR7/4	にぶい黄橙色	骨針				
	328		SE 508	上層	中世土師器	皿	8.1	1.3			10YR7/4	にぶい黄橙色	骨針				
	329		SE 508		中世土師器	皿	8.2	1.6			7.5YR7/3	にぶい橙色	骨針				
	330	43	SE 508	上層	中世土師器	皿	8.2	1.7			10YR8/4	浅黄橙色	骨針				土器成分分析№11
	331	44	SE 508	上層	中世土師器	皿	8.2	1.8			10YR7/4	にぶい黄橙色	骨針				
	332		SE 508	上層	中世土師器	皿	8.2				10YR8/4	浅黄橙色	赤色粒・骨針				
	333		SE 508	上層	中世土師器	皿	8.2	1.3			10YR8/4	浅黄橙色	骨針				
	334		SE 508	上層	中世土師器	皿	8.1	1.5			10YR8/4	浅黄橙色	骨針				
	335		SE 508	上層	中世土師器	皿	8.3	1.6			10YR7/4	にぶい黄橙色	骨針				
	336		SE 508	上層	中世土師器	皿	8.5	1.5			10YR7/4	にぶい黄橙色	骨針				
	337		SE 508	上層	中世土師器	皿	8.5	1.4			10YR7/4	にぶい黄橙色	骨針				
	338		SE 508	上層	中世土師器	皿	8.5	1.8			10YR7/4	にぶい黄橙色	骨針				
	339		SE 508	上層	中世土師器	皿	8.2	1.8			10YR8/4	浅黄橙色					
	340		SE 508	上層	中世土師器	皿	8.5	1.6			10YR7/4	にぶい黄橙色	骨針				土器成分分析№9
	341	44	SE 508	上層	中世土師器	皿	8.4	1.6			10YR7/4	にぶい黄橙色	赤色粒・骨針				
	342		SE 508	上層	中世土師器	皿	8.8	1.4			10YR7/4	にぶい黄橙色	赤色粒・骨針				内外面に黒斑　土器成分分析№8
	343		SE 508		中世土師器	皿	9.0	1.8			7.5YR7/6	橙色	赤色粒				
	344		SE 508	上層	中世土師器	皿	9.3	1.5			7.5YR6/2	灰褐色	骨針				
	345		SE 508	上層	中世土師器	皿	9.5	1.3	4.4		7.5YR7/4	にぶい橙色	赤色粒・骨針				
	346		SE 508	上層	中世土師器	皿	12.2				10YR8/1	灰白色	赤色粒				
	347		SE 508	上層	中世土師器	皿	14.0				7.5YR7/6	橙色	赤色粒・骨針				
100	*348*		SE 508	上層	中世土師器	皿	16.0	3.0			10YR8/3	浅黄橙色	赤色粒・骨針				
	349	44	SE 508		中世土師器	皿	16.0	3.1			7.5Y7/4	にぶい橙色	赤色粒				土器成分分析№12
	350		SE 508	上層	中国製白磁	碗	15.0			11世紀後半～12世紀後半	N8/0	灰白色		7.5Y7/1	灰白色	白磁釉	太宰府ⅤorⅥorⅦ類
	351	50	SE 508	上層	珠洲	壺	26.2			Ⅰ2期	N6/0	灰色	砂粒				
	352		SE 508	上層	珠洲	擂鉢	28.3			Ⅰ～Ⅱ期	N7/0	灰白色	砂粒・骨針				
	353	52	SE 508	上面	珠洲	四耳壺				Ⅰ期	N6/0	灰色					波状文
	354	57	SE 508		土製品	餃子形土製品	6.4	3.6			10YR5/3	にぶい黄褐色	骨針				
	355	57	SE 508		土製品	暖房具?		1.4	6.2		10YR7/4	にぶい黄橙色					スス付着
	356		SE 1001		中世土師器	皿	8.0	1.1			7.5YR7/4	にぶい橙色	白色粒・雲母				

第17表　岩坪岡田島遺跡　土器・陶磁器・土製品一覧(8)

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	時期	胎土色調		胎土の特徴	釉色調		釉薬	備考
	357		SE 1001		中世土師器	皿	9.0				7.5YR7/4	にぶい橙色	白色粒・骨針・雲母				
	358		SE 1001	木枠内 下層(③層)	土師器	椀	14.0	2.9			10YR8/3	浅黄橙色	赤色粒・骨針				
	359		SE 1001		中世土師器	皿	13.8				7.5YR8/8	黄橙色	白色粒・黒色粒・骨針・雲母				
	360		SE 1001		珠洲	擂鉢	20.1			Ⅰ期	N6/0	灰色	赤色粒				
	361		SE 1001	X134Y1138	珠洲	擂鉢	21.8			Ⅰ期	N7/0	灰白色	赤色粒・骨針				
	362		SE 1001	木枠内 下層(③層)	珠洲	擂鉢	28.0			Ⅰ期	N7/0	灰白色	赤色粒				
	363	48	SE 1001		珠洲	擂鉢	17.8	7.8	8.6	Ⅰ期	N5/0	灰色	白色粒・黒色粒・骨針				
	364		SE 1001		珠洲	甕				Ⅰ期	N6/0	灰色	白色粒・黒色粒・骨針・雲母				
	365	53	SE 1001	X134Y138	中国製青磁	皿	10.4	2.7	5.0	12世紀中頃～後半	N8/0	灰白色		2.5GY6/1	オリーブ灰色	青磁釉	同安窯系太宰府Ⅰ2b or Ⅰ3b類 櫛描文
	366	53	SE 1001	井戸枠内(③層)	中国製白磁	碗	14.3			12世紀中頃～後半	N8/0	灰白色		7.5YR6/1	灰色	白磁釉	太宰府Ⅴ4orⅧ1・3類
	367	53	SE 1001		中国製白磁	碗	16.0			12世紀中頃～後半	N8/0	灰白色		7.5Y6/1	灰色	白磁釉	太宰府Ⅴ4orⅧ1・3類
	368	53	SE 1001	木枠内 下層(③層)	中国製白磁	碗	16.7			12世紀中頃～後半	N7/0	灰白色		7.5Y7/1	灰白色	白磁釉	太宰府Ⅴ4orⅧ1・3類
	369	57	SE 1001		土製品	暖房具?		(6.4)	(7.1)		10YR7/3	にぶい黄橙色					
101	370		SE 1006		須恵器	杯B			12.0	8世紀	N7/0	灰白色					
	371		SE 1006		中世土師器	皿	12.8				7.5YR8/6	浅黄橙色	赤色粒				
	372		SE 1006		中世土師器	皿	14.0				10YR8/4	浅黄橙色	赤色粒・骨針				
	373		SE 1006		中世土師器	皿	15.8				7.5YR7/6	橙色	赤色粒				
	374		SE 1006		珠洲	擂鉢	20.0			Ⅰ期	N6/0	灰色	赤色粒・砂粒				
	375	49	SE 1006	X133Y146	珠洲	擂鉢	20.3	7.1	11.0	Ⅰ期	N5/0	灰色	白色粒・黒色粒・骨針				
	376		SE 1101		土師器	長胴甕	21.6				10YR7/2	にぶい黄橙色	砂粒				
	377		SE 1101		須恵器	杯	6.9			古代	N6/0	灰色	砂粒				
	378		SE 1101		須恵器	杯	14.0			古代	N6/0	灰色	砂粒・骨針				
	379		SE 1103		珠洲	甕				Ⅰ～Ⅱ期	2.5Y6/1	黄灰色	砂粒・骨針				
	380		SE 1105		珠洲	甕	56.0			Ⅲ～Ⅳ期	N6/0	灰色	赤色粒				
	381		SE 1105		珠洲	擂鉢			11.5		7.5Y7/1	灰白色	赤色粒				
	382		SE 1105		土製品	土錘	(2.7)	(2.1)	(0.9)		5YR7/6	橙色	赤色粒				重量3.9g
	383		SE 1106		須恵器	杯A	10.3	3.0		古代	N6/0	灰色					
	384		SE 1106		須恵器	甑				7世紀	N7/0	灰白色	砂粒				
102	385	40	SE 1204		土師器	長胴甕	21.8				7.5YR7/3	にぶい橙色	赤色粒・砂粒・骨針				386と同一個体か
	386		SE 1204		土師器	長胴甕					7.5YR7/3	にぶい橙色	赤色粒・骨針				385と同一個体か
	387	46	SE 1204		中世土師器	皿	9.9	1.6			7.5YR7/3	にぶい橙色	骨針				
	388		SE 1204		珠洲	壺			8.8		N6/0	灰色	砂粒				
	389		SE 1204		珠洲	擂鉢	25.5			Ⅰ～Ⅱ期	2.5Y6/0	黄灰色	骨針				
	390	53	SE 1204		中国製青磁	碗				12世紀中頃～後半	N7/0	灰白色		5Y5/2	灰オリーブ色	青磁釉	龍泉窯系太宰府Ⅰ2類
	391		SE 1204		中国製青磁	碗	15.8			12世紀中頃～後半	7.5Y7/1	灰白色		5Y5/2	灰オリーブ色	青磁釉	龍泉窯系太宰府Ⅰ4類
	392	50	SE 1205	上層	珠洲	甕	26.0			Ⅰ2期	N6/0	灰色	砂粒				
	393	46	SE 1229		中世土師器	皿	12.7				7.5YR8/3	浅黄橙色					スス付着
	394	46	SE 1229		中世土師器	皿	13.8				5YR7/2	明褐色	骨針				
	395	53	SE 1229		中国製青磁	碗			4.8	12世紀中頃～後半	N7/1	灰白色		7.5GY6/1	緑灰色	青磁釉	龍泉窯系太宰府Ⅰ2類 劃花文
	396		SE 1229	X107Y124 Ⅰ層	珠洲	甕	42.2			Ⅰ期	N5/0	灰色	骨針				
	397	49	SE 1229	X107Y125	珠洲	擂鉢			12.8	Ⅱ期	N4/0	灰色	骨針				卸目2.2cm18条
	398		SE 1299		中世土師器	皿	11.8				7.5YR7/4	にぶい橙色	赤色粒				
	399	51	SE 1299	X110Y129	珠洲	擂鉢	30.0			Ⅲ～Ⅳ期	5Y5/1	灰色	骨針				卸目2.6cm15条
	400		SE 1299		須恵器	杯	13.1			古代	N6/0	灰色	砂粒				
103	401	45	SK 144		中世土師器	皿	9.2	2.4	4.3		10YR7/2	にぶい黄橙色	骨針・雲母				
	402		SK 189		土製品	土錘	(4.6)	(3.1)	(1.5)		10YR8/2	灰白色	赤色粒				重量28.3g
	403		SK 404		中世土師器	皿	15.4			12世紀中頃～後半	2.5Y4/2	暗灰黄色	赤色粒・骨針				
	404		SK 404		中世土師器	皿	15.4				2.5Y4/2	暗灰黄色	赤色粒・骨針				
	405		SK 404		珠洲	擂鉢	30.8			Ⅱ期	N5/0	灰色	白色粒・骨針				卸目2.5cm11条
	406		SK 429		中国製青磁	碗	16.4			12世紀中頃～後半	5Y7/1	灰白色		5Y6/2	灰オリーブ色	青磁釉	龍泉窯系太宰府Ⅰ4類
	407		SK 450		珠洲	擂鉢			13.7		N7/0	灰白色					
	408		SK 450		珠洲	擂鉢	25.0			Ⅱ期	N5/0	灰色					
	409		SK 540		中世土師器	皿	13.6	3.3			7.5YR7/6	橙色	赤色粒・骨針				
	410		SK 562		土製品	土錘	(2.9)	(2.5)			7.5YR7/4	にぶい橙色	赤色粒				重量7.8g

第17表　岩坪岡田島遺跡　土器・陶磁器・土製品一覧(9)

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	時期	胎土色調		胎土の特徴	釉色調		釉薬	備考
	411	45	SK 607		中世土師器	皿	8.9	2.1			5YR6/6	橙色	赤色粒・骨針				
	412		SK 727		中世土師器	皿			4.4		10YR7/3	にぶい黄橙色	赤色粒・骨針				
	413		SK 743	X107Y119	須恵器	杯B蓋	11.5			古代	N6/0	灰色					
	414		SK 743	X106Y120	土師器	椀			4.9	古代	7.5YR8/3	浅黄橙色					
	415		SK 743		珠洲	擂鉢			10.3		7.5Y5/1	灰色	赤色粒・骨針				
	416		SK 845		珠洲	甕	47.4			Ⅱ期～Ⅲ期	N6/0	灰色	骨針				
	417		SK 891		珠洲	甕	39.5			Ⅱ期	N5/0	灰色					
	418		SK 896	X113Y116 Ⅰ層	珠洲	擂鉢			9.8		N6/0	灰色	骨針				
	419	37	SK 903		須恵器	猿面硯					N6/0	灰色					内面に格子叩き
	420	49	SK 1296		珠洲	甕	70.6			Ⅱ期	10Y5/1	灰色					
104	421		SK 1003		中世土師器	皿	8.8		5.2		7.5YR6/4	にぶい橙色	赤色粒・白色粒・黒色粒・雲母・長石				
	422		SK 1241		中世土師器	皿	7.3	1.4			7.5YR7/4	にぶい橙色	骨針				
	423		SK 1300		須恵器	杯	10.8			古代	N6/0	灰色					重ね焼
	424		SK 1300		珠洲	壺	12.4			Ⅰ期	N5/0	灰色					
	425		SK 1300		土師器	椀			5.8		7.5YR8/4	浅黄橙色	赤色粒				
	426	38	SK 1300		土師器	椀	11.8	4.0	5.4		7.5YR8/2	灰白色	赤色粒				
	427		SK 1300		土製品	土錘	5.3	4.4	1.7		5YR8/1	灰白色	骨針				重量89.5g
	428		SK 1371		中世土師器	皿	10.8	1.7			5YR7/3	にぶい橙色	赤色粒				
	429		SK 1371		中世土師器	皿	10.8				7.5YR8/4	浅黄橙色	赤色粒				
	430		SK 1402		珠洲	壺	12.2			Ⅰ期	N6/0	灰色	砂粒				
	431		SK 1477		珠洲	擂鉢				Ⅱ期	N6/0	灰色	骨針				
	432		SX 10	X34Y27	土師器	椀	13.0				10YR7/3	にぶい黄橙色	骨針				
	433		SX 10	X34Y27	土師器	椀			4.8		7.5YR8/3	浅黄橙色	赤色粒・骨針				
	434			X31Y34 下層	土師器	椀			5.0	古代	2.5YR6/8	橙色	赤色粒・骨針				
	435		SX 10	X34Y27	土師器	椀			5.6		10YR7/2	にぶい黄橙色	赤色粒・骨針				
	436		SX 12	X57Y58	瀬戸美濃	皿			6.0	大窯Ⅰ～Ⅱ期	2.5Y7/1	灰白色		7.5Y4/3	暗オリーブ色	灰釉	輪ドチ痕
105	437			X135Y124 Ⅰ層	黒色土器	椀	12.7			古墳	7.5YR6/3	にぶい褐色	砂粒・骨針				黒変
	438			X74Y104 Ⅲb層	土師器	椀	11.8				10YR6/8	赤橙色	赤色粒・骨針				
	439			X114Y108 Ⅰ層	土師器	椀	12.6				5Y8/1	灰白色					
	440			X37Y33 Ⅲ層(Ⅳ層直上)	土師器	有台椀				9世紀末～10世紀	5YR7/6	にぶい橙色	赤色粒・白色粒・骨針・雲母				
	441	38		X36Y47 Ⅲ層	土師器	椀	16.0	5.1	7.1		7.5YR8/3	浅黄橙色	赤色粒・白色粒・雲母				
	442			X99Y117 Ⅲ層	土師器	椀	12.2	2.9	5.7		7.5YR7/4	にぶい橙色	赤色粒・砂粒・骨針				
	443			X126Y135 Ⅰ層	土師器	椀	12.5	3.2	5.9		5YR6/6	橙色	骨針				
	444			X28Y50 Ⅲ層(Ⅳ層直上)	土師器	椀	13.0	3.8	6.4	9世紀末～10世紀	5YR6/8	橙色	赤色粒・白色粒・骨針・雲母				
	445			X36Y33 Ⅱ層	土師器	椀	12.8	3.2			5YR6/6	橙色					
	446	38		X81Y87 Ⅱ層	土師器	椀			7.0	11世紀前半	7.5YR8/3	浅黄橙色	赤色粒				
	447			X27Y44 Ⅲ層	黒色土器	椀			6.3		2.5Y7/3	浅黄色	骨針				内黒
	448			X73Y103 Ⅱ層	黒色土器	椀			6.4	9世紀末～10世紀	10YR8/2	灰白色	赤色粒・骨針				内黒
	449			X83Y89 Ⅱ層	黒色土器	有台椀			6.7		10YR8/3	浅黄橙色	赤色粒				内黒
	450			X101Y131 Ⅲ層	黒色土器	有台椀			5.2		10YR7/3	にぶい黄橙色	砂粒・骨針				内黒
	451	39		X51Y39 Ⅱ層	黒色土器	有台椀	15.3	5.7	6.1	10世紀	10YR7/3	にぶい黄橙色	白色粒・骨針・雲母				内黒
	452	38		X36Y33 Ⅲ層(Ⅳ層直上)	土師器	有台皿	12.2	3.1	6.9	9世紀末～10世紀	7.5YR7/4	にぶい橙色	白色粒・雲母				
	453			X121Y117 Ⅰ層	土師器	高杯				古墳	2.5Y6/6	橙色					
	454			X69Y97 Ⅱ層	土師器	高杯					7.5YR8/3	浅黄橙色	赤色粒				
	455			X40Y62 Ⅰ層	土師器	高杯					2.5YR7/8	橙色	赤色粒・骨針				
	456			X78・80Y102・103 Ⅱ層	土師器	高杯					10YR8/1	灰白色	赤色粒				
	457			X47Y38 Ⅲ層	土師器	高杯					10YR4/1	褐灰色	白色粒・雲母				
	458			X138Y140 Ⅰ層	土師器	高杯					7.5YR7/3	にぶい橙色					
	459			X101Y127 Ⅰb層	土師器	高杯					2.5YR6/2	灰赤色	骨針				
	460			X120Y155 Ⅰ層	土師器	高杯					7.5YR7/4	にぶい橙色	赤色粒				黒斑
	461			X83Y109 Ⅱ層	土師器	甕			5.6		10YR8/2	灰白色	砂粒・骨針				

第17表　岩坪岡田島遺跡　土器・陶磁器・土製品一覧(10)

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	時期	胎土色調		胎土の特徴	釉色調		釉薬	備考
106	462	35		X125Y120	須恵器	杯H蓋	12.6	4.0		7世紀第1四半期	2.5Y7/1	灰白色	骨針				
	463			X119Y145 Ⅰ層	須恵器	杯H蓋	12.8			7世紀前半	5GY6/1	オリーブ灰色					
	464	36		X121Y161 Ⅲ層	須恵器	杯H蓋	12.0	3.5		7世紀	2.5Y8/2	灰白色	砂粒				
	465	36		X123Y134 Ⅰ層	須恵器	杯H	11.1			7世紀第1四半期	N7/0	灰白色					
	466			X135Y142 Ⅰ層	須恵器	杯H	9.8 (受部径)12.1		9.8	7世紀第1四半期	N6/0	灰色					
	467			X124Y148 Ⅰ層	須恵器	杯H	11.6 (受部径)13.6			7世紀第1四半期	N6/0	灰色					
	468			X133Y145 Ⅰ層	須恵器	杯G蓋	11.7		(かえり径) 10.1	7世紀第4四半期	N5/0	灰色					
	469	36		X119Y154 Ⅲ層	須恵器	高杯	8.8			7世紀	N6/0	灰色	砂粒				
	470			X104Y134 Ⅲ層直上	須恵器	杯A			7.8		2.5Y8/1	灰白色					
	471	36		X120Y155 Ⅰ層	須恵器	杯A	11.8	3.1	6.8	7世紀	N7/0	灰白色	砂粒				
	472	36		X35Y27 Ⅰ層	須恵器	杯	11.8				N6/0	灰色	砂粒				
	473	36		X134Y145 Ⅰ層	須恵器	杯	12.8				N6/0	灰色					
	474			X139Y146 Ⅰ層	須恵器	杯	19.8				N7/0	灰白色					
	475			X113Y114 Ⅰ層	須恵器	杯蓋	(つまみ径)2.7				7.5Y6/1	灰色					
	476			X128Y159 Ⅲ層	須恵器	杯蓋	(つまみ径)2.7			9世紀	N7/0	灰白色	砂粒・骨針				
	477			X102Y122 Ⅰ層	須恵器	杯B蓋	11.6			8世紀後半～9世紀	N6/0	灰色					重ね焼
	478			X111Y110 Ⅱ層	須恵器	杯B蓋			12.2	8世紀後半～9世紀	N7/0	灰白色	赤色粒				
	479			X120Y155	須恵器	杯B蓋	16.1			8世紀後半	N7/0	灰白色	砂粒				
	480			X143Y147 Ⅱ層	須恵器	杯B			6.6		N7/0	灰白色	骨針				
	481			X120Y155 Ⅰ層	須恵器	杯B			10.6		5PB5/1	青灰色	砂粒				
	482	36		X120Y155 Ⅰ層	須恵器	杯B			10.4	7世紀末～8世紀	10YR6/1	褐灰色	砂粒				
	483	36		X119Y153 Ⅲ層	須恵器	杯B			10.5		N7/0	灰白色	砂粒				
	484	36		X119Y154 Ⅲ層	須恵器	杯B			11.9		5Y6/1	灰色	砂粒				
	485			X104Y107 Ⅰ層	須恵器	杯B			10.8		N7/0	灰白色					
	486	35		X102Y132 Ⅰb層	須恵器	杯B	15.9	4.8	10.6	7世紀末～8世紀	N7/0	灰白色					
	487	36		X92Y91 Ⅲa層	灰釉陶器	椀			7.2	10世紀後半～11世紀初頭	N8/0	灰白色					高台裏に墨(転用硯)
	488			X63Y51 Ⅰ層	須恵器	壺蓋					N6/0	灰色					
	489			X96Y123 Ⅰb層	須恵器	壺					7.5Y6/1	灰色	赤色粒				
	490			X90Y86 Ⅰb層	須恵器	甕	30.2			古代	N6/0	灰色					
	491	37		X138Y139 Ⅰ層	須恵器	甕	27.0			7世紀後半	N5/0	灰色					
107	492			X72Y87 Ⅱ層	中世土師器	小杯	7.9	3.3	4.0		10YR8/4	浅黄橙色	骨針				
	493	45		X83Y85 Ⅱ層	中世土師器	Ⅲ	8.6	2.0	4.3		10YR8/2	灰白色	骨針・雲母				
	494			X84Y88 Ⅱ層	中世土師器	Ⅲ	9.2	1.9	4.6		10YR7/2	にぶい黄橙色	骨針				
	495			X77Y103 Ⅱ層	中世土師器	Ⅲ	9.8	2.0	3.9		10YR8/2	灰白色	骨針・雲母				
	496			X77Y96 Ⅱ層	中世土師器	Ⅲ	10.7	1.8	4.9		10YR7/4	にぶい黄橙色	赤色粒・骨針				
	497			X77Y96 Ⅱ層	中世土師器	Ⅲ	9.9	1.4	4.7		5YR6/8	橙色	骨針・雲母				
	498			X79Y83 Ⅱ層	中世土師器	Ⅲ	11.9	3.1	5.8		2.5Y7/2	灰黄色	骨針・雲母				
	499			X73Y93 Ⅱ層	中世土師器	Ⅲ	12.0				5YR6/6	橙色	赤色粒・骨針				
	500			X72Y97 Ⅱ層	中世土師器	Ⅲ	12.7	4.6	4.2		10YR8/3	浅黄橙色	赤色粒・骨針				
	501			X80Y90 Ⅱ層	中世土師器	Ⅲ	13.2	3.4			10YR8/2	灰白色					
	502			X75Y100 Ⅱ層	中世土師器	Ⅲ	12.8				10YR8/2	灰白色					
	503			X35Y37 Ⅱ層	中世土師器	Ⅲ	14.6				5YR7/6	橙色	赤色粒・砂粒・骨針				
	504			X77Y89 Ⅱ層	中世土師器	Ⅲ	14.9				10YR8/2	灰白色	赤色粒・骨針				スス付着
	505			X26Y46 Ⅱ層	中世土師器	Ⅲ	14.7				10YR8/2	灰白色	骨針				
	506			X90Y106 試掘トレンチ	中世土師器	Ⅲ			4.0		10YR8/1	灰白色	赤色粒・骨針				
	507	47		X81Y90 Ⅱ層	中世土師器	Ⅲ			4.2		7.5YR8/2	灰白色	骨針・雲母				
	508	47		X83Y83 Ⅱ層	中世土師器	Ⅲ			4.1		7.5YR8/2	灰白色	雲母				
	509	47		X30Y50 Ⅱ層	中世土師器	Ⅲ			4.0		10YR7/3	にぶい黄橙色	白色粒・黒色粒・石英・雲母				板状圧痕
	510	47		X77Y95 Ⅱ層	中世土師器	Ⅲ			4.3		2.5Y8/1	灰白色	雲母				
	511	47		X76Y101 Ⅱ層	中世土師器	Ⅲ			4.1		7.5YR8/2	灰白色	骨針・雲母				板状圧痕
	512	47		X73Y103 Ⅱ層	中世土師器	Ⅲ			4.2		10YR8/2	灰白色					
	513	47		X80Y85 Ⅱ層	中世土師器	Ⅲ			4.3		7.5YR7/6	橙色	骨針・雲母				

第17表　岩坪岡田島遺跡　土器・陶磁器・土製品一覧(11)

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	時期	胎土色調		胎土の特徴	釉色調		釉薬	備考
	514	47		X96Y124 Ⅰ層	中世土師器	皿		4.4			10YR6/2	灰黄褐色	砂粒・骨針				孔有り
	515	47		X80Y86 Ⅱ層	中世土師器	皿		4.4			7.5YR8/3	浅黄橙色	赤色粒・骨針				
	516	47		X105Y135 Ⅲ層	中世土師器	皿		4.3			2.5Y7/2	灰黄色	砂粒				孔有り
	517			X82Y84 Ⅱ層	中世土師器	皿		4.4			7.5YR8/8	黄橙色	赤色粒・砂粒				
	518	45		X70Y91 Ⅱ層	中世土師器	皿		4.4			10YR8/2	灰白色	赤色粒				
	519			X79Y91 Ⅱ層	中世土師器	皿			4.3		10YR8/3	浅黄橙色	赤色粒・骨針				
	520	47		X73Y93 Ⅱ層	中世土師器	皿			4.7		10YR8/3	浅黄橙色	赤色粒・骨針				
	521	47		X83Y89 Ⅱ層	中世土師器	皿			6.5		7.5YR7/6	橙色	骨針・雲母				
	522			X75Y102 Ⅱ層	中世土師器	皿			3.9		7.5YR8/4	浅黄橙色	赤色粒・骨針				
	523			X37Y27 Ⅰ層	中世土師器	皿			4.4		2.5YR5/8	明赤褐色	骨針				
	524			X78Y98 排水溝	中世土師器	皿			5.1		10YR8/2	灰白色	赤色粒・砂粒				板状圧痕
	525			X30Y45 Ⅲ層	中世土師器	皿			5.0		7.5YR8/4	浅黄橙色	赤色粒・骨針				
	526			X91Y103 Ⅱ層	中世土師器	皿			4.2		10YR8/2	灰白色	赤色粒・骨針				
	527			Ⅰb層	中世土師器	皿			5.0		7.5YR8/4	浅黄橙色	赤色粒・骨針				
	528			X79Y88 Ⅱ層	中世土師器	皿			5.2		10YR8/3	浅黄橙色	赤色粒・骨針				スス付着
	529			X84Y99 Ⅱ層	中世土師器	皿			5.2		10YR8/3	浅黄橙色	砂粒・骨針				スス付着
	530			X95Y106 Ⅱ層	中世土師器	皿			5.0		10YR8/3	浅黄橙色	赤色粒・砂粒				
	531			X99Y113 Ⅰb層	中世土師器	皿			4.8		7.5YR8/1	灰白色	骨針				
	532			X28Y44 Ⅱ層	中世土師器	皿			5.0		7.5YR7/6	橙色	赤色粒・骨針				
	533			X78Y82 Ⅱ層	中世土師器	皿			4.0		10YR8/2	灰白色	赤色粒				
	534			X72Y84 Ⅱ層	中世土師器	皿			4.7		10YR8/3	浅黄橙色	赤色粒・骨針				
108	535			X73Y93 Ⅱ層	中世土師器	皿			5.0		10YR8/2	灰白色					
	536			X37Y45 Ⅰ層	中世土師器	皿			4.8		2.5YR7/6	橙色	赤色粒				
	537			X76Y85 Ⅱ層	中世土師器	皿			5.1		2.5Y8/1	灰白色	赤色粒・骨針				板状圧痕
	538			X45Y63 Ⅱ層	中世土師器	皿			5.0		7.5YR8/4	浅黄橙色	赤色粒				
	539			X62Y60 Ⅱ層	中世土師器	皿			4.4		5YR6/8	橙色	赤色粒・骨針				
	540			X55Y46 Ⅱ層	中世土師器	皿			5.3		7.5YR6/6	橙色					
	541			試掘トレンチ	中世土師器	皿			4.3		5YR6/8	橙色	赤色粒・骨針				
	542			X72Y98 Ⅱ層	中世土師器	皿			5.4		7.5YR8/6	浅黄橙色	赤色粒・骨針				
	543	47		X80Y84 Ⅱ層	中世土師器	皿			5.3		10YR8/2	灰白色	赤色粒・骨針				
	544			X73Y88 Ⅱ層	中世土師器	皿			6.0		10YR8/3	浅黄橙色	赤色粒・骨針				
	545			X133Y137 Ⅰ層	中世土師器	皿			7.0		5YR7/4	にぶい橙色	赤色粒				
	546			X83Y105 試掘トレンチ	中世土師器	有台皿					7.5YR8/4	浅黄橙色	赤色粒・骨針				
	547			X63Y53 Ⅰ層	中世土師器	皿	7.8	1.8			10YR7/3	にぶい黄橙色	白色粒				灯芯油痕
	548			X29Y32 Ⅰ層	中世土師器	皿	8.0	2.1			2.5Y7/1	灰白色	白色粒・雲母				灯芯油痕
	549	46		X64Y90 Ⅱ層	中世土師器	皿	7.8	2.2			7.5Y7/4	にぶい橙色	赤色粒・骨針・雲母				灯芯油痕
	550			X28Y46 試掘トレンチ	中世土師器	皿	8.0				7.5YR7/6	橙色	赤色粒・骨針				灯芯油痕
	551			X29Y43 Ⅰ層	中世土師器	皿	8.2				10YR8/2	灰白色	赤色粒・骨針				
	552			X80Y83 試掘トレンチ	中世土師器	皿	8.8	2.3	4.9		2.5Y6/8	橙色	赤色粒・骨針				灯芯油痕
	553	46		X90Y88 Ⅰ層	中世土師器	皿	8.0	1.6	4.1		7.5YR8/4	浅黄橙色	赤色粒				スス付着
	554			X101Y124 Ⅲ層	中世土師器	皿	8.8	1.5	5.8		2.5Y7/2	灰黄色	赤色粒・骨針				
	555			X33Y43 Ⅱ層	中世土師器	皿	9.0	2.2			5YR5/8	明赤褐色	白色粒・骨針・雲母				
	556			X117Y143	中世土師器	皿	8.8	1.7			5YR7/4	にぶい橙色	赤色粒				
	557			X76Y98 Ⅱ層	中世土師器	皿	10.2	3.0	7.0		5YR6/6	橙色	赤色粒・骨針				
	558			X41Y67 Ⅱ層	中世土師器	皿	10.0	2.3			10YR7/3	にぶい黄橙色	白色粒・骨針・雲母				
	559			X50Y66 Ⅰ層	中世土師器	皿	9.6				7.5YR8/4	浅黄橙色	赤色粒・骨針				
	560			X100Y124 Ⅰb層	中世土師器	皿	9.8	1.9			2.5Y3/1	黒褐色					布状圧痕 灯芯油痕 黒変
	561			X64Y93 Ⅱ層	中世土師器	皿	9.8				10YR8/3	浅黄橙色	赤色粒・骨針				
	562			X35Y27 Ⅰ層	中世土師器	皿	9.8	1.9			10YR2/1	黒色					
	563			X136Y143 Ⅰ層	中世土師器	皿	10.9	1.4			7.5YR7/3	にぶい橙色	赤色粒				
	564			X50Y65 Ⅱ層	中世土師器	皿	10.8	1.8	6.3		7.5YR8/3	浅黄橙色					
	565			X88Y82 Ⅰ層	中世土師器	皿	10.4	2.3			7.5YR7/6	橙色	赤色粒				
	566			X87Y99 Ⅰb層	中世土師器	皿	10.9				10YR7/2	にぶい黄橙色	赤色粒・骨針				
	567			X91Y103 Ⅰb層	中世土師器	皿	11.0				5YR7/8	橙色	赤色粒・骨針				
	568			X39Y57 Ⅰ層	中世土師器	皿	12.0	2.3			7.5YR7/6	にぶい橙色	赤色粒・白色粒・雲母				
	569			X31Y53 Ⅰ層	中世土師器	皿	12.0	2.0			5YR7/6	橙色	赤色粒・白色粒				灯芯油痕
	570			X138Y144 Ⅰ層	中世土師器	皿	13.0	2.4			7.5YR8/3	浅黄橙色	赤色粒				

第17表　岩坪岡田島遺跡　土器・陶磁器・土製品一覧(12)

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	時期	胎土色調		胎土の特徴	釉色調		釉薬	備考
	571			X60Y56 Ⅰ層	中世土師器	皿	13.0				10YR8/2	灰白色	赤色粒				
	572			X62Y91 Ⅱ層	中世土師器	皿	12.9	3.6	9.2		10YR7/2	にぶい黄橙色	赤色粒・骨針				
	573			X109Y149 Ⅰ層	中世土師器	皿	14.0				10YR7/3	にぶい黄橙色	赤色粒・骨針				
109	574			X39Y40 Ⅰ層	珠洲	甕				Ⅱ～Ⅲ期	N7/0	灰白色	骨針				
	575			X91Y113 Ⅰb層	珠洲	甕				Ⅱ～Ⅲ期	N6/0	灰色	白色粒				
	576			X52Y60 Ⅰ層	珠洲	甕				Ⅲ期	N5/0	灰色	白色粒・雲母				
	577	50		X98Y126 Ⅰb層	珠洲	甕	30.4			Ⅱ期	7.5Y5/1	灰色	骨針				
	578			X119Y146 Ⅰ層	珠洲	甕				Ⅲ～Ⅳ期	N5/0	灰色	骨針				
	579	50		X101Y124 Ⅰb層 X101Y127 Ⅰb層 X102Y126 Ⅲ層 X102Y129 Ⅰb層 X103Y131 Ⅰb層	珠洲	甕	37.4			Ⅱ期	7.5Y5/1	灰色	骨針				
	580	50		X108Y105 Ⅱ層	珠洲	甕	52.0			Ⅱ期	10Y5/1	灰色	骨針				
	581			X97Y125 Ⅰ層	珠洲	甕	52.6			Ⅱ～Ⅲ期	N5/0	灰色	骨針				
	582	50		X107Y147 Ⅰb層	珠洲	甕	54.6			Ⅱ～Ⅲ期	N6/0	灰色	骨針				
	583			X107Y147 Ⅰb層	珠洲	甕	59.2			Ⅱ～Ⅲ期	N6/0	灰色	骨針				
110	584			X89Y81 Ⅰb層	珠洲	甕				Ⅳ期	N7/0	灰白色					
	585			X51Y74 Ⅰ層	珠洲	甕				Ⅳ期	N6/0	灰色	白色粒・石英				
	586			X101Y127 Ⅰb層	珠洲	甕				Ⅳ期	5Y5/1	灰色	白色粒				
	587			X124Y141 Ⅰ層	珠洲	甕	43.0			Ⅳ期	N5/0	灰色	骨針				
	588	50		X106Y142 Ⅰ層	珠洲	甕	42.8			Ⅳ～Ⅴ期	N5/0	灰色	骨針				
	589			X100Y136 Ⅰb層	珠洲	甕	50.4			Ⅳ～Ⅴ期	N5/0	灰色	骨針				
	590			X86Y86 Ⅰb層	珠洲	甕			12.0		N8/0	灰白色	骨針				
	591			X145Y146 Ⅱ層	珠洲	甕			12.0		2.5Y5/1	黄灰色					スス付着
	592			X123Y136 Ⅰ層	珠洲	壺	10.1			Ⅰ期	N5/0	灰色					
	593			X136Y144 Ⅰ層	珠洲	壺	12.8			Ⅰ期	N6/0	灰色					
	594			X33Y28 Ⅰ層	珠洲	壺	10.7				N6/0	灰色					
	595			X126Y165 Ⅱ層	珠洲	壺					N6/0	灰色					波状文
	596			X123Y134 Ⅰ層 X126Y132 Ⅰ層	珠洲	壺					N5/0	灰色	骨針				櫛目波状文
	597			Ⅰ層	珠洲	壺					N5/0	灰色	白色粒・骨針				
	598			X118Y140 Ⅰ層	珠洲	壺			8.4		N6/0	灰色	白色粒・骨針				
	599			X144Y150 Ⅱ層	珠洲	壺			9.0		N6/0	灰色	骨針				
	600			X111Y108 Ⅱ層	珠洲	壺			9.3		7.5Y5/1	灰色					
	601			X83Y99 Ⅱ層	珠洲	壺	20.0			Ⅱ～Ⅲ期	N6/0	灰色					
	602			X89Y106 Ⅰ層	珠洲	壺					N7/0	灰白色	赤色粒・骨針				
	603			X100Y124 Ⅰb層	珠洲	壺	29.6			Ⅲ～Ⅳ期	N4/0	灰色	骨針				
111	604			Ⅰ層	珠洲	壺	26.4			Ⅲ～Ⅳ期	N5/0	灰色	白色粒・骨針				
	605			X125Y139 Ⅰ層 X123Y137 Ⅰ層	珠洲	壺	29.3			Ⅰ2期	N6/0	灰色	砂粒				
	606			X120Y132 Ⅰ層	珠洲	壺	24.4			Ⅰ2期	N5/0	灰色	骨針				
	607			X107Y147 Ⅰb層	珠洲	鉢	17.0			Ⅰ期	N6/0	灰色	骨針				
	608			X110Y109 Ⅱ層	珠洲	鉢	19.4	(7.3)	10.0	Ⅰ期	N5/0	灰色					
	609			X140Y150 Ⅰ層	珠洲	鉢	20.0			Ⅰ期	N7/0	灰白色	赤色粒				
	610			X98Y130 Ⅰ層	珠洲	鉢	20.0			Ⅰ期	10YR5/1	褐灰色					
	611			X97Y125 Ⅰb層	珠洲	鉢	24.2			Ⅰ期	N5/0	灰色	骨針				
	612	52		X82Y103 Ⅱ層	珠洲	擂鉢				Ⅱ期	N5/0	灰色	骨針				卸目2.7cm11条
	613			X108Y105 Ⅱ層	珠洲	擂鉢	29.4			Ⅱ期	2.5Y7/1	灰白色	骨針				
	614			X39Y44 Ⅰ層	珠洲	擂鉢	28.2			Ⅳ期	N6/0	灰色	骨針				
	615			X68Y95 Ⅱ層	珠洲	擂鉢	28.0			Ⅳ期	N6/0	灰色	白色粒				
	616			X93Y115 Ⅱ層	珠洲	擂鉢	40.0			Ⅰ～Ⅱ期	5B7/1	明青灰色	骨針				
	617			X87Y116 Ⅱ層	珠洲	擂鉢	36.0			Ⅱ期	N8/0	灰白色					
	618			X41Y51 Ⅰ層	珠洲	擂鉢	34.0			Ⅲ～Ⅳ期	N6/0	灰色	骨針				
	619			X83Y114 Ⅱ層	珠洲	擂鉢	31.5			Ⅳ期	N5/0	灰色	骨針				卸目2.4cm9条
	620			X103Y132 Ⅰb層	珠洲	擂鉢	24.3			Ⅳ期	N6/0	灰色	骨針				
	621			X101Y125 Ⅲ層直上	珠洲	擂鉢	21.0			Ⅳ期	N6/0	灰色	骨針				

第17表　岩坪岡田島遺跡　土器・陶磁器・土製品一覧(13)

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	時期	胎土色調		胎土の特徴	釉色調		釉薬	備考
	622			X113Y114 Ⅰ層	珠洲	擂鉢	24.0			Ⅳ期	N6/0	灰色	骨針				
	623			X82Y113 Ⅱ層	珠洲	擂鉢	24.0			Ⅳ期	N6/0	灰色					
	624			X73Y98	珠洲	擂鉢	24.0			Ⅳ期	10BG7/1	明青灰色					卸目1.9cm7条
112	625	52		X69Y96 Ⅱ層	珠洲	擂鉢	42.0			Ⅴ期	N7/0	灰白色					
	626			X58Y71	珠洲	擂鉢	39.5			Ⅴ期	N6/0	灰色	骨針				
	627			X107Y115 Ⅰ層	珠洲	擂鉢	30.0			Ⅴ期	5Y6/1	灰色	骨針				波状文
	628	52		X86Y111 Ⅱ層	珠洲	擂鉢	30.2			Ⅵ期	2.5GY7/1	明オリーブ灰色	砂粒・骨針				
	629			X95Y106 Ⅰb層	珠洲	擂鉢				Ⅴ期	N6/0	灰色	白色粒				
	630	52		X25Y45 Ⅱ層	珠洲	擂鉢				Ⅶ期	2.5Y5/1	黄灰色	白色粒・骨針				
	631			X114Y126 Ⅱ層	珠洲	擂鉢			12.0		5Y6/1	灰色	白色粒・骨針				卸目2.8cm10条
	632	52		X70Y94 Ⅱ層	珠洲	擂鉢			11.4		N5/0	灰色	白色粒				卸目3.3cm16条
	633			X64Y60 Ⅰ層	珠洲	擂鉢			14.2		5Y6/1	灰色	骨針				
	634			X110Y110 Ⅱ層	珠洲	擂鉢			11.0		N5/0	灰色					卸目1.5cm7条
	635			X96Y125 Ⅰb層	珠洲	擂鉢			9.4		N6/0	灰色	骨針				
	636			X40Y30 Ⅱ層	珠洲	擂鉢			10.6		N5/0	灰色	白色粒・骨針・雲母				
	637			X108Y106 Ⅱ層	珠洲	擂鉢			14.0	Ⅲ～Ⅳ期	7.5Y4/1	灰色					卸目1.5cm7条
	638			X103Y131 Ⅰb層	珠洲	擂鉢			11.9		N7/0	灰白色					卸目2.3cm9条
	639			X42Y29 Ⅱ層	珠洲	擂鉢			15.0		N7/0	灰白色	赤色粒・骨針				
	640			X129Y147	珠洲	擂鉢			11.0		7.5Y6/1	灰色	白色粒・骨針				卸目3.2cm13条
	641			X68Y60	珠洲	擂鉢			15.0		N6/0	灰色	白色粒・骨針				卸目2.1cm9条
	642			X94Y101 Ⅰb層	珠洲	擂鉢			14.4		N7/0	灰白色	赤色粒・骨針				
113	643	53		X103Y134 Ⅰb層	中国製白磁	碗	16.0			11世紀後半～12世紀前半	5Y7/1	灰白色		5Y7/2	灰白色	白磁釉	太宰府Ⅳ類
	644			X35Y48 Ⅰ層(Ⅱ層直上)	中国製白磁	碗	16.5			11世紀後半～12世紀前半	N8/0	灰白色		5Y7/1	灰白色	白磁釉	太宰府Ⅳ類
	645	53		X90Y84 Ⅰb層	中国製白磁	碗	16.8			11世紀後半～12世紀前半	N7/0	灰白色		5Y7/1	灰白色	白磁釉	太宰府Ⅳ類
	646	53		X85Y89 Ⅱ層	中国製白磁	碗	16.5			11世紀後半～12世紀前半	10Y8/1	灰白色		7.5Y7/1	灰白色	白磁釉	太宰府Ⅳ類
	647			X113Y108 Ⅰ層	中国製白磁	碗	10.8			11世紀後半～12世紀中頃	N8/0	灰白色		7.5Y7/1	灰白色	白磁釉	太宰府ⅡorⅢorⅣ類
	648			X108Y106 Ⅰ層	中国製白磁	碗	12.1			13世紀後半～14世紀前半	7.5Y8/1	灰白色		5GY7/1	明オリーブ灰色	白磁釉	口禿　太宰府Ⅸ類
	649	53		X111Y126 Ⅱ層	中国製白磁	碗	12.0			13世紀後半～14世紀前半	5Y7/1	灰白色		10Y7/1	灰白色	白磁釉	口禿　太宰府Ⅸ類
	650			X109Y106 Ⅱ層	中国製白磁	碗	13.7			13紀後半～14世紀前半	7.5Y8/1	灰白色	白色粒・黒色粒	10Y7/1	灰白色	白磁釉	口禿　太宰府Ⅸ類
	651	53		X40Y57	中国製白磁	Ⅲ	10.0	2.2	4.2	14世紀後半～15世紀	N8/0	灰白色	黒色粒	7.5Y7/1	灰白色	白磁釉	重ね焼 森田D群
	652			X54Y49	中国製白磁	Ⅲ			3.0	11世紀後半～12世紀前半	N8/0	灰白色		5Y7/1	灰白色	白磁釉	太宰府Ⅵ1a類
	653			X101Y130 Ⅰb層	中国製白磁	壺			7.0		5Y8/1	灰白色		10Y7/1	灰白色	白磁釉	
	654			X96Y128 Ⅰb層	中国製白磁	壺					N8/0	灰白色		10Y7/1	灰白色	白磁釉	
	655			X35Y48 Ⅰ層(Ⅱ層直上)	中国製青白磁	壺				13～14世紀前半	N8/0	灰白色		10GY7/1	明緑灰色	青白磁釉	唐草文
	656	53		X68Y95 Ⅱ層	中国製青白磁	壺				13～14世紀前半	N8/0	灰白色		10G7/1	明緑灰色	青白磁釉	唐草文
	657	53		X119Y153 Ⅲ層	中国製青磁	碗	16.4			13世紀前半	7.5Y6/1	灰色		10Y6/1	灰色	青磁釉	龍泉窯系太宰府Ⅱb類 漆継ぎ蓮弁文
	658	53		X38Y35 Ⅰ層	中国製青磁	碗	17.7			13世紀前半	N8/0	灰白色		10GY7/1	明緑灰色	青磁釉	龍泉窯系太宰府Ⅱb類 蓮弁文
	659	53		X35Y27 Ⅰ層	中国製青磁	碗	16.0			14世紀前半	N7/0	灰白色		7.5G6/1	緑灰色	青磁釉	龍泉窯系上田BⅡ類 蓮弁文
	660			X105Y104	中国製青磁	碗			5.2	13世紀前半	N7/0	灰白色		5Y6/2	灰オリーブ色	青磁釉	龍泉窯系太宰府Ⅱb類 蓮弁文
	661	53		X112Y110 Ⅰ層	中国製青磁	碗	16.4			12世紀中頃～後半	N7/0	灰白色		7.5Y6/1	灰色	青磁釉	龍泉窯系太宰府Ⅰ2(b?)類 劃花文
	662	53		X82Y91 Ⅰb層	中国製青磁	碗	14.8			12世紀中頃～後半	7.5Y7/1	灰白色		5Y6/2	灰オリーブ色	青磁釉	龍泉窯系太宰府Ⅰ4類 劃花文

第17表　岩坪岡田島遺跡　土器・陶磁器・土製品一覧(14)

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	時期	胎土色調		胎土の特徴	釉色調		釉薬	備考
	663			X8Y100 Ⅰb層	中国製青磁	碗	15.0			14世紀後半～15世紀前半	N7/0	灰白色		5GY5/1	オリーブ灰色	青磁釉	龍泉窯系太宰府Ⅳイ類・上田DⅡ類
	664			X93Y112 Ⅱ層	中国製青磁	碗	15.6			14世紀後半～15世紀前半	N7/0	灰白色		2.5GY6/1	オリーブ灰色	青磁釉	龍泉窯系太宰府Ⅳ類・上田DⅡ類
	665			X30Y42 Ⅰ層	中国製青磁	碗			5.4	14世紀後半～15世紀前半	N8/0	灰白色		2.5GY6/1	オリーブ灰色	青磁釉	龍泉窯系太宰府Ⅳイ類・上田DⅡ・E類
	666			X102Y129 Ⅱ層	中国製青磁	碗	11.0			12世紀中頃～後半	N7/0	灰白色		5GY6/1	緑灰色	青磁釉	太宰府Ⅰ1a類
	667	53		X112Y113	中国製青磁	碗	12.9			12世紀中頃～後半	N8/0	灰白色		5GY7/1	明オリーブ灰色	青磁釉	同安窯系太宰府Ⅰ1b類　櫛目文
	668			X108Y109	中国製青磁	皿	12.0			15～16世紀	N7/0	灰白色		10Y5/2	オリーブ灰色	青磁釉	龍泉窯系
	669			X117Y142 Ⅰ層	中国製青磁	稜花皿	10.7			15世紀	N7/0	灰白色		10Y6/2	オリーブ灰色	青磁釉	龍泉窯系
114	670			X30Y50 Ⅰ層	八尾	甕				13世紀後半～14世紀前半	10YR3/3	暗褐色	白色粒				
	671			X40Y60 Ⅱ層	山茶碗	椀	11.8			13世紀後半～14世紀初頭	2.5Y7/1	灰白色					
	672			X31Y53 Ⅰ層	古瀬戸	卸皿	13.3			後期様式Ⅲ期	2.5Y8/1	灰白色		7.5Y6/3	オリーブ黄色	灰釉	
	673			X35Y45 Ⅰ層	古瀬戸	平椀			5.3	中期様式Ⅲ期	10YR8/1	灰白色		7.5Y6/3	オリーブ黄色	灰釉	
	674			X104Y139 ①層	古瀬戸	天目茶椀			4.4	中期様式Ⅱ期	2.5Y7/1	灰白色		5Y4/2	灰オリーブ色	灰釉	
	675			X108Y144 Ⅰ層	古瀬戸	合子蓋	6.4		2.8	後期様式Ⅲ～Ⅳ期	2.5Y7/1	灰白色		10YR2/3	黒褐色	鉄釉	
	676	54		X30Y50 Ⅰ層	古瀬戸	合子蓋	4.5	1.3	1.9	中期様式Ⅰ～Ⅲ期	2.5Y8/1	灰白色	白色粒	2.5Y3/2 5Y5/3	黒褐色 灰オリーブ色	鉄釉 灰釉	
	677			X80Y90 Ⅱ層	古瀬戸	直縁大皿	31.2			後期様式Ⅱ期	2.5Y7/1	灰白色					漆付着
	678	54		X53Y60 Ⅰ層	瀬戸美濃	天目茶椀	11.9			大窯Ⅰ期	10YR8/4	浅黄橙色		7.5YR3/2	黒褐色	鉄釉	
	679			X107Y106 Ⅰ層	瀬戸美濃	天目茶椀	12.1			大窯Ⅰ期	10YR8/1	灰白色		7.5YR4/3	褐色	鉄釉	
	680			X135Y139 Ⅰ層	瀬戸美濃	天目茶椀			3.4	大窯Ⅰ期	2.5Y8/1	灰白色		2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	鉄釉・錆釉	
	681			X85Y114 Ⅱ層	瀬戸美濃	端反皿	11.0				2.5Y8/2	灰白色		7.5Y6/3	オリーブ黄色	灰釉	
	682	54		X103Y141 Ⅱ層	瀬戸美濃	丸皿	10.6	2.1	5.4	大窯Ⅱ期	5Y7/1	灰白色		5Y5/4	オリーブ色	灰釉	
	683			X32Y53 Ⅰ層	瓦器	火鉢				17世紀以降	2.5Y7/2	灰黄色	白色粒・骨針・雲母				雷文
	684				瓦器	火鉢	17.6			17世紀以降	7.5YR5/4	にぶい褐色	赤色粒・白色粒・雲母(多)				雷文
	685			X45Y60	越中瀬戸	天目茶椀	14.0			17世紀前半	5Y8/1	灰白色		7.5YR1.7/1 10YR5/2	黒色 灰黄褐色	鉄釉 錆釉	
	686	56		X145Y152 Ⅰ層	越中瀬戸	丸椀	10.1			17世紀	5Y6/1	灰色		7.5Y2/2	オリーブ黒色	鉄釉	
	687	56		表採	越中瀬戸	丸碗			5.0	17世紀	10YR6/2	灰黄褐色		2.5Y3/1	黒褐色	鉄釉	灰釉流しかけ
	688			X50Y70 Ⅰ層	越中瀬戸	香炉	11.0				5Y7/1	灰白色		5Y6/4	オリーブ黄色	灰釉	
	689	55		X130Y144 Ⅰ層	越中瀬戸	皿	7.6		3.0	17～18世紀	10YR7/3	にぶい黄橙色		7.5YR3/4	暗褐色	鉄釉	
	690	56		X110Y111 Ⅰ層	越中瀬戸	皿	10.6	2.0	4.5	17世紀前半～中頃	5YR6/4	にぶい橙色	白色粒	5YR4/3	にぶい赤褐色	鉄釉	
	691			X124Y137 Ⅰ層	越中瀬戸	皿			4.0	17～18世紀	10YR6/2	灰黄褐色		10YR2/1	黒色	鉄釉	重ね焼　スス付着
	692			X99Y130 Ⅰ層	越中瀬戸	皿			4.8	17世紀前半～中頃	7.5YR7/4	にぶい橙色	白色粒	10YR4/2	灰黄褐色	鉄釉	
	693			X125Y140 Ⅰ層	越中瀬戸	皿			5.0	17世紀前半～中頃	7.5YR7/3	にぶい橙色	白色粒	5Y8/1	灰白色	灰釉	
	694			X138Y147 Ⅰ層	越中瀬戸	皿			6.4	17～18世紀	10YR7/4	にぶい黄橙色	砂粒	5YR3/6	暗赤褐色	鉄釉	
	695			X26Y46 Ⅰ層	越中瀬戸	皿			4.6	17世紀前半～中頃	N8/0	灰白色		2.5Y8/2	灰白色	灰釉	直接重ね焼　印花
	696	56		X25Y42	越中瀬戸	皿			4.4	16世紀末～17世紀前半	7.5YR7/4	にぶい橙色		7.5YR3/1	黒褐色	鉄釉	印花
	697	56		X101Y136 Ⅰ層	越中瀬戸	皿			5.0	17世紀前半～中頃	5Y6/1	灰色		5Y8/1	灰白色	灰釉	重ね焼　印花
115	698			X45Y28 Ⅰ層	越中瀬戸	皿			5.4	17世紀前半～中頃	N8/0	灰白色		5Y4/4	暗オリーブ色	灰釉	
	699	55		X124Y136 Ⅰ層	越中瀬戸	壺蓋	8.9	1.6	4.0	18～19世紀	10YR8/4	浅黄橙色		7.5YR4/3	褐色	鉄釉	
	700	56		X121Y134 Ⅰ層	越中瀬戸	壺	10.0			17～18世紀	5Y6/1	灰色	白色粒	7.5YR4/2	灰褐色	鉄釉	

第17表　岩坪岡田島遺跡　土器・陶磁器・土製品一覧(15)

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	時期	胎土色調		胎土の特徴	釉色調		釉薬	備考
	701	56		X105Y136 Ⅰ層	越中瀬戸	火入	11.4			17世紀	2.5YR7/3	浅黄色		2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	鉄釉	
	702			X80Y108 試掘トレンチ	越中瀬戸	匣鉢			10.8	17～18世紀	N6/0	灰色		10YR4/4	褐色	錆釉	
	703			X85Y85 Ⅰ層	越中瀬戸	匣鉢			12.0	17～18世紀	2.5Y8/3	淡黄色	砂粒	10YR2/2	黒褐色	錆釉	
	704			X80Y114 排水溝	越中瀬戸	瓶			5.0	17世紀前半～中頃	5Y8/1	灰白色		7.5Y4/3	暗オリーブ色	鉄釉	
	705	56		X106Y137 Ⅰb層	越中瀬戸	擂鉢	25.6			17世紀	10YR7/2	にぶい黄橙色		7.5YR4/3	褐色	錆釉	
	706	56		X145Y146 Ⅰ層 X146Y152 Ⅰ層	越中瀬戸	擂鉢	25.1			17世紀	7.5YR8/3	浅黄橙色		7.5YR4/3	褐色	錆釉	卸目1.1cm5条
	707	56		X78Y82 Ⅰb層	唐津	Ⅲ			4.0	16世紀末～17世紀初頭	N7/0	灰白色	白色粒・黒色粒	7.5Y7/1	灰白色	灰釉	胎土目
	708			X40Y57	唐津	Ⅲ			5.2	17世紀後半～18世紀前半	5Y8/1	灰白色		5G6/1	緑灰色	銅緑釉	内野山窯系　砂目　蛇の目釉剥
	709			X34Y27 Ⅰ層	唐津	鉢				16世紀末～17世紀初頭	N7/0	灰白色		5Y6/1	灰色	灰釉 透明釉	鉄絵
	710			X28Y42 Ⅰ層	伊万里	碗			4.0		N8/0	灰白色				透明釉	染付 7.5B6/3 青灰色　染付
	711			X28Y50 Ⅰ層	伊万里	Ⅲ			5.4		N8/0	灰白色				透明釉	染付 5B7/1 明青灰色　染付
	712	55		X124Y143 旧用水	伊万里	Ⅲ	13.2	3.6	6.2	17世紀後半～18世紀前半	10YR7/4	にぶい黄橙色				透明釉	陶胎染付 7.5Y3/1 オリーブ黒色 スス付着　蛇の目釉剥
	713			X128Y161 Ⅰ層	陶器		6.0				10YR4/3	にぶい黄褐色					
	714			X123Y136 Ⅰ層	陶器				16.4		5YR5/2	灰褐色	赤色粒・砂粒				
	715			X125Y162 Ⅰ層	陶器				13.6		10YR4/2	灰黄褐色					鉱物付着
	716	57		X53Y73 Ⅰ層攪乱	伊万里	人形	3.3	1.8			N8/0	灰白色		N8/0	灰白色	白磁釉	
	717	57		X66Y91 試掘トレンチ	土製品	土人形					10YR8/3	浅黄橙色	白色粒・雲母				天神像
116	718			X49Y41 Ⅲ層	土製品	土錘	(3.6)	(3.1)	1.1		7.5YR8/4	浅黄橙色	赤色粒・白色粒・雲母				重量20.2g
	719	59		X101Y120 Ⅱ層上面	土製品	土錘	3.4	3.0	1.2		5YR6/6	橙色	赤色粒・砂粒				重量18.8g
	720	59		X83Y109 Ⅱ層	土製品	土錘	3.1	2.5	1.4		5YR7/6	橙色	赤色粒				重量12.9g
	721	59		X77Y92 Ⅲa層	土製品	土錘	3.7	3.7	1.3		7.5YR8/4	浅黄橙色	骨針				重量30.3g
	722			X46Y33 Ⅲ層	土製品	土錘	(2.4)	(3.5)	1.4		5YR7/6	橙色					重量14.7g
	723			X83Y108 Ⅲa層	土製品	土錘	(3.7)	(2.7)	1.3		10YR8/4	浅黄橙色	赤色粒				重量11.9g
	724	59		表採	土製品	土錘	3.7	2.9	1.0		7.5YR7/4	にぶい橙色					重量26.5g
	725			X51Y50 Ⅲ層	土製品	土錘	4.1	3.9	1.2		10YR8/2	灰白色					重量20.2g
	726			X36Y54 Ⅲ層	土製品	土錘	(4.2)	(3.3)	1.3		7.5YR8/4	浅黄橙色					重量20.0g
	727	59		X80Y102 Ⅲa層	土製品	土錘	4.4	3.3	1.4		2.5YR6/8	橙色	赤色粒				重量31.9g
	728	59		X77Y92 Ⅲa層	土製品	土錘	4.4	3.6	1.2		7.5YR8/4	浅黄橙色	骨針				重量34.6g
	729			X88Y101 Ⅱ層	土製品	土錘	(3.9)	(4.2)	(1.6)		2.5Y7/1	灰白色	赤色粒・骨針・砂粒				重量30.3g
	730			X96Y106 Ⅱ層	土製品	土錘	(5.1)	(2.9)	(1.7)		2.5YR7/8	橙色	赤色粒・骨針				重量20.5g
	731			X77Y90 Ⅱ層	土製品	土錘	(3.2)	4.5	1.7		7.5YR8/3	浅黄橙色	赤色粒・骨針				重量33.4g
	732	59		X81Y86 Ⅱ層	土製品	土錘	5.9	4.8	1.9		2.5Y8/2	灰白色	赤色粒				重量114.2g
	733			X40Y25 Ⅱ層	土製品	土錘	(5.3)	(3.8)	(1.6)		5YR6/6	橙色	砂粒				重量31.2g
	734			X66Y94 Ⅱ層	土製品	土錘	(3.8)	(5.5)	1.3		7.5YR8/3	浅黄橙色	赤色粒・骨針				重量41.7g
	735			X75Y101 Ⅱ層	土製品	土錘	(4.8)	3.9	1.8		10YR8/1	灰白色					重量64.5g
	736			X93Y104 Ⅰb層	土製品	土錘	(5.1)	(4.5)	1.5		2.5Y7/1	灰白色	骨針・砂粒				重量79.0g
	737			X69Y91 Ⅱ層	土製品	土錘	(4.4)	4.5	2.0		10YR8/1	灰白色	赤色粒				重量73.8g
	738	59		X72Y93 Ⅲa層	土製品	土錘	6.3	5.5	1.9		7.5YR8/2	灰白色	雲母				重量164.8g
	739	59		X73Y98 Ⅱ層	土製品	土錘	(5.9)	4.6	1.6		10YR8/1	灰白色	赤色粒				重量119.5g
	740			X77Y90 Ⅱ層	土製品	土錘	(6.6)	(3.9)	1.6		10YR8/1	灰白色	赤色粒・砂粒				重量44.0g
	741			X82Y91 Ⅱ層	土製品	土錘	(6.5)	(4.6)	1.3		10YR8/2	灰白色	赤色粒・骨針・砂粒				重量65.5g
	742			X76Y88 Ⅱ層	土製品	土錘	(6.3)	(4.5)	1.6		7.5YR8/4	浅黄橙色	赤色粒・骨針・砂粒				重量72.8g
	743	59		X124Y146 Ⅰ層	土製品	土錘	6.1	4.2	1.2		5YR7/4	にぶい橙色	砂粒				重量95.9g
	744	59		X74Y86 Ⅱ層　X76Y87 Ⅱ層	土製品	土錘	(6.7)	4.7	1.8		7.5YR7/6	橙色	赤色粒・骨針				重量110.8g
	745	59		X81Y88 Ⅱ層	土製品	土錘	7.9	4.8	1.7		2.5Y8/3	淡黄色	赤色粒・骨針				重量161.7g
	746			X75Y80 Ⅱ層	土製品	土錘	7.9	4.8	1.8		10YR8/2	灰白色	骨針				重量146.6g
	747			X80Y95 試掘トレンチ	土製品	土錘	(7.7)	4.1	1.6		10YR8/2	灰白色	赤色粒・骨針				重量109.1g
	748	59		X82Y98 Ⅱ層	土製品	土錘	6.7	(4.6)	(1.5)		10YR8/3	浅黄橙色	赤色粒・骨針				重量59.0g
	749			X82Y91 Ⅱ層	土製品	土錘	(6.8)	(4.8)	1.4		10YR8/2	灰白色	赤色粒・砂粒				重量66.8g

第18表　岩坪岡田島遺跡　木製品一覧(1)

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	法量(cm)			材質	備考
						長さ	幅	厚さ		
117	1	60	SE 1291		横櫛	3.9	3.7	0.7	イスノキ	
	2	60		X68Y87 Ⅱ層	下駄	20.0	5.4	2.3	スギ	
	3	60		X139Y146 Ⅰ層	下駄	(11.3)	6.7	3.7	二葉松類(アカマツ,クロマツ等)	
	4	60	SD 301	X105Y136 ④(旧①)層	下駄	13.8	8.3	1.1	スギ	
	5	60	SD 4	X66Y57 上層	柄?	22.6	3.5	1.5	スギ	先端焼けている
	6	61	SD 301	X94Y125 ④(旧①)層	紡錘車?	5.9	1.4	1.8	ケヤキ?	
	7	61	SE 1009	下層	曲物	23.9	9.4	0.3	ヒノキ	
	8	61		X103Y130 Ⅲ層直上	円形板	29.7	7.4	0.6	スギ	
	9	61	SE 1001		曲物底板	19.9	6.6	1.0	スギ	放射性炭素年代 No.18
	10	61		X93Y114 Ⅱ層	円形板	7.35	2.6	0.7	スギ	
	11	62	SK 1302		漆器椀			8.1	ケヤキ	内外面黒色・漆器分析 No.14
	12	62	SD 11	③層	漆器椀	(16.2)	(4.5)	9.8	ケヤキ	内外面黒色・漆器分析 No.12
	13	62	SE 1001		漆器椀			(8.6)	ケヤキ	内外面黒色・漆器分析 No.10
	14	63	SD 11	X58Y81 上層	漆器椀		(5.2)	5.7	ブナ	外面黒色,内面赤色・漆器分析 No.13
	15	63	SD 4	X61Y49 下層	木地皿	10.4	1.9	6.8	ケヤキ	
	16	63	SE 1001	床面直上	漆器皿	10.1	1.5	8.2	ケヤキ	内外面黒色・漆器分析 No.11
118	17	65	SE 1001		井戸枠(西面上段横桟)	76.4	7.2	1.6	スギ	
	18	64	SE 1001		井戸枠(東面下段横桟)	82.4	10.4	3.4	スギ	
	19	64	SE 1001		井戸枠(西面下段横桟)	82.4	14.8	3.0	スギ	
	20	65	SE 1001		井戸枠(北面上段横桟)	78.0	8.4	2.0	スギ	
	21	64	SE 1001		井戸枠(南面下段横桟)	81.4	15.2	2.6	スギ	
	22	64	SE 1001		井戸枠(北面下段横桟)	84.8	15.2	2.6	スギ	
119	23	65	SE 1001		井戸枠(南東支柱)	40.6		4.3	クリ	
	24	65	SE 1001		井戸枠(北東支柱)	50.4	4.6	4.0	スギ	
	25	65	SE 1001		井戸枠(南西支柱)	49.4	6.0	3.4	スギ	
	26	65	SE 1001		井戸枠(北西支柱)	49.8	5.2	4.1	スギ	
	27	66	SE 1001		井戸枠(東面南側縦板)	79.4	38.4	2.4	スギ	年輪年代 No.4
	28	66	SE 1001		井戸枠(東面中央添板)	(75.2)	15.8	2.2	スギ	
120	29	66	SE 1001		井戸枠(東面北側縦板)	82.6	35.2	2.4		
	30	67	SE 1001		井戸枠(西面南側縦板)	91.4	37.2	3.0	スギ	
	31	68	SE 1001		井戸枠(西面南隅添板)	72.0	10.7	2.4		
	32	68	SE 1001		井戸枠(西面中央添板)	73.6	20.6	1.4	ヒノキ	
121	33	68	SE 1001		井戸枠(西面北隅添板)	47.2	13.8	1.5		
	34	67	SE 1001		井戸枠(西面北側縦板)	77.2	37.2	2.4	スギ	年輪年代 No.5
	35	69	SE 1001		井戸枠(南面東隅添板)	54.4	12.6	2.0		
	36	69	SE 1001		井戸枠(南面中央添板)	64.2	14.4	1.5	ヒノキ	
	37	69	SE 1001		井戸枠(南面西側縦板)	91.2	34.8	3.0	ヒノキ	
122	38	72	SE 1001		井戸枠(南面東側縦板)	81.4	36.4	2.6		
	39	70	SE 1001		井戸枠(北面縦板)	72.1	16.2	2.2		
	40	70	SE 1001		井戸枠(北面東隅縦板)	64.6	17.8	2.4	スギ	
	41	70	SE 1001		井戸枠(北面縦板)	53.2	12.8	1.2	ヒノキ	
	42	70	SE 1001		井戸枠(北面縦板)	58.3	13.0	1.4		
	43	70	SE 1001		井戸枠(北面縦板)	53.0	13.2	1.3	ヒノキ	
123	44	71	SE 1001		井戸枠(北面添板)	68.3	13.9	1.5	スギ	
	45	71	SE 1001		井戸枠(北面添板)	67.0	13.9	2.2		
	46	71	SE 1001		井戸枠(北面東隅添板)	70.6	14.2	2.0		
	47	71	SE 1001		井戸枠(北面添板)	54.8	14.4	1.2		
	48	71	SE 1001		井戸枠(北面添板)	65.0	11.7	1.6		
	49	71	SE 1001		井戸枠(北面添板)	47.2	12.4	1.0		
	50	72	SE 1291		加工板	82.8	7.6	0.8	スギ	放射性炭素年代 No.20
	51	72	SE 1291		加工板	46.4	7.4	0.8	スギ	放射性炭素年代 No.19
	52	73	SE 1291		加工棒	(20.8)	1.7	0.4	モチノキ科(モチノキ,イヌツゲ,タラヨウ等)	
124	53	73	SP 1510(SB8)		柱	15.0	8.0	8.2	スギ	

第18表　岩坪岡田島遺跡　木製品一覧(2)

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	法量(cm)			材質	備考
						長さ	幅	厚さ		
	54	73	SP 234(SB3)		柱	54.5	10.2	7.9	クリ	
	55	73	SD 301	X101Y133 ④(旧①)層 肩部	加工棒	34.7	2.5	2.3	スギ	
	56	73	SD 11	X68Y79 上層	加工棒	7.7	1.2	0.4	ヒノキ	先端焼けている
	57	73	SD 301	X105Y138 ④(旧①)層	加工棒	(11.0)	1.5	1.1	スギ	
	58	73		X28Y36 Ⅰ層	加工板	9.4	3.1	1.3	スギ根	
	59	74	SD 11	X71Y68 上層	加工板	78.0	4.1	1.8	スギ	
	60		SD 4	X66Y59 上層	加工板	(14.1)	2.1	0.7	スギ	
	61	74	SE 1001		加工板	(78.8)	13.0	0.4	スギ	
	62	74	SE 1001		加工板	28.7	8.6	0.9	スギ	
	63	74	SX 12	X57Y58	部材?	23.0	5.7	4.6	ヒノキ科	
125	*64*	74	SE 508		加工板	(20.7)	6.2	0.7	スギ	
	65		SD 11	X47Y73 肩部	加工板	16.7	3.5	0.9	スギ	放射性炭素年代 №22
	66	74	SE 508		加工板	(17.0)	5.7	0.5	スギ	
	67		SD 4	X66Y59 上層	加工棒	(15.8)	2.0	2.0	スギ	
	68	75	SD 11	X47Y73 肩部	加工板(懸魚か)	33.2	15.7	1.3		
	69	75	SD 11	X47Y73 肩部	加工板(懸魚か)	41.2	15.7	1.2	スギ	
	70	75	SD 11	X65Y74 下層	加工棒	33.5	1.5	1.3	スギ	
	71	75	SD 1123	X121Y138 Ⅷ層	加工棒	289.0	2.0	1.9		
126	*72*	76	SE 1229		加工板	9.6	3.2	1.0	スギ	
	73	76	SK 1305		加工板	12.1	5.2	1.1	スギ	
	74	76	SK 1305		加工板	(21.1)	(3.5)	0.7	スギ	
	75	76	SK 1301		加工板	(18.8)	4.2	(1.2)	スギ	
	76	76	SX 12	X60Y57	加工板	29.9	9.4	1.6	スギ	
	77	76	SE 451	D区	加工板	(19.2)	9.6	0.7	スギ	

第19表　岩坪岡田島遺跡　石製品一覧

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	法量(cm・g)				材質	備考
						長さ	幅	厚さ	重さ		
127	*1*	77	8号土器集中地点	X135Y149・150	石鏃	2.7	2.5	0.3	1.1	泥岩	
	2	77	SD 301	X106Y144 ④(旧①)層	扁平片刃石斧	5.2	3.2	0.9	32.9	碧玉	
	3	77	SX 1121		剥片	3.5	1.4	0.7	2.4	流紋岩	
	4	77	SX 1121	X129Y156 ①層	剥片	5.2	5.2	2.1	33.7	流紋岩	
	5	77	SX 1121		磨石	13.6	8.7	5.3	810.0	凝灰岩	
	6	77	3号土器集中地点	X130Y157	敲石	11.0	7.4	4.5	512.4	凝灰岩	スス付着
	7	77	2号土器集中地点		凹石	8.3	6.3	3.1	232.3	花崗岩	
128	*8*	78		X75Y93 Ⅱ層	砥石	4.4	3.8	0.4	10.7	頁岩	
	9			X25Y40 Ⅰ層	砥石	6.1	2.9	4.0	60.0	砂岩	
	10	78		X68Y95 Ⅱ層	砥石	4.7	2.4	4.9	64.0	凝灰岩	
	11	78		X76Y101	砥石	5.7	2.3	2.0	42.0	凝灰岩	スス付着
	12		SD 301	X104Y139 ④(旧①)層	砥石	4.2	3.5	2.9	45.6	凝灰岩	
	13	78		X74Y96 Ⅱ層	砥石	5.3	1.7	3.3	34.0	凝灰岩	
	14	78		X38Y63 Ⅱ層	砥石	9.6	4.2	1.2	60.0	頁岩	
	15	78	SD 301	X106Y141	砥石	7.9	4.1	2.5	86.8	凝灰岩	
	16	78		X27Y37 Ⅰ層	砥石	7.9	5.6	2.2	100.0	凝灰岩	
	17		SE 508		砥石	5.2	4.6	2.9	60.0	砂岩	
129	*18*	78	SE 1105	底面	砥石	9.3	7.8	4.2	323.5	凝灰岩	スス付着
	19	78	SK 428		砥石	12.1	6.6	5.9	570.0	砂岩	
	20	78	SD 301	X123Y142 ④(旧①)層	砥石	10.2	5.5	2.5	152.1	凝灰岩	
	21	77	SE 504	上層	剥片(火打ち石か)	2.8	3.3	1.9	20.0	めのう	
	22	77	SD 301	X106Y142 ④(旧①)層	石鍋	6.2	6.2	3.1	126.2	滑石	

第20表　岩坪岡田島遺跡　金属製品一覧

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	法量(cm・g)			
						長さ	幅	厚さ	重さ
130	*1*	80	SK 1371		銭(開元通寶)	2.34	2.4	1.14	2.07
	2	80	SK 1371		銭(乾元重寶)	2.42		1.35	3.18
	3	80	SK 1371		銭(至道元寶)	2.46		1.10	2.46
	4	80	SD 301	X107Y144	銭(咸平元寶)	2.27	2.3	1.17	1.69
	5	80	SK 1208		銭(天禧通寶)	2.55	2.5	1.21	2.11
	6	80		X103Y135	銭(天聖元寶)	2.53	2.5	1.20	2.20
	7	80	SD 301	X103	銭(皇宋通寶)	2.47	2.4	1.28	2.74
	8	80	SK 1371		銭(皇宋通寶)	2.51	2.4	1.30	3.58
	9	80	SK 1371		銭(熙寧元寶)	2.41		1.45	2.94
	10	80	SK 1371		銭(元祐通寶)	2.34		1.22	3.33
	11		SK 1371		銭(元祐通寶)	2.41		1.37	2.65
	12	80		X103Y133	銭(元祐通寶)	2.50	2.5	1.23	3.00
	13	80		X80Y97	銭(聖宋元寶)	2.27	2.3	1.07	0.88
	14	80	SK 1371		銭(大観通寶)	2.43		1.46	3.05
	15	80	SK 1371		銭(政和通寶)	2.44		1.02	2.63
	16	80		X25Y40	銭(大定通宝)	2.50	2.5	1.29	1.77
	17	80		X128Y144	銭(寛永通寶)	2.16	2.2	1.04	2.23
131	*18*		SK 1108		刀子	3.9	1.6	0.4	6.7
	19	79	SE 508	C区 上層	刀子	6.0	2.3	0.8	13.8
	20	79	SE 508	C区 上層	刀子	14.5	1.8	0.5	62.9
	21	79	SE 1001		雁股鏃	5.7	4.5	0.4	23.6
	22	80	SK 1278		握り鋏	7.2	1.3	0.7	7.0
	23	79	SE 508	D区 上層	釣針状	2.9	0.3	0.2	2.0
	24	80		X84Y101	釘?	5.9	0.6	0.4	3.8
	25	80	SE 1229	B区	釘	3.0	0.4	0.3	2.3
	26		SK 743	X106Y120	釘?	5.2	0.5	0.5	11.2
	27	80	SE 1299		釘?	6.8	0.9	0.7	11.5
	28	80	SK 1296		釘	5.5	0.7	0.4	17.8
	29	80		X105Y138 Ⅰ層	釘	8.1	0.7	0.7	32.3
	30		SD 401	X125Y145	引き手金具	3.0	1.8	0.6	5.6
	31	79		X26Y45 Ⅰ層	煙管	4.8	1.4	0.6	15.7
	32	79		X60Y55 Ⅰ層	煙管	18.1	0.7		28.5
	33		SE 693		板状金属製品	5.0	4.3	0.8	157.6
	34			X96Y123 Ⅲ層直上	羽口	2.7	3.4	2.0	
	35		SK 404	A区	羽口	(2.2)	(3.5)		
	36		SD 301	X104Y134 ④(旧①)層	羽口	3.1	2.7	1.4	
	37		SE 850	下層	羽口	3.7	2.8	1.8	
	38		SK 404	C区	羽口	3.7	3.1	2.2	
	39		SE 850	下層	羽口	4.6	3.7	2.6	
132	*40*	83	SP 676(SB18)		鉄滓	3.0	1.9	1.0	6.2
	41	81	SE 503	A区	鉄滓	2.6	1.9	1.7	10.4
	42	81	SE 508	D区 上層	鉄滓	3.7	2.1	1.6	9.0
	43	82	SD 401	X111Y108	鉄滓	3.5	2.4	1.8	12.5
	44	82	SD 401	X111Y108	鉄滓	3.0	2.6	1.3	12.2
	45	82	SD 401	X111Y108	鉄滓	3.9	3.1	1.1	11.1
	46	83	SK 404		鉄滓	4.6	2.5	1.6	21.0
	47	81	SE 1204		鉄滓	3.8	3.3	1.5	13.5
	48	82	SD 401	X110Y108	鉄滓	3.7	4.6	1.0	28.8
	49	83	SK 527		鉄滓	3.6	3.5	2.4	26.9
	50	83	SE 451	D区	鉄滓	4.0	3.6	2.1	47.3
	51	83	SK 404	C区	鉄滓	2.9	5.4	0.6	14.4
	52		SE 850	下層	鉄滓	5.6	3.0	1.7	
	53		SE 850	下層	鉄滓(椀形滓)	5.2	3.6	1.4	
	54	83	SK 404	D区	鉄滓	3.6	4.3	1.8	31.0
	55			X134Y146 Ⅰ層	鉄滓	3.2	5.0	2.1	31.5
	56	82	SD 453	X144Y146	鉄滓	4.9	2.6	3.0	62.5
	57	82	SD 453	X133Y146 西肩部	鉄滓	5.0	4.2	2.6	45.5
	58	82	SD 1485	X121Y146	鉄滓	5.4	5.1	3.1	97.7
	59	81	SE 508	C区 上層	鉄滓	5.8	6.6	4.6	115.2
	60	81	SE 504	上層	鉄滓	5.8	7.7	4.7	153.8
	61	83	SK 404	C区	鉄滓	5.3	9.0	2.2	86.8

4　地震痕跡

岩坪岡田島遺跡では，噴砂・地割れ・地層の変形の３つの地震痕跡を確認した。ただ，調査区は広く各地区どこでも同じものを確認したわけではない。そのためここでは，これらの地震痕跡ごとに地区を分けて見ていくこととする。

（１）Ａ地区

Ａ地区では，噴砂と地割れを検出した。噴砂は，地割れの埋土を切っておりこれより新しい。

Ａ　地割れ（ＳＸ10・ＳＸ12，第133～139図，図版28～30）

地割れは，調査区の北（ＳＸ12）と南（ＳＸ10）の２箇所で中世の遺構検出面であるⅢ層上面で検出したが，一部では中世遺物包含層であるⅡ層も引き裂いていることを土層観察により確認した。形状は，網目状に複雑に絡み合っており，検出当初は地割れと認識できずにいたが断ち割りを行い，Ｖ字状の断面と他の遺構とは異なるブロック状の埋土から確認した。地割れの規模は，最大幅50cm・最大深130cmで，人工的な遺構と異なり底面が細く尖っているため完掘できず，数箇所断ち割りを行って確認した。埋土には，Ⅲ・Ⅳ層がブロック状に入る黒褐色シルトの上に砂層が入るものが多く，地割れ後の堆積状態を示すものである。つまり，前者は当時の表土と地山の崩落した土が混ざりあって地震発生後間もなく埋まった土であり，後者はその後若干窪地となったところに，降雨等によって砂混じりの土が流れ込んだものと考えられる。また，地割れ（ＳＸ10）の下部からは９世紀の土師器（*432～435*）や籠状木製品が出土したが，これらは下層の古代遺物包含層にあったものが地割れによって現れたものと考えられる。時期は，中世の遺構検出面で確認したことと，ＳＸ12から15世紀末～16世紀前半の瀬戸美濃（*436*）が出土したことからこれ以降の大地震である天正地震（1586年）によるものと見られる。天正地震は，岐阜県の阿寺断層や御母衣断層などを震源とするマグニチュード7.8規模の大地震で中部地方に被害をもたらした。特に県内では同じ高岡市内の木舟城がこの地震で崩壊し，城主他多数が圧死したことが文書に記されており，この付近の開酔大滝遺跡などでも多くの地震痕跡を確認している。

Ｂ　噴砂（第134・136・139～141図，図版31）

噴砂は，調査区のほぼ全域で近世の遺物包含層であるＩｂ層上面で検出した。噴砂の幅は，１～５cmと細く，これらが北と南に集中してみられた。噴砂の集中している部分は，検出面の下に落ち込む地形がありこれを反映しているようで，砂脈はこれと同じ東西方向に並んでいた。時期は，調査区南側で地割れと重なっている部分があり，ここで地割れの埋土を切っておりこれより新しく，近世の遺物包含層の上に吹き上がりが見られることから手洗野赤浦遺跡と同様な飛越地震（1858年）によるものとみられる。

（２）Ｂ地区

Ｂ地区では，Ｂ１・２地区で自然流路の土層堆積内に地層の変形，Ｂ２地区で噴砂と地割れ，Ｂ３地区で噴砂を検出した。

Ａ　地層の変形構造（第47図，図版31）

地層の変形構造は，Ａ・Ｂ１・２地区をほぼ南北に流れるＳＤ11の断面で検出した。ＳＤ11の断面では，上層の砂層と下層のシルト層との境界が流動変形して，砂がシルトに沈み込んだり遊離してシルト内に取り残される現象や砂層にシルトが取り込まれて小褶曲を見せる現象や砂層上面に回転性の変形構造がみられるなどの地震痕跡を確認した。寒川旭氏によれば，これらはコンボルート葉理（擾

乱構造）やフレーム構造などと呼ばれるものに相当する[注28]。ＳＤ11の上面の砂層の年代から飛越地震によるものと考えられる。また，噴砂にこれが切られていることから，地震動の初段階で砂層が流動変形し，続いて噴砂が発生したと考えられる。

Ｂ　**地割れ**（第139図，図版30）

地割れは，Ｂ２地区でほぼ東西方向に走る数条をⅢ層上面で検出した。層位からＡ地区のものと同時期と考えるが，幅は10cm程度で狭く，深さも深くて１ｍ，複雑に絡み合うこともなく走っていた。このことからＡ地区とは，土質が異なっていることが考えられる。それは，Ａ地区よりもＢ２地区の方が北東側の台地に近く，同じ低地部にありながら少しの立地の違いでこのような地震の痕跡も変化するのであろう。その証拠にＢ２地区よりも台地部に近いＢ３地区やＣ７地区の低地部では地割れは見られなかったし，台地部のＣ１～７地区でも見られなかったからである。

Ｃ　**噴砂**　（第140・141図，図版31）

噴砂は，Ｂ２・３地区のほぼ全域で近世の遺物包含層であるＩｂ層上面で検出した。Ａ地区同様に噴砂は，幅が狭く規模の小さいもので数条が一まとまりとなって東西と南北方向に走っていた。東西方向に走るものは調査区の北側で台地部に沿うような形となっており，南北方向に走るものは，調査区の南側で自然流路ＳＤ301に沿うような形となっている。これらは，調査区北東部で合うが重ならないようである。時期は，Ａ地区同様に飛越地震（1858年）によるものと見られる。

（３）Ｃ地区

Ｃ地区では，Ｃ６地区で噴砂を検出した。

Ａ　**噴砂**　（第142図）

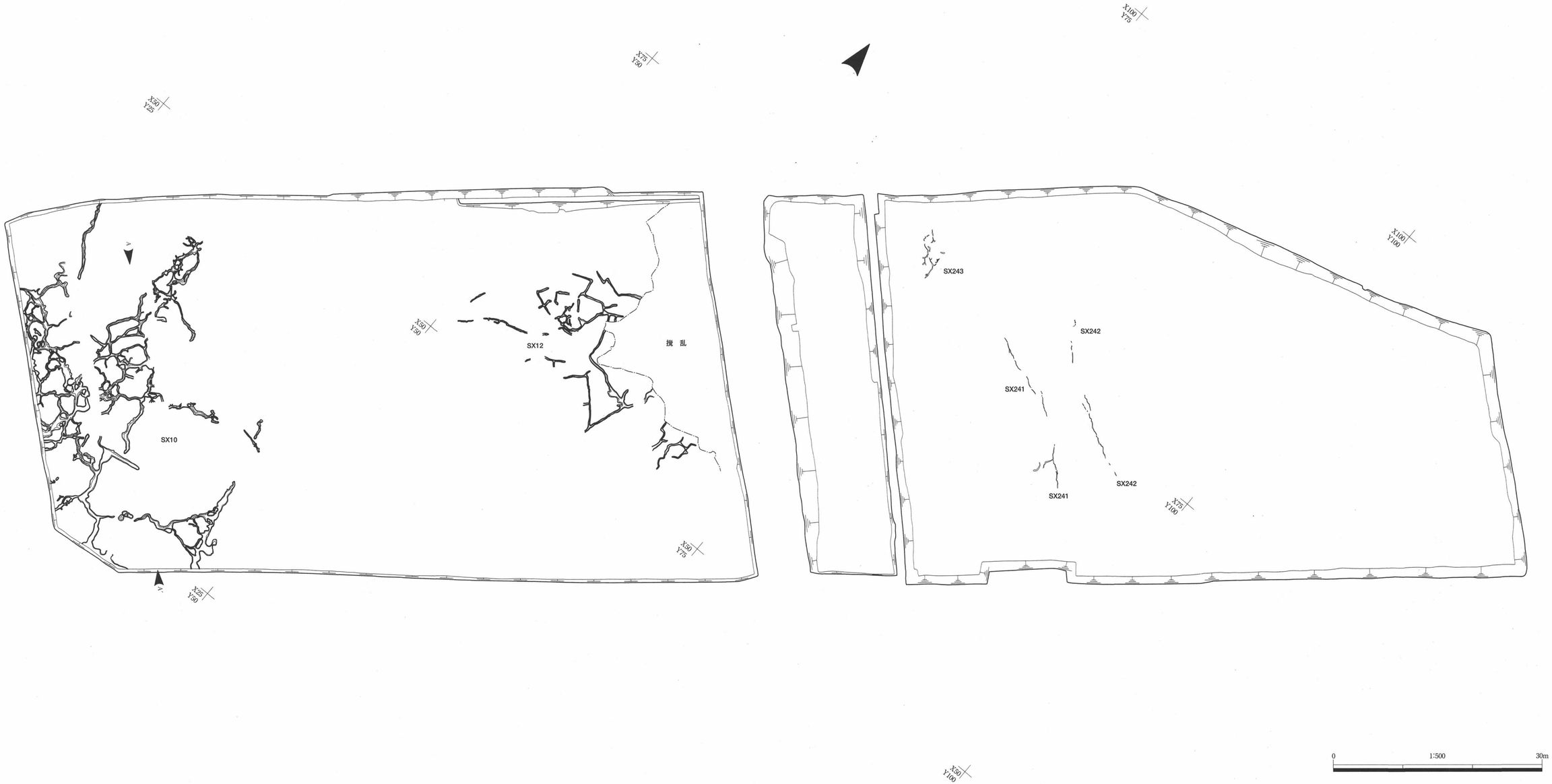
噴砂は，Ｃ６地区の下層である縄文時代前期層の調査時に南側の谷部から検出した。この谷は，遺物は出土していないが層位から縄文時代前期後葉にはあったものと見られ，その後有機物層と粘土層が互層となって自然堆積し，これを切るように噴砂が見られた。噴砂の幅は数cmで細く，平面では検出できなかった。吹き上がりもわかりづらく，時期を決定することができなかったが，堆積状況から縄文時代前期後葉以降で上層遺構が７世紀からあることからこの間の時期となろう。ただ，他の地震痕跡とは違う古い時期であることは間違いないであろう。

（４）手洗野赤浦遺跡と岩坪岡田島遺跡における地震痕跡の意義

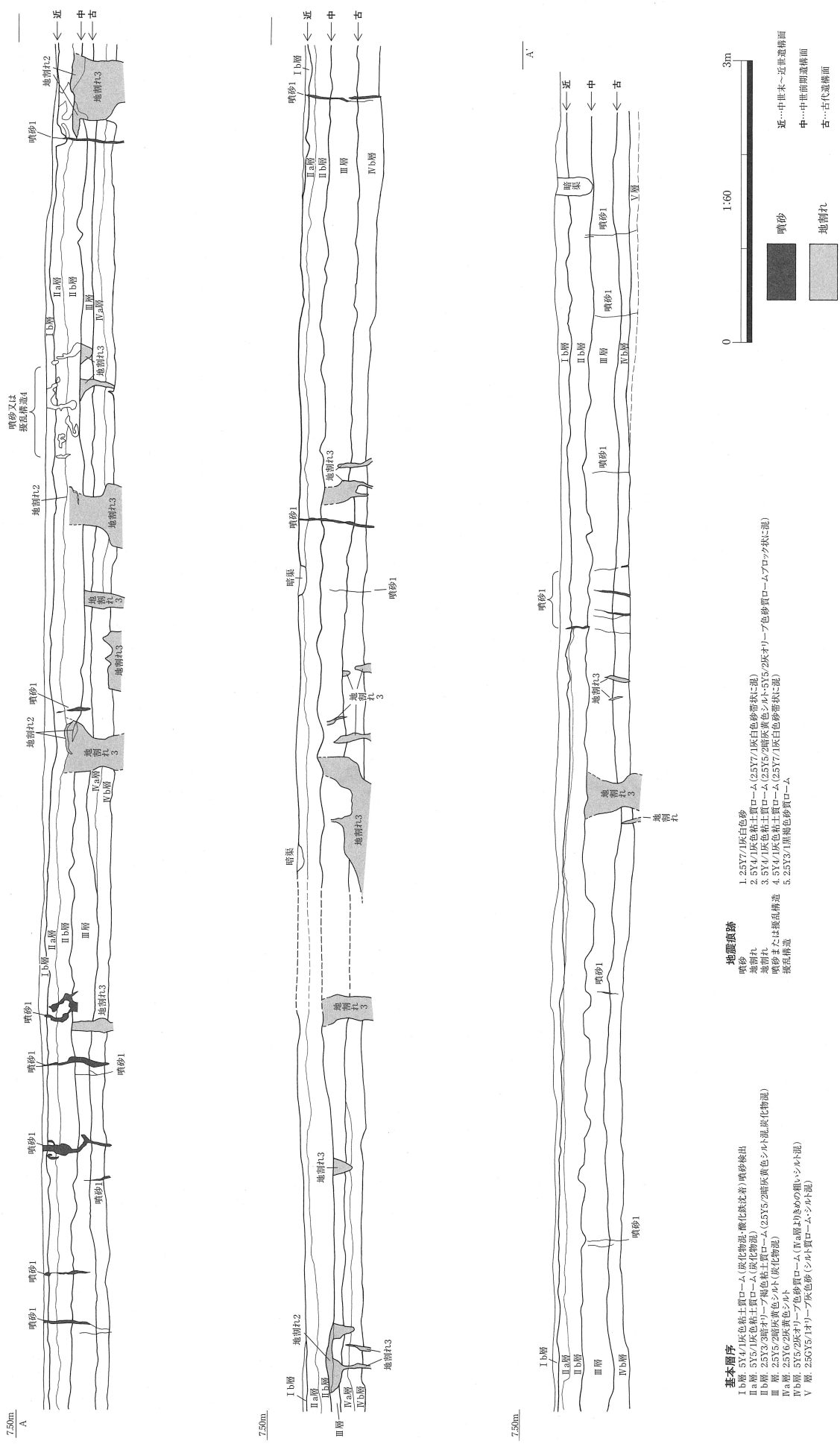
手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡の調査では，大規模な地震痕跡を検出した。地震の痕跡には，液状化現象による噴砂・地面が引き裂かれる地割れ・地形の変形がある。これらの痕跡が，両遺跡では各所で見られた。富山県は，大規模な地震が少ないところで史料にも数える程度の記載しかない。そのため，これらの地震痕跡をどの時代のどの地震に比定するといった作業は，遺跡の層位と史料からある程度想定できる。特に手洗野赤浦遺跡と岩坪岡田島遺跡は，中世を主体とする遺跡でこれらの遺構を切る形で多くの地震痕跡が見つかっていることから，天正地震（1586年）か飛越地震（1858年）のいずれかの爪痕を残すものと見られる。ただ，同じ地震によるものといってもその痕跡は異なり，例えば手洗野赤浦遺跡では幅１ｍで長い噴砂，岩坪岡田島遺跡では幅数cmで短い噴砂といった状況が見られる。これは，遺跡の堆積状況や地形の差異をあらわしているものと言える。また岩坪岡田島遺跡では，地割れの後に噴砂がそれを切るという２つの地震痕跡を見ることができた。このように手洗野赤浦遺跡と岩坪岡田島遺跡では，地震痕跡を明確に確認でき，その時期も押さえられる重要な遺構と言えよう。

（町田賢一）

注28　第二分冊　自然科学分析　寒川　旭　「Ⅻ．手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡で検出された地震痕跡」

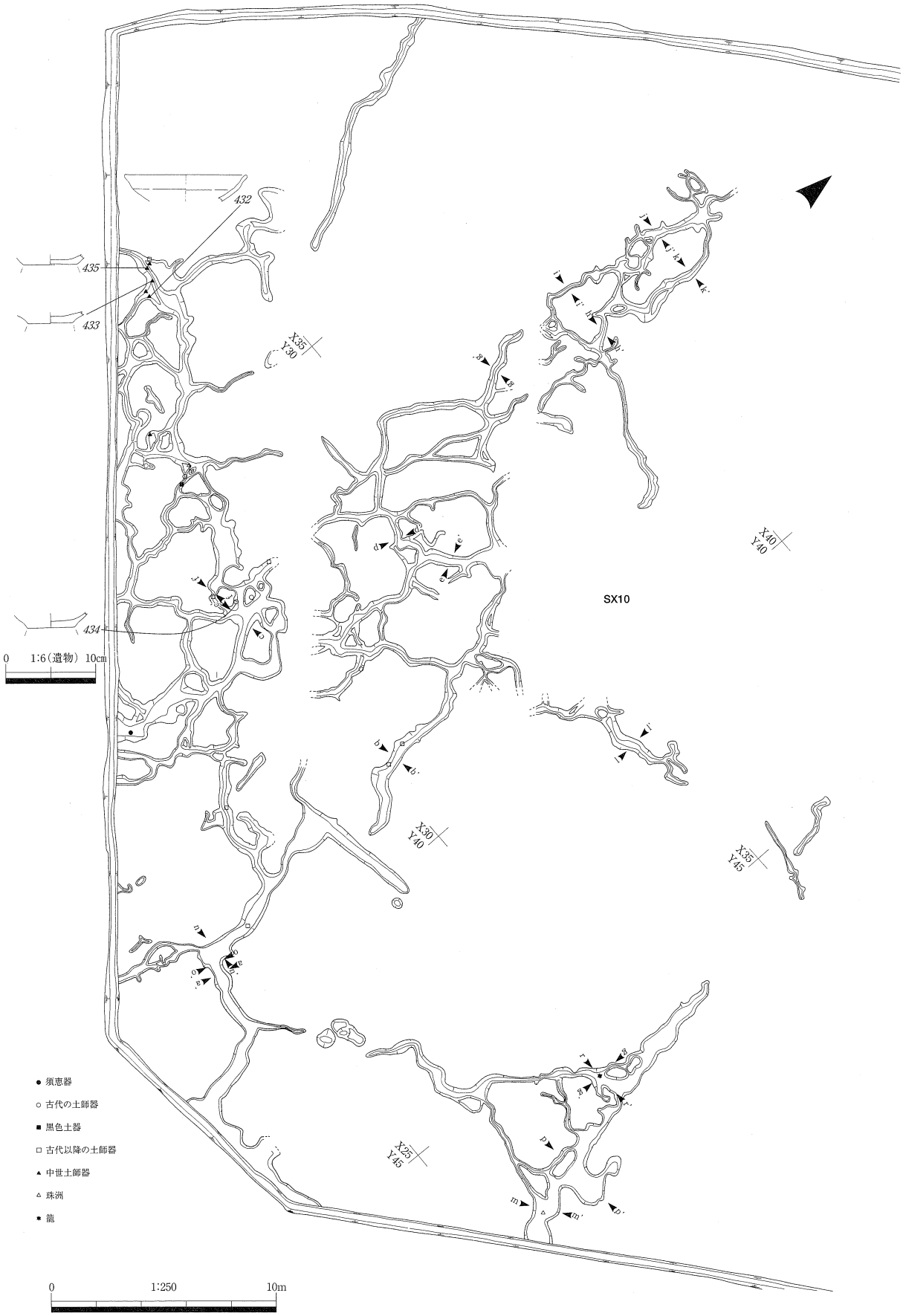


第133図　岩坪岡田島遺跡　遺構実測図
地震痕跡　地割れ

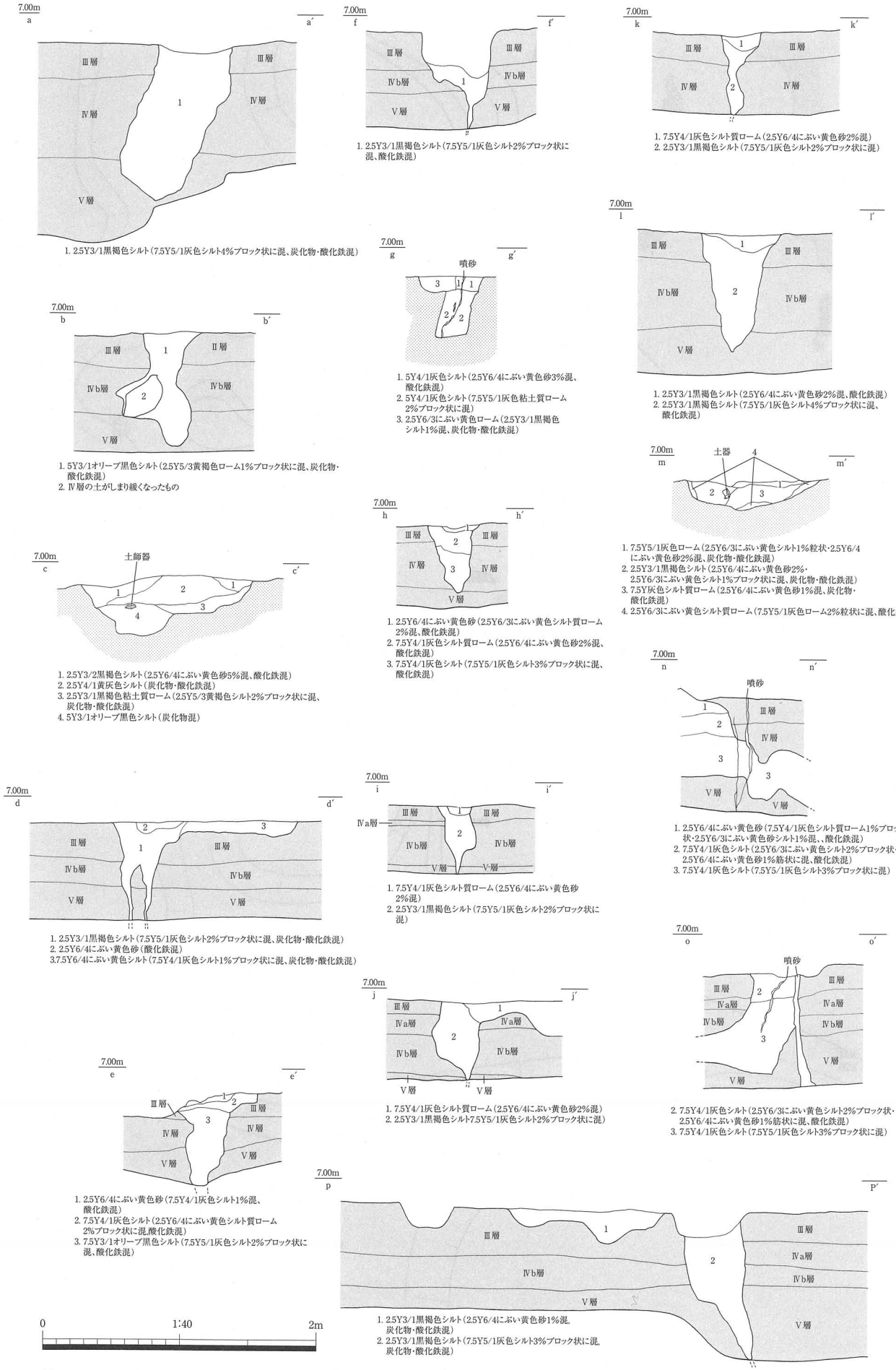


第134図　岩坪岡田島遺跡　遺構実測図

地震痕跡　噴砂　地割れ

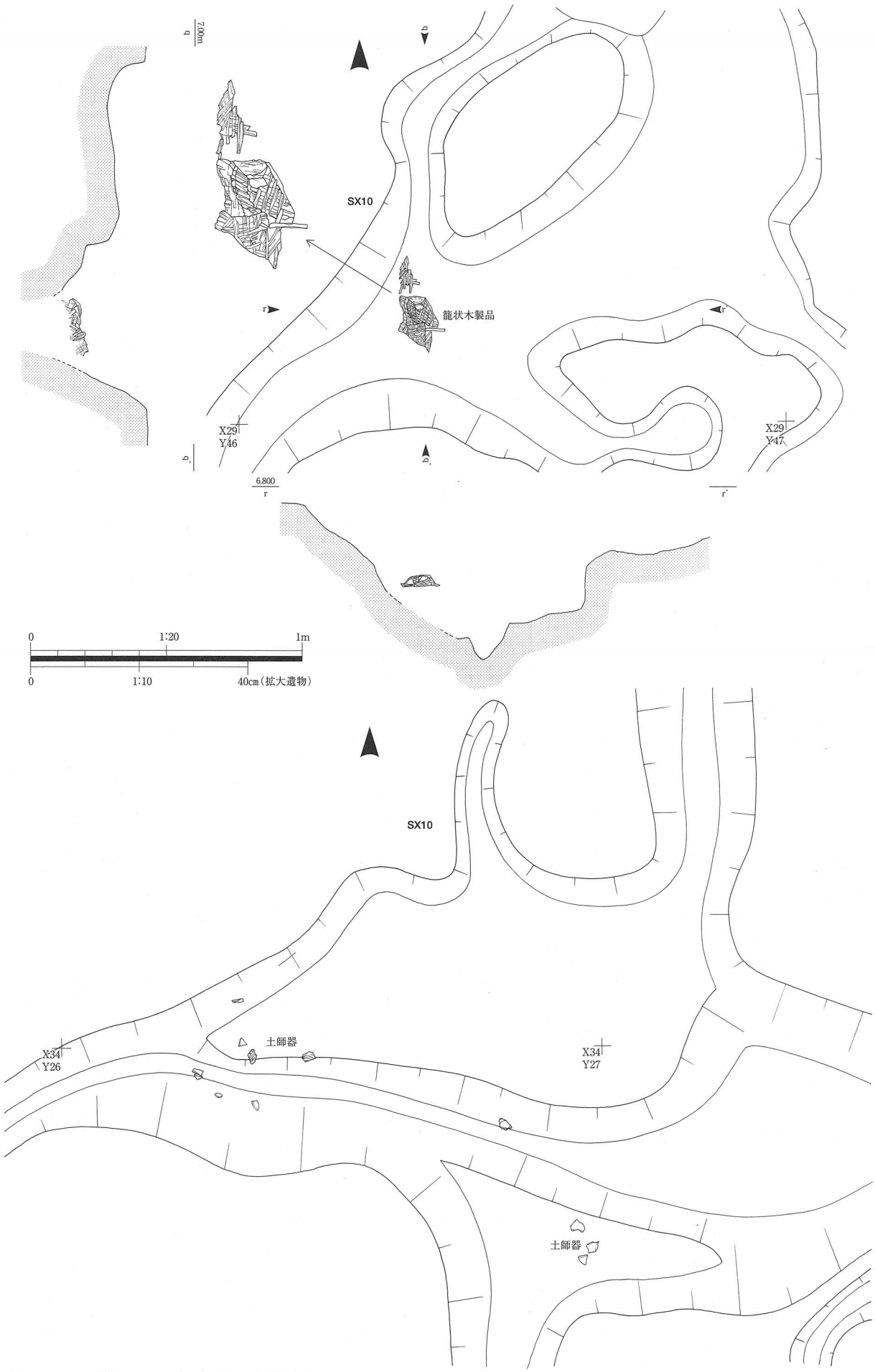


第135図　岩坪岡田島遺跡　遺構実測図
地震痕跡　地割れ（SX10）



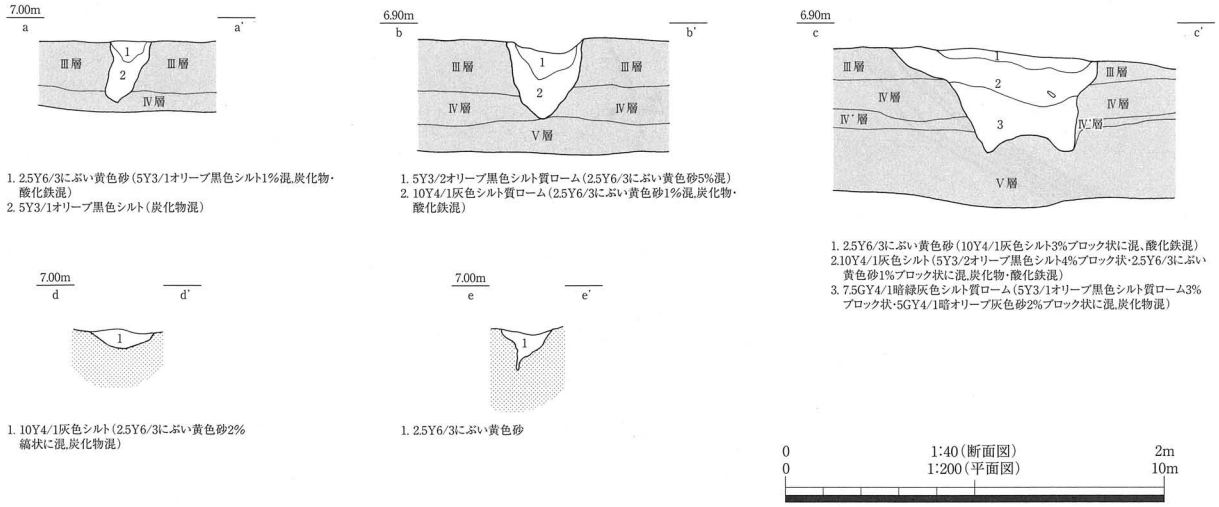
第136図　岩坪岡田島遺跡　遺構実測図

地震痕跡　地割れ（SX10）　噴砂



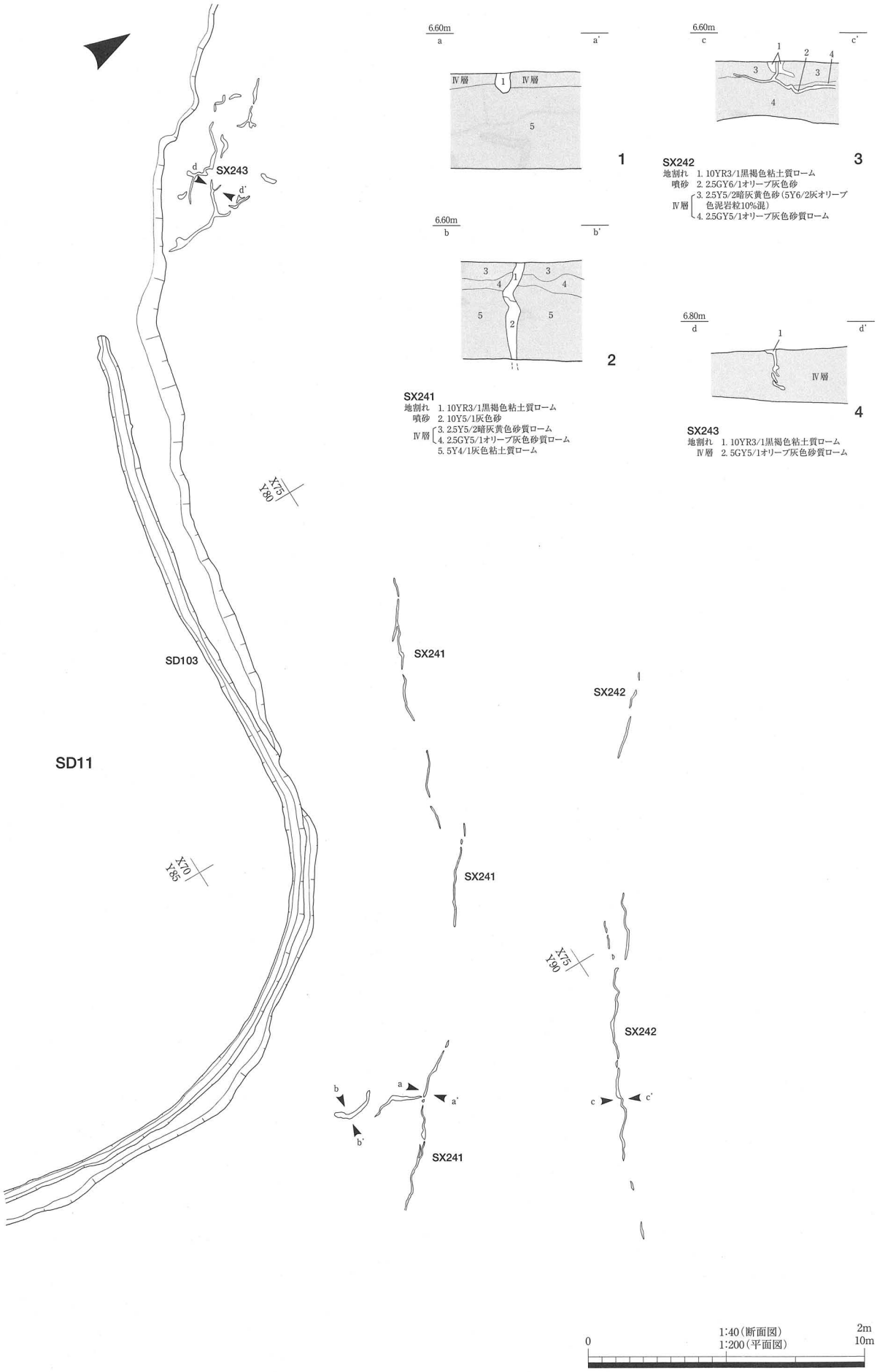
第137図　岩坪岡田島遺跡　遺構実測図

地震痕跡　地割れ（SX10）



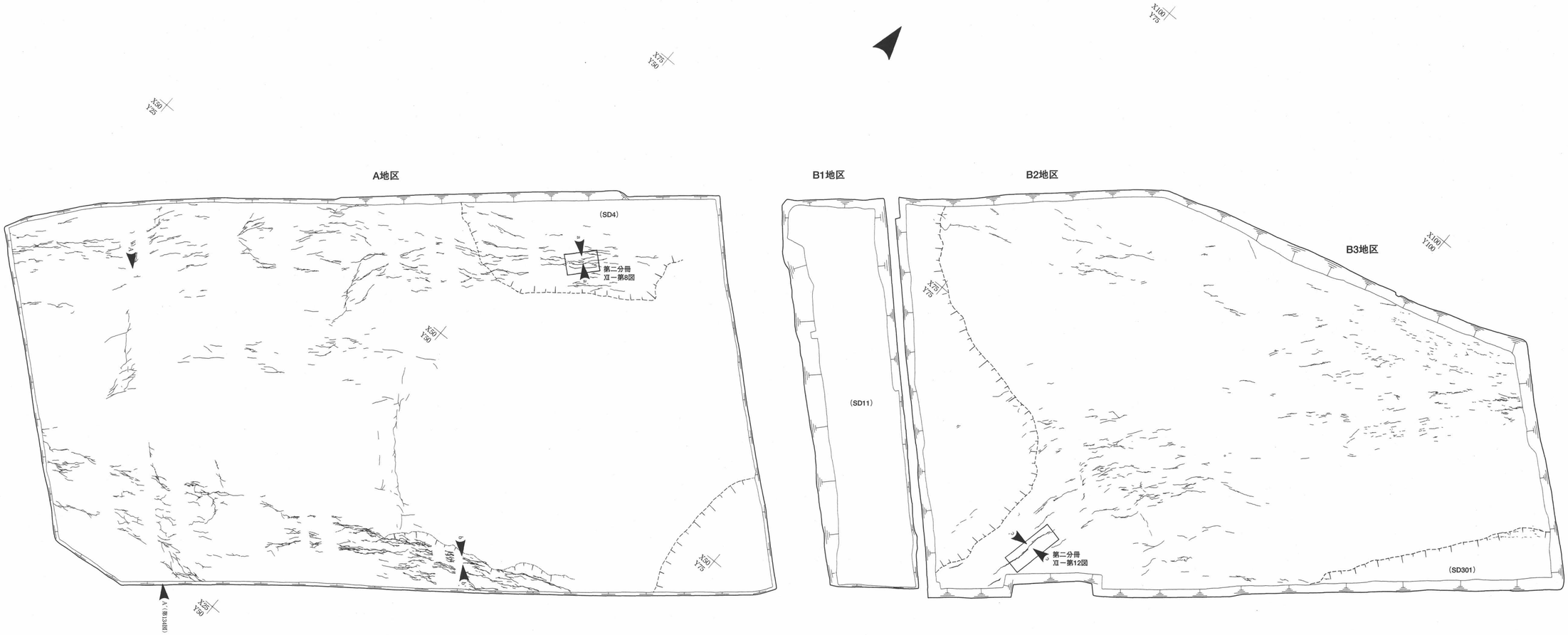
第138図　岩坪岡田島遺跡　遺構実測図

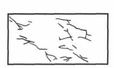
地震痕跡　地割れ（SX12）

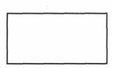


第139図　岩坪岡田島遺跡　遺構実測図

地震痕跡　地割れ　噴砂（1・2. SX241　3. SX242　4. SX243）




噴砂

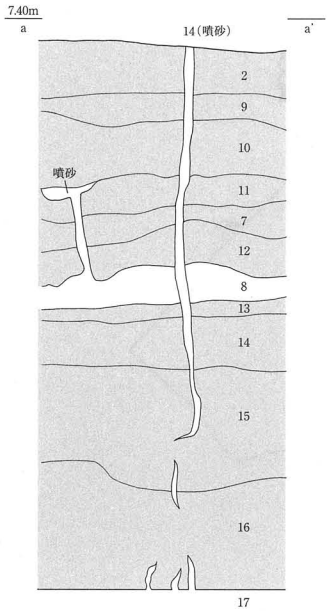

第二分冊　自然科学分析　寒川旭「Ⅻ. 手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡で検出された地震跡」　砂脈の平面図位置

0　1:500　30m

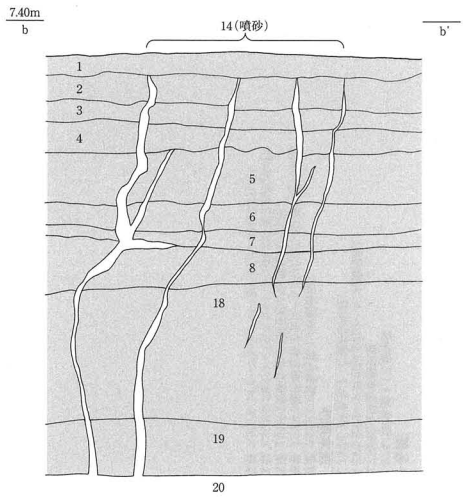
※c－c'セクション付近で噴砂地磁気測定を行っている（第二分冊　自然科学分析　広岡公夫　長瀬晶子「Ⅺ. 岩坪岡田島遺跡考古地磁気学的研究」）

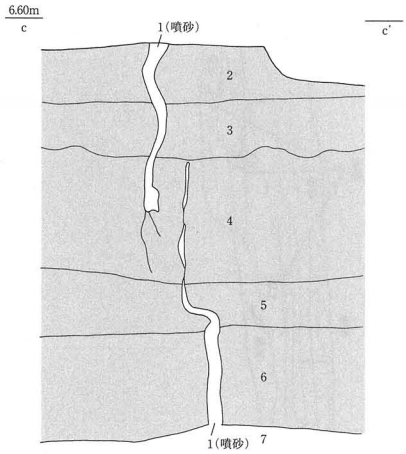
第140図　岩坪岡田島遺跡　遺構実測図

地震痕跡　噴砂



1. 2.5Y5/3黄褐色シルト質ローム
2. 5Y4/1灰色粘土質ローム（炭化物混）上面より植栽痕（酸化鉄混）この上面より噴砂検出
3. 5Y5/1灰色粘土質ローム（炭化物混）上面より植栽痕（2の植栽痕とは分断されるもの）
4. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色粘土質ローム（2.5Y5/2暗灰黄色シルト粒状に混,3の植栽痕が続く,炭化物混）
5. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト（3,4の植栽痕が続く,炭化物混）
6. 2.5Y6/2灰黄色シルト（3,4の植栽痕が続く）
7. 5Y5/2灰オリーブ色砂質ローム（3,4の植栽痕が続く）6よりきめの粗いシルト混）
8. 2.5GY5/1オリーブ灰色砂（シルト質ローム・シルト混）
9. 5Y3/1オリーブ黒色シルト質ローム（炭化物混）
10. 2.5Y3/1黒褐色シルト（炭化物混）
11. 5Y4/1灰色粘土質ローム（炭化物混）
12. 2.5GY5/1オリーブ灰色粘土質ローム
13. 7.5GY6/1緑灰色砂
14. 2.5Y5/1黄灰色粘土質ローム（ピート状）（N7/0灰白色粘土質ローム20%帯状に混）（**噴砂**）
15. 2.5Y5/1黄灰色粘土質ローム（ピート状）（N7/0灰白色粘土質ローム10%帯状・10Y6/1灰色砂20%帯状に混）
16. 10Y6/1灰色砂（2.5Y5/1黄灰色粘土質ローム（ピート状）10%帯状に混）
17. 7.5Y3/1オリーブ黒色砂※噴砂の下部は17の粗砂で上にいくほど細砂になる
18. 5Y6/1灰色粘土質ローム（ピート状）（10Y5/1灰色砂10%帯状・5Y5/1灰色粘土質ローム20%帯状に混）
19 10Y5/1灰色砂
20. 7.5Y3/1オリーブ黒色砂※噴砂の下部は20の砂で,上にいくほど細砂になる

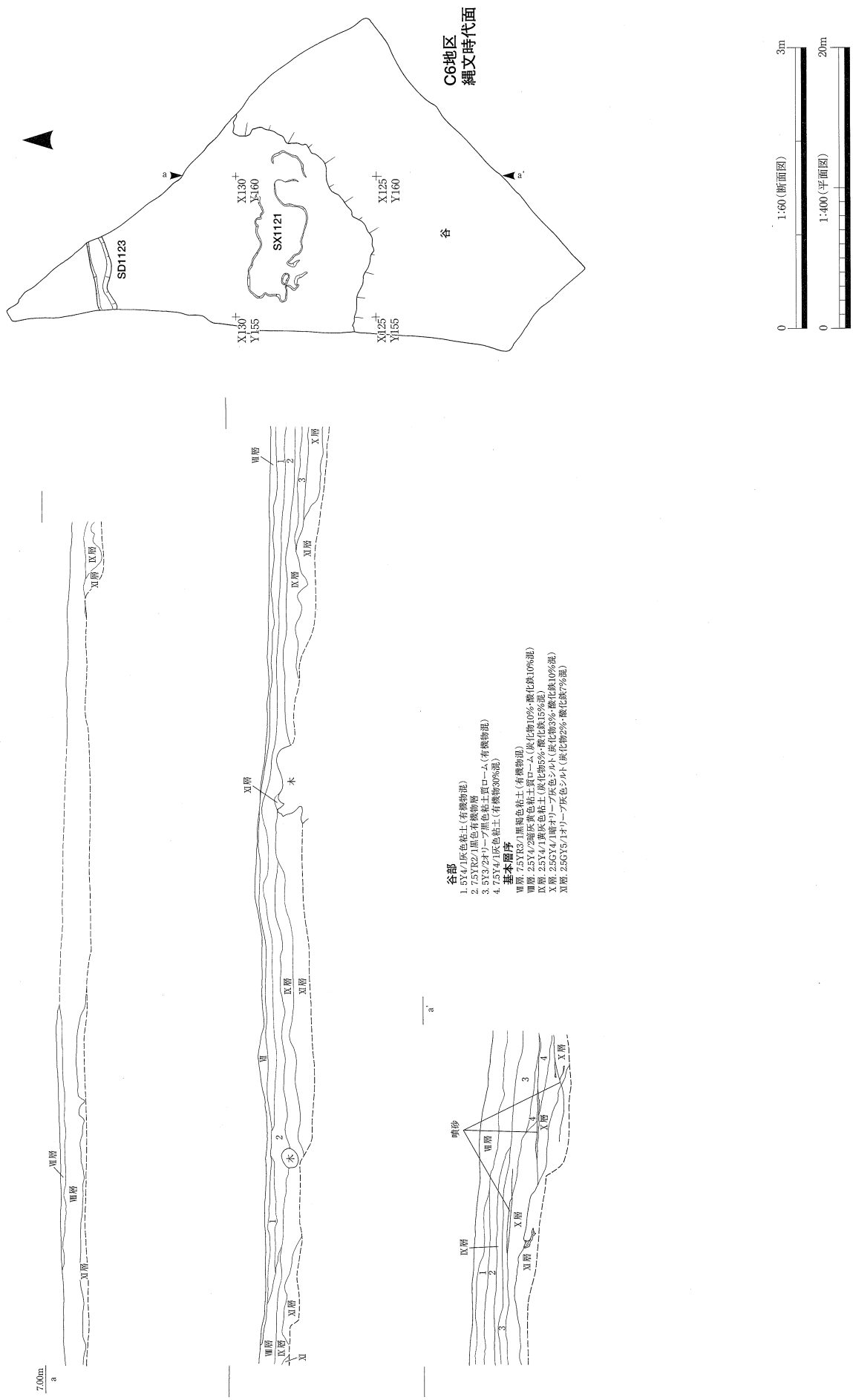




1. 2.5GY5/1オリーブ灰色砂（**噴砂**）
2. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト
3. 2.5GY5/1オリーブ灰色粘土質ローム（2.5GY5/1オリーブ灰色砂30%ブロック状に混）
4. 2.5GY5/1オリーブ灰色粘土質ローム
5. 2.5GY5/1オリーブ灰色砂（2.5Y4/1黄灰色ピート層20%帯状に混）
6. 2.5Y4/1黄灰色粘土質ローム（ピート層）
7. 2.5GY5/1オリーブ灰色砂

第141図　岩坪岡田島遺跡　遺構実測図

地震痕跡　噴砂



第142図　岩坪岡田島遺跡　遺構実測図

地震痕跡　噴砂

第Ⅳ章　手洗野赤浦遺跡

1　遺跡の概要

（1）概　　要

手洗野赤浦遺跡は，岩坪岡田島遺跡から南西方向へ約800mの近距離に位置するが，主要な遺構の時代はやや降って中世中頃～末期を中心とする。遺構面は一部で２面の重層になっているが，上層と下層の時期に大きな隔たりはない。

調査区の西側は中央の微高地より一段低い谷状地となっており，埋土の下から中世中頃～後半の掘立柱建物・溝・井戸・土坑が検出された。谷状地埋土下の遺構検出面の標高は，建物等が集中する部分では約6.4～6.6mであるが，南側の舌状にのびる微高地では約6.6～6.8mを測り，中央の微高地とほぼ同じ高さになる。建物と溝の方向はほぼ東西・南北の方角に則っており，方格地割が敷かれていたとみられる。特にそれぞれの微高地上で検出された直線的にのびる長い溝は，集落を通る主要な道路の側溝と推定される。谷状地埋土下では14世紀から15世紀頃にかけての遺構の変遷がみられるが，15世紀後半～16世紀のある時期に洪水等により埋まったと推定される。その後，埋土上に掘立柱建物と井戸が構築されるが，軟質の石材と曲物を使用する井戸の構築方法が埋土下の井戸と同じであることから，上下層で期間の隔たりはあまりないものと考えられる。また建物からやや離れた位置に畑があり，付近の土坑埋土の花粉・種実分析ではアサ・ソバが検出されている[注29]。調査区の中央から西の微高地では掘立柱建物・溝・井戸・土坑等が検出され，14世紀～16世紀の年代幅がある。道路の側溝と並行して長楕円形の深い大型土坑があり，付近の溝埋土からヒシが検出されたことから常時滞水していた池と考えられるが[注30]，水田に関連した池であろう。調査区の東端も自然流路の氾濫により形成されたとみられる谷状の地形となっており，西側の谷状地と同様の土が埋積する。その埋土下では特殊な形態をもつ14世紀の井戸が検出され，上面では15世紀後半の掘立柱建物が検出されている。

出土遺物には，土器・陶磁器，木製品，石製品，金属製品，骨角製品がある。土器・陶磁器には，土師器・須恵器・中世土師器・珠洲・輸入陶磁器・古瀬戸・瀬戸美濃・越前・信楽・瓦質土器・越中瀬戸・伊万里・唐津・土製品等がある。遺構出土の遺物のうち，珠洲はⅣ期～Ⅴ期，輸入陶磁器は14世紀～15世紀，古瀬戸は後期様式のものが多く，中世中頃～後半が中心となっている。土器集中地点では祭祀に使用されたと考えられる中世土師器がまとまって出土しており，これらも同時期のものである可能性が高い。包含層の遺物では越中瀬戸・唐津が一定量あり，遺構は検出されなかったが，16世紀末～17世紀には周辺で新たな開発が行われたものと推測される。木製品には，鍬・曲物・漆器・折敷・匙・柱・呪符木簡等がある。樹種同定の結果，中世前期の岩坪岡田島遺跡に比べてヒノキ属の利用が多く，柱はクリを主体とする広葉樹であることがわかった[注31]。呪符木簡は井戸祭祀に関わると推測されるものである。石製品は，五輪塔・石鉢・砥石が溝を中心として出土した。金属製品は，主に包含層から銭貨・煙管等が出土した。骨角製品には土坑出土の笄が１点ある。

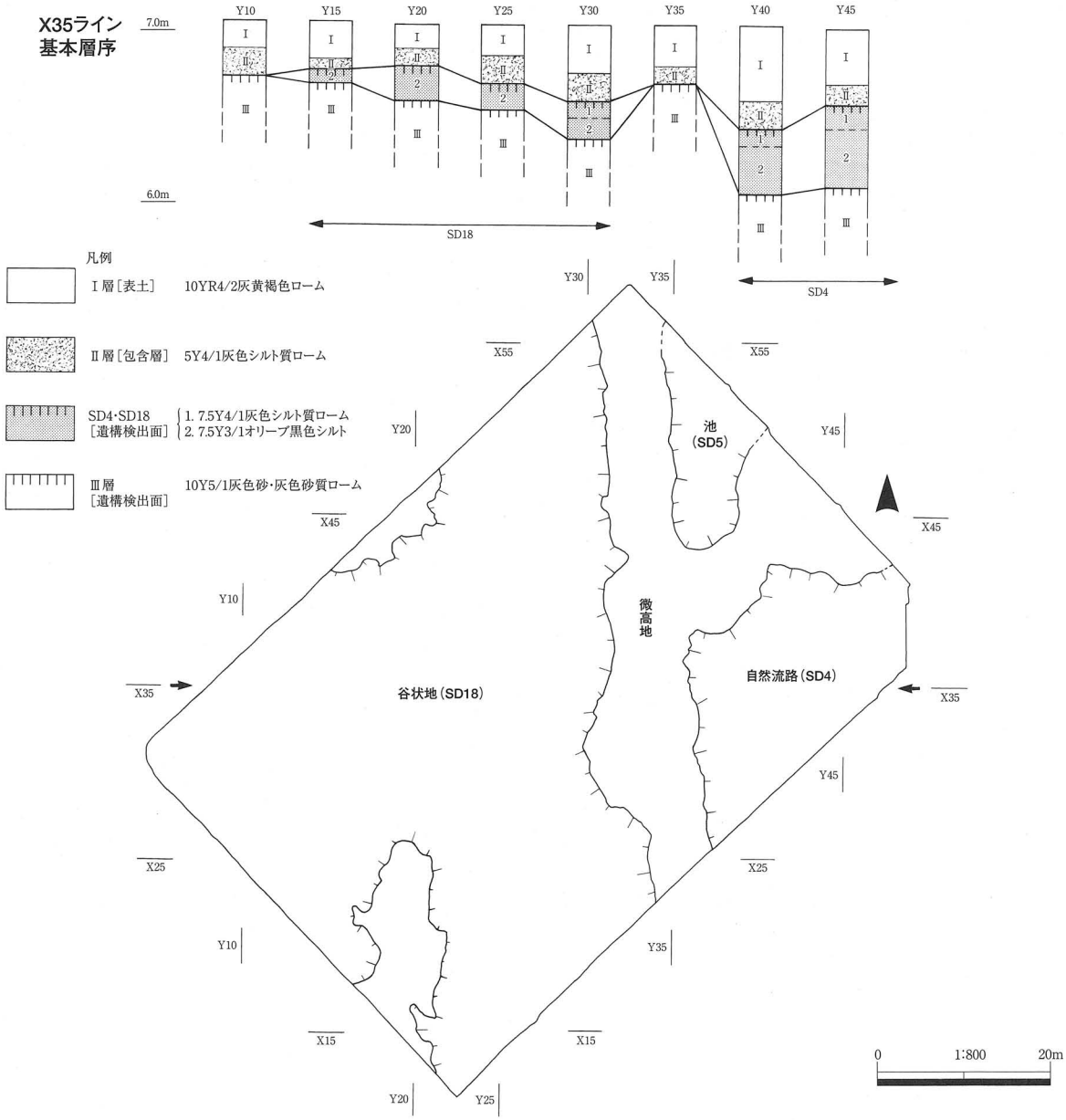
（2）土　　層

基本層序は，Ⅰ層：表土，Ⅱ層：灰色シルト質ローム（中世～近世包含層），Ⅲ層：灰色砂質ローム（中世遺構検出面），Ⅳ層：灰色砂（無遺物層）となっている。Ⅱ層は徐々に薄くなり途切れる部分もあるが，ほぼ全面にあり，平均的な部分で約10～20cmの層厚がある。Ⅲ層面は，座標軸Ｙ30付近

注29　第二分冊　自然科学分析　株式会社パレオ・ラボ　新山雅広「Ⅱ．花粉分析　１．手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡の花粉化石群集」
　　第二分冊　自然科学分析　株式会社パレオ・ラボ　新山雅広　植田弥生「Ⅴ．手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡から出土した大型植物化石」
注30　第二分冊　自然科学分析　株式会社パレオ・ラボ　新山雅広　植田弥生「Ⅴ．手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡から出土した大型植物化石」
注31　第二分冊　自然科学分析　株式会社パレオ・ラボ　植田弥生「Ⅳ．樹種同定　１．手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡出土木製品の樹種同定」

を境に西側が谷状に一段下がり，灰色シルト質ローム・オリーブ黒色シルトがⅡ層の下に堆積する。この谷状地をＳＤ18としている。ＳＤ18の上面では中世末期の遺構が検出され，ＳＤ18の埋土を除去したⅢ層上面でも中世中頃～後期の遺構を確認した。Ｙ30以東の微高地で検出した遺構は，切り合いや重複があり，中世中頃～末の年代幅をもつ。調査区の東端にも自然流路ＳＤ４とした谷状地があり，ＳＤ18と同様の埋土となっている。ＳＤ４の上面では15世紀後半，埋土下では14世紀の遺構が検出されている。

地震痕跡としては，噴砂をⅡ層上面で検出した。Ⅱ層堆積後の地震によるもので，古地震の記録から安政５年（1858）の飛越地震の痕跡と推定される。Ⅲ層の土質は，東の微高地では砂質ロームが主であるが，ＳＤ18の下では砂質ロームから細砂となっており，さらに下位のⅣ層の粗砂が噴砂の由来となっている。谷状地では，谷埋土とⅡ層がⅢ層を覆っており，その層厚は平均的なところで約30～50cm，最も厚いところでは約70cmを測る。また，調査区東側の微高地上には深さ約60cmの自然流路ＳＤ４，池ＳＤ５がある。これらの谷状地，自然流路，池といった，比較的粘性のある土が一定の層厚をもって広範囲に堆積した場所に，大型の噴砂が多くみられた。



第143図　手洗野赤浦遺跡　基本層序

2　遺構

（1）掘立柱建物

1号掘立柱建物（ＳＢ１，第144・145図，図版86～88）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区中央に位置し，ＳＤ33・ＳＤ173・ＳＤ69等の溝に3方を囲まれる。

２間×１間の東西棟側柱建物で，主軸はＮ－83°－Ｅである。桁行4.1m，梁行3.4mで面積は13.94m²である。柱穴の平面形はほとんどが円形で，ＳＰ269が楕円形である。柱穴規模は直径16～26cm，深さ10～20cmである。掘形埋土は黄橙色ロームが粒状に混じるオリーブ黒色シルトの単層である。ＳＰ61は掘形に接して幅広の噴砂が走るため，平面形は原形をとどめない。建物軸方向がわずかにずれるＳＢ２と重複し，建て替えが推定される。出土遺物はない。

建物の年代は，周囲を囲む溝と同時並行でＳＫ47・ＳＥ158が同時期または近い時期のものと推測されることから，14世紀前半～15世紀前半頃と推定される。

2号掘立柱建物（ＳＢ２，第144・145図，図版86～88）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区中央に位置し，ＳＤ33・ＳＤ173・ＳＤ69等の溝に3方を囲まれる。

南北棟建物で主軸はＮ－７°－Ｗである。検出された柱穴はＬ字状に並び北東側を欠くが，噴砂や湧水のため検出されなかった穴があると仮定して，真舎は２間×１間，四方に庇が付くと推定する。しかし庇部分については，桁行の柱間が85cm～2.25mと差が大きく一定でないこと，真舎と柱列が揃わないことから，柵の可能性もある。桁行6.8m，梁行3.7mで面積は25.02m²である。

柱穴の平面形はほとんどが円形で，ＳＰ32は楕円形である。柱穴規模は直径９～42cm，深さ９～24cmである。埋土は黄橙色ロームが粒状に混じるオリーブ黒色シルトの単層が多い。ＳＰ56では柱痕が残り，柱痕はオリーブ黒色シルト質ローム，掘形は灰色ロームを基調とする。ＳＰ32は灰色粘土質ロームを埋土とする。ＳＰ38では柱が出土したが，その他に出土遺物はない。

建物の年代は，周囲を囲む溝と同時並行で，ＳＫ47・ＳＥ158が同時期または近い時期のものと推測されることから，14世紀前半～15世紀前半頃と推定される。主軸方向がわずかにずれるＳＢ１と重複し，建て替えが推定される。また，土器祭祀の跡と考えられる土器集中地点とＳＢ２の範囲は重複しており，時期が異なるものと推測される。

3号掘立柱建物（ＳＢ３，第144・145図，図版86・87）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区中央に位置し，ＳＤ33・ＳＤ173・ＳＤ69等の溝に3方を囲まれる。

１間×１間の東西棟建物で，主軸はＮ－82°－Ｅである。柱痕のあるＳＰ54が軸線に近い位置にあるが，別棟の柱穴であろう。桁行3.25m，梁行2.05mで，面積は6.28m²である。小規模な建物で，倉庫あるいは小屋など付属屋的性格の建物と考えられる。

柱穴の平面形はすべて円形で，柱穴規模は直径21～37cm，深さ10～16cmである。埋土は黄橙色ロームが混じるオリーブ黒色シルトの単層が多く，ＳＰ62は灰色ロームが加わる。出土遺物はない。

建物の年代は，周囲を囲む溝と同時並行で，ＳＫ47・ＳＥ158が同時期または近い時期のものと推測されることから，14世紀前半～15世紀前半頃と推定される。

4号掘立柱建物（ＳＢ４，第146図，図版86～88）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区中央やや南西よりに位置し，ＳＤ156とＳＤ169に２方を囲まれた区域の北西隅にある。付近には幅広の噴砂が多数あり，湧水も著しいので，この建物に属する柱穴も含め検出できなかった柱穴が周辺に存在した可能性もある。そのためＳＢ４は完全な建物形態を示すことが難しいが，ＳＰ161・ＳＰ163で柱が出土したことから，これらを含めた軸線上にＳＢ４を想定した。南北棟建物で主軸は真北である。東西２面に庇または柵があると考える。

柱穴の平面形はほとんどが円形で，ＳＰ162・ＳＰ177は楕円形である。柱穴規模は直径16～62㎝，深さ８～26㎝である。ＳＰ161は柱の芯が虚になり樹皮の間に黒褐色粘土質ロームが入る。掘形埋土は暗灰黄色シルトを基調とする。ＳＰ163は柱片とみられる木質遺物が出土したが小片で，黒褐色粘土質ロームが柱痕とみられる。掘形埋土は灰色砂質ロームである。その他の柱穴埋土は暗オリーブ色シルト，黒褐色粘土質ローム，灰色粘土質ローム，灰オリーブ色粘土質ローム等がある。

出土遺物は，ＳＰ161・ＳＰ163の柱である。切り合い関係は，ＳＰ163がＳＰ164を切るが，ＳＰ164は浅い小穴で，ＳＰ163の一部とも考えられる。

建物の年代はＳＤ156・ＳＤ169と同時並行で，北側の建物群とも同時期あるいは近い時期のものと推測されることから，14世紀前半～15世紀前半頃と推定される。

5号掘立柱建物（ＳＢ５，第146図，図版88）

調査区中央やや西よりの微高地で検出した。南北棟建物で，主軸はＮ－10°－Ｅである。桁行は３間あるが，梁行はＳＰ283しか確認できないので，ＳＰ137からＳＰ280の柱通りで構成される柵列かもしれないが，ＳＰ280～283の４基から柱（*34*・*35*）が出土しており，その太さから建物と推定する。柱材はＳＰ280はサイカチ，ＳＰ281はクリである。柱穴は浅く，ＳＰ283のように掘形が検出されず，柱根のみ確認した例もあることから，後世に削平を受けて消滅した柱穴が他にも存在した可能性がある。

柱穴の平面形はすべて円形である。柱穴規模は直径11～23㎝，深さ12～28㎝である。掘形埋土は黒褐色シルト，灰色砂質ロームを基調とする。柱に対する掘形が狭く，ＳＰ283は掘形がほとんどない。ＳＰ137・ＳＰ281がＳＤ110の上面から掘り込まれているのでＳＢ５がＳＤ110より新しい。

6号掘立柱建物（ＳＢ６，第146図）

調査区中央やや西よりの微高地で検出した。２間×１間の南北棟側柱建物で，主軸はＮ－10°－Ｅである。桁行3.75ｍ，梁行2.65ｍで，面積は9.93ｍである。ＳＰ225・ＳＰ253は柱の並びからややずれるためＳＢ６の柱としては検討の余地があるが，柱が出土していることと，地山が砂質であるため地震により元の位置からずれる可能性もあると考え，ＳＢ６に含めておく。

柱穴の平面形はＳＰ225のみ楕円形で他は円形である。柱穴規模は直径21～39㎝，深さは４～22㎝である。掘形埋土はオリーブ褐色砂が混じる黒褐色砂質ロームまたは暗灰黄色シルトが混じる黒褐色粘土質ロームである。掘形は柱に対して狭い。また，柱が地山にくい込んでおり，打ち込まれたものと考えられる。柱材はＳＰ225がオニグルミ，ＳＰ253がウメかモモである。この２本の柱の放射性炭素年代はＳＰ225が15世紀，ＳＰ253が15世紀中頃～17世紀前半であるので[注32]，これらをＳＢ６とすれば建物の年代は15世紀中頃～後半と推定される。出土遺物はＳＰ223・ＳＰ225・ＳＰ227・ＳＰ253の柱（*37*・*36*），ＳＰ249の中世土師器皿（*1*）１点である。

7号掘立柱建物（ＳＢ７，第147図，図版87）

調査区北東部の微高地で検出した。１間×２間の東西棟側柱建物で，主軸はＮ－73°－Ｗである。

注32　第二分冊　自然科学分析　株式会社加速器研究所「Ⅸ．放射性炭素年代測定　１．手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡出土遺物の放射性炭素年代測定」

桁行4.4m，梁行3.6mで，面積は15.31m²である。

柱穴の平面形はＳＰ204のみ楕円形で他は円形である。柱穴規模は直径18～50cm，深さは８～50cmである。掘形埋土は一様ではなく，オリーブ黒色シルト質ローム，黒褐色シルト，灰色粘土質ローム等である。ＳＰ209・ＳＰ272には柱痕があり，ＳＰ199・ＳＰ202・ＳＰ204は上下２層に分かれる。出土遺物はない。ＳＰ204はＳＫ12の埋土上面から掘り込まれ，ＳＫ12より新しい。

８号掘立柱建物（ＳＢ８，第147・148図，図版87・88）

調査区北東部の微高地で検出した。２間×１間の南北棟側柱建物で，主軸はＮ－８°－Ｅである。桁行6.1m，梁行2.7mで，面積は16.75m²である。

柱穴の平面形はＳＰ238のみ不整形で他は円形である。柱穴規模は直径18～57cm，深さは11～24cmである。埋土は一様ではなく，オリーブ黒色砂質ローム，オリーブ褐色シルト，暗灰黄色シルト等がある。

出土遺物はＳＰ197・ＳＰ238・ＳＰ257の柱（*38*・*39*）である。柱の材はＳＰ238がクリ，ＳＰ257がカバノキ属である。切り合い関係は，ＳＰ238がＳＢ10のＳＰ239及びＳＫ12より新しく，放射性炭素年代はＳＰ238が15世紀前半，ＳＰ239が13世紀末～15世紀初頭であることから[注33]，建物の年代は15世紀前半と推定される。

９号掘立柱建物（ＳＢ９，第147・148図，図版87）

調査区北東部の微高地で検出した。２間×１間の南北棟側柱建物で，主軸はＮ－２°－Ｅである。桁行5.45m，梁行5.2mで，面積27.68m²である。

柱穴の平面形は円形である。柱穴規模は直径13～43cm，深さは４～24cmである。埋土は一様ではなく，オリーブ黒色シルト，灰色ローム，灰オリーブ色シルト等がある。出土遺物はＳＰ192の柱である。切り合い関係はＳＰ208がＳＫ207より古い。

10号掘立柱建物（ＳＢ10，第147・148図，図版87・88）

調査区北東部の微高地で検出した。２間×１間の南北棟側柱建物で，主軸はＮ－１°－Ｗである。桁行4.95m，梁行1.95mで，面積は7.82m²である。ＳＰ190は埋土断面が柱痕状であるためＳＢ10に含めたが，柱の並びからずれるので確実ではない。

柱穴の平面形は，ＳＰ228がやや不整形であるが，他は円形である。柱穴規模は直径27～51cm，深さは16～30cmである。掘形埋土は一定ではなく，オリーブ黒色粘土質ローム，オリーブ黒色シルト，灰オリーブ色シルト，灰色シルト質ローム等である。

出土遺物はＳＰ239・ＳＰ258の柱（*45*～*47*）で，ＳＰ258の柱のうち*45*は立った状態で出土したが，その他にもう１点（*46*）出土した。材はＳＰ239がクリ，ＳＰ258がクリとハンノキである。ＳＰ239，ＳＰ258はともに地山深くくい込んでおり，打ち込まれたものと考えられる。切り合い関係は，ＳＰ239がＳＢ８のＳＰ238より古く，ＳＫ12より新しいので，建物の年代は14世紀～15世紀初頭と推定される。

11号掘立柱建物（ＳＢ11，第149・150図，図版89）

谷状地（ＳＤ18）の埋土上面で検出した。調査区中央に位置し，ＳＥ28・ＳＢ12の南側に隣接する。３間×２間の南北棟側柱建物で，主軸はＮ－８°－Ｗである。桁行6.4m，梁行5.5mで，面積は33.87m²である。ＳＰ23は柱が出土したが軸線上にはなく，別棟の柱穴であろう。ＳＰ30は対称位置に柱穴がなく確実ではないが，深さもあるので一応ＳＢ11に含めておく。

柱穴の平面形はＳＰ13・ＳＰ30のみ楕円形で，他は円形である。柱穴規模は直径22～48cm，深さは

注33　第二分冊　自然科学分析　株式会社加速器研究所「Ⅸ．放射性炭素年代測定　１．手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡出土遺物の放射性炭素年代測定」

13～38cmである。柱穴埋土はオリーブ黒色粘土質ローム，オリーブ黒色シルト等を基調とし，上下２層に分かれるものが多い。

出土遺物はＳＰ13の加工材，ＳＰ21・ＳＰ29・ＳＰ105の柱（*40～42*），ＳＰ14の中世土師器皿・瀬戸美濃の小片各１点，ＳＰ21の土師器小片１点である。柱はすべてクリ材で，30cm以上の長さがある。立った状態で，掘形から下へ沈み込むように出土しており，打ちこまれたものと考えられる。ＳＰ13から出土した加工材は３点で，長さ12～17.5cm，厚さ0.5～4.5cmで重なって出土したが，用途は不明である。中世土師器は非ロクロ成形で一段のナデを施すもの，瀬戸美濃は灰釉のかかる破片であるが，小片であり，詳細な時期は不明である。ＳＤ18の埋土上面で検出した建物はＳＢ11の他にはＳＢ12のみで，井戸ＳＥ28と畑等があるが，これらはＳＢ11と同時期または近い時期の遺構と推定する。

12号掘立柱建物（ＳＢ12，第149・150図，図版89）

谷状地（ＳＤ18）の埋土上面で検出した。調査区中央に位置し，ＳＥ28の南東側に隣接する。主軸はＮ－51°－Ｅ　である。周辺は幅の広い噴砂が多く，検出できなかった柱穴が他にも存在した可能性を考え，柱の残る柱穴，深い掘形をもつ柱穴を中心として，並ぶ柱穴をＳＢ12としておくが，不明な点は多い。

柱穴の平面形はＳＰ20が楕円形で，他は円形である。柱穴規模は直径23～69cm，深さ10～68cmである。掘形埋土はオリーブ黒色シルト質ローム，灰色シルト等を基調とする。ＳＰ20・ＳＰ100の掘形は上方を広く掘り，下部はその一部を深く掘り下げる２段掘りになっている。

出土遺物はＳＰ20の土師器小片，ＳＰ19・ＳＰ20・ＳＰ101の柱（*44*）である。ＳＰ20の柱材はイタヤカエデで，残存長は95cmと長い。他の柱はＳＰ19が15.5cm，ＳＰ101が８cmの小片である。ＳＥ28に隣接していることから井戸に関連する遺構の可能性もあるが，詳細は不明である。

（２）柵

１号柵（ＳＡ１，第151図，図版87）

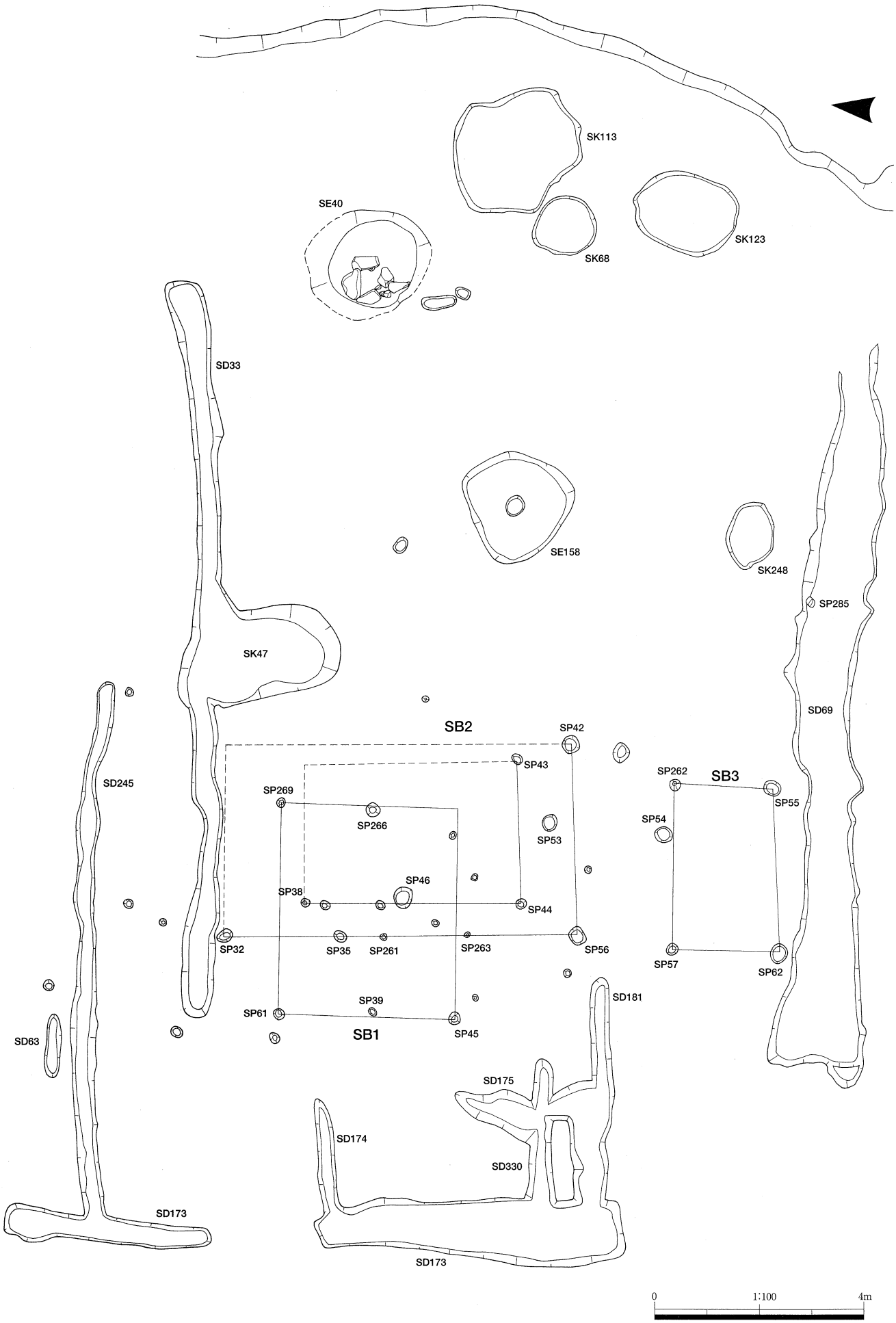
谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区北西部に位置し，ＳＢ１～３を取り囲む溝の外にある。柱間が一定でなく柵とする根拠に乏しいが，同一線上にある４基の柱穴をＳＡ１とした。付近には幅広の噴砂が網目状に走り，湧水も著しいため，検出できなかった柱穴とともに建物を構成していた可能性もあるが，ＳＡ１・２の端には太い柱があり，垪や門とも考えられる。

柱穴の平面形は円形で，規模は直径21～40cm，深さは８～22cmである。掘形埋土は灰色シルト質ローム，灰色粘土，オリーブ黒色シルト質ローム等である。ＳＰ132で柱（*48*）が出土したが，斜めに倒れて地山にくい込んでおり，地震による液状化現象の影響かもしれない。柱材はヌルデで，直径25cmと太い。ＳＤ18埋土の下で検出しているので，遺構の年代は16世紀が下限と推定される。

２号柵（ＳＡ２，第151図，図版87）

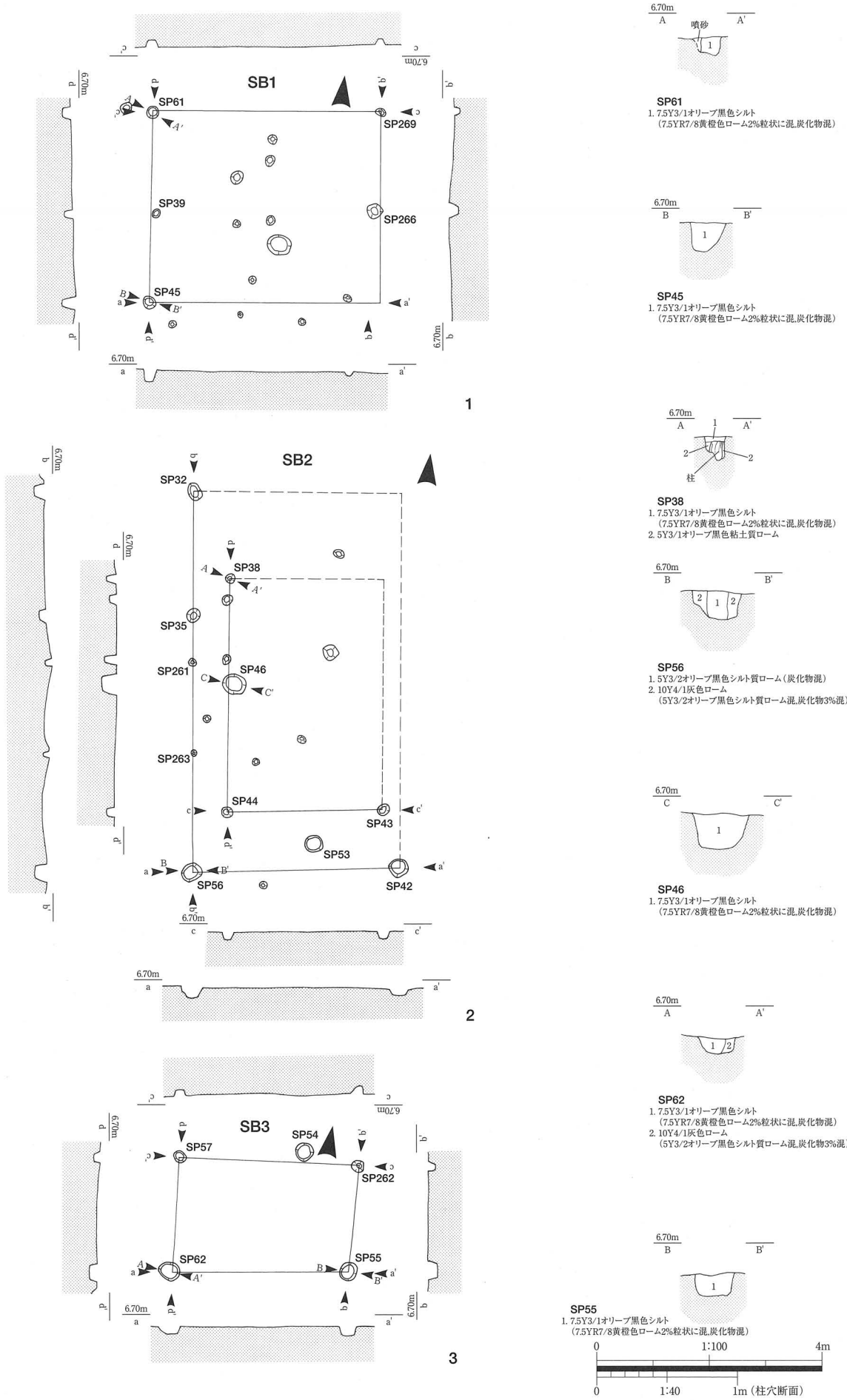
谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区北西部に位置し，ＳＢ１～３を取り囲む溝の外にある。柱間が一定でなく柵とする根拠に乏しいが，同一線上にある６基の柱穴をＳＡ２とした。付近には幅広の噴砂が網目状に走り，湧水も著しいため，検出できなかった柱穴とともに建物を構成していた可能性もあるが，ＳＡ１・２の端には太い柱があり，垪や門とも考えられる。

柱穴の平面形は円形で，規模は直径19～33cm，深さは20～30cmである。掘形埋土はオリーブ黒色シルト質ロームを基調とする。ＳＰ112には柱痕があり，ＳＰ122からは柱が出土した。ＳＤ18の埋土の下で検出しているので，遺構の年代は16世紀が下限と推定される。



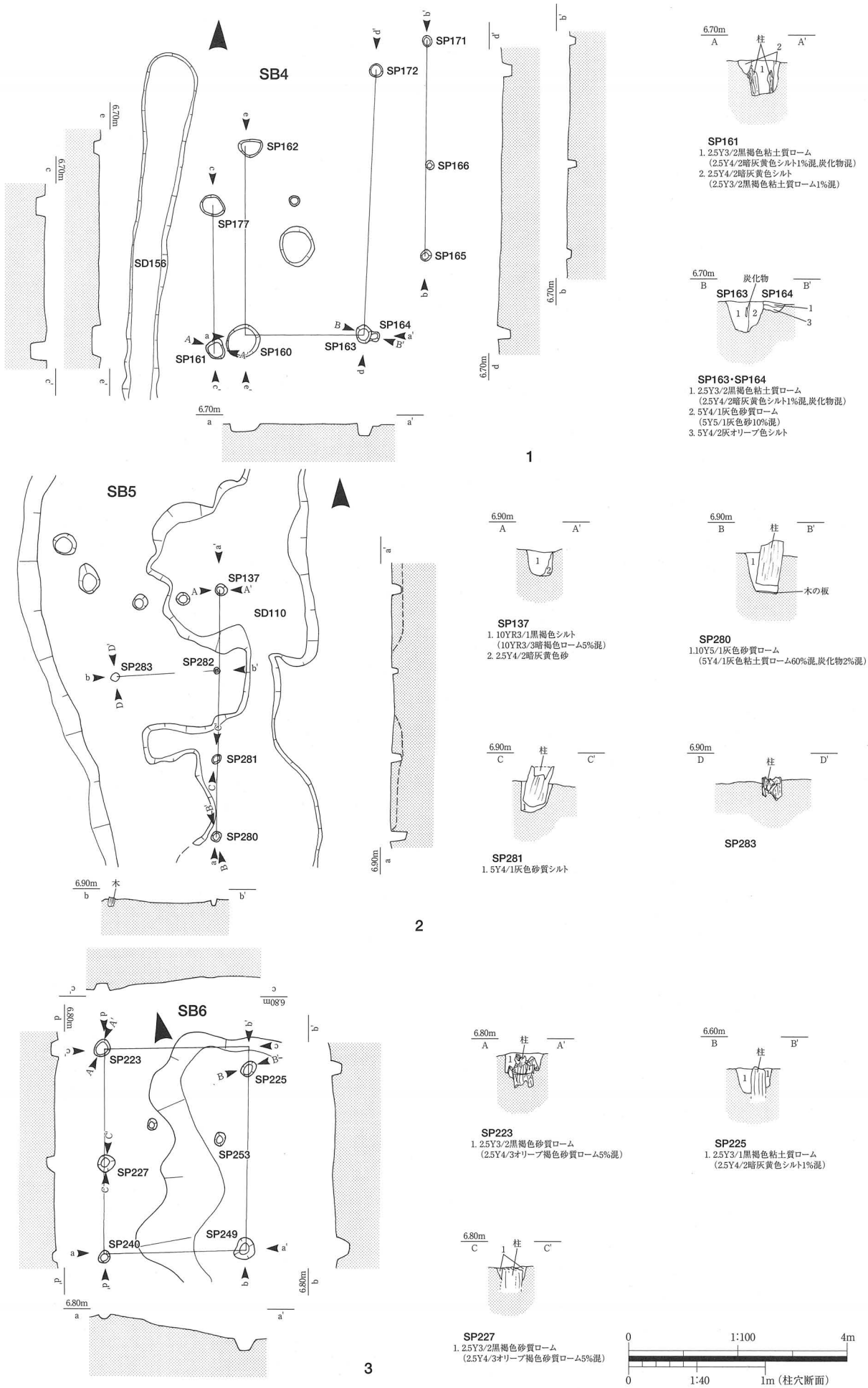
第144図　手洗野赤浦遺跡　遺構実測図

SB1・SB2・SB3・SP285



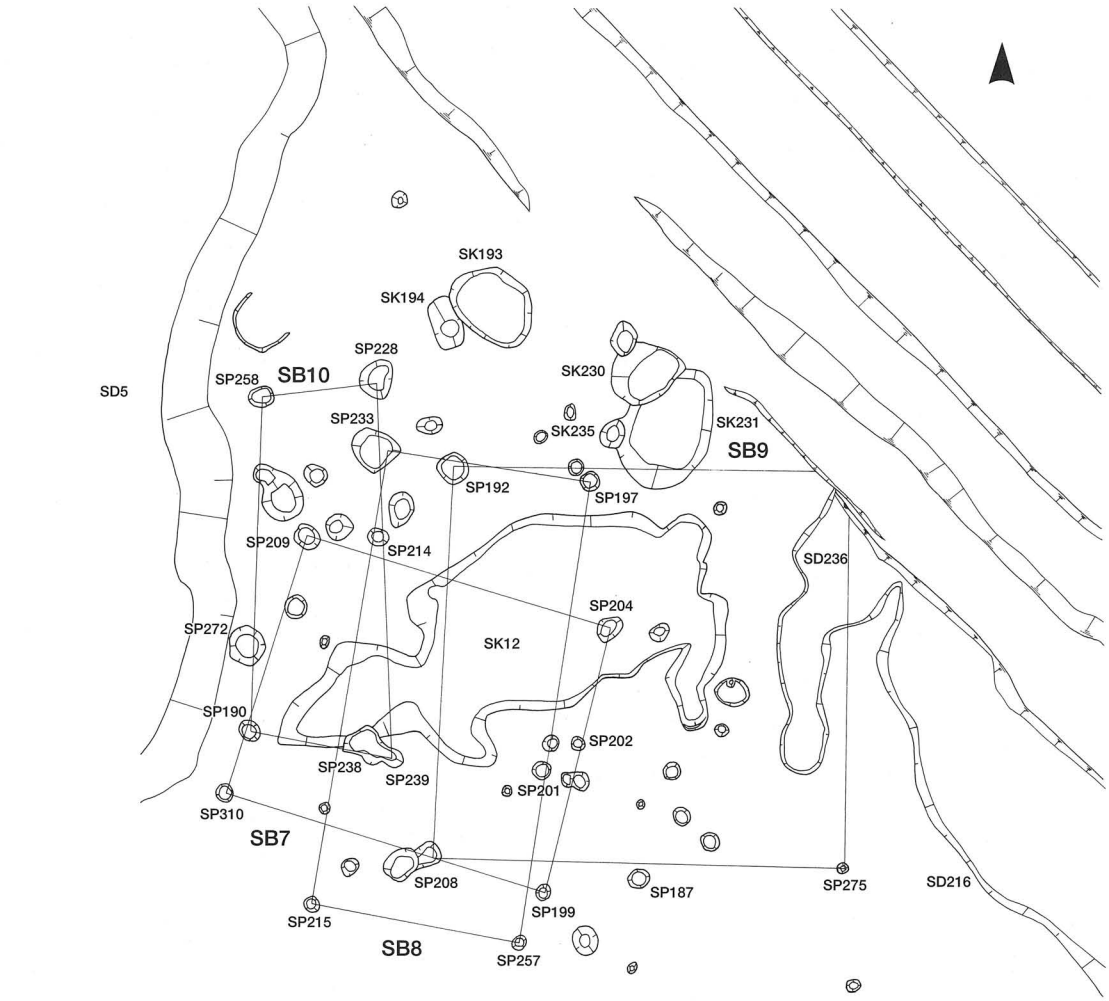
第145図　手洗野赤浦遺跡　遺構実測図

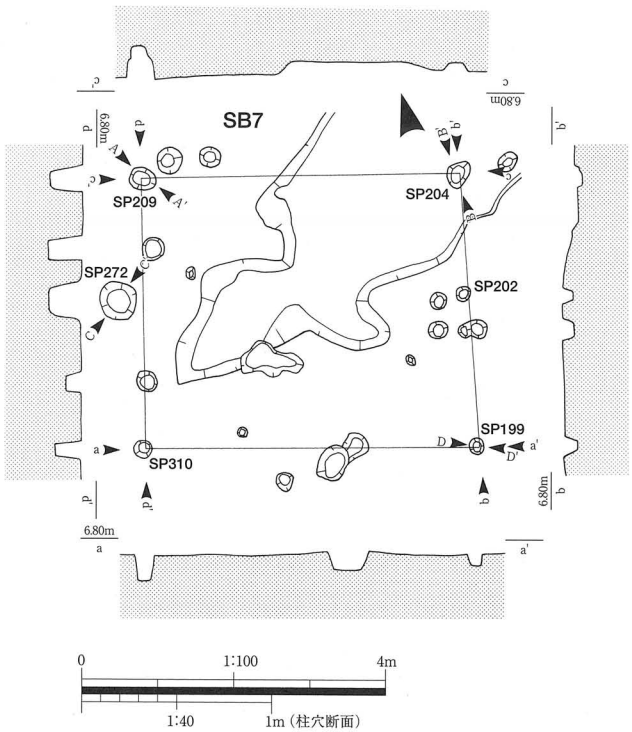
1. SB1　2. SB2　3. SB3

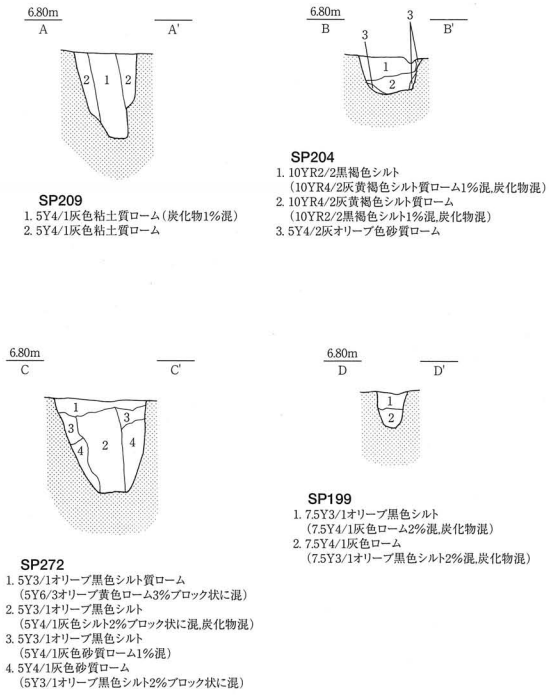


第146図　手洗野赤浦遺跡　遺構実測図

1. SB4　2. SB5　3. SB6

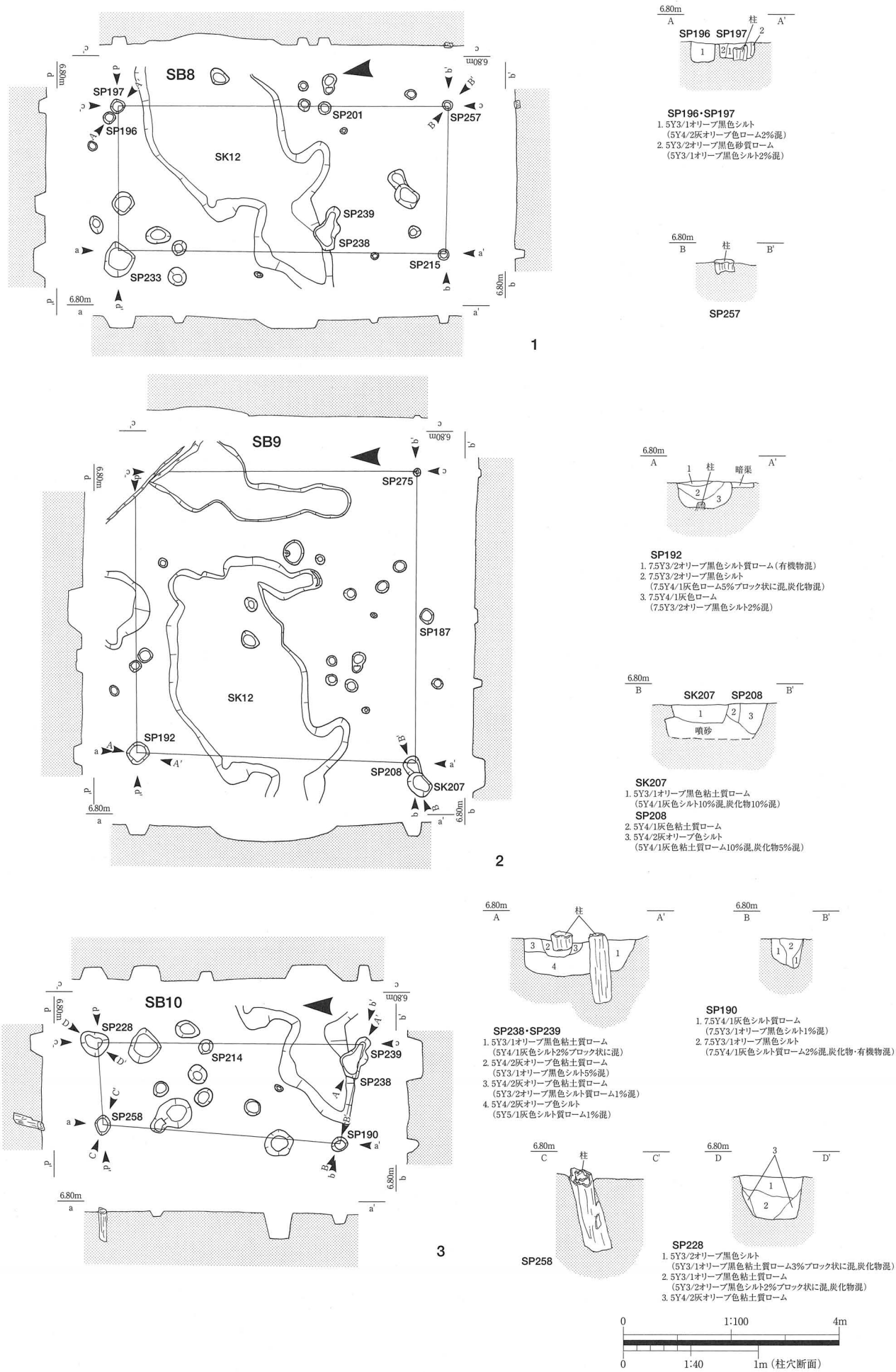






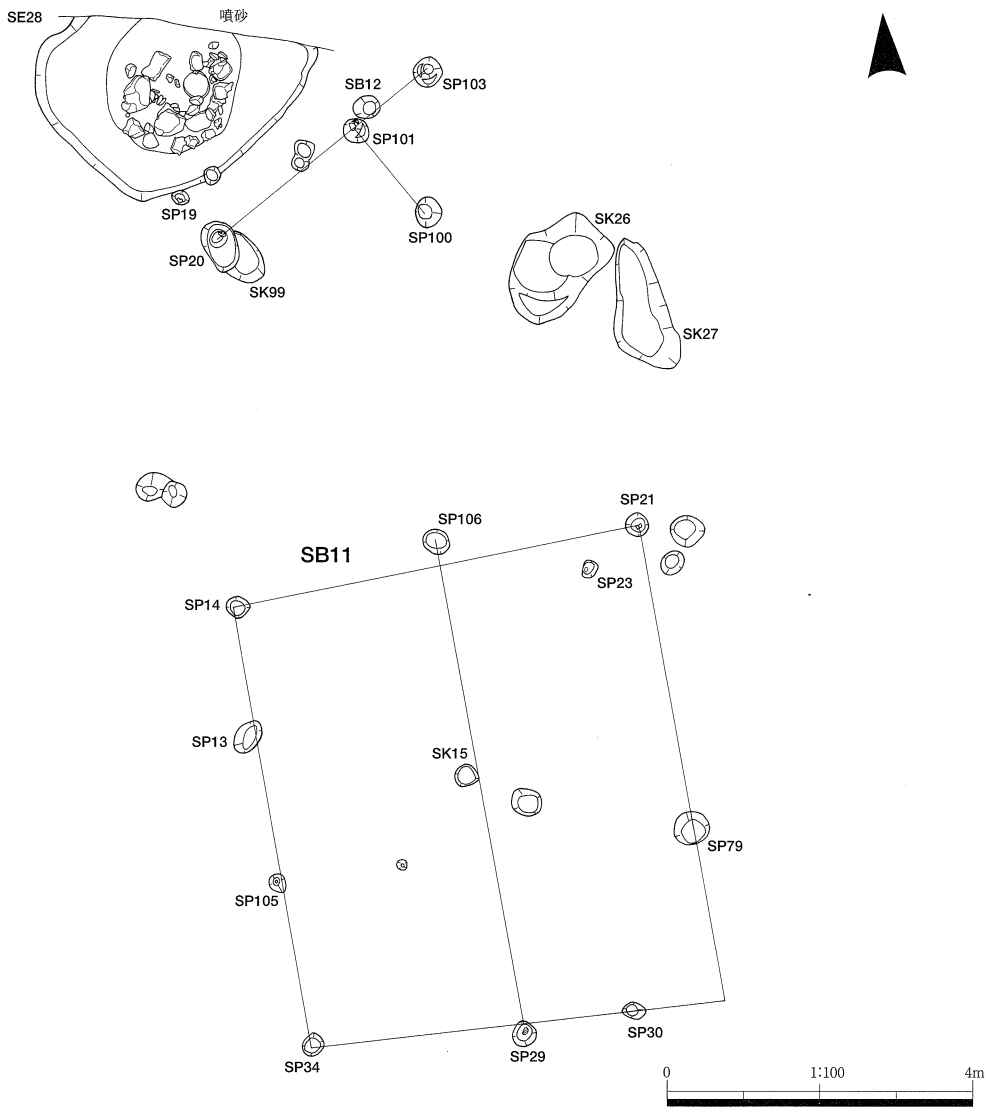
第147図　手洗野赤浦遺跡　遺構実測図

SB7～SB10

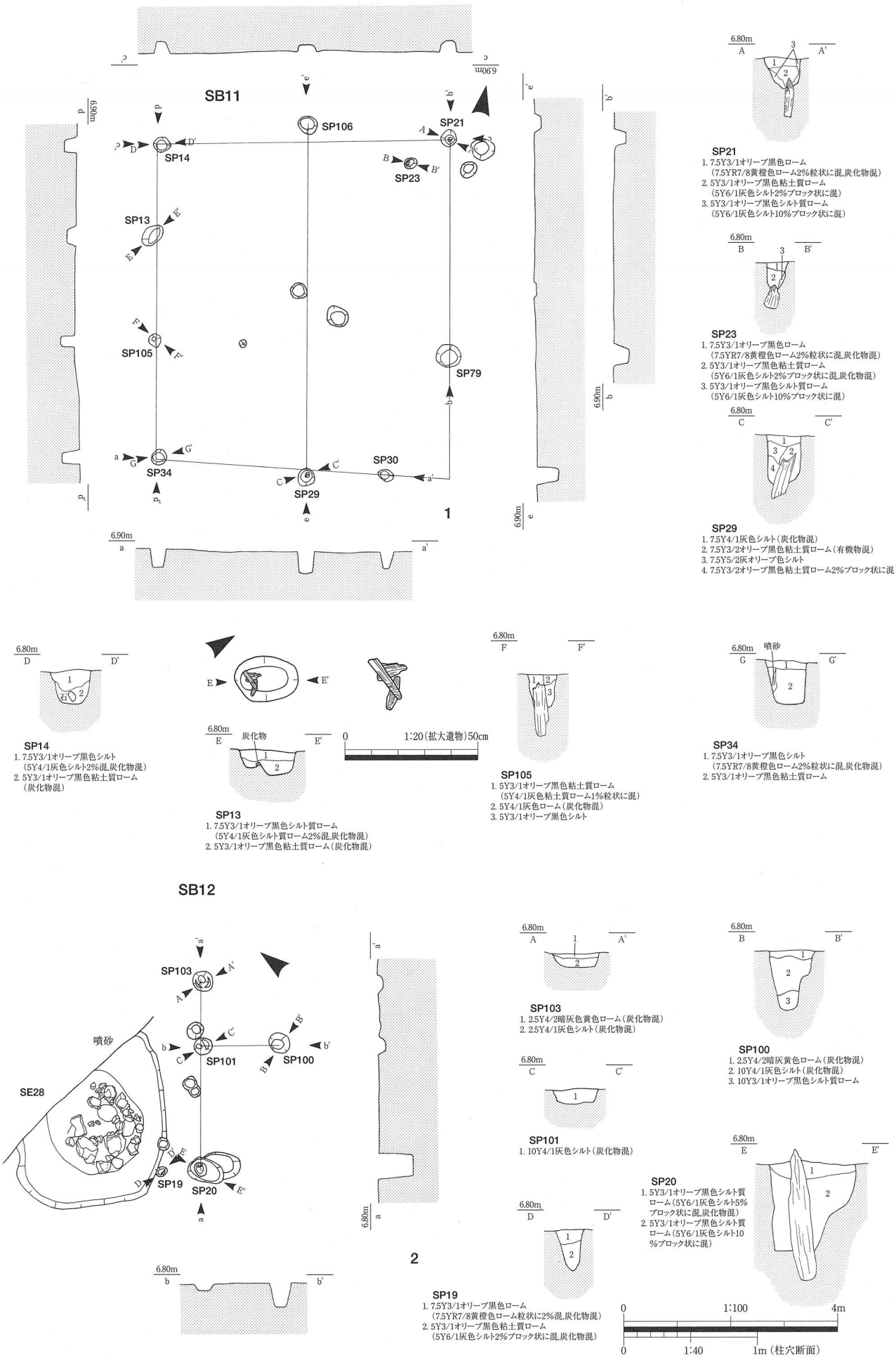


第148図　手洗野赤浦遺跡　遺構実測図

1. SB8　2. SB9　SK207　3. SB10

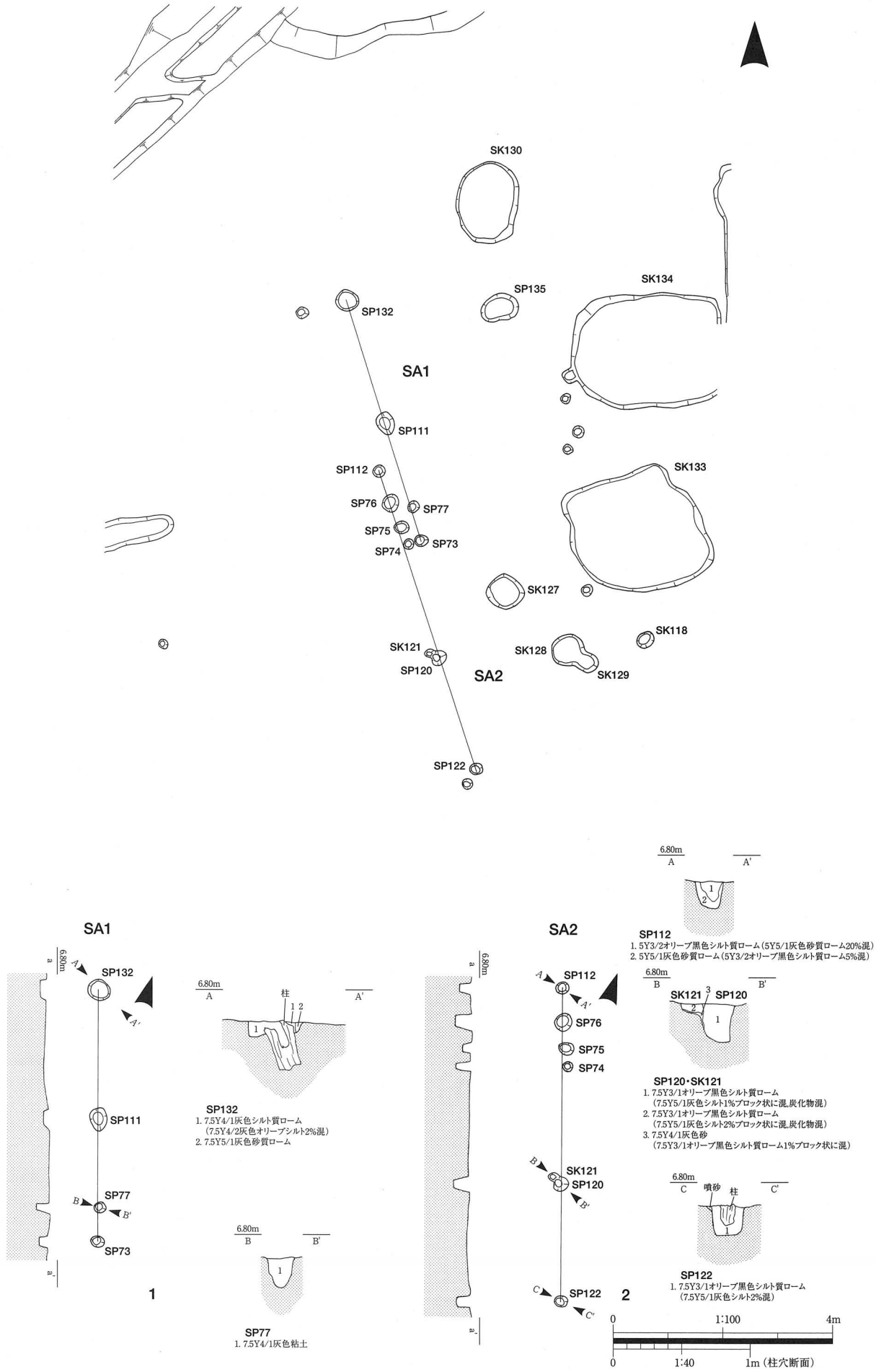


第149図　手洗野赤浦遺跡　遺構実測図
SB11　SB12



第150図　手洗野赤浦遺跡　遺構実測図

1. SB11・SP23　2. SB12



第151図　手洗野赤浦遺跡　遺構実測図

1. SA1　2. SA2

（3）柱穴

柱が出土していながら，あるいは埋土に柱痕が認められながら，掘立柱建物や柵列に並ばない柱穴等を以下に述べる。手洗野赤浦遺跡は地震による液状化現象の影響で，最大で幅１ｍ，長さ14ｍの大型の噴砂が谷状地（ＳＤ18）や自然流路（ＳＤ４）等比較的粘質の土が堆積した場所に多く発生し，遺構が引き裂かれたり，変形したりしている。大型の噴砂にⅢ層が引き裂かれて，柱穴が元位置を保っていないことも考えられる。また低地では湧水が激しく，確認が困難であった遺構もあると思われる。以下の柱穴も本来は建物等に属した可能性があるが，詳細は不明である。

23号柱穴（ＳＰ23，第150図，図版89）

谷状地（ＳＤ18）の埋土上面で検出した。ＳＢ11の範囲内にあり，北東端にあるが並ばない。

平面形は円形で直径は22cm，深さは19cmである。掘形埋土はオリーブ黒色ローム，オリーブ黒色粘土質ロームを基調とする。柱（*43*）が掘形より下へ沈み込むようにして出土し，打ち込まれたものと考えられる。

51号柱穴（ＳＰ51，第152図）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区中央に位置し，ＳＥ40の南側に隣接する。近辺に建物はないが，隣接するＳＰ65でも柱が出土している。ＳＥ40に隣接することから井戸の覆い屋の可能性もあるが，覆い屋を構成する他の柱穴は検出されなかった。

平面形は楕円形で長径66cm×短径22cm，深さ20cmである。掘形埋土はオリーブ黒色シルトと灰色砂である。細長い掘形の中央に柱（*49*）が残る。材はクリである。残存長は35.7cmで地山に沈み込んでおり，打ち込まれたものと考えられる。

53号柱穴（ＳＰ53，第152図）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区中央のＳＢ２の範囲内にあり，南側に位置するが，並ばない。

平面形は円形で，直径31cm，深さ８cmである。埋土のオリーブ黒色シルト質ロームは柱痕とみられる。掘形埋土は灰色ロームである。出土遺物はない。

54号柱穴（ＳＰ54，第152図）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区中央のＳＢ３の北面の軸線に近い位置にあるが，ややずれており，対称位置に柱穴がないため，別棟の建物であろうか。

平面形は円形で，直径33cm，深さ10cmである。埋土のオリーブ黒色シルト質ロームは柱痕とみられる。掘形埋土は灰色ロームである。出土遺物はない。

65号柱穴（ＳＰ65，第152図）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区中央に位置し，ＳＥ40の南側に隣接する。

近辺に建物はないが，隣接するＳＰ51でも柱が出土している。ＳＥ40に隣接することから井戸の覆い屋の可能性もあるが，覆い屋を構成する他の柱穴は検出されなかった。

平面形は円形で，直径28cm，深さ12cmである。埋土はオリーブ黒色シルトと灰色砂である。柱（*50*）が出土しており，材はリョウブである。残存長は18.2cmで地山に沈み込んでおり，打ちこまれたものと考えられる。

126号柱穴（ＳＰ126，第152図）

調査区中央やや東よりの微高地で検出した。ＳＢ５の北側に隣接しているが並ばない。

平面形は円形で直径42cm，深さ18cmである。掘形埋土は灰色シルト等である。オリーブ黒色粘土質

ロームは柱痕とみられる。出土遺物はない。

135号柱穴（ＳＰ135，第152図）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区西側に位置し，ＳＡ１の東側に隣接するが並ばない。平面形は楕円形で長径70cm，深さ36cmである。掘形埋土は柱の周りが灰色シルト，その外側がオリーブ黒色シルト質ロームである。柱（*55*）は中央に立って出土した。材はクリ，残存長は48.8cmと長く，太い。

152号柱穴（ＳＰ152，第152図）

調査区北側の微高地で検出した。ＳＤ153を挟んでＳＰ157と対称位置にある。溝にかけられた簡易な橋を固定したものであろうか。

平面形は円形で直径16cm，深さ10cmである。埋土は灰色砂質ローム混じりのオリーブ黒色シルト質ロームである。加工した棒状木製品が立った状態で出土したが，細く，橋脚にあたるかどうかは不明である。

157号柱穴（ＳＰ157，第152図）

調査区北側の微高地で検出した。ＳＤ153を挟んでＳＰ152と対称位置にある。溝にかけられた簡易な橋を固定したものであろうか。

平面形は円形で直径18cm，深さ16cmである。埋土はオリーブ黒色シルト質ロームと灰色ロームを基調とする。出土遺物はない。

191号柱穴（ＳＰ191，第152図）

調査区北東の微高地で検出した。

平面形は円形で直径31cm，深さ36cmである。埋土は灰色シルト質ローム混じりのオリーブ黒色シルトである。柱が出土した。

205号柱穴（ＳＰ205，第152図）

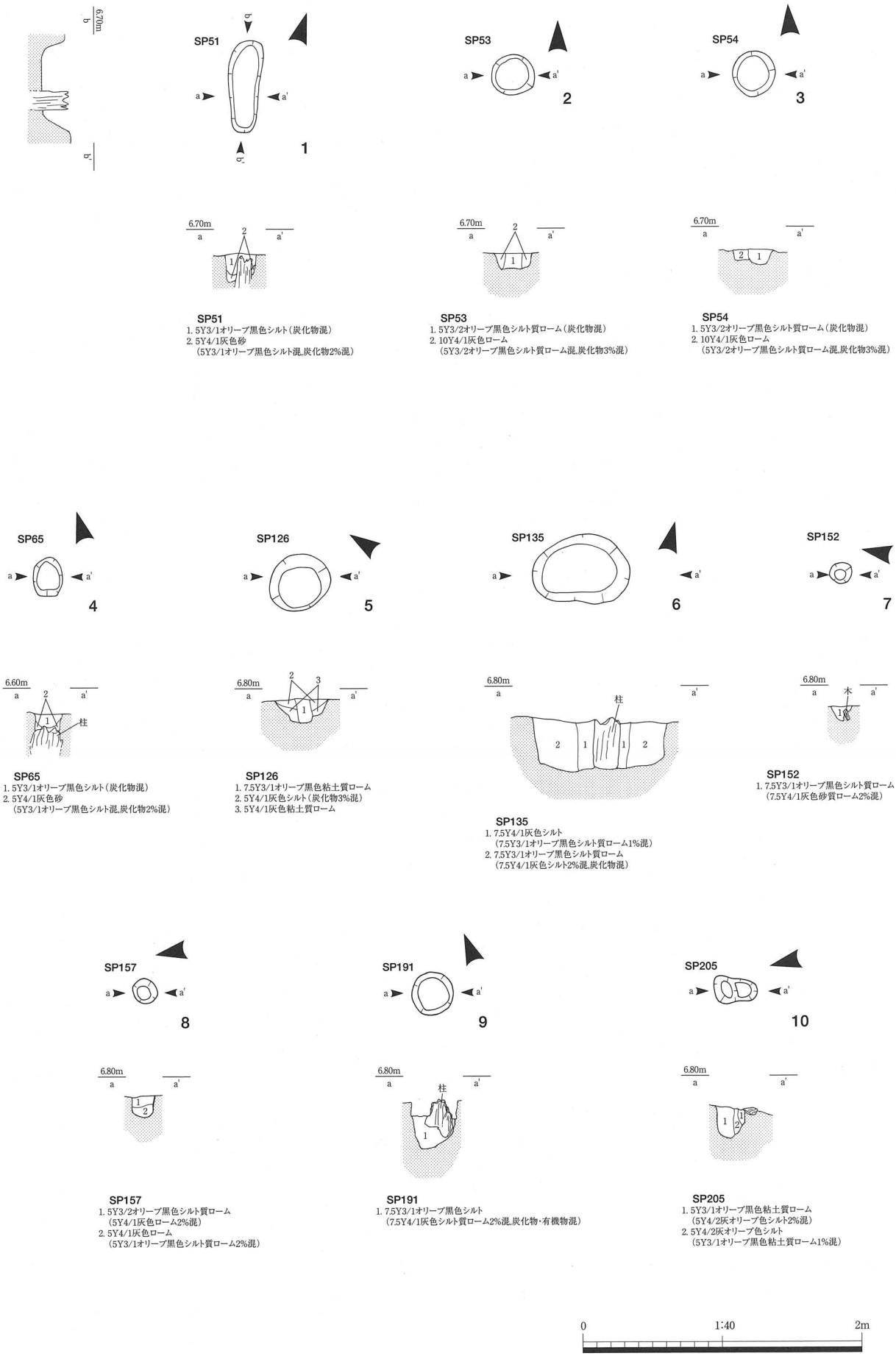
谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区中央南側にある。

平面形は楕円形で長径30cm，深さ22cmである。埋土はオリーブ黒色粘土質ロームと灰オリーブ色シルトを基調とする。残存長9.2cmの柱片（*51*）が出土した。

285号柱穴（ＳＰ285，第144図）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区中央に位置し，ＳＤ69の埋土上面から掘り込まれている。

出土した柱（*52*）はクリ材で，残存長は40.1cmである。掘形は確認されなかった。ゆるい砂質の地山であるため打ち込まれたものと考えられる。



SP51
1. 5Y3/1オリーブ黒色シルト（炭化物混）
2. 5Y4/1灰色砂
（5Y3/1オリーブ黒色シルト混,炭化物2%混）

SP53
1. 5Y3/2オリーブ黒色シルト質ローム（炭化物混）
2. 10Y4/1灰色ローム
（5Y3/2オリーブ黒色シルト質ローム混,炭化物3%混）

SP54
1. 5Y3/2オリーブ黒色シルト質ローム（炭化物混）
2. 10Y4/1灰色ローム
（5Y3/2オリーブ黒色シルト質ローム混,炭化物3%混）

SP65
1. 5Y3/1オリーブ黒色シルト（炭化物混）
2. 5Y4/1灰色砂
（5Y3/1オリーブ黒色シルト混,炭化物2%混）

SP126
1. 7.5Y3/1オリーブ黒色粘土質ローム
2. 5Y4/1灰色シルト（炭化物3%混）
3. 5Y4/1灰色粘土質ローム

SP135
1. 7.5Y4/1灰色シルト
（7.5Y3/1オリーブ黒色シルト質ローム1%混）
2. 7.5Y3/1オリーブ黒色シルト質ローム
（7.5Y4/1灰色シルト2%混,炭化物混）

SP152
1. 7.5Y3/1オリーブ黒色シルト質ローム
（7.5Y4/1灰色砂質ローム2%混）

SP157
1. 5Y3/2オリーブ黒色シルト質ローム
（5Y4/1灰色ローム2%混）
2. 5Y4/1灰色ローム
（5Y3/1オリーブ黒色シルト質ローム2%混）

SP191
1. 7.5Y3/1オリーブ黒色シルト
（7.5Y4/1灰色シルト質ローム2%混,炭化物・有機物混）

SP205
1. 5Y3/1オリーブ黒色粘土質ローム
（5Y4/2灰オリーブ色シルト2%混）
2. 5Y4/2灰オリーブ色シルト
（5Y3/1オリーブ黒色粘土質ローム1%混）

第152図　手洗野赤浦遺跡　遺構実測図

1. SP51　2. SP53　3. SP54　4. SP65　5. SP126　6. SP135　7. SP152　8. SP157　9. SP191
10. SP205

（4）溝・自然流路・池

4号自然流路（ＳＤ４，第153・154図，図版90）

調査区南東に位置する。自然流路としたが，埋土は灰色シルト質ロームとオリーブ黒色シルトが上下に水平堆積したものであり，底面は平坦であることから，河川跡ではなく低地が沼地化して徐々に埋積したものと考えられる。遺跡が所在する一帯は小矢部川低地とよばれる小矢部川の氾濫平野であることから，小矢部川またはその支流の氾濫により形成された小地形とも推測されるが，調査区外に広がっており詳細は不明である。検出した最大幅は25.4ｍで，深さは30㎝である。西肩は緩やかに傾斜し，東に向かって深くなる。地山が砂質であるため，底面では湧水が見られる。

出土遺物は土師器・珠洲（*4・5*）・中国製青磁（*2・3*）・円形板（*14*）・漆器（*23*）・加工板（*60・62*）・種実（モモ）で，他に焼けた自然礫（濃飛流紋岩）が数個出土した。珠洲と土師器の破片が多く，珠洲は甕・壺・擂鉢の破片がそれぞれ一定量ある。埋土の切り合い関係では，ＳＢ６のＳＰ225はＳＤ４の上面で検出した遺構で，ＳＤ４が古い。また，ＳＥ183はＳＤ４の埋土下から検出した遺構で，ＳＤ４が新しい。出土遺物とＳＥ183の上層から出土した部材の放射性炭素年代から[注34]，14世紀末～15世紀に埋まったものと考えられる。

5号池（ＳＤ５，第155・156図）

調査区北側に入り込んでいる幅の広い溝状の遺構である。南端は緩やかに傾斜し，東西の肩は弧状に立ち上がる。最大幅9.5ｍ，深さ76㎝である。埋土は上層のオリーブ黒色シルト質ローム，下層のオリーブ黒色粘土質ロームを基調とし，上下層とも噴砂に切られている。調査区に延びるため全容は不明であるが，埋土の堆積状況からは水勢のある河川跡とは考えにくく，池の可能性が高いと考える。調査中においても著しい湧水によって水を湛え，排水作業を行うと干満によって却って遺構の崩壊が進むという状況であった点や，ＳＤ５に沿った道の側溝ＳＤ６から幾分水深のある環境が周囲にあったことを示唆するヒシの実が出土している点から[注35]，ＳＤ５は常時湛水していた池と推定する。ＳＤ６等の花粉・種実分析結果から周辺に水田・畑地があったと推測され，池の具体的な用途については，水田に関連する養魚池[注36]，溜池等が考えられる。

出土遺物は土師器・中世土師器（*6*）・珠洲（*7・8*）・中国製白磁で，破片が数点ずつ出土している。出土遺物は14世紀末～15世紀前半のものであるが，ＳＤ６に伴うＳＤ170とは切り合いがみられないことから15世紀後半に埋没した可能性が高いと考えられる。

6号溝（ＳＤ６，第155・157・158図，図版90）

調査区北側の微高地で検出した。ＳＤ５に沿ってほぼ直角に曲がる。ＳＤ110・ＳＤ237と平行に走り，直角に枝分かれするＳＤ170をもってＳＤ110と繋がる。北側ではＳＤ151を挟んで徐々に浅くなり途切れているが，一連のものと推測される。最大幅1.75ｍで，深さ18㎝である。埋土はオリーブ黒色粘土質ローム等を基調とする。ＳＤ110とともに道路の側溝であったと考えられる。

出土遺物は土師器・中世土師器（*9・10*）・珠洲（*18～21*）・越前・古瀬戸（*16・17*）・信楽・中国製青磁（*11～13*）・中国製白磁（*14・15*）・加工板（*58・59・61*）・底板（*15*）・曲物（*3*）・漆器（*20*）・五輪塔（*1*）・砥石（*7*））・種実（モモ・カキノキ）で，他に焼けた自然礫（凝灰岩・流紋岩）が出土した。珠洲の破片が多く，甕・壺・擂鉢がそれぞれ一定量ある。その他の陶磁器は少量ずつ出土している。自然礫の他は割れた破片であり，不要品を廃棄したものと考える。出土遺物から15世紀後半頃に埋没した遺構と考えられるが，開削は14世紀に遡る可能性もある。

ＳＤ６の埋土を分析した結果，アサ・アブラナ科等の花粉や，イネ・アサ・シソ属等の栽培種，水

注34　第二分冊　自然科学分析　株式会社加速器分析研究所「Ⅸ．放射性炭素年代測定　1．手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡出土遺物の放射性炭素年代測定」
注35　第二分冊　自然科学分析　株式会社パレオ・ラボ　新山雅広　植田弥生「Ⅴ．手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡から出土した大型植物化石」
注36　水田と養魚池の関係について水野正好氏から御教示頂いた。

田雑草であるコナギ等の種実を検出し，水田や畑地が付近に存在した可能性が示唆された。また，当遺跡の建物の柱材にも利用されているクリ，オニグルミ，ハンノキ，モモ等の落葉樹が周辺にも生育していたことが推定された[注37]。ヒシの果実が検出され，幾分水深のある水域が付近に存在した可能性があることは，隣接するＳＤ５が水を湛え，ＳＤ６と同時期に存在したことを傍証するものと考えられる。

33号溝（ＳＤ33，第161・162図，図版98）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区中央を東西に走る溝で，ＳＫ47と接する。最大幅75cmで，深さ22cmである。埋土はオリーブ黒色シルトである。南側にある建物域を区画する溝と考えられる。

周辺の地山直上とＳＤ245内で中世土師器皿がまとまって出土しており祭祀行為の跡と推測されるが，ＳＤ33内から出土遺物はなく，土器祭祀がＳＤ33に伴わない可能性がある。ＳＤ33に交差するＳＫ47の埋土上面で出土した土師器が祭祀に使用されたものと同じタイプであるため，ＳＫ47と土師器皿祭祀の新旧は明白であるが，ＳＫ47とＳＤ33の切り合い関係は噴砂のため明確ではなかった。

63号溝（ＳＤ63，第161・162図）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区中央を東西に走る溝で，ＳＤ245と並走する。最大幅26cmで，長さ約1.22m，深さ７cmである。埋土は灰色ロームである。出土遺物はない。

64号溝（ＳＤ64，第161・162図）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区中央に位置する。最大幅32cmで，長さ約89cm，深さ８cmである。埋土はオリーブ黒色シルトである。出土遺物はない。

69号溝（ＳＤ69，第161・162図）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区中央を東西に走る大型の溝で噴砂により変形している。ＳＤ169と並走する。最大幅1.6mで，深さ14cmである。埋土はオリーブ黒色シルトを基調とする。北側の建物群を区画する溝と考えられ，ＳＤ169との間は道路であったと推測する。出土遺物はない。

109号溝（ＳＤ109，第153・154図）

調査区東側の微高地で検出した。ＳＤ110と南側で合流するが，本来はＳＤ110の幅は北側と同じ程度で交わらず並走していたものと考えられ，ともに道路の側溝と推定される。最大幅56cmで，深さ18cmである。埋土は下層に灰色砂質ロームが薄く堆積し，上層はオリーブ黒色粘土質ロームを基調とする。

出土遺物は土師質土器小片１点，須恵器壺底部片１点，加工材１点，加工板１点，種実（モモ）９点である。

110号溝（ＳＤ110，第153・154図，図版90）

調査区北東の微高地で検出した。南北に走る溝で，北側でＳＤ６，南側でＳＤ９と並走し，ともに道路の側溝であったと考えられる。ＳＤ151が枝分かれし，ＳＤ170が直交するが，切り合いはない。最大幅５mで，深さ30cmである。南側の幅が北側より極端に広くなっているが，地山が砂質土であるため，後世に肩が崩れて幅が広くなったものと考えられる。本来は北側で検出された溝幅が実際に機能していた時の幅に近いものであろう。埋土は下層に灰色砂，灰色シルト質ロームが薄く堆積し，上層は黒褐色粘土質ローム，暗オリーブ灰色シルト質ローム等を基調とする層が堆積する。

出土遺物は須恵器（*22*）・中世土師器（*23*）・珠洲（*24*）・古瀬戸・漆器（*22*・*26*）・種実（モモ）である。すべて破片で，珠洲片が多く，甕・壺・擂鉢がそれぞれ一定量ある。須恵器は杯身と杯蓋の破

注37　第二分冊　自然科学分析　株式会社パレオ・ラボ　新山雅広「Ⅱ．花粉分析　１．手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡の花粉化石群集」
第二分冊　自然科学分析　株式会社パレオ・ラボ　新山雅広　植田弥生「Ⅴ．手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡から出土した大型植物化石」
第二分冊　自然科学分析　株式会社パレオ・ラボ　植田弥生「Ⅳ．樹種同定　１．手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡出土木製品の樹種同定」

片が各１点，中世土師器は皿片が１点，古瀬戸は天目茶椀が１点である。15世紀後半に埋没したと推定されるＳＤ６と同時期の遺構と考えられる。

138号溝（ＳＤ138，第153図，図版99）

調査区東側の微高地で検出した。ＳＤ237・ＳＤ63を結ぶ線上にあり，これらは一連のものであった可能性が高い。噴砂に切られ変形している。最大幅1.37ｍで，深さ17cmである。埋土はオリーブ黒色シルト質ロームである。出土遺物は珠洲甕の小片２点である。

139号溝（ＳＤ139，第163図，図版87）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区南西に位置する南北方向の溝である。ＳＤ142と平行に走り，ＳＤ141と直交する。これらの溝に囲まれた範囲に建物は検出されなかったが，方形にめぐることから区画溝の可能性もある。最大幅46cmで，深さ７cmである。埋土は暗灰黄色シルト質ローム混じりの黒褐色粘土質ロームを基調とする。出土遺物はない。

140号溝（ＳＤ140，第163図，図版87）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区南西に位置する東西方向溝である。ＳＤ141と平行に走り，ＳＤ139・ＳＤ142と直交する。これらの溝に囲まれた範囲に建物は検出されなかったが，方形にめぐることから区画溝の可能性がある。また，ＳＤ169と同じ線上にあることから道路の側溝の可能性もある。最大幅85cmで，深さ16cmである。埋土は暗灰黄色粘土質ロームを基調とする。出土遺物はない。

141号溝（ＳＤ141，第163図，図版87）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区南西に位置する。ＳＤ140と平行に走り，ＳＤ142と直交する。区画溝または道路の側溝の一部と考えられる。最大幅50cmで，深さ10cmである。埋土は灰色シルトである。出土遺物はない。

142号溝（ＳＤ142，第163図，図版87）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区南西に位置する。ＳＤ139と並行して走り，ＳＤ140・142と直交する。これらの溝に囲まれた範囲に建物は検出されなかったが，方形にめぐることから区画溝と考えられる。最大幅54cmで，深さ８cmである。埋土は上層が灰オリーブ色シルト，下層がオリーブ黒色砂質ロームを基調とする。出土遺物はない。

147号溝（ＳＤ147，第155・157図）

調査区北側の微高地で検出した。ＳＤ６から分岐する短い溝で，切り合いはない。最大幅50cmで，深さ10cmである。埋土は灰黄褐色ロームである。出土遺物はない。

150号溝（ＳＤ150，第163図，図版87）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。東西に走る短い溝である。最大幅67cmで，深さ10cmである。埋土は上層がオリーブ黒色粘土質ローム，下層が灰色砂質ロームである。短い溝ではあるがＳＤ140とほぼ平行で，ともに区画溝であった可能性もある。出土遺物はない。

151号溝（ＳＤ151，第153・154図）

調査区北端の微高地で検出した。ＳＤ110より弧状に分岐してほぼ直角に折れ，ＳＤ５に至る。道路を横切ってＳＤ110とＳＤ５を繋ぐ意図が見受けられる。あまり勾配はないが，周辺の地山の標高は南の方が若干高くＳＤ151付近が最も低いことから，道路側溝から池へ排水することを目的とした溝と考えられる。最大幅76cmで，深さ10cmである。埋土は上層が暗オリーブ色シルト質ローム，下層が灰色砂で，ＳＤ110と同様の埋土である。出土遺物はない。

153号溝（ＳＤ153，第159図）

調査区北端の微高地で検出した。両肩にＳＰ152・ＳＰ157があり，関連が考えられる。ＳＤ110と直交し，切り合いはない。最大幅80cmで，深さ６cmである。埋土は灰色砂質ロームである。出土遺物はない。

154号溝（ＳＤ154，第159図）

調査区北端の微高地で検出した。調査区外に延びており溝としたが，大型の土坑の可能性もある。ＳＤ110と直交する。最大幅2.5mで，深さ17cmである。埋土は上層がオリーブ黒色ローム，灰色砂質ロームで，下層が灰色砂である。出土遺物はない。

156号溝（ＳＤ156，第160図）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区南東を南北に走る溝である。東側に遺構群が多くあり，西側にほとんど遺構がないことから集落域を分ける溝と考えられる。直線的でＳＤ６・ＳＤ110と同様の規模であり，地形からもこの西側の微高地を削り路面を平坦にした可能性が窺えるので，道路側溝と推定する。最大幅76cmで，深さ20cmである。埋土は上層と下層が灰色砂，中層がオリーブ黒色砂質ロームである。出土遺物は珠洲の甕片２点，擂鉢片１点，円形板（*16*）が１点である。

168号溝（ＳＤ168，第160図）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区ほぼ中央に位置する。ＳＤ169と直交する短い溝である。最大幅30cmで，深さ６cmである。埋土は灰色ロームである。出土遺物はない。

169号溝（ＳＤ169，第160図）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区ほぼ中央を東西に走る溝である。ＳＤ168と直交し，北側のＳＤ69と並行して走る。建物域を区画し，ＳＤ69とともに道路の側溝であったと考えられる。最大幅45cmで，深さ７cmである。埋土は灰色ロームを基調とする。出土遺物はない。

170号溝（ＳＤ170，第155図）

調査区中央やや東側の微高地で検出した。ＳＤ110・ＳＤ６と直交し，それらを繋ぐ溝で，埋土の切り合いはない。さらにＳＤ５に至っており，ＳＤ151同様に道路側溝から池への排水を目的とする溝と考える。主にＳＤ６の排水を意図したもので，補完的にＳＤ110からの水も受け入れた溝であろう。最大幅1.46mで，深さ８cmである。出土遺物は須恵器壺片１点，中世土師器皿片１点，珠洲甕・擂鉢片各１点である。

173号溝（ＳＤ173，第161・162図，図版87）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区中央西側に位置する。ＳＤ245・ＳＤ174・ＳＤ330・ＳＤ181に直交し，ＳＤ175とほぼ並行して走る。ＳＤ174の北側で途切れる。東側の建物群の区画溝と考えられる。埋土は上層がオリーブ黒色シルト，下層が灰色砂を基調とする。最大幅1.3mで，深さ10cmである。出土遺物は焼成不良の珠洲擂鉢片２点である。

174号溝（ＳＤ174，第161・162図，図版87）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区中央西側に位置する。ＳＤ181・ＳＤ245・ＳＤ330と並行して走り，ＳＤ173と直交する短い溝である。東側の建物群の区画溝と考えられる。最大幅32cmで，深さ８cmである。埋土は暗オリーブ色砂質ロームである。出土遺物はない。

175号溝（ＳＤ175，第161・162図，図版87）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区中央西側に位置する。ＳＤ173と並行して走り，ＳＤ181・ＳＤ330と直交する。東側の建物群の区画溝と考えられる。最大幅75cmで，深さ９cmである。埋

土は上層が灰オリーブ色シルト，下層がオリーブ黒色ロームを基調とする。出土遺物はない。

181号溝（ＳＤ181，第161・162図，図版87）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区ほぼ中央に位置する。ＳＤ174・ＳＤ245・ＳＤ330と平行して走り，ＳＤ173・ＳＤ175と直交する。東側の建物群の区画溝と考えられる。最大幅60cmで，深さ10cmである。埋土は上層がオリーブ黒色砂質ローム，下層が灰色砂を基調とする。出土遺物はない。

216号溝（ＳＤ216，第164図）

調査区東隅の微高地で検出した。調査区外に遺構の本体があると考えられる自然流路の一部である。最大幅2.05mで，深さ16cmである。埋土は上層がオリーブ黒色シルト，下層が灰オリーブ色シルト質ロームを基調とする。

出土遺物は珠洲甕片１点（*25*），杭１点（*53*），漆器２点（*28・29*）で，漆器には楪子とよばれる非日常的な器も含まれる。漆器の年代から16世紀の遺構と推定する。

236号溝（ＳＤ236，第164図）

調査区北東の微高地で検出した。調査区外でＳＤ216に繋がる自然流路と考えられる。最大幅1.45mで，深さ６cmである。埋土は灰オリーブ砂質ロームを基調とする。出土遺物はない。

237号溝（ＳＤ237，第155・157図）

調査区やや東の微高地で検出した。ＳＤ６と東西方向に並行して走り，ともに道路の側溝であった可能性がある。ＳＤ138・ＳＤ245を結ぶ同一直線上にあり，東西方向を結ぶ道路の側溝の可能性がある。最大幅68cmで，深さ９cmである。埋土は西側では暗灰黄色シルトに２cm大の礫を２％含み，東側ではオリーブ黒色粘土質ロームとなっている。出土遺物はない。

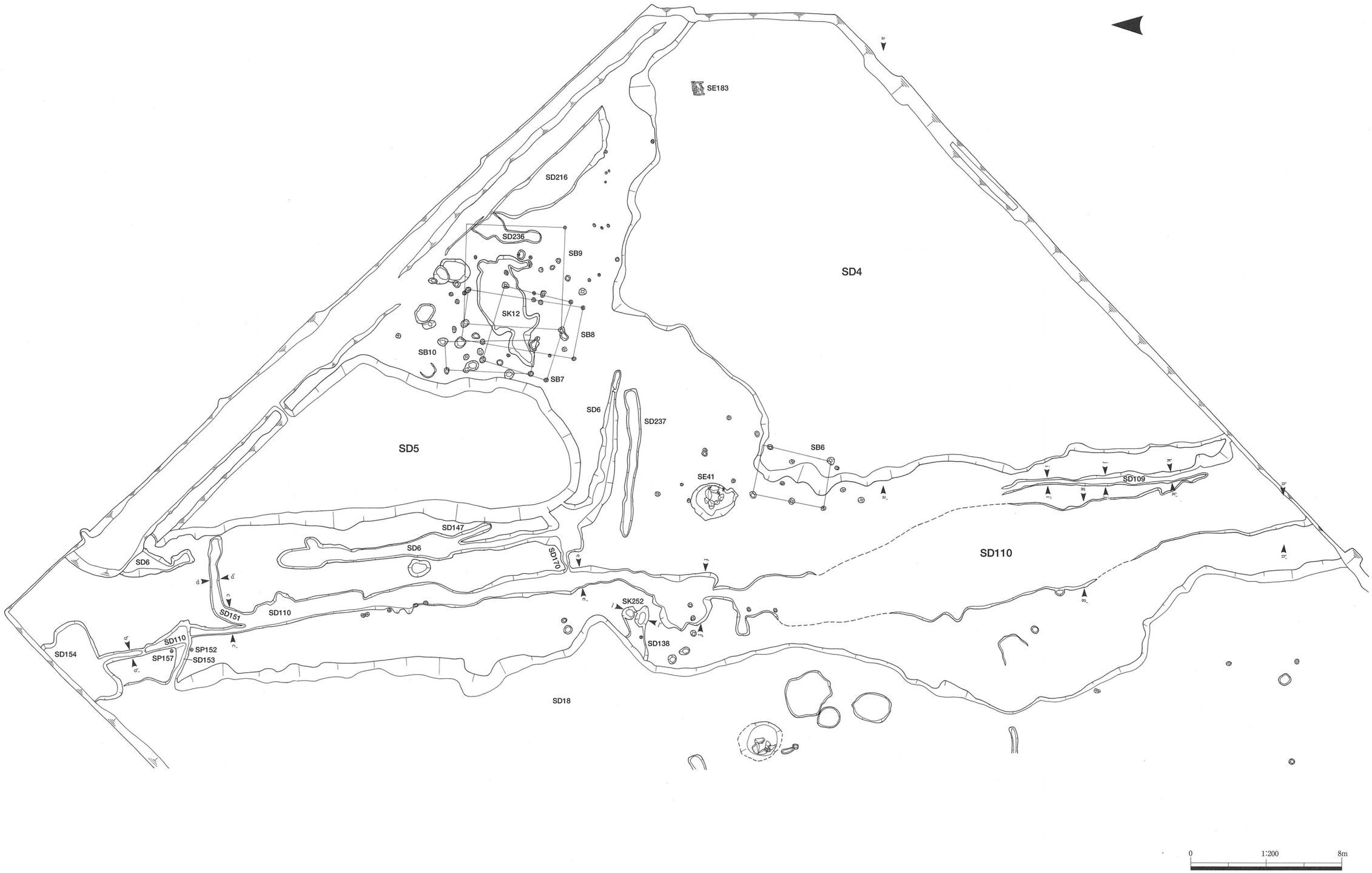
245号溝（ＳＤ245，第161・162図，図版98）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区中央西側に位置する。南北方向のＳＤ173と直交し，東西方向のＳＤ33と並行して走る。建物域を区画する溝で，ＳＤ138・ＳＤ237を結ぶ同一直線上にあり，東西方向を結ぶ道路の可能性がある。最大幅50cmで，深さ10cmである。埋土は上層が灰色シルト，下層が灰色砂質ロームを基調とする。周辺の地山直上で中世土師器皿がまとまって出土しているが，その一部がＳＤ245の肩に落ちかけた状況で出土していることから，土師器皿を使用する祭祀行為はＳＤ245が機能していた時期に行われたと考えられる。

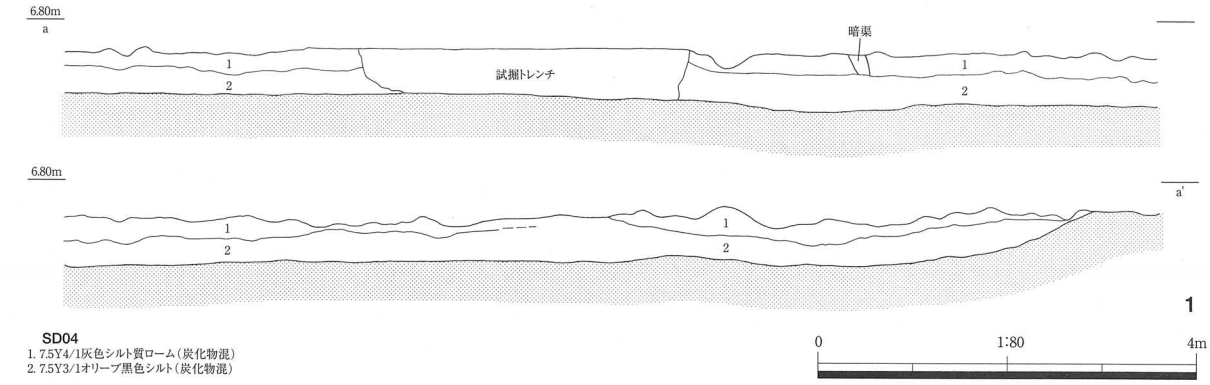
この土器集中地点の中世土師器とともに祭祀に使用されたと考えられる中国製青磁がＳＫ47上面で出土しており，その年代からＳＤ245は14世紀前半～15世紀前半の遺構と推定される。出土遺物はない。

330号溝（ＳＤ330，第161図，図版87）

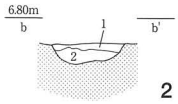
谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区ほぼ中央に位置する。ＳＤ181と並行して走り，ＳＤ173・ＳＤ175と直交する。東側の建物群の区画溝と考えられる。最大幅46cmで，深さ８cmである。出土遺物はない。



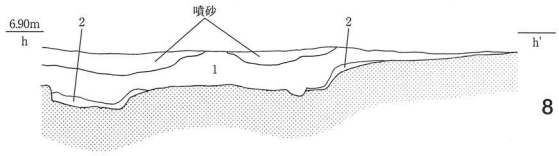
第153図　手洗野赤浦遺跡　遺構実測図
SD4・SD109・SD110・SD138・SD151・SK252



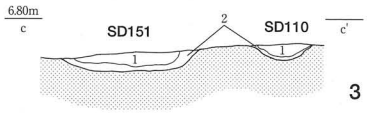
SD04
1. 7.5Y4/1灰色シルト質ローム（炭化物混）
2. 7.5Y3/1オリーブ黒色シルト（炭化物混）



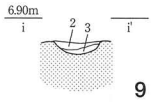
SD110
1. 5Y3/1オリーブ黒色砂質ローム
（5Y4/3暗オリーブ色砂質ローム2%混,有機物混）
2. 5Y4/3暗オリーブ色砂質ローム
（5Y3/1オリーブ黒色砂質ローム1%混）



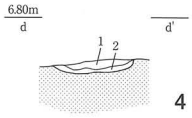
SD110
1. 2.5Y3/1黒褐色粘土質ローム（炭化物混）
2. 2.5Y3/1黒褐色粘土質ローム（5Y4/1灰色砂質ローム20%混）



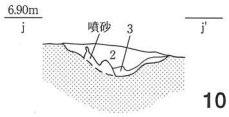
SD110・SD151
1. 5Y4/3暗オリーブ色シルト質ローム（5Y4/1灰色砂5%混,炭化物混）
2. 5Y4/1灰色砂（5Y4/3暗オリーブ色シルト質ローム1%混）

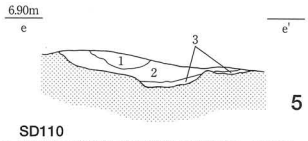


SD109
1. 5Y3/1オリーブ黒色粘土質ローム（5Y4/1灰色砂質ローム2%混,炭化物混）
2. 5Y3/1オリーブ黒色粘土質ローム（5Y4/1灰色砂質ローム5%混,炭化物混）
3. 5Y4/1灰色砂質ローム

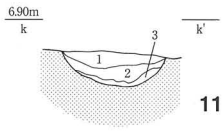


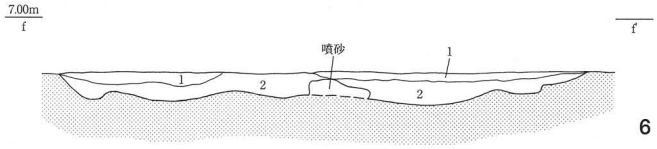
SD151
1. 5Y4/3暗オリーブ色シルト質ローム（5Y4/1灰色砂5%混,炭化物混）
2. 5Y4/1灰色砂（5Y4/3暗オリーブ色シルト質ローム1%混）



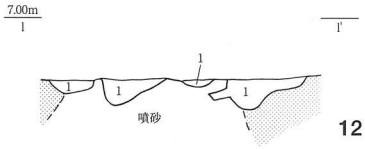


SD110
1. 10YR4/2灰黄褐色シルト（10YR3/2黒褐色ローム2%混）
2. 10YR3/2黒褐色ローム（10YR4/2灰黄褐色シルト2%混,炭化物混）
3. 5Y4/1灰色砂

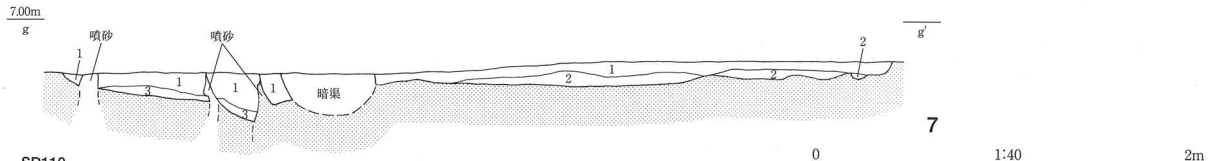




SD110
1. 2.5Y4/2暗灰黄色シルト質ローム（炭化物3%混）
2. 5Y4/1灰色シルト質ローム（炭化物3%混）



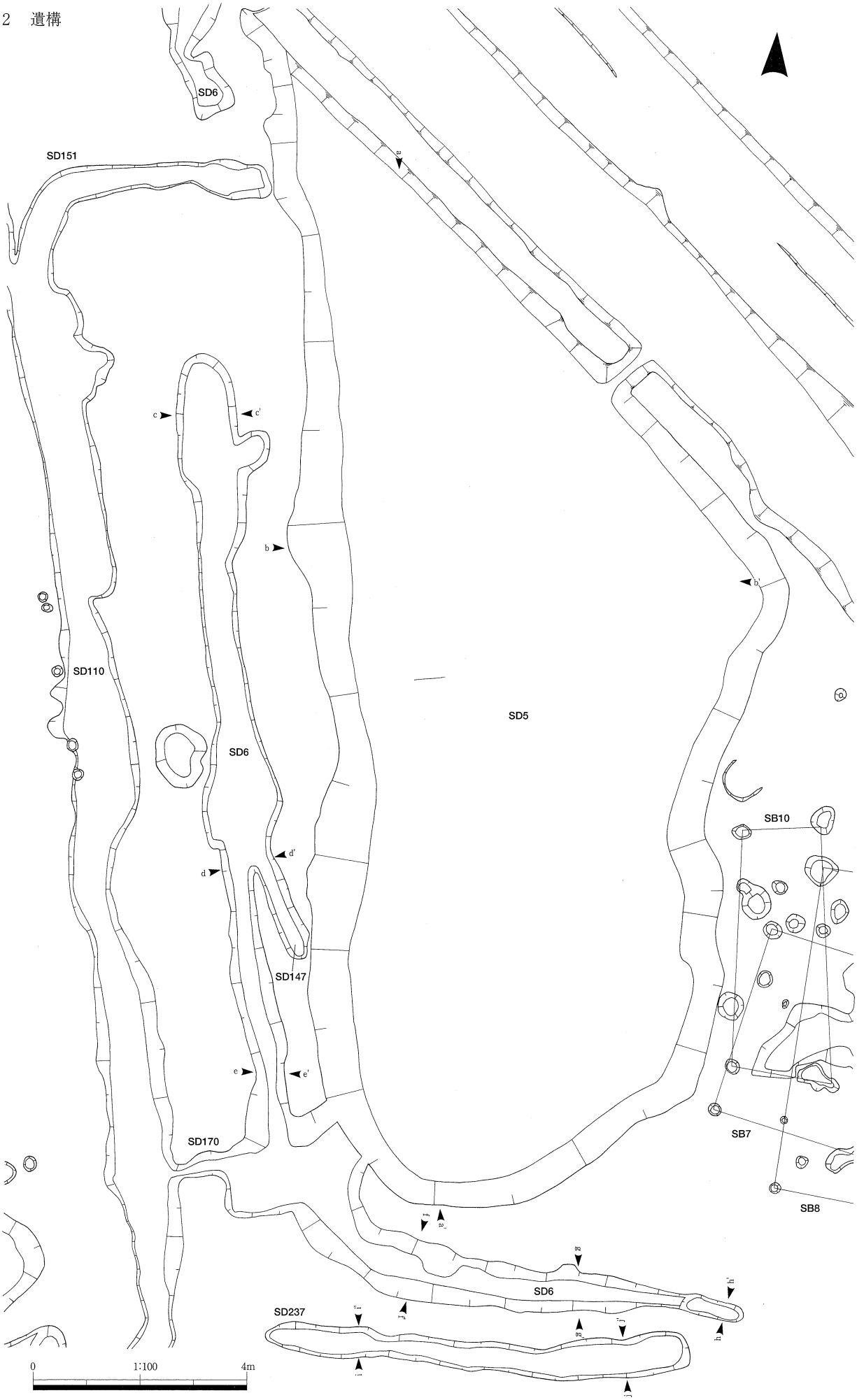
SK252
1. 5Y3/1オリーブ黒色シルト質ローム



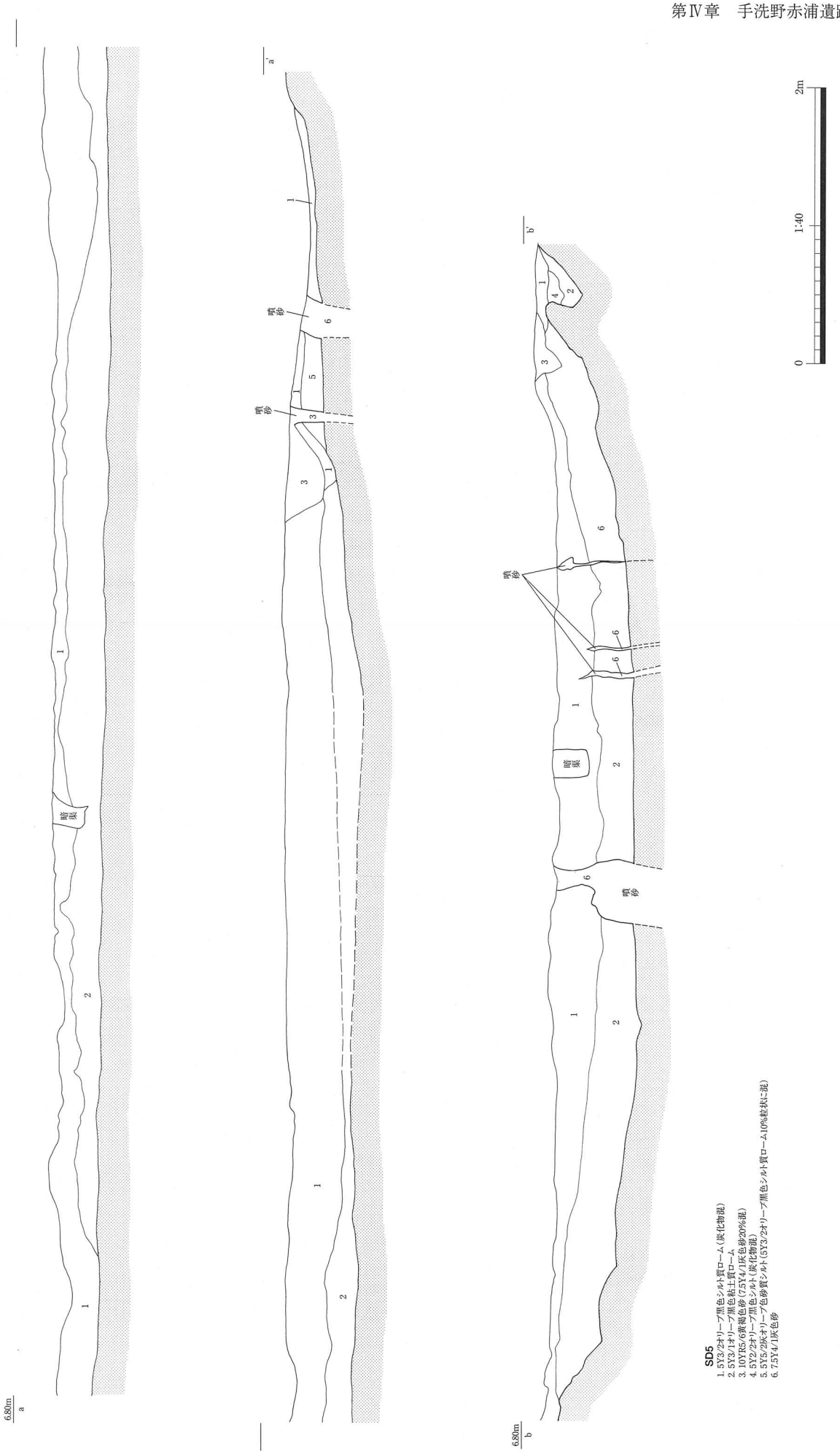
SD110
1. 2.5Y4/1黄灰色粘土質ローム（7.5Y4/1灰色シルト5%ブロック状に混,炭化物3%混）
2. 5Y4/1灰色シルト（7.5Y5/1灰色砂質ローム30%ブロック状に混）
3. 5Y4/1灰色シルト

第154図　手洗野赤浦遺跡　遺構実測図

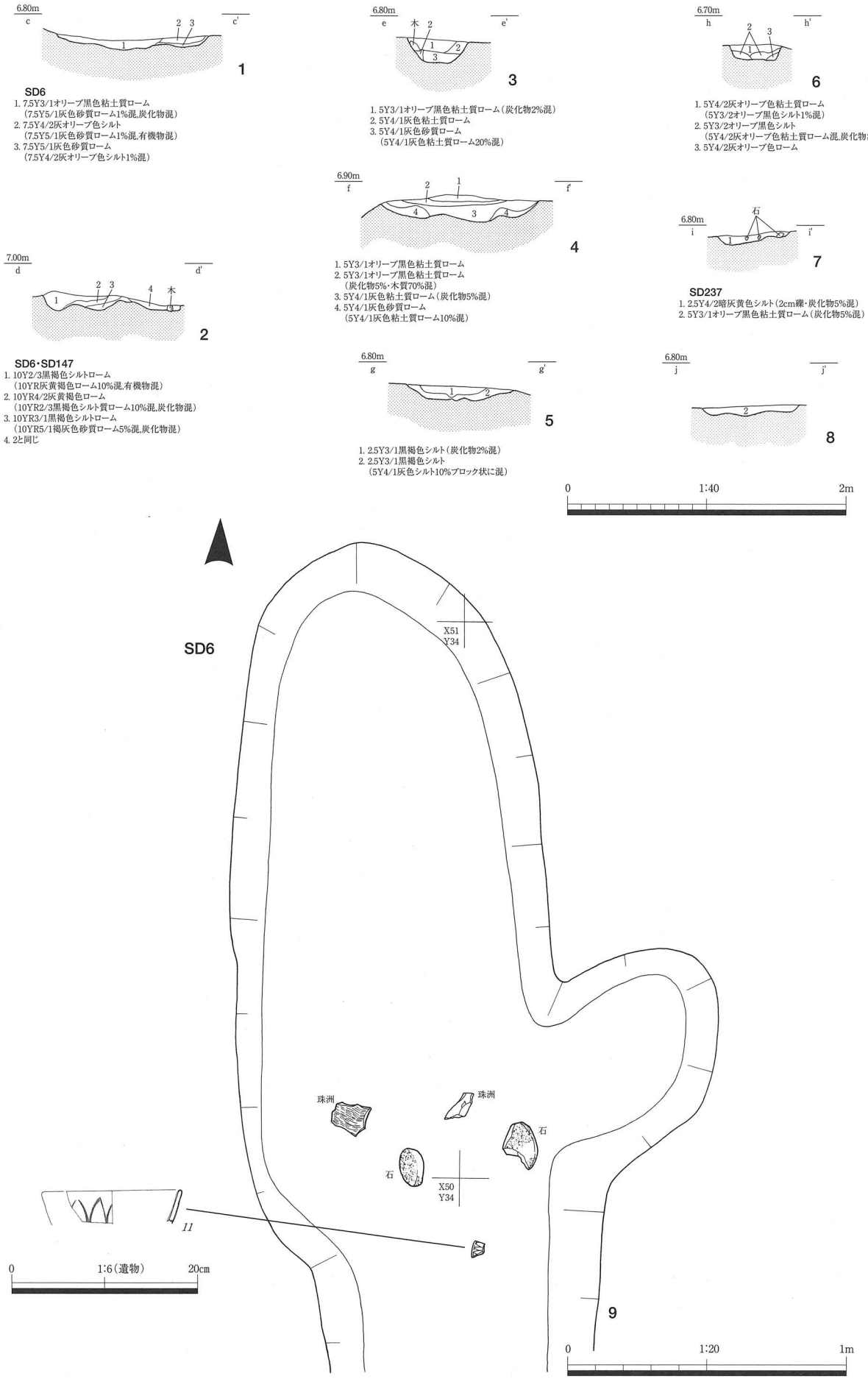
1. SD4　2. SD110　3. SD110・SD151　4. SD151　5～8. SD110　9～11. SD109　12. SK252



第155図　手洗野赤浦遺跡　遺構実測図
SD5・SD6・SD147・SD170・SD237

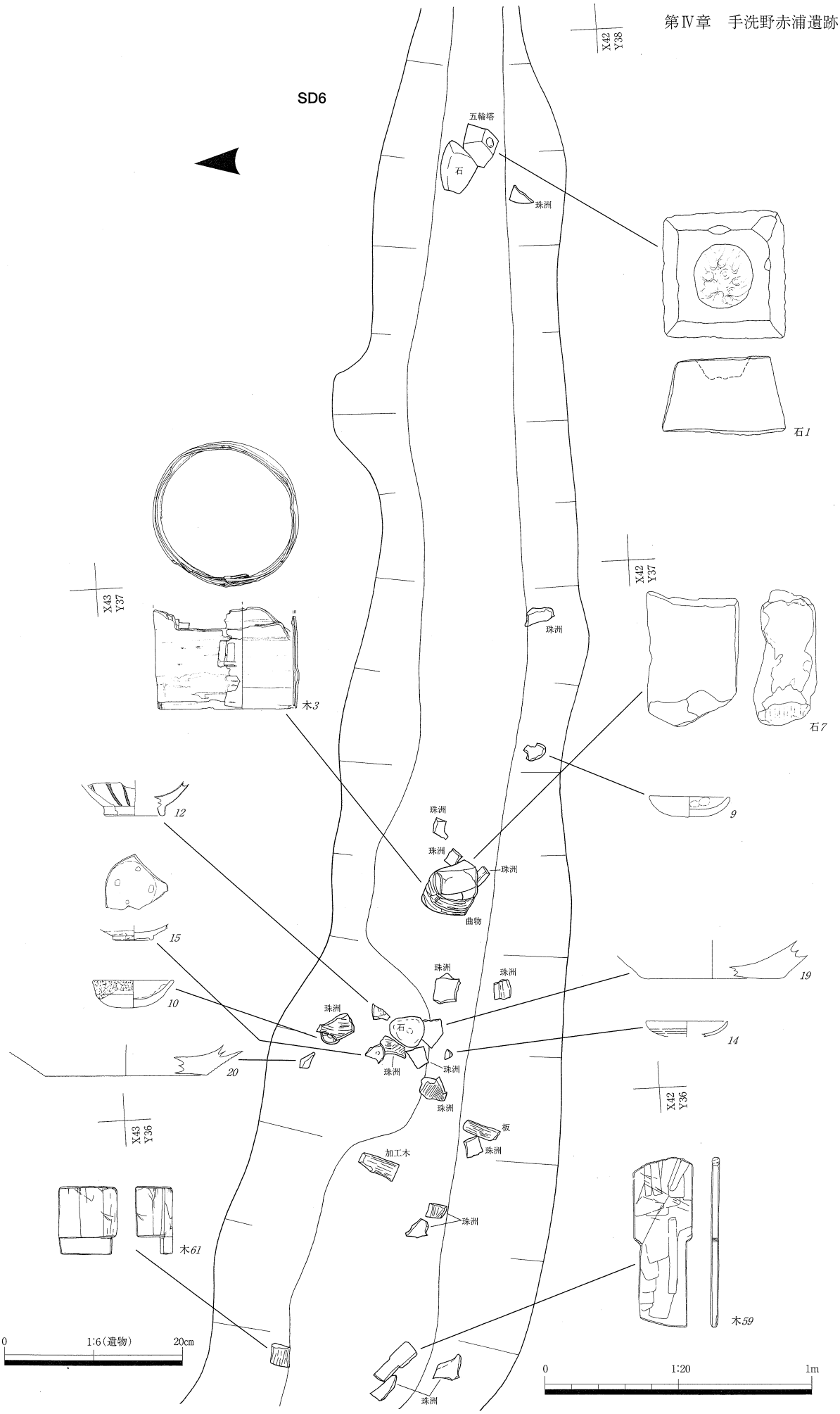


第156図　手洗野赤浦遺跡　遺構実測図
SD5

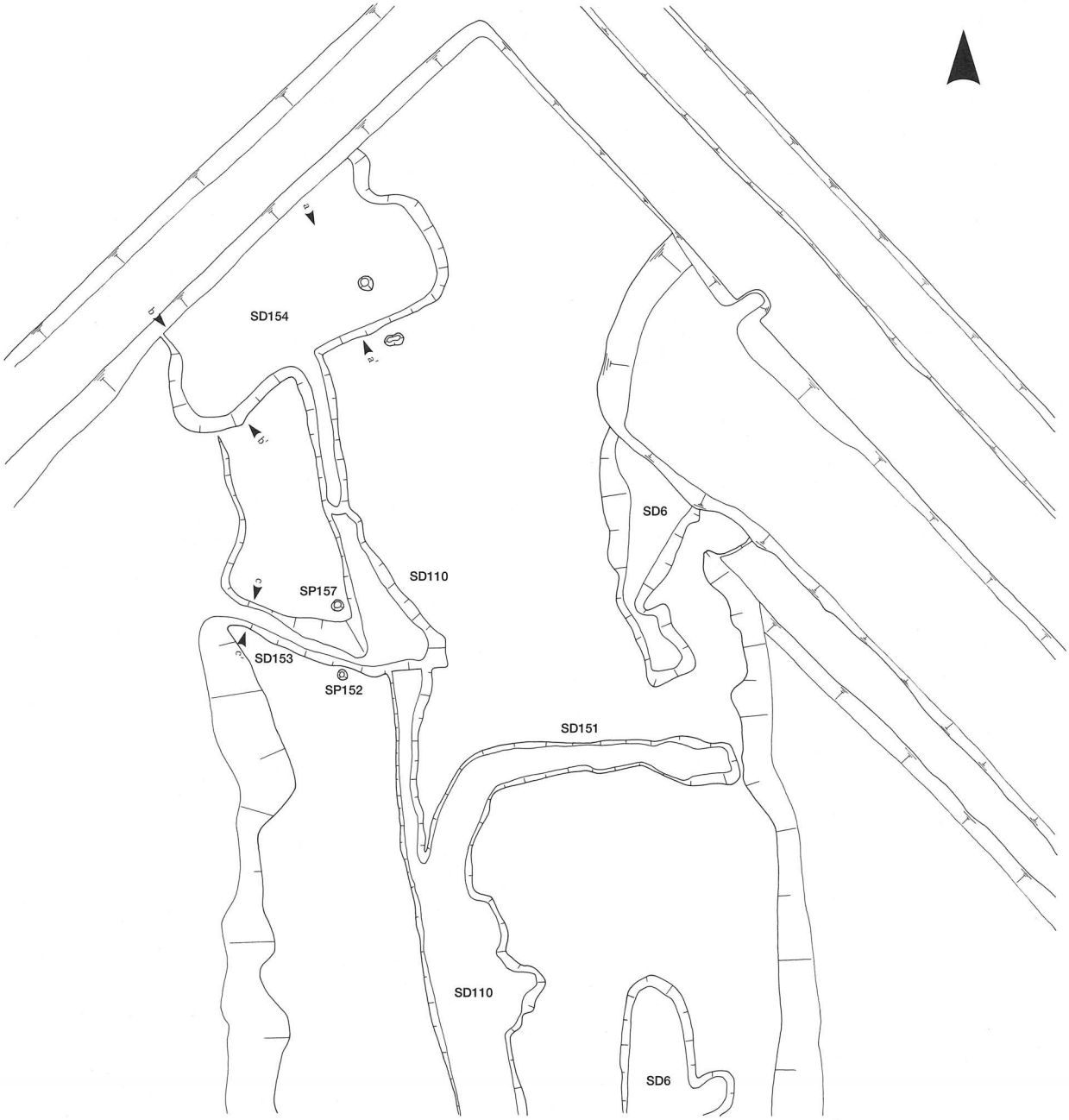


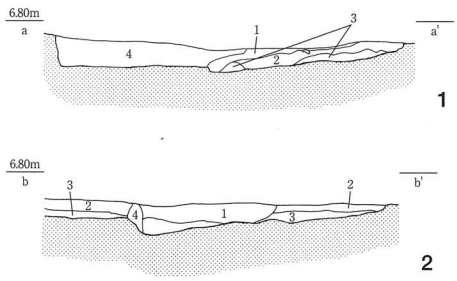
第157図　手洗野赤浦遺跡　遺構実測図

1・3～6. SD6　2. SD6・SD147　7・8. SD237　9. SD6

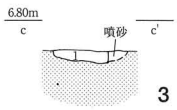


第158図　手洗野赤浦遺跡　遺構実測図
SD6

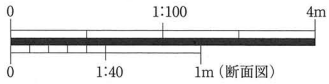




SD154
1. 5Y3/1オリーブ黒色ローム（5Y4/1灰色砂質ローム1%混,炭化物混）
2. 5Y4/1灰色砂質ローム（5Y3/1オリーブ黒色ローム1%混）
3. 5Y5/1灰色砂質ローム
4. 7.5Y4/1灰色砂（7.5Y5/2灰オリーブ色砂2%混）

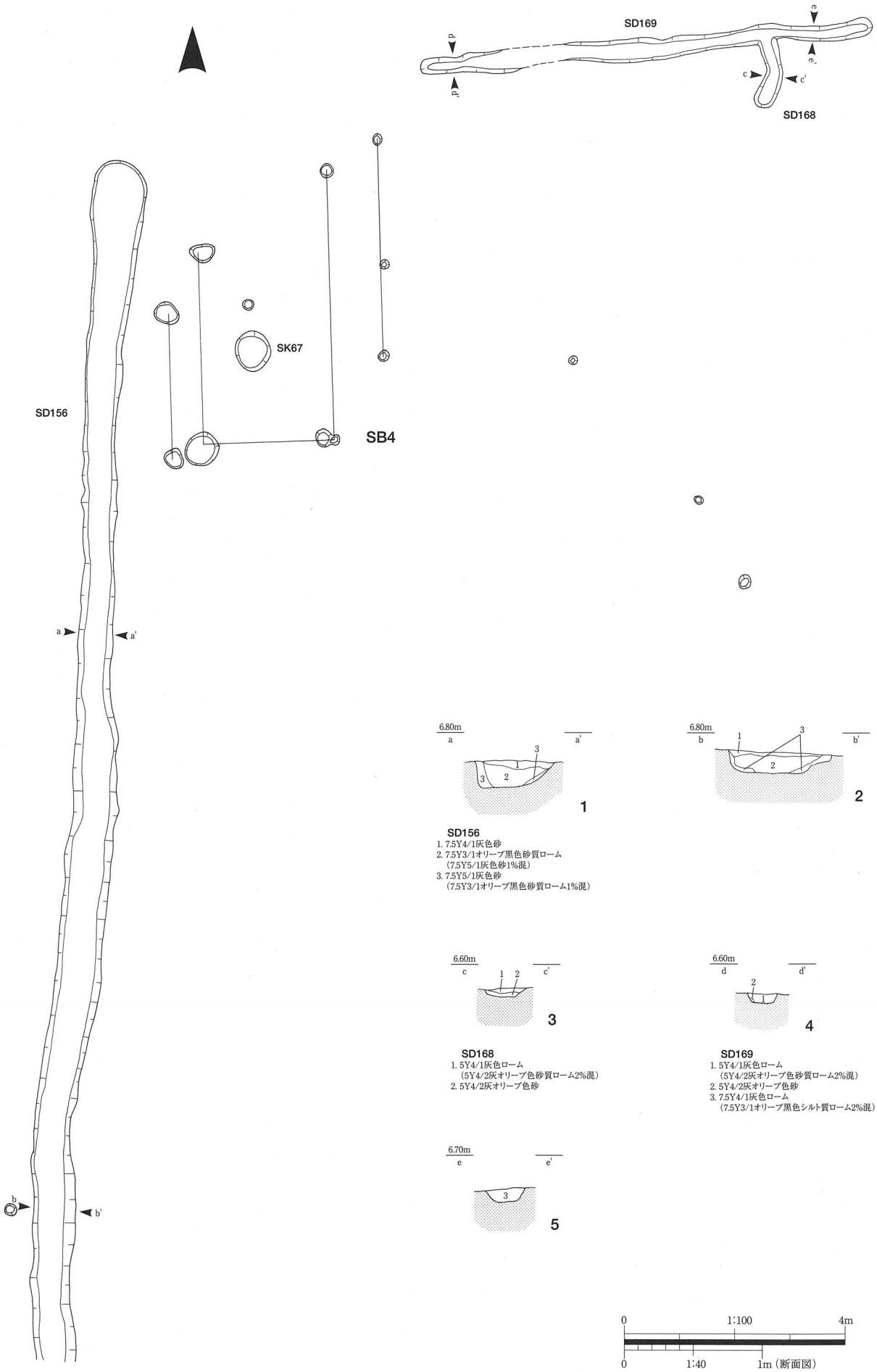


SD153
1. 7.5Y4/1灰色砂質ローム
（7.5Y3/1オリーブ黒色シルト1%混）



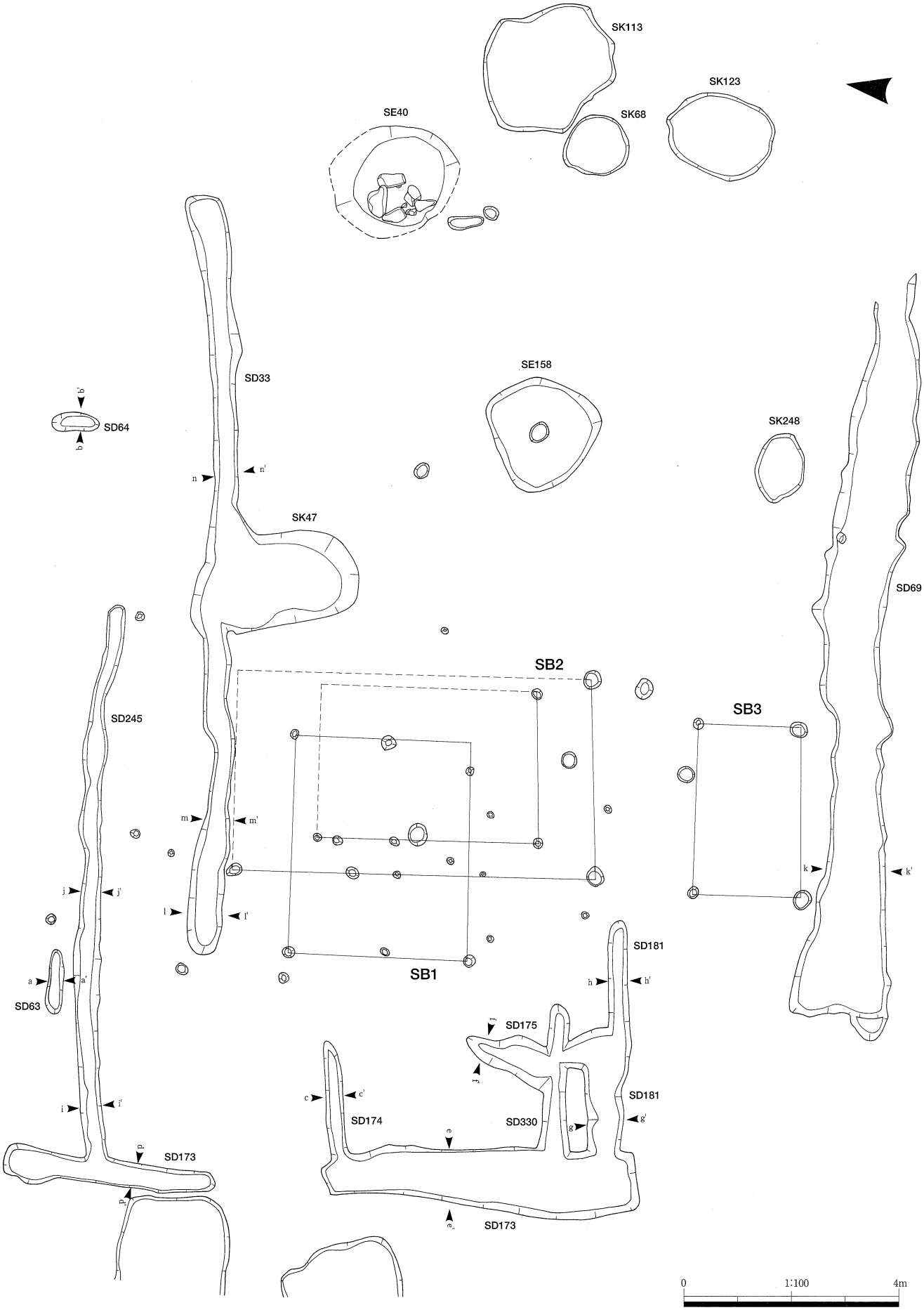
第159図　手洗野赤浦遺跡　遺構実測図

1・2. SD154　3. SD153



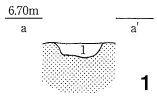
第160図　手洗野赤浦遺跡　遺構実測図

1・2. SD156　3. SD168　4・5. SD169



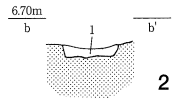
第161図　手洗野赤浦遺跡　遺構実測図

SD33・SD63・SD64・SD69・SD173～SD175・SD181・SD245・SD330



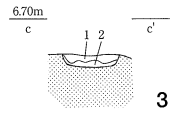
1

SD63
1. 7.5Y4/1灰色ローム（炭化物混）



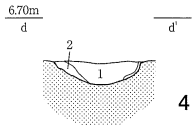
2

SD64
1. 5Y3/1オリーブ黒色シルト（炭化物混）



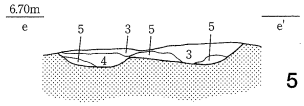
3

SD174
1. 5Y4/3暗オリーブ色砂質ローム
（5Y3/2オリーブ黒色ローム1%ブロック状に混）
2. 5Y4/3暗オリーブ色砂質ローム

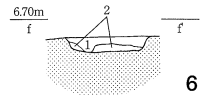


4

SD173
1. 5Y3/1オリーブ黒色シルト（5Y4/1灰色砂質ローム1%混,炭化物混）
2. 5Y4/1灰色砂質ローム（5Y3/1オリーブ黒色シルト2%混）
3. 5Y3/1オリーブ黒色シルト（5Y4/1灰色砂質ローム5%混,有機物混）
4. 5Y4/2灰オリーブ色粘土質ローム（5Y4/1灰色砂1%混）
5. 5Y4/2灰色砂

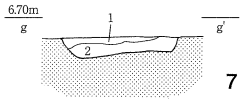


5



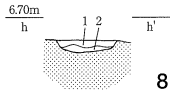
6

SD175
1. 5Y4/2灰オリーブ色シルト
（5Y3/2オリーブ黒色ローム2%混,有機物混）
2. 5Y3/2オリーブ黒色ローム
（5Y4/2灰オリーブ色シルト1%混）

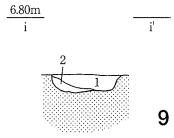


7

SD181
1. 7.5Y3/2オリーブ黒色砂質ローム（7.5Y4/1灰色砂5%混）
2. 7.5Y4/1灰色砂（7.5Y3/2オリーブ黒色砂質ローム1%混）

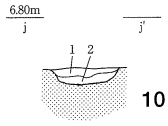


8

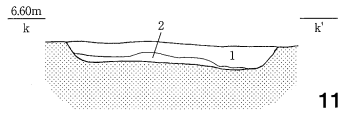


9

SD245
1. 5Y4/1灰色シルト（5Y5/1灰色砂質ローム1%混）
2. 5Y5/1灰色砂質ローム（5Y4/1灰色シルト2%混）

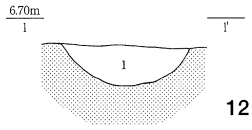


10

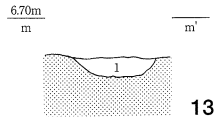


11

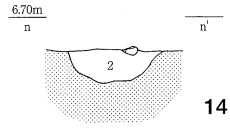
SD69
1. 5Y3/1オリーブ黒色シルト（炭化物混）
2. 5Y4/1灰色砂（5Y3/1オリーブ黒色シルト混,炭化物2%混）



12

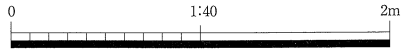


13



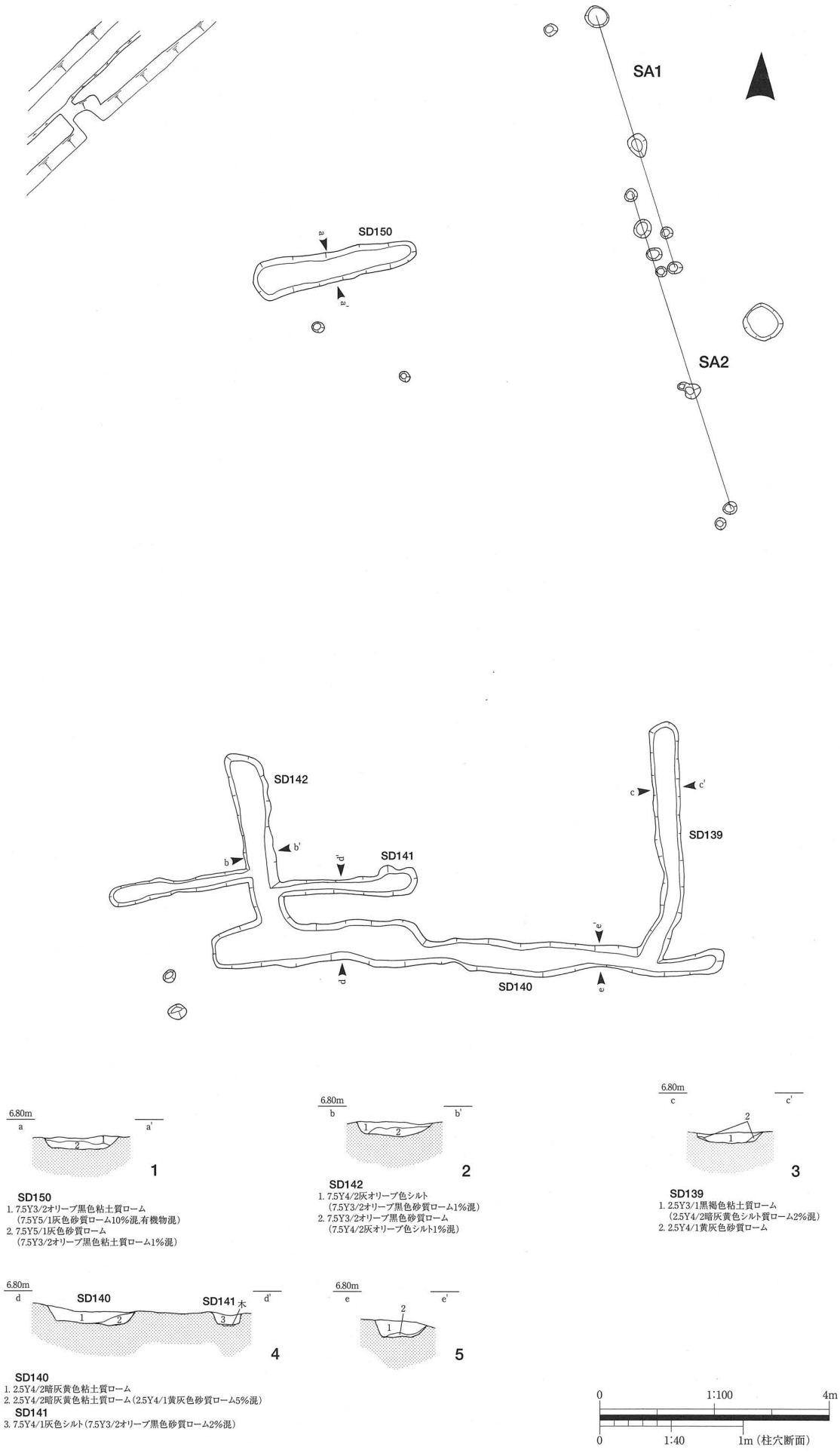
14

SD33
1. 5Y3/1オリーブ黒色シルト（炭化物・有機物混）
2. 5Y3/1オリーブ黒色シルト（炭化物混）



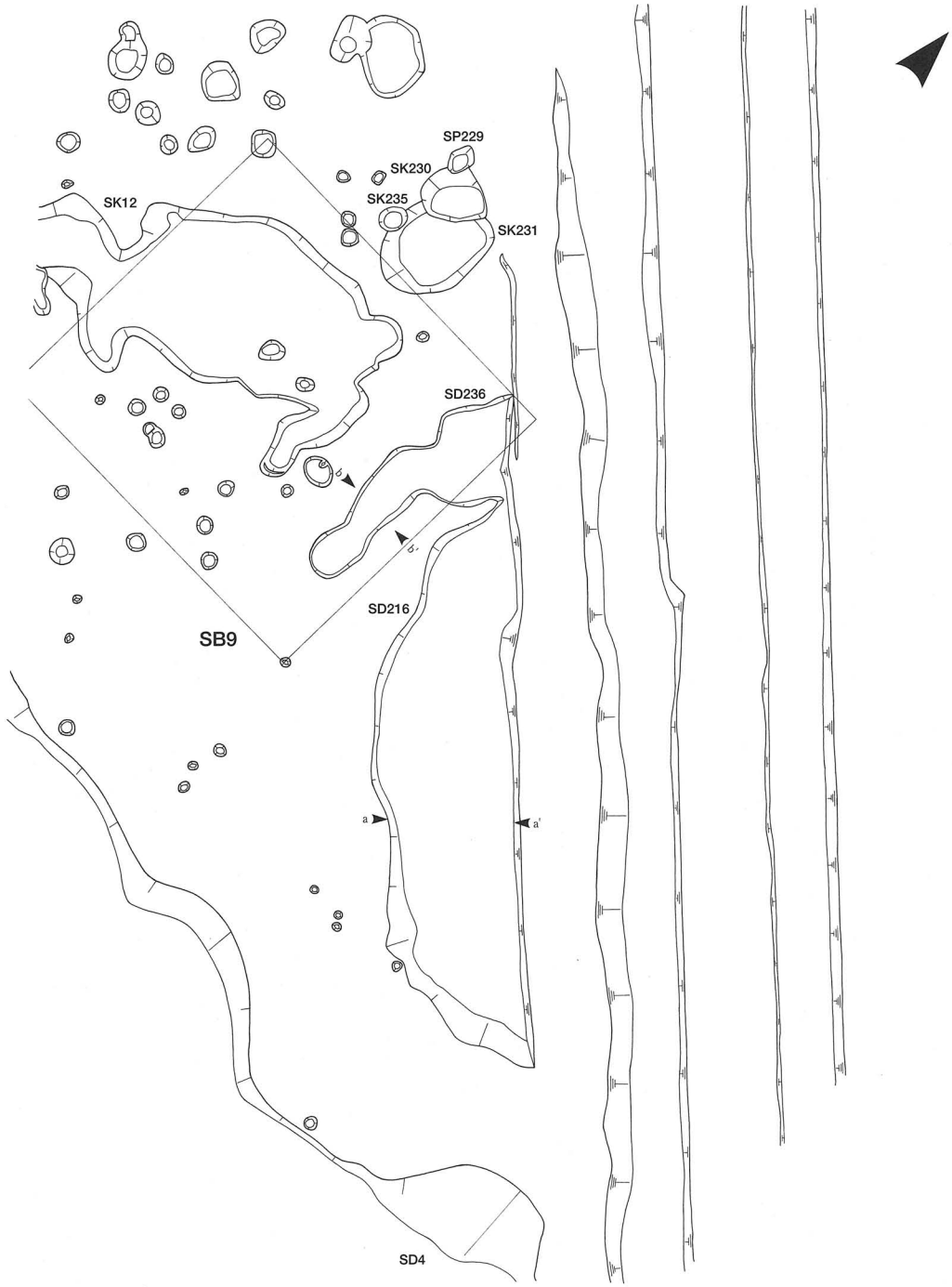
第162図　手洗野赤浦遺跡　遺構実測図

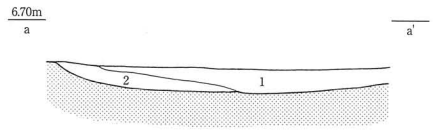
1. SD63　2. SD64　3. SD174　4・5. SD173　6. SD175　7・8. SD181　9・10. SD245　11. SD69
12～14. SD33



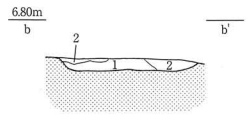
第163図　手洗野赤浦遺跡　遺構実測図

1. SD150　2. SD142　3. SD139　4. SD140・SD141　5. SD140

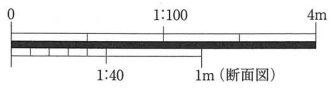




SD216
1. 5Y3/2オリーブ黒色シルト（5Y4/2灰オリーブ色シルト質ローム5%混,有機物混）
2. 5Y4/2灰オリーブ色シルト質ローム（5Y3/2オリーブ黒色シルト2%混）



SD236
1. 5Y4/2灰オリーブ色砂質ローム（5Y5/1灰色砂質ローム2%混）
2. 5Y5/1灰色砂質ローム2%



第164図　手洗野赤浦遺跡　遺構実測図
SD216・SD236

（5）井戸

28号井戸（ＳＥ28，第165図，図版91・92）

谷状地（ＳＤ18）埋土上面で検出した。調査区南側に位置し，ＳＢ12の北に隣接する。

井戸側は石組と曲物からなる。長径は3.62m，短径は2.16mの楕円形で，深さは97cmである。北側を大きな噴砂に切られる。掘形は，まず上から約30cmは全体を下げ，中央を直径約1.8mの円形にさらに掘り下げる。下部の掘形も大きく椀形を呈し，底面が広い。曲物をやや西よりに据え，周囲を石で囲んで補強し，上面まで石を積み上げる。石は大小様々な自然礫を用い，積み方に規則性はない。礫はＳＥ40・41と同様に大型のものは軟質の凝灰質泥岩で，小さい礫には凝灰岩等の硬質のものも含まれる。埋土はオリーブ黒色シルト，黒色ローム，灰色粘土質ロームを基調とする層が水平堆積している。

出土遺物は土師器小片２点，漆器（*21*）・曲物（*12*）・円形板（*17*）・匙（*33*）・加工板である。谷状地上面で検出されたが，井戸構築方法がＳＥ40と似ていることから時期差はあまりないと考えられ，遺構の時期は15世紀後半～16世紀初頭と推定する。

40号井戸（ＳＥ40，第166図，図版93）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区ほぼ中央に位置し，建物よりやや離れた場所にある。直径2.46mの円形で，深さは66cmであるが，噴砂により激しく切られており一部原形をとどめていない箇所もある。

井戸側は石組で，大小の自然礫を組んでいる。元の位置をとどめる石組は下層の一段だけで，石組の一部であった可能性がある大小の自然礫が上・下層から出土した。出土した石は凝灰岩，片麻岩，凝灰質泥岩（大桑層泥質部）・砂岩等で石組の主体となる大型の礫は軟質の凝灰質泥岩である。井戸枠と認められるものはなかったが，曲物の細片が出土していることから，抜き取られた可能性もある。掘形は大きく底面も広く，中央からやや西よりに井戸側が構築される。黒褐色粘土質ロームと灰色シルト質ロームは裏込めの土とみられるが，上層にレンズ状に堆積する灰オリーブ色砂質ローム，黒褐色シルト，黒褐色シルト質ロームは井戸崩壊後埋積した層と推測される。

出土遺物は中世土師器・珠洲（*28*～*30*）・古瀬戸（*26*・*27*）・漆器（*25*・*27*）・曲物・加工板（*63*）・加工材・柱（*54*）・円形板（*18*）である。土器・陶磁器は15世紀のものが多く，降っても15世紀中頃におさまるが，漆器の年代から遺構の時期が16世紀に降る可能性もある。

41号井戸（ＳＥ41，第167図，図版93・94）

調査区中央やや東よりの微高地で検出した。

井戸側は上部の石組，下部の曲物３段からなる。石組はＳＥ40と同様に大小の自然礫を使用し，大型のものは軟質の凝灰質泥岩である。噴砂によって埋土が切り裂かれ，内部の曲物も液状化現象により斜めになっていた。長径は2.46m，短径は1.9mの不整形で，深さは75cmである。掘形はロート状で上部が椀形に大きく開口するが，下部はほとんど掘形がない。埋土は灰オリーブ色砂質ローム，黒褐色シルト，黒褐色シルト質ローム，灰色シルト質ロームである。

出土遺物は珠洲甕片１点，井戸枠として使用された曲物５点（*4*～*8*），砥石１点（*6*）で，他に焼けた自然礫（花崗岩）が出土した。井戸枠として使用された曲物の年輪年代の測定値は1296年で，13世紀末～14世紀初頭に伐採された材を使用したものと推定される[注38]。この曲物が転用後に井戸枠として使用されたとしても，井戸の年代は14世紀代におさまるものと考えられる。遺構の配置からみると，ＳＥ41はＳＢ６に隣接し，ＳＤ110を側溝とする道路際に位置する。しかしＳＢ６の時期は15世

注38　第二分冊　自然科学分析　光谷拓実「Ⅹ．手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡出土木製品の年輪年代」

紀中頃～後半と推定されるため，ＳＥ41はＳＢ６より古い時期のものといえ，建物に付属しない路傍の共同井戸と考えられる。

158号井戸（ＳＥ158，第168図，図版95）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区ほぼ中央に位置し，西側の建物群との関連が考えられる。建物域を区画するＳＤ33・ＳＤ69間のほぼ中央に位置する。

井戸側は曲物３段からなるが，一番上の曲物は抜き取られ，埋土に痕跡のみ残る。長径は2.01ｍ，短径は1.99ｍの不整形で，深さは70㎝である。掘形断面はロート状を呈し，上部は大きく皿形に開口して下部の掘形はほとんどない。

土層断面から，まず曲物を積み，下層掘形に裏込めの土を入れた後に上層掘形を埋めて構築したと考えられる。井戸枠の直径に対して上層の掘形の径が大きいが，掘形から呪符木簡以外の遺物は出土していないので廃棄土坑等の別遺構の可能性は低く，井戸構築のために掘られた掘形と考える。掘形の埋土は，下部の曲物周辺は灰色粘土質ローム，上部はオリーブ黒色シルト質ローム，灰色砂からなる。曲物内の埋土は上層の灰色シルト，下層の灰色粘土質ロームに分かれる。

出土遺物は珠洲甕（*20*），井戸枠として使用された曲物（*9*・*10*），漆器（*19*），呪符木簡（*57*）であり，他に焼けた自然礫（凝灰岩）が出土した。呪符木簡以外の遺物は井戸枠内の上部からまとまって出土しており，井戸の廃棄時に埋められたものと考えられる。呪符木簡は，井戸掘形の北側隅の底面に一部深くなる部分があり，その中から尖った方を下にして斜めに倒れた状態で出土した。掘形埋土の上面では土の違いは確認されておらず，呪符木簡が埋められた後に掘形が埋められたものと考えられる。井戸構築時の祭祀に関わる可能性が高い。遺構配置からＳＤ33・ＳＤ69に区画された建物の井戸と考えられ，14世紀の井戸と推定する。

183号井戸（ＳＥ183，第169図，図版93・95）

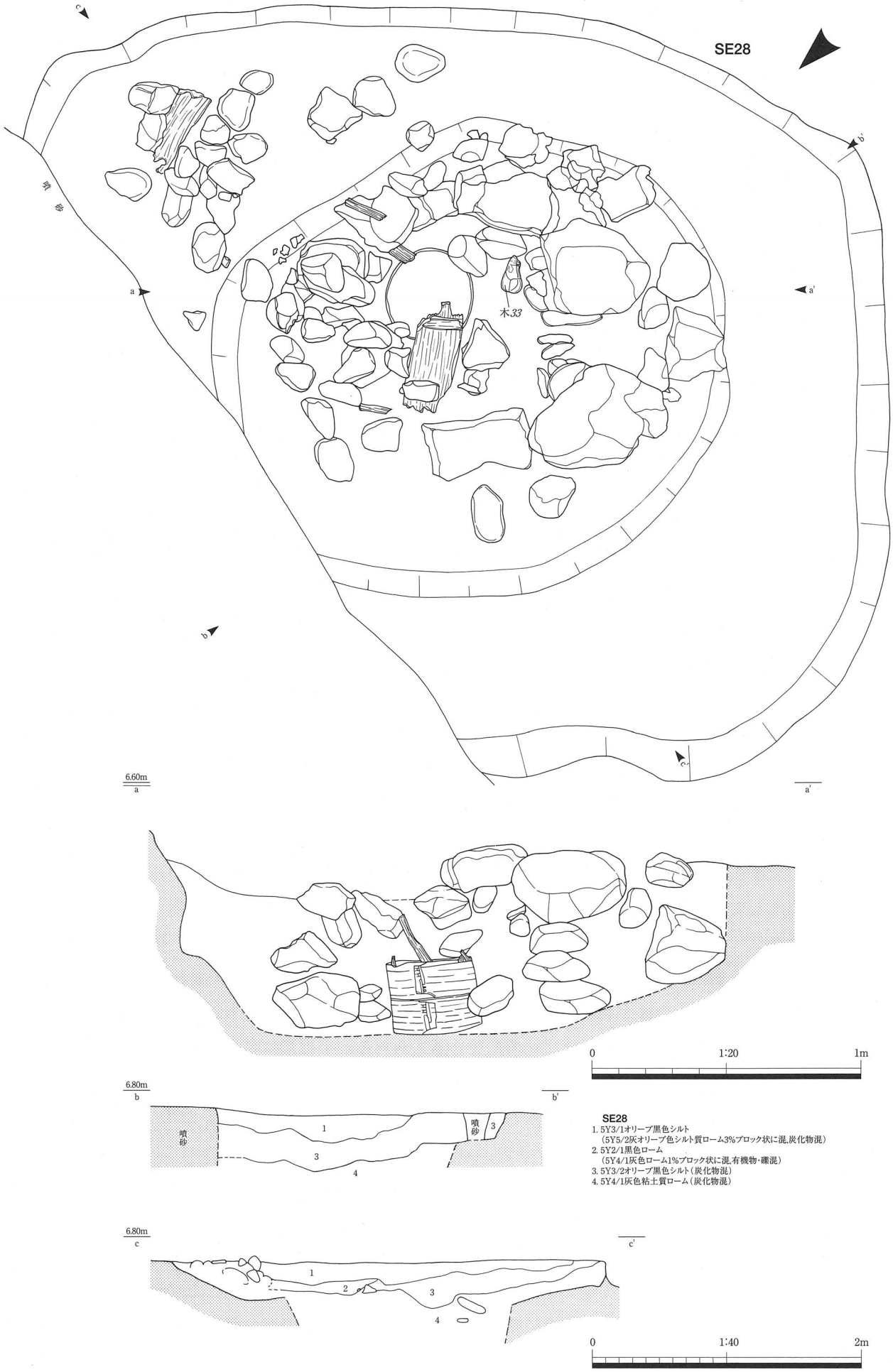
調査区東端に位置し，ＳＤ４の埋土下で検出した。付近に建物等の遺構はないが，調査区の端であるため，調査区外に同時期の遺構が存在する可能性もある。

井戸側構造は特殊で，上部は多量の草本植物の茎を立てて長方形の井壁に貼り付けるようにめぐらし，その上面に長方形に板を乗せる。板には特別な木組構造はない。また井戸内から割れた折敷底板が３枚出土しているが，井壁の補強のために転用されたものであろうか。３枚の内，辺材部が残る１枚の年輪年代の測定値は1306年であり[注39]，14世紀初頭に伐採された材を使用したものと考えられる。このことからＳＥ183の年代も14世紀前半と推定する。下部は楕円形の大型の曲物を据える。掘形は，著しい湧水のため地山の砂が崩れて確認が困難であったが，ほとんどないものと思われた。上部と約10㎝のズレがあるが，地震による液状化の影響と考えられる。平面形は長辺68㎝，短辺56㎝の長方形で，深さは67㎝である。埋土は上層のオリーブ黒色粘土質ロームと下層の灰色粘土質ロームからなる。

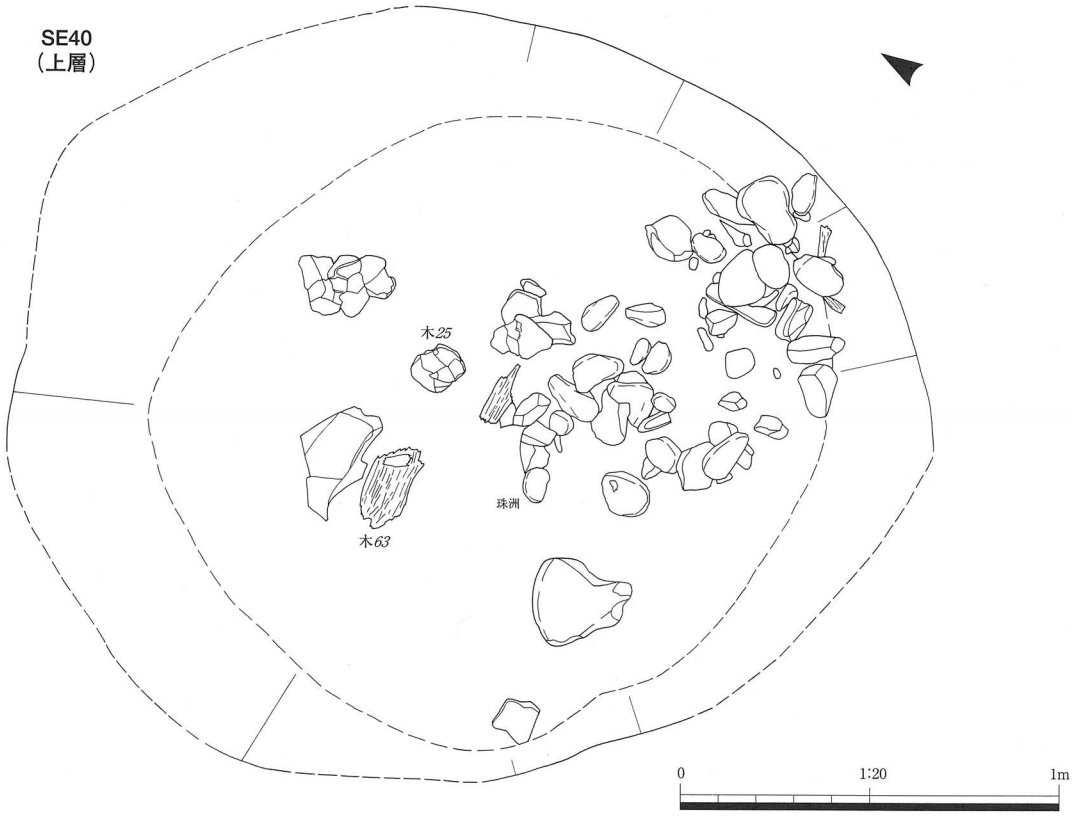
出土遺物は井戸枠として使用された曲物（*11*），折敷（*30*～*32*・*66*）・加工板（*64*）・加工棒（*65*）・部材（*67*）で，加工板・加工棒の出土が多い。

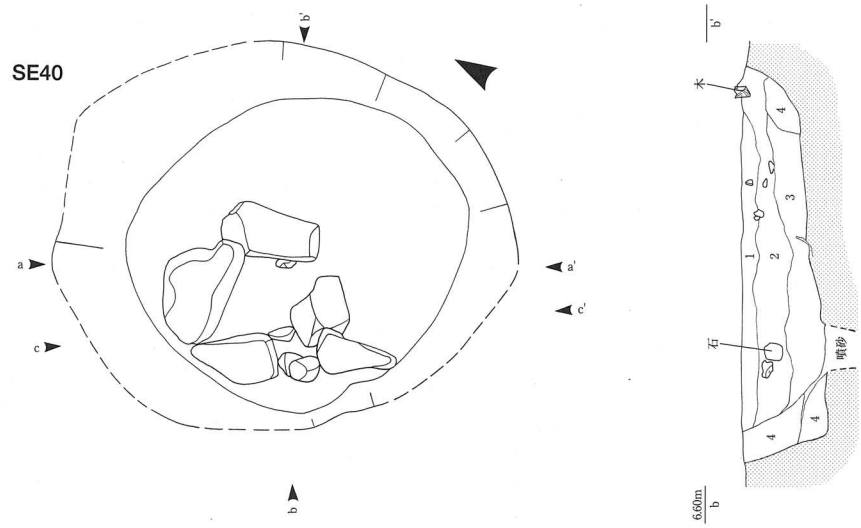
埋土の内，上層のオリーブ黒色粘土質ローム層を分析した結果，陸域指標種群の珪藻が検出され[注40]，花粉化石が非常に少ないことから，井戸使用時ではなく，後の堆積層と推測された。また，落葉のクワ属，アメガシワ等の樹木種実，ホタルイ属等の草本果実，カタバミ属等の草本種実が検出され，湿地的環境と乾き気味の環境が周辺に存在したと推定された[注41]。上層から出土した部材の放射性炭素年代から，井戸は14世紀末～15世紀前半に埋没したと推定され[注42]，その頃の環境を示すものと考えられる。

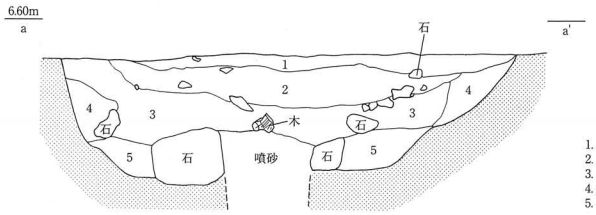
注39　第二分冊　自然科学分析　光谷拓実「Ⅹ．手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡出土木製品の年輪年代」
注40　第二分冊　自然科学分析　株式会社パレオ・ラボ　黒澤一男「Ⅲ．珪藻分析　２．岩坪岡田島遺跡の珪藻化石群集」
注41　第二分冊　自然科学分析　株式会社パレオ・ラボ　新山雅広　植田弥生「Ⅴ．手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡から出土した大型植物化石」
注42　第二分冊　自然科学分析　株式会社加速器分析研究所「Ⅸ．放射性炭素年代測定　１．手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡出土遺物の放射性炭素年代測定」



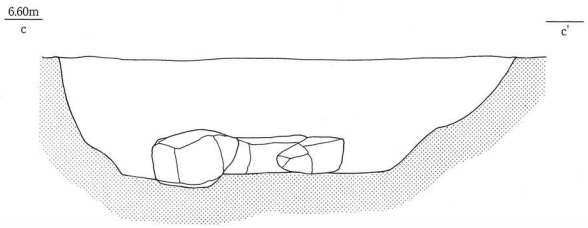
第165図　手洗野赤浦遺跡　遺構実測図
SE28

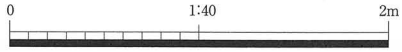




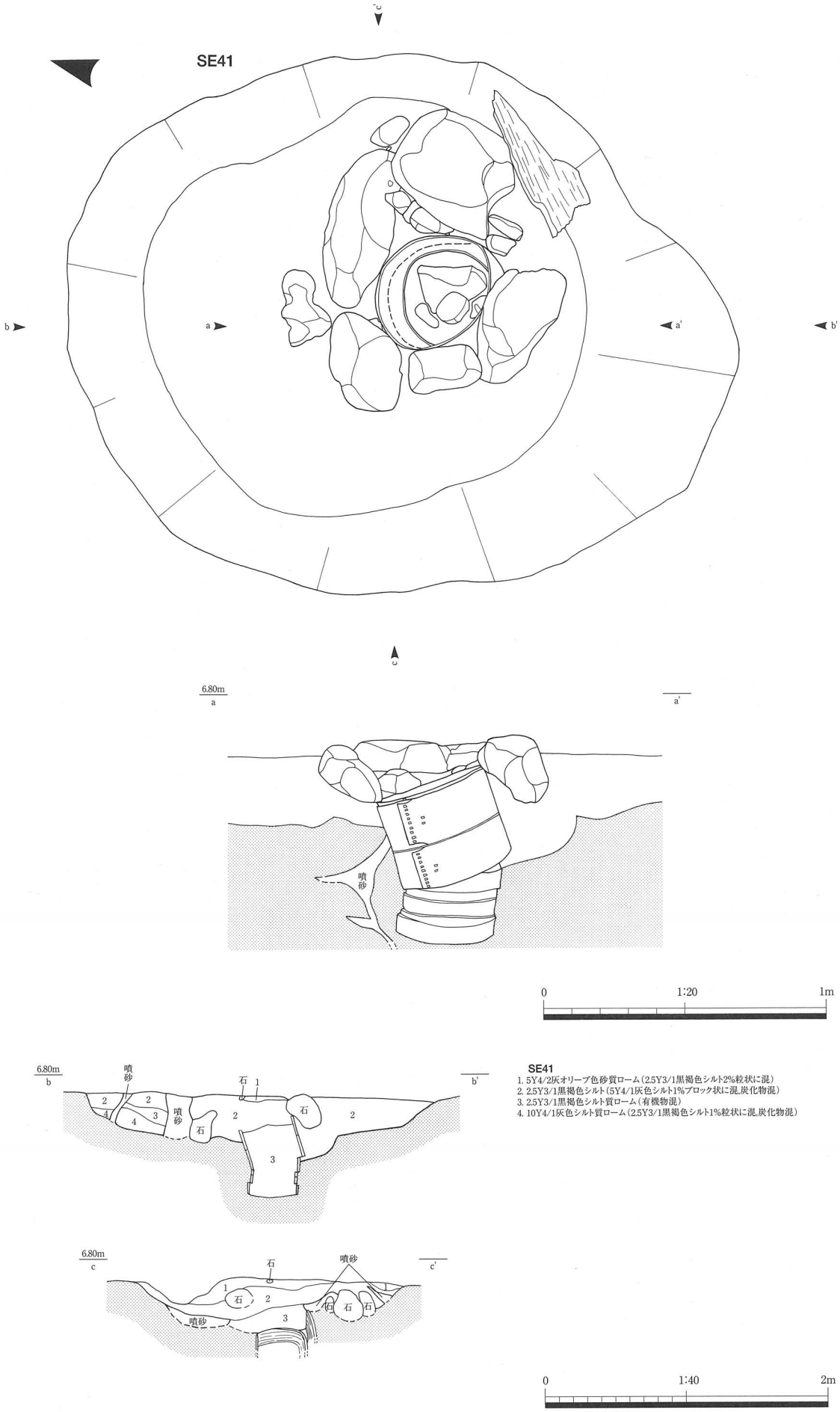


SE40
1. 5Y4/2灰オリーブ色砂質ローム（2.5Y3/1黒褐色シルト2%粒状に混）
2. 2.5Y3/1黒褐色シルト（5Y4/1灰色シルト1%ブロック状に混,炭化物混）
3. 2.5Y3/1黒褐色シルト質ローム（有機物混）
4. 10Y4/1灰色シルト質ローム（2.5Y3/1黒褐色シルト1%粒状に混,炭化物混）
5. 2.5Y3/1黒褐色粘土質ローム



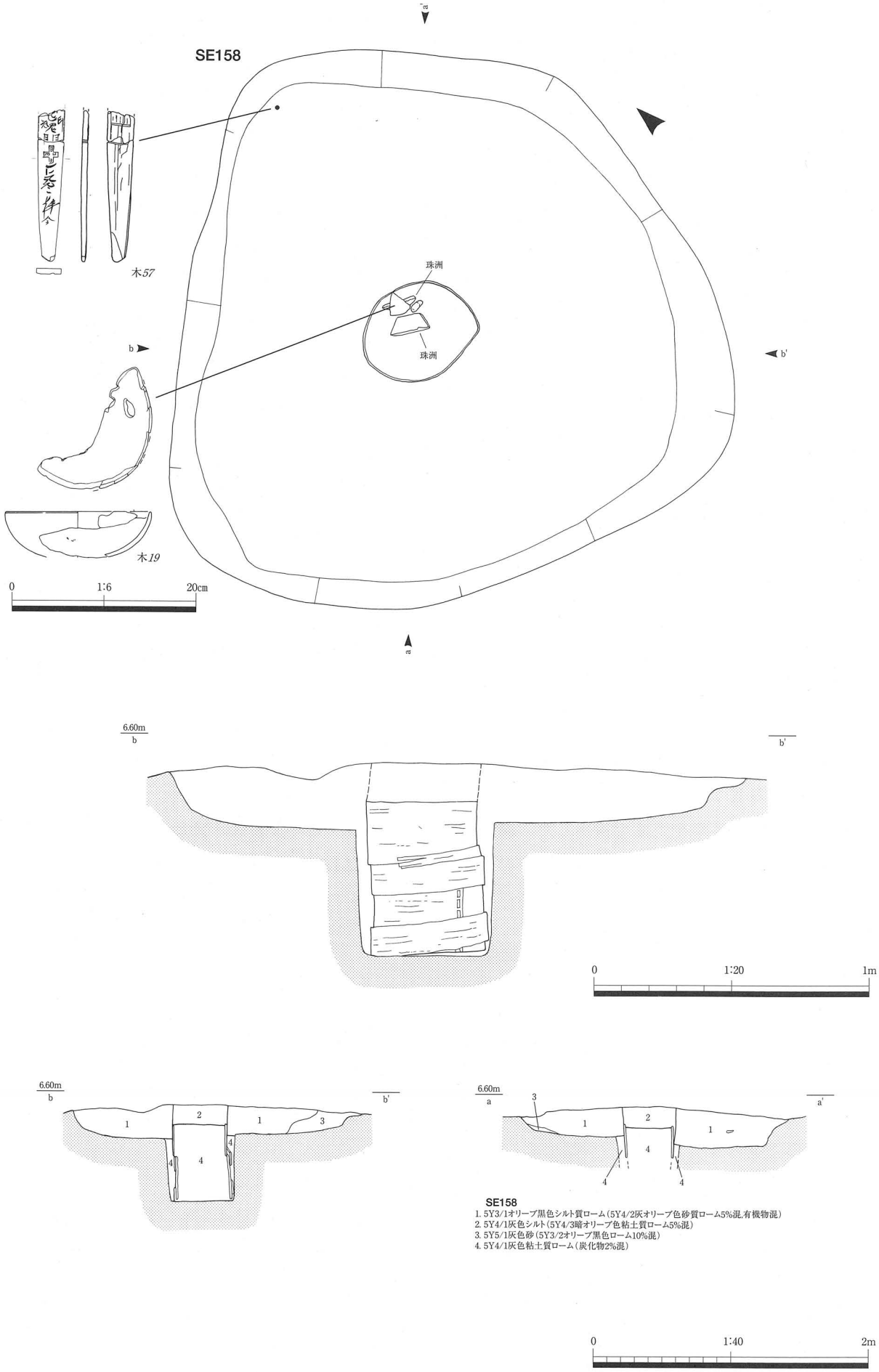


第166図　手洗野赤浦遺跡　遺構実測図
SE40

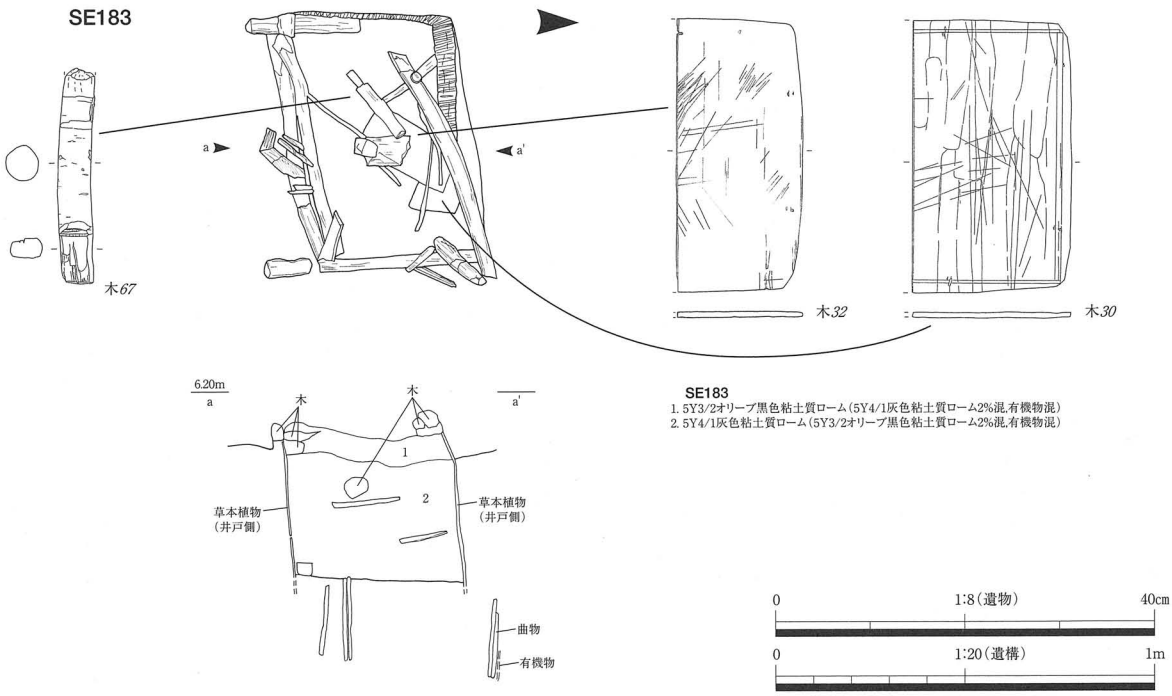


SE41
1. 5Y4/2灰オリーブ色砂質ローム（2.5Y3/1黒褐色シルト2%粒状に混）
2. 2.5Y3/1黒褐色シルト（5Y4/1灰色シルト1%ブロック状に混,炭化物混）
3. 2.5Y3/1黒褐色シルト質ローム（有機物混）
4. 10Y4/1灰色シルト質ローム（2.5Y3/1黒褐色シルト1%粒状に混,炭化物混）

第167図　手洗野赤浦遺跡　遺構実測図
SE41



第168図　手洗野赤浦遺跡　遺構実測図
SE158



第169図　手洗野赤浦遺跡　遺構実測図
SE183

（6）土坑

2号土坑（ＳＫ２，第170図，図版99）

谷状地（ＳＤ18）埋土上面で検出した。調査区中央部北側に位置する。西側を噴砂に切られる。平面形は楕円形を呈し，規模は63cm×44cm，深さ11cmである。浅い皿状に窪み，炭化物がその中に敷かれたように薄く堆積する。埋土は下層が灰色シルト質ロームで，炭化物層を挟んで上層は灰色ローム，オリーブ黒色シルト質ロームである。出土遺物はない。

7号土坑（ＳＫ７，第170図）

谷状地（ＳＤ18）埋土上面で検出した。調査区中央部に位置する。ＳＫ８～11と近接し，関連が考えられるが性格は不明である。平面形は不整形を呈し，規模は1.14m×85cm，深さは31cmである。埋土は黒褐色ローム，灰色シルト質ローム，オリーブ黒色シルトの水平堆積である。出土遺物は珠洲小片２点である。

8号土坑（ＳＫ８，第170図）

谷状地（ＳＤ18）埋土上面で検出した。調査区中央部に位置する。ＳＫ７・９～11と近接し，関連が考えられるが性格は不明である。平面形は円形を呈し，直径50cm，深さは50cmである。掘形は上部を広く掘り，その一部を深く掘り下げる二段掘りになっているので柱穴の可能性もあるが，付近に並ぶ柱穴はない。埋土は上層がオリーブ黒色粘土質ローム，下層が黒色砂質ローム，灰色シルトを基調とする。出土遺物はない。

9号土坑（ＳＫ９，第170図）

谷状地（ＳＤ18）埋土上面で検出した。調査区中央部に位置する。ＳＫ７・８・10～11と近接し，関連が考えられるが性格は不明である。平面形は楕円形を呈し，規模は41cm×35cm，深さは14cmである。埋土はオリーブ黒色粘土質ローム，灰色シルトを基調とする。出土遺物はない。

10号土坑（ＳＫ10，第170図）

谷状地（ＳＤ18）埋土上面で検出した。調査区中央部に位置する。ＳＫ７～９・11と近接し，関連

が考えられるが性格は不明である。西側を暗渠に切られ全体の形は不明である。規模は幅55㎝，深さは18㎝である。埋土はオリーブ黒色ローム，オリーブ黒色粘土質ローム，灰オリーブ色砂質ロームを基調とする。出土遺物は土師質土器擂鉢の破片１点である。

11号土坑（ＳＫ11，第170図）

谷状地（ＳＤ18）埋土上面で検出した。調査区中央部に位置する。ＳＫ７～10と近接し，関連が考えられるが性格は不明である。平面形は楕円形を呈し，規模は69㎝×55㎝，深さは28㎝である。断面は台形状を呈する。埋土はオリーブ黒色ローム，オリーブ黒色粘土質ロームを基調とする。出土遺物は珠洲の小片である。

12号土坑（ＳＫ12，第171図，図版96）

調査区北東の微高地で検出した。ＳＢ７～10の建物群と切り合いがある。平面形は不整形を呈する。規模は5.86ｍ×2.6ｍ，深さ34㎝の大型土坑である。埋土は灰オリーブ色粘土質ローム，黒褐色砂質ローム，褐灰色砂等である。検出面は砂質であるため，建物を建てる前に凹地を整地したものであろうか。出土遺物は縄文土器・土師器・珠洲・古瀬戸（*26*）・骨角製簪（*1*）で，土器・陶磁器はすべて割れた破片であり１点ずつ出土している。古瀬戸はＳＥ40との接合資料である。遺物の時期から14世紀の遺構と推定される。切り合い関係から，ＳＢ７のＳＰ204・ＳＢ８のＳＰ238・ＳＢ10のＳＰ239より古く，ＳＫ308より新しい。

26号土坑（ＳＫ26，第171図）

谷状地（ＳＤ18）埋土上面で検出した。調査区中央南側に位置し，ＳＢ11とＳＢ12の間にある。ＳＫ27に隣接する。平面形は楕円形を呈し，規模は1.5ｍ×97㎝，深さは56㎝である。掘形は上層を広く掘り，その一部を深く掘り下げる二段掘りである。埋土は暗灰黄色シルト質ローム，オリーブ黒色シルト質ロームを基調とする水平堆積である。埋土を分析した結果，イネ未炭化穎，アサ，スベリヒユ等の種実，ソバ等の花粉が検出され，周辺に水田，畑地があった可能性が示唆された[注43]。

出土遺物は土師器小片２点，加工板１点で，板は底面から出土した。

27号土坑（ＳＫ27，第171図）

谷状地（ＳＤ18）埋土上面で検出した。調査区中央南側に位置し，ＳＢ11とＳＢ12の間にある。ＳＫ26に隣接する。平面形は不整形を呈し，規模は1.64ｍ×75㎝，深さは16㎝である。浅い皿状の窪みで，中央部分が噴砂に切られる。埋土は暗灰黄色シルト質ローム，オリーブ黒色シルト質ローム等を基調とする。出土遺物は中世土師器（*31*）である。

47号土坑（ＳＫ47，第172図，図版95）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区ほぼ中央に位置し，ＳＢ１～３の北に位置するＳＤ33と交差する。平面形は楕円形を呈し，規模は3.16ｍ×1.75ｍ，深さ30㎝，大型で浅い土坑である。埋土はオリーブ黒色シルト，黒褐色ローム，灰色砂を基調とし，間に有機物を挟んでいた。

出土遺物は中世土師器皿１点（*32*），中国製青磁碗１点（*33*），漆器椀１点（*24*），曲物状の薄板１点である。漆器椀は完形に近く，土坑の中央底面に張り付いた状態で出土し，曲物状薄板片はやや中心からずれた底面近くで出土した。中世土師器は土器集中地点で出土した皿類と胎土等が共通する有台の稜皿であり，南端の埋土上面から出土した。中国製青磁も同様に南端の埋土上面で出土した。

ＳＫ47に近い地山直上で中世土師器皿が３枚まとまって出土しており，上面で出土した中世土師器，中国製青磁は，ＳＫ47埋没後にこれらとともに祭祀的な意味合いをもって据え置かれたものと考えられる。中世土師器による祭祀はＳＤ245に伴うものと推定されるので，ＳＫ47はＳＤ245より古い時期

注43　第二分冊　自然科学分析　株式会社パレオ・ラボ　新山雅広　植田弥生「Ⅴ．手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡から出土した大型植物化石」
　　第二分冊　自然科学分析　株式会社パレオ・ラボ　新山雅広「Ⅱ．花粉分析　１．手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡の花粉化石群集」

の遺構と考えられる。一方底面で出土した漆器等については，ＳＫ47に伴う祭祀行為の可能性が考えられる。切り合い関係では，ＳＤ33と交差するが噴砂のため新旧は明確でなかった。埋土上面の青磁が14世紀前半～15世紀前半，底面の漆器が14世紀代と推定されるので，遺構の年代は14世紀代と推定される。

50号土坑（ＳＫ50，第173図）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区中央北側に位置し，ＳＢ１～３を囲む溝の外側にある。平面形は楕円形を呈するが，噴砂に切られて若干変形している。規模は1.57m×1.08m，深さ10cmである。埋土はオリーブ黒色ローム，灰色砂が水平堆積する。出土遺物は土師器片１点である。

67号土坑（ＳＫ67，第173図）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区中央やや南側に位置し，ＳＢ４の内部にある。平面形は円形を呈し，規模は，73cm×63cm，深さ18cmである。埋土は黒褐色シルトの単層である。出土遺物はない。

68号土坑（ＳＫ68，第173図）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区ほぼ中央に位置し，ＳＥ40の南にあるＳＫ113に隣接する。平面形は円形を呈するが，噴砂と湧水で変形している。規模は1.18m×1.13m，深さ29cmである。埋土は灰色砂の上に，オリーブ黒色シルト，黒褐色シルトがレンズ状に堆積する。出土遺物はない。

72号土坑（ＳＫ72，第172図，図版96）

谷状地（ＳＤ18）埋土上面で検出した。調査区北西部に位置する。平面形は隅丸方形を呈し，規模は2.85m×2.21m，深さは28cmである。中央に溝状の掘り込みがある。埋土は砂混じりの黒褐色粘土，灰色シルトで，水平堆積である。出土遺物は越前の擂鉢片１点である。

99号土坑（ＳＫ99，第149図，図版89）

谷状地（ＳＤ18）埋土上面で検出した。調査区中央に位置し，ＳＢ12のＳＰ20に切られる。平面形は楕円形を呈し，深さは19cmである。出土遺物はない。

113号土坑（ＳＫ113，第173図）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区中央に位置し，ＳＥ40の南に隣接する。平面形は噴砂や湧水で変形し，不整形を呈する。規模は2.49m×2.21m，深さ22cmである。埋土はオリーブ黒色シルト質ロームと灰色粘土質ロームの水平堆積である。出土遺物は13世紀末～14世紀中頃の珠洲甕１点（*34*）である。

118号土坑（ＳＫ118，第173図）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区西側に位置し，ＳＢ１～３を囲む溝の外側にある。平面形は円形を呈し，規模は30cm×29cm，深さ16cmである。埋土はオリーブ黒色シルト質ロームを基調とする。出土遺物は土師器小片１点・加工板・種実（クリ）である。

123号土坑（ＳＫ123，第173図）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区ほぼ中央に位置する。平面形は楕円形を呈し，規模は2.05m×1.51m，深さ28cmである。埋土は壁際にオリーブ黒色シルト質ローム，その内側に灰色砂質ロームを基調とする土が埋積する。オリーブ黒色シルト質ロームは壁の崩壊を防ぐため貼り付けたものであろうか。出土遺物は加工板１点である。

127号土坑（ＳＫ127，第174図）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区西側に位置し，ＳＢ１～３を囲む溝群の東側にある。

平面形は楕円形を呈し，規模は68cm×62cm，深さ14cmである。埋土は灰色シルト混じりのオリーブ黒色シルト質ロームで，噴砂に切られる。出土遺物はない。

128号土坑（ＳＫ128，第174図）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区西側に位置し，ＳＢ１～３を囲む溝群の西側にある。平面形は円形を呈し，規模は直径62cm，深さ16cmである。埋土は灰色シルト混じりのオリーブ黒色シルト質ロームである。ＳＫ129との切り合いは噴砂のため不明である。出土遺物はない。

129号土坑（ＳＫ129，第174図）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区西側に位置し，ＳＢ１～３を囲む溝群の西側にある。平面形は円形を呈し，規模は直径34cm，深さ16cmである。埋土は灰色シルト混じりのオリーブ黒色シルト質ロームである。ＳＫ128との切り合いは噴砂のため不明である。出土遺物はない。

130号土坑（ＳＫ130，第174図）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区中央北側に位置し，ＳＢ１～３を囲む溝群の西側にある。平面形は楕円形を呈し，規模は1.5m×1.12m，深さ26cmである。埋土は灰色シルト混じりのオリーブ黒色シルト質ローム，灰色砂質ロームである。出土遺物はない。

133号土坑（ＳＫ133，第174図，図版87）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区中央西側に位置し，ＳＢ１～３を囲む溝群の西側にある。平面形は隅丸方形を呈し，規模は2.42m×2.18m，深さ12cmである。埋土はオリーブ黒色砂質ロームを主体とし，中央を噴砂に切られる。

出土遺物は土師器皿の破片１点，珠洲擂鉢片１点である。土師器は回転糸切りの底部片で，土器集中地点の中世土師器と同じタイプである可能性が高い。珠洲はⅤ期頃のものである。隣接するＳＫ134と同様に西側の建物群に関連する遺構の可能性がある。

134号土坑（ＳＫ134，第174図，図版87）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区中央西側に位置し，ＳＢ１～３を囲む溝群の西側にある。平面形は隅丸方形を呈し，規模は2.82m×2.04m，深さ24cmである。埋土は下層にオリーブ黒色ロームと灰オリーブ色砂がレンズ状に薄く堆積し，その上に灰色シルト質ロームが乗っている。

出土遺物は中世土師器（*35*）・種実（モモ）である。隣接するＳＫ134と同様に西側の建物群に関連する遺構の可能性がある。遺構の年代は，モモ核の放射性炭素年代から14世紀末～15世紀前半と推定される[注44]。

155号土坑（ＳＫ155，第175図，図版96）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区南東部に位置し，ＳＤ156で区画された建物域の外側にある。平面形は円形を呈し，規模は直径51cm，深さ25cmである。

掘形の中心に曲物（*13*）が据えられており，底面には割れた側板の大型破片が敷かれていた。曲物は上部が欠損しており，もう少し器高があったものと考えられる。曲物内には大型の破片の他に，据えられた曲物の一部とみられる破片が裂けた状態で検出された。埋土は掘形が黄灰色粘土質ローム，曲物内がオリーブ褐色砂質ロームである。浅いため井戸の可能性は低く，集落域を離れていることと，底面の側板の出土状況から特殊な性格のものと考えられる。出土遺物は曲物の他にはない。

182号土坑（ＳＫ182，第175図）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。調査区南端に位置し，周囲に遺構はあまりみられない。平面形は楕円を呈し，規模は62cm×58cm，深さ32cmである。埋土はオリーブ黒色シルト，灰色ロームを基

注44　第二分冊　自然科学分析　株式会社加速器分析研究所「Ⅸ．放射性炭素年代測定　１．手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡出土遺物の放射性炭素年代測定」

調とする。出土遺物はない。

185号土坑（ＳＫ185，第175図）

調査区北東部の微高地で検出した。ＳＢ９内にある。平面形は円形を呈し，規模は43cm×38cm，深さ28cmである。埋土はオリーブ黒色ローム，オリーブ黒色シルトを基調とし，噴砂に切られる。中央部を深く掘り下げる柱穴状を呈するが，建物には並ばない。出土遺物は加工板１点・種実（オニグルミ）である。

193号土坑（ＳＫ193，第175図，図版96）

調査区北東部の微高地で検出した。ＳＢ７～10の北に隣接する。平面形は楕円形を呈し，規模は1.19m×88cm，深さ８cmである。埋土はオリーブ黒色シルト，灰色シルト，灰オリーブ砂質ロームを基調とする。出土遺物はない。切り合い関係では，ＳＫ194より新しい。

194号土坑（ＳＫ194，第175図，図版96）

調査区北東部の微高地で検出した。ＳＢ７～10の北に隣接する。平面形は楕円形を呈し，規模は68cm×53cm，深さ12cmである。埋土はオリーブ黒色シルト，灰色シルト，灰オリーブ砂質ロームを基調とする。出土遺物はない。切り合い関係では，ＳＫ193より古い。

229号土坑（ＳＫ229，第175図）

調査区北東部の微高地で検出した。ＳＢ９の北側にある。平面形は楕円形を呈し，規模は46cm×33cm，深さ16cmである。埋土はオリーブ黒色粘土質ローム，灰色砂質ロームを基調とする。出土遺物はない。切り合い関係ではＳＫ230より新しい。

230号土坑（ＳＫ230，第175図）

調査区北東部の微高地で検出した。ＳＢ９の北側にある。平面形は楕円形を呈し，規模は94cm×65cm，深さ22cmである。埋土は灰色シルト混じりのオリーブ黒色粘土質ロームである。出土遺物はない。切り合い関係ではＳＫ231より新しく，ＳＫ229より古い。

231号土坑（ＳＫ231，第175図）

調査区北東部の微高地で検出した。ＳＢ９の北側にある。平面形は楕円形を呈し，規模は1.49m×1.10m，深さ29cmである。埋土は灰オリーブ色粘土質ローム，灰色砂質ロームを基調とする。出土遺物はない。切り合い関係ではＳＫ230・ＳＫ235より古い。

235号土坑（ＳＫ235，第175図，図版96）

調査区北東部の微高地で検出した。ＳＢ９の北側にある。平面形は楕円形を呈し，規模は36cm×35cm，深さ40cmである。埋土はオリーブ黒色粘土質ローム，灰オリーブ色粘土質ロームを基調とする。

出土遺物は鍬１点（*1*），柱１点（*56*），加工板１点で，折り重なるようにして出土した。切り合い関係ではＳＫ231より新しい。

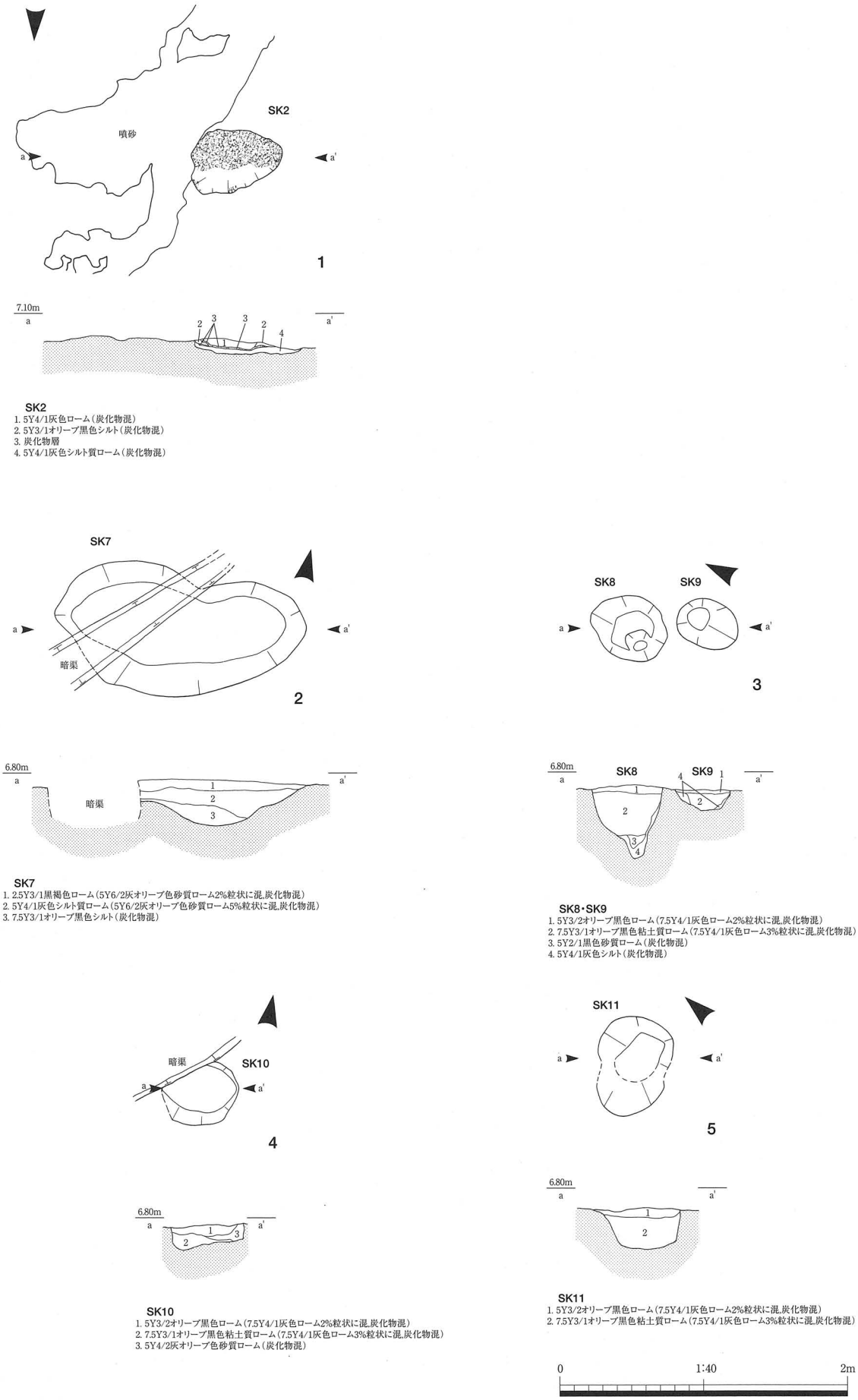
248号土坑（ＳＫ248，第175図，図版96）

谷状地（ＳＤ18）埋土下で検出した。ＳＤ69の北側に隣接する。平面形は楕円形を呈し，規模は1.28m×90cm，深さ16cmである。埋土は灰色粘土質ローム，灰色シルトを基調とする水平堆積である。

出土遺物は珠洲壺の底部片１点（*36*），加工板で，板は下層から出土した。

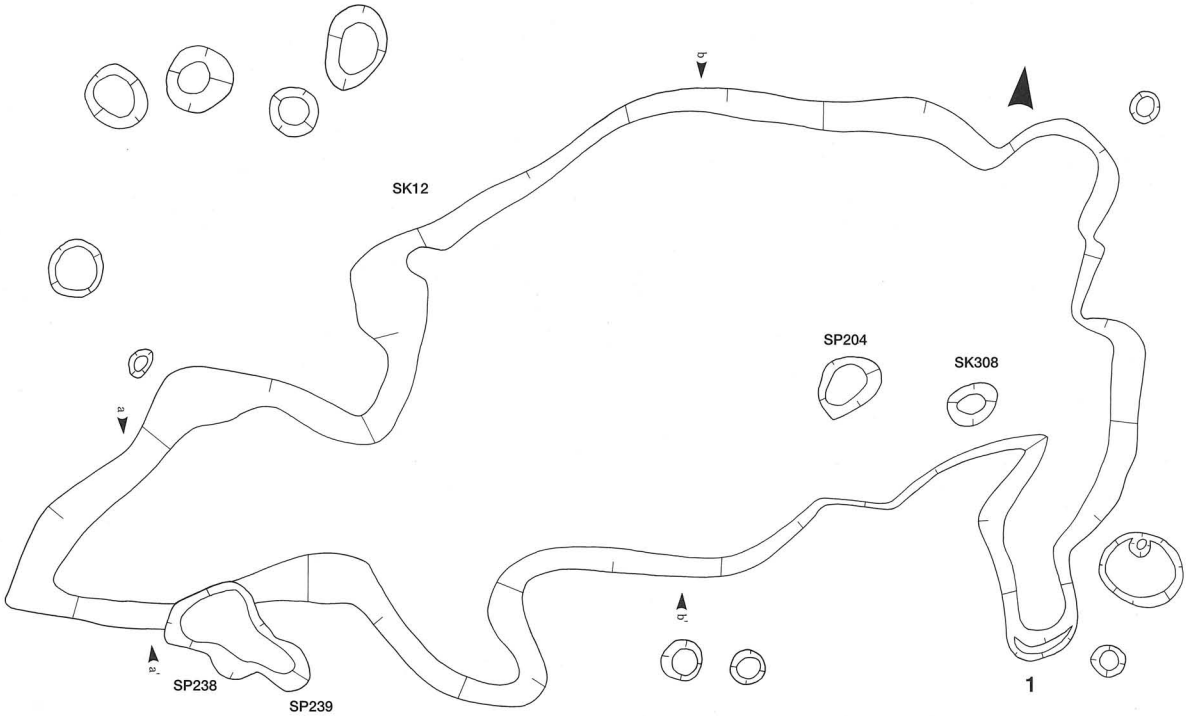
252号土坑（ＳＫ252，第153・154図）

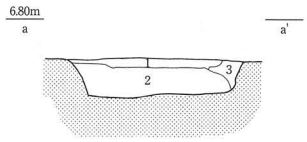
調査区東側の微高地で検出した。平面形は不整形を呈し，規模は1.45m×1.2mであるが，噴砂によって若干変形している。埋土はオリーブ黒色シルト質ロームである。出土遺物はない。切り合い関係ではＳＤ138より新しい。

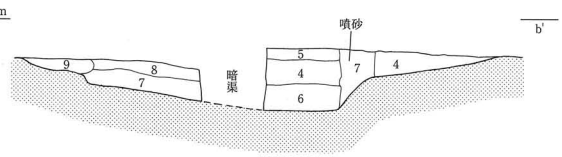


第170図　手洗野赤浦遺跡　遺構実測図

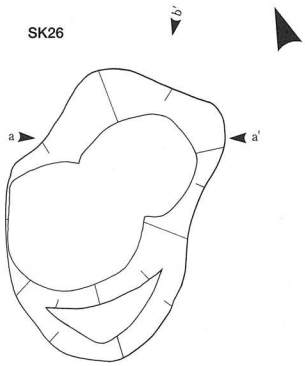
1. SK2　2. SK7　3. SK8・SK9　4. SK10　5. SK11

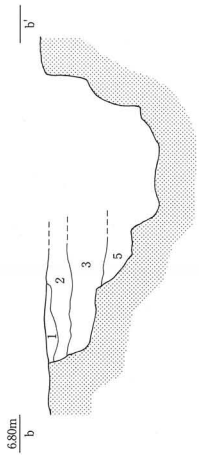


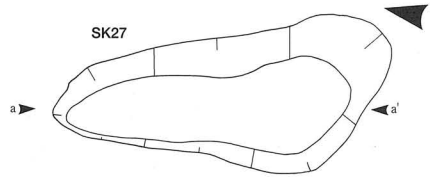


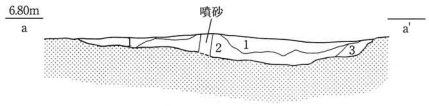


SK12
1. 5Y4/2灰オリーブ色粘土質ローム（5Y3/1オリーブ黒色シルト5%混）
2. 5Y4/2灰オリーブ色粘土質ローム（5Y3/2オリーブ黒色シルト質ローム1%混）
3. 5Y5/1灰色砂
4. 10YR1.7/1黒色砂質ローム（10YR2/2黒褐色ローム1%混）
5. 10YR2/2黒褐色ローム（10YR1.7/1黒色砂質ローム1%混）
6. 10YR4/2灰黄褐色砂質ローム
7. 10YR4/1褐灰色砂（噴砂）
8. 10YR3/2黒褐色砂質ローム（10YR4/1褐灰色砂1%混）
9. 10YR3/2黒褐色ローム（10YR4/1褐灰色砂1%混,炭化物混）

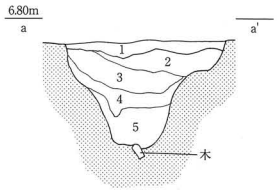








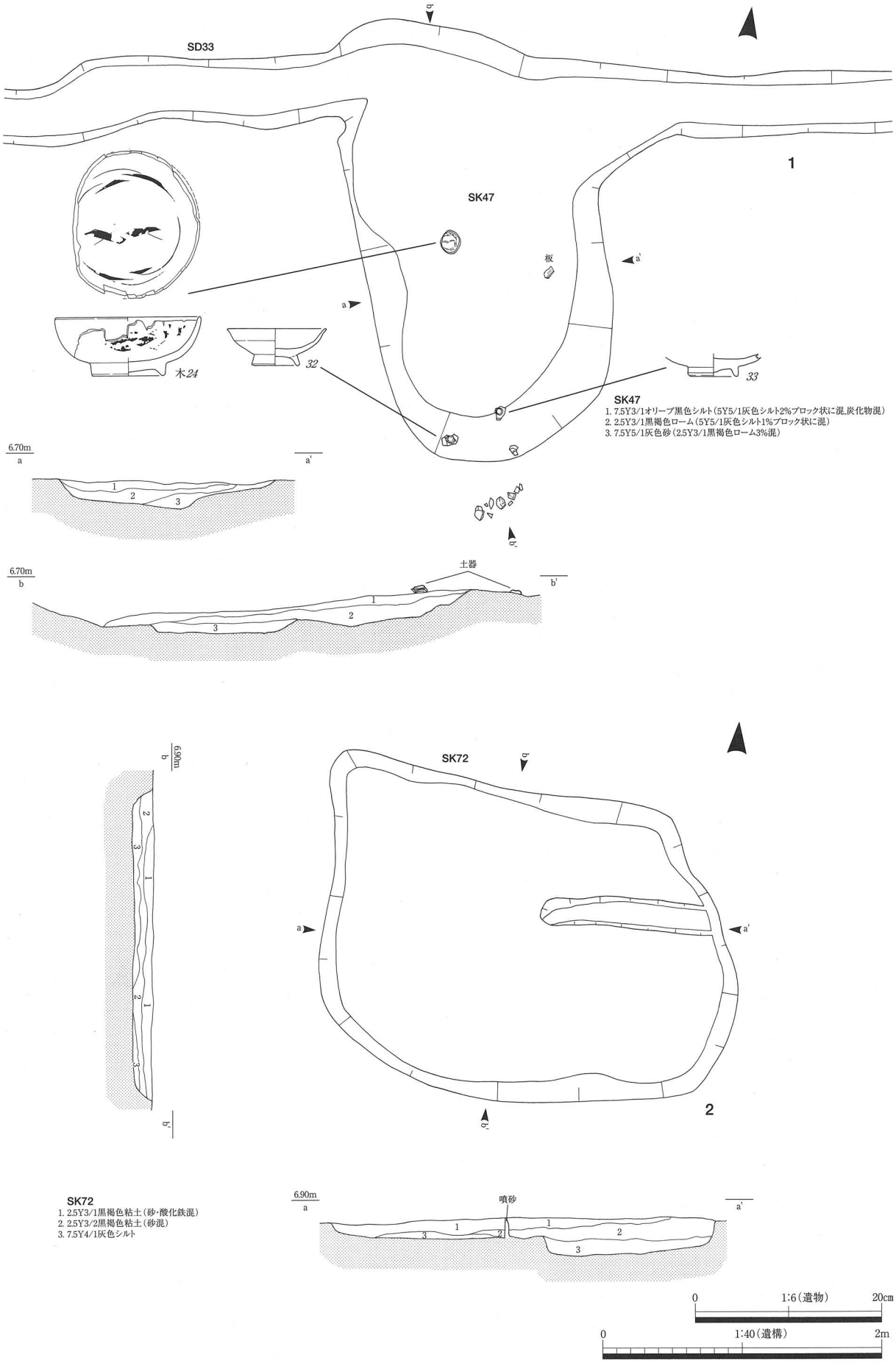
SK27
1. 2.5Y4/2暗灰黄色シルト質ローム（2.5Y6/3にぶい黄色ローム2%ブロック状に混,炭化物混）
2. 5Y3/1オリーブ黒色シルト質ローム（5Y6/1灰色シルト5%ブロック状に混,炭化物混）
3. 5Y3/1オリーブ黒色シルト質ローム（5Y6/1灰色シルト10%ブロック状に混）



SK26
1. 2.5Y4/2暗灰黄色シルト質ローム（2.5Y6/3にぶい黄色ローム2%ブロック状に混,炭化物混）
2. 5Y3/1オリーブ黒色シルト質ローム（5Y6/1灰色シルト5%ブロック状に混,炭化物混）
3. 5Y3/1オリーブ黒色シルト質ローム（5Y6/1灰色シルト10%ブロック状に混）
4. 5Y3/1オリーブ黒色粘土質ローム（5Y6/1灰色シルト2%ブロック状に混,炭化物混）
5. 5Y3/1オリーブ黒色粘土質ローム（5Y6/1灰色シルト2%ブロック状に混）

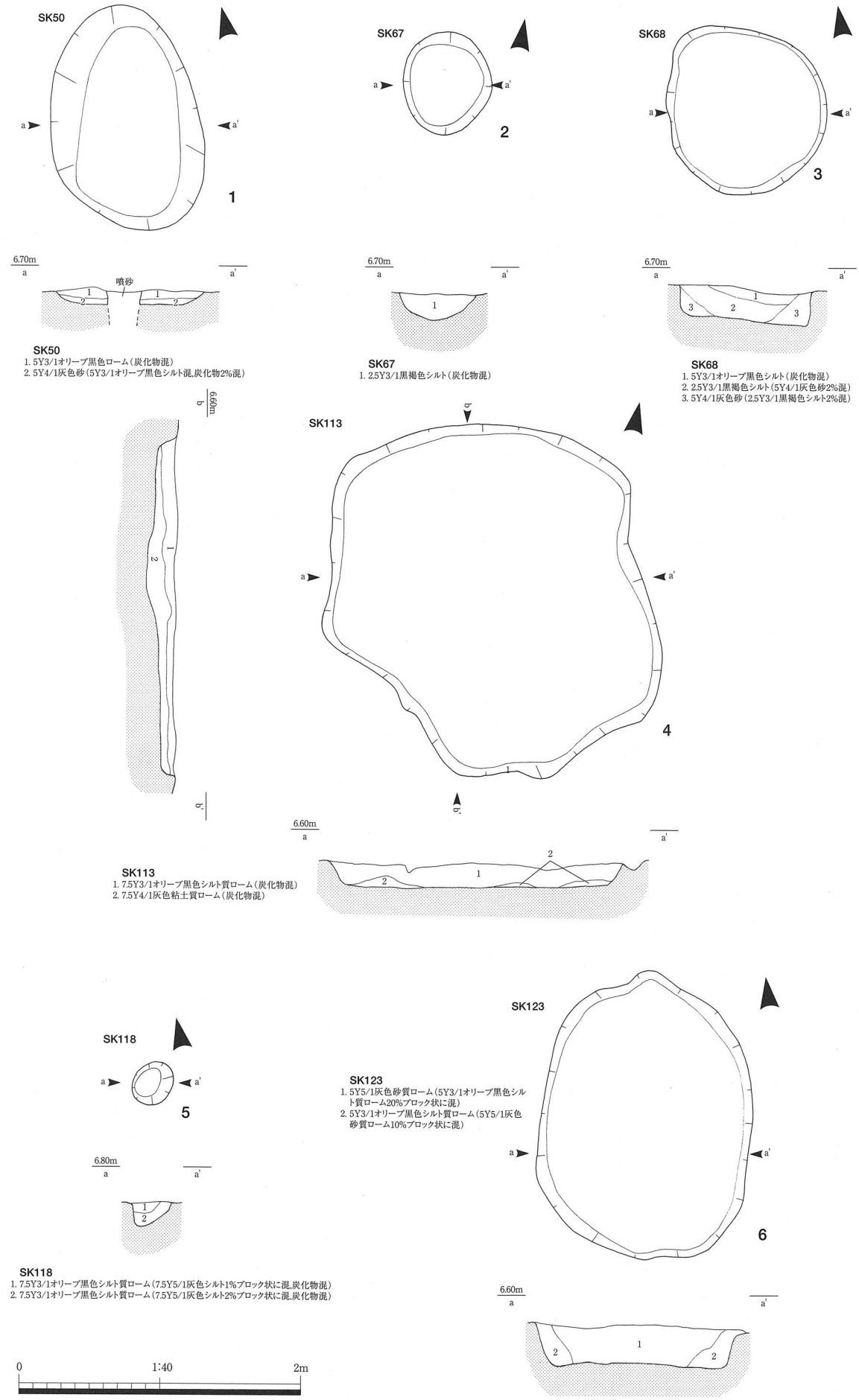
第171図　手洗野赤浦遺跡　遺構実測図

1. SK12　2. SK26　3. SK27



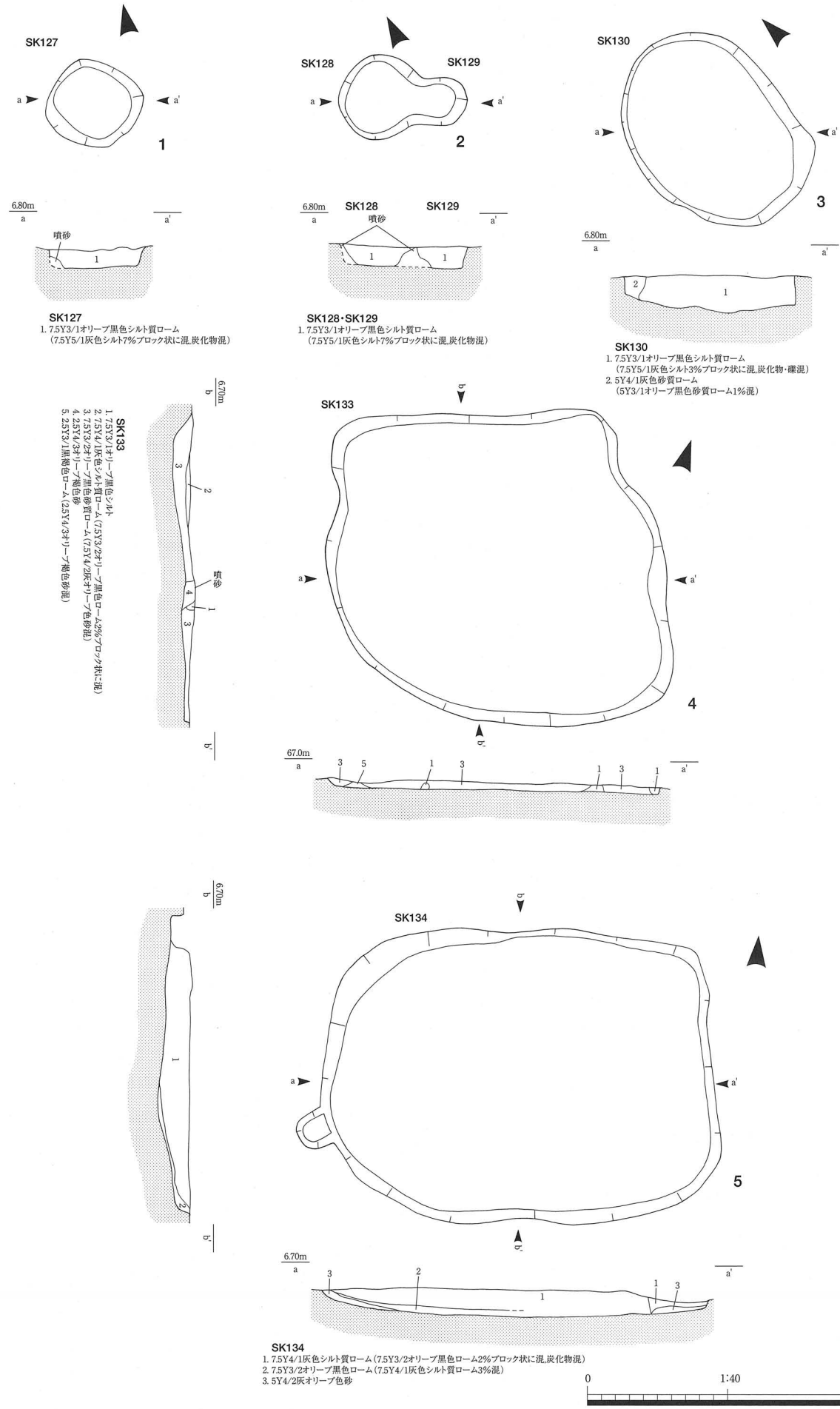
第172図　手洗野赤浦遺跡　遺構実測図

1. SK47　2. SK72



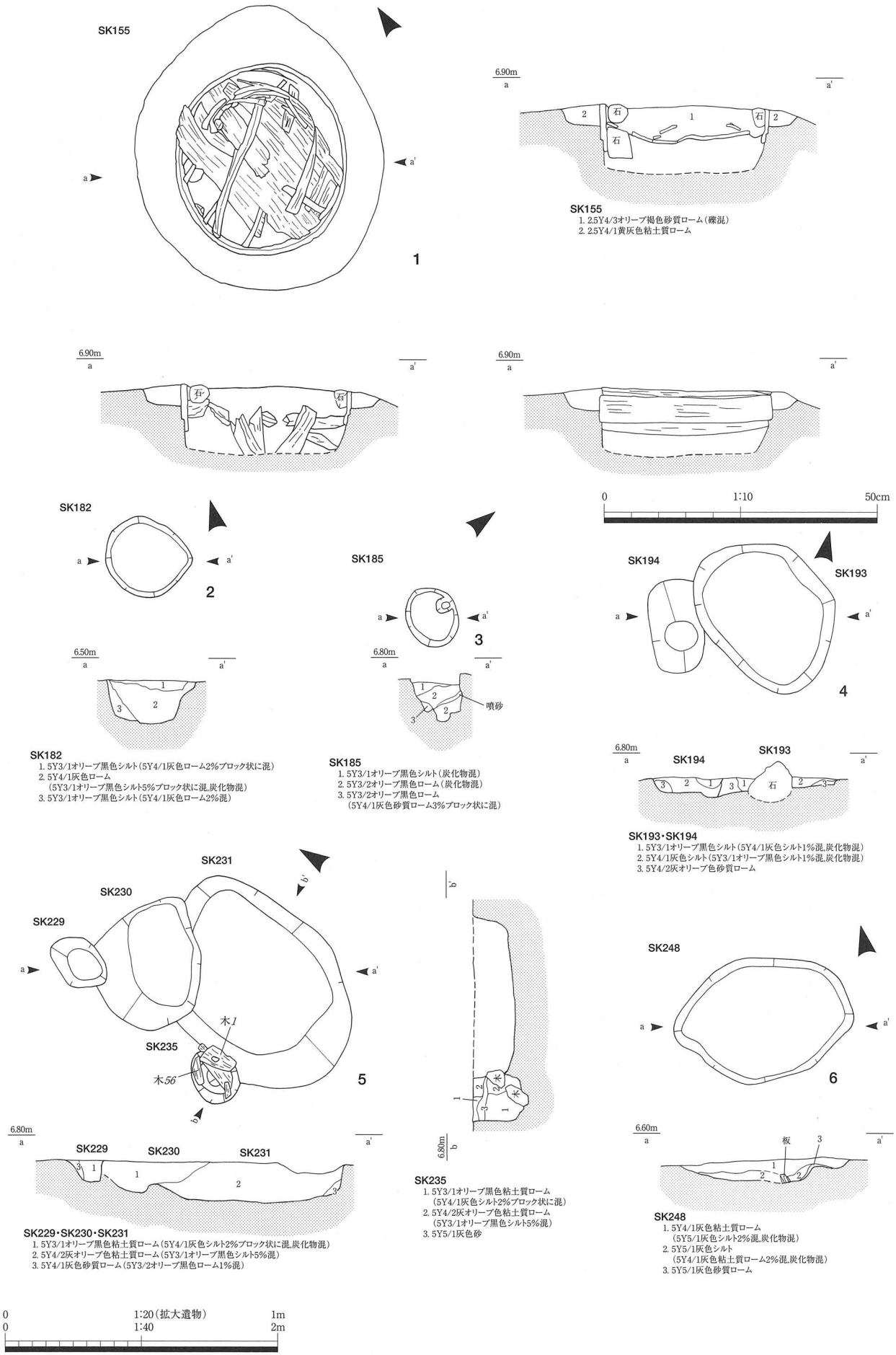
第173図　手洗野赤浦遺跡　遺構実測図

1. SK50　2. SK67　3. SK68　4. SK113　5. SK118　6. SK123



第174図　手洗野赤浦遺跡　遺構実測図

1. SK127　2. SK128・SK129　3. SK130　4. SK133　5. SK134



第175図　手洗野赤浦遺跡　遺構実測図

1. SK155　2. SK182　3. SK185　4. SK193・SK194　5. SK229・SK230・SK231・SK235　6. SK248

（７）畑（ＳＤ80～97，第176図，図版97）

谷状地（ＳＤ18）埋土上面で検出した。調査区西側に位置する。周辺には網目状の幅広の噴砂が多く，近代の暗渠にも切られている。幅26cm～46cm，長さ82cm～3.3m，深さ４～16cmの畝間溝（さく）が並行して走る。埋土は灰色砂質ロームである。噴砂と近代の暗渠に切られる。出土遺物は土師器小片１点・瓦質土器蓋の小片１点（*70*）である。中世末期の遺構と考えられ，噴砂は1858（安政５）年の安政地震によるものと推定される。また，畑と同じ面で検出したＳＫ26の花粉・種実分析により，栽培植物のアサ，ソバが検出されたことは遺跡周辺に畑地が存在した可能性を傍証するものと考えられる[注45]。

（８）土器集中地点（第177図，図版98）

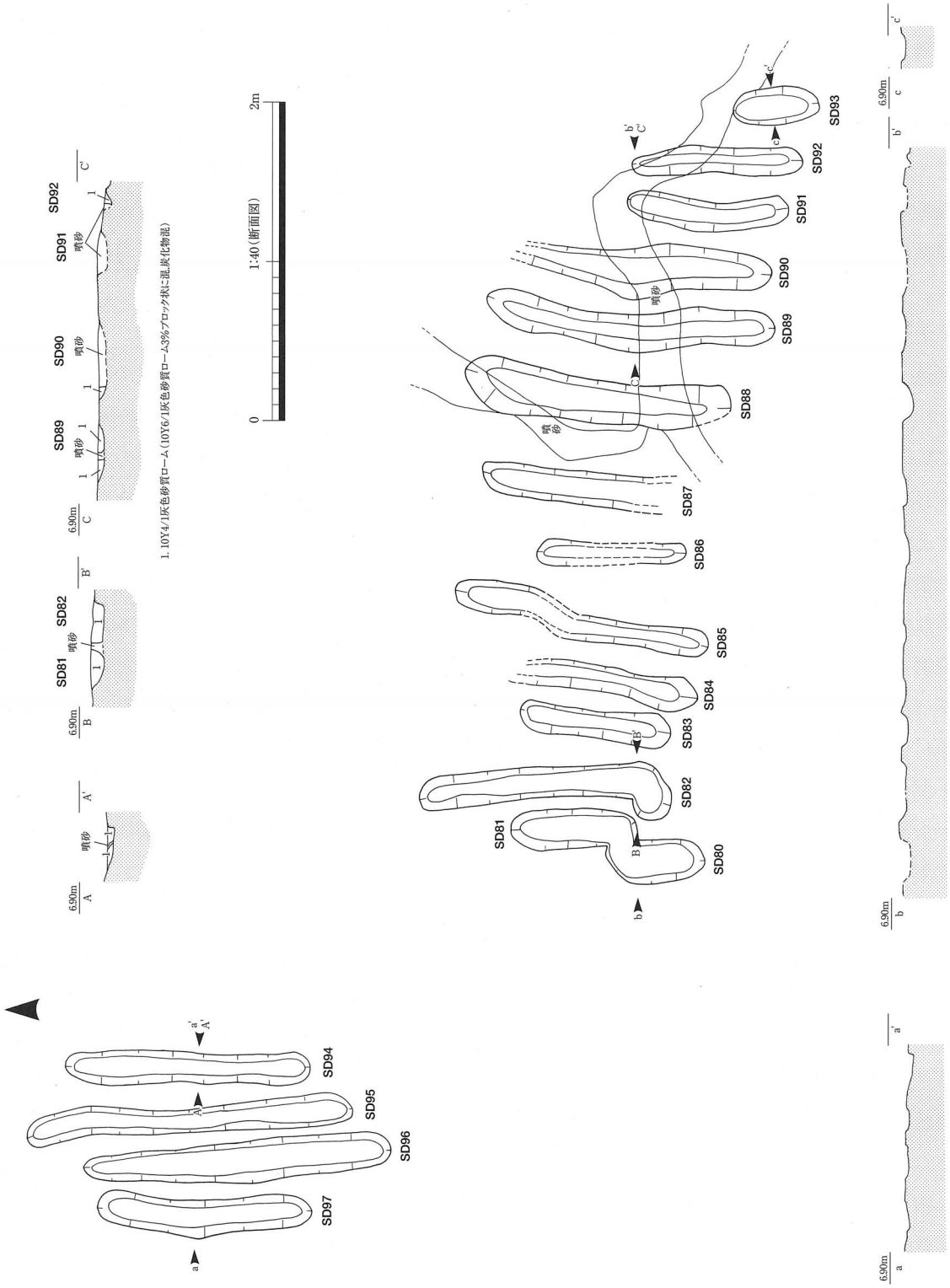
谷状地（ＳＤ18）の埋土下，調査区中央の建物域北側の地山直上で，中世土師器皿（*37*～*69*）が集中して出土した。一部はＳＤ245の肩に落ちかけた状態で出土しており，またＳＫ47の埋土上面にのっているものもあり，時期としてはＳＫ47埋没後で，ＳＤ245が機能している時のものと考えられる。ＳＤ33からは出土しておらず，遺構の配置からＳＤ245とＳＤ33は時期を違えて建物を区画する溝と考えており，ＳＤ33埋没後の可能性が高いと考える。

土器集中地点で出土した中世土師器皿は，他の遺構や包含層から出土した中世土師器とは形態も胎土も異なる特殊なものであり，図示した地点以外からは出土していない。これらは南北６ｍ，東西６ｍの範囲に散らばっているが，ある程度まとまって出土している箇所はＳＤ245の東端付近に無台皿５個体（*44*～*48*），ＳＤ245の東端から西へ約３ｍ付近に無台皿５個体（*38*～*41*・*61*），そこから南へ約３ｍ付近に無台皿６個体（*51*～*55*・*64*），ＳＫ47上面南端付近に無台皿４～５個体（*56*～*59*）・有台皿１個体（*32*）・中国製青磁碗（*33*）１個体となっている。この他に散在しているものを合わせると，中世土師器無台皿33個体・有台皿１個体・中国製青磁碗１個体が確認できる。４箇所のまとまりが元位置に近い状態で出土したとすれば，中国製青磁碗・中世土師器有台皿が含まれるＳＫ47上面南端の一群は特別な組成といえる。なお，この２点はＳＫ47の遺物としてとり扱ったが，上面で出土しているため時期的には土器集中地点の土器に伴うと考えられる。

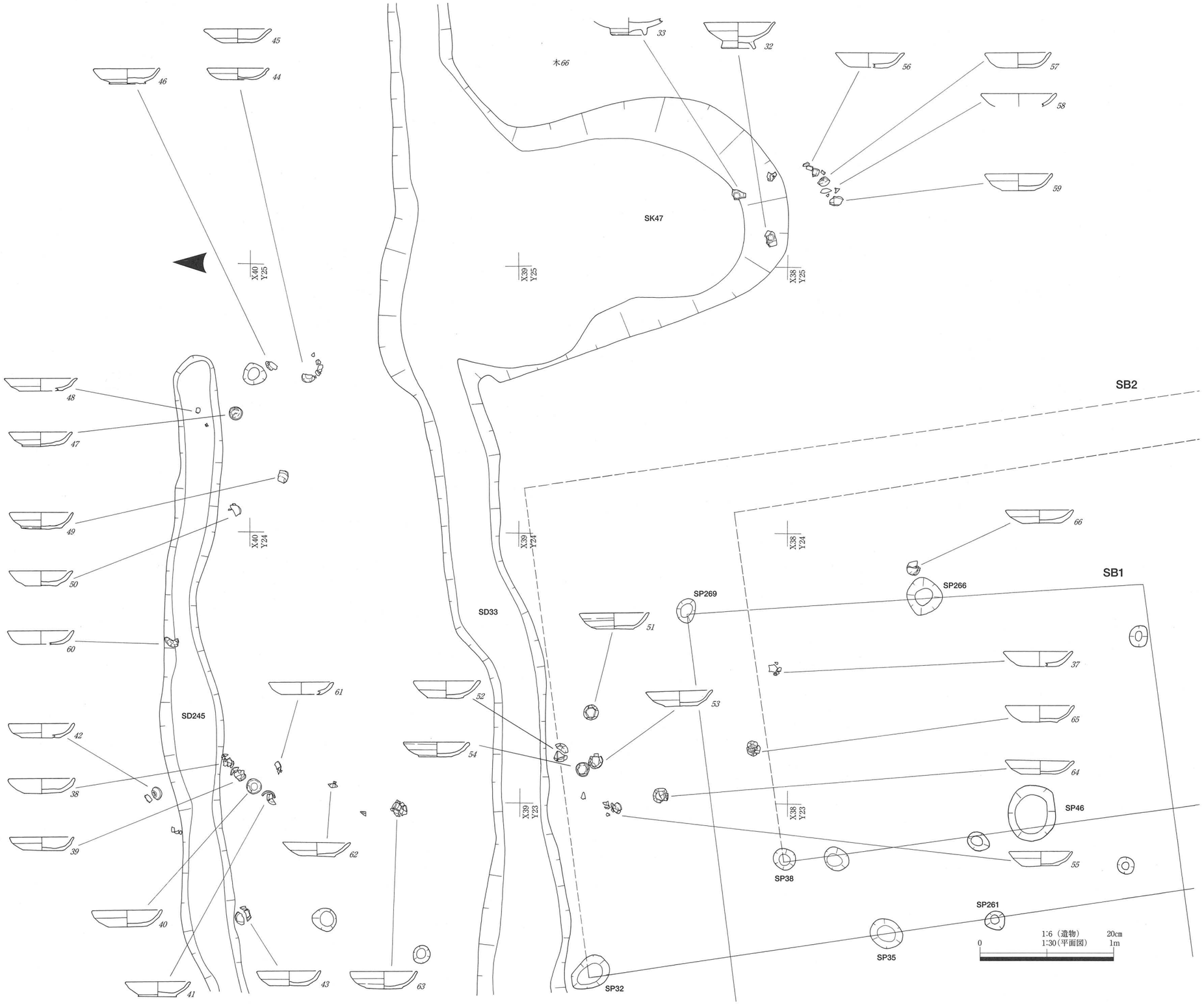
周辺は噴砂が多く，*43*は噴砂によって引き裂かれ割れたものである。噴砂によって元位置からずれたと考えられるものもあるが，地震の発生は上部堆積層に完全にパックされた後であるので，噴砂による移動距離は長くはないものと考えられる。土師器皿は仰向けで出土したものが多いが，*40*・*42*は伏せた状態で出土した。*40*を含む一群は４個体が並んで出土しており，意図的に並べられたものとみられる。

これら土器集中地点とした場所から出土した中世土師器・中国製青磁はその出土状況から何らかの祭祀を行ったものと推測される。後述するが，この土器祭祀はＳＤ245等の溝からなる方形区画に囲まれたＳＢ１に伴う可能性が高いと考えられる[注46]。位置的には，ＳＢ１を囲む方形区画内の，北東部分にあたる。

注45　第二分冊　自然科学分析　株式会社パレオ・ラボ　新山雅広「Ⅱ．花粉分析　１．手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡の花粉化石群集」
　　第二分冊　自然科学分析　株式会社パレオ・ラボ　新山雅広　植田弥生「Ⅴ．手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡から出土した大型植物化石」
注46　第Ⅵ章　考察　３．手洗野赤浦遺跡の変遷



第176図　手洗野赤浦遺跡　遺構実測図
SD80～97



第177図　手洗野赤浦遺跡　遺構実測図　(1/30)

中世土師皿集中地点

第21表　手洗野赤浦遺跡　建物一覧

建物	桁行(m)	梁行(m)	面積(㎡)	棟方位	柱穴規模・径(m)	柱穴規模・深さ(m)	柱間距離・桁(m)	柱間距離・梁(m)	柱穴と出土遺物	挿図	写真図版
SB1	4.10	3.40	13.94	N−83°−E	0.16〜0.26	0.10〜0.20	4.1	1.60〜1.80	SP39,SP45,SP61,SP266,SP269	144・145	86〜88
SB2	6.80	3.70	25.02	N−7°−W	0.09〜0.42	0.09〜0.24	0.85〜2.25	3.70	SP32,SP35,SP38(柱),SP42〜44,SP46,SP56,SP261,SP263	144・145	86〜88
SB3	3.25	2.05	6.28	N−82°−W	0.21〜0.37	0.10〜0.16	3.10〜3.25	1.90〜2.05	SP55,SP57,SP62,SP262	144・145	86・87
SB4			測定不能	真北	0.16〜0.62	0.08〜0.26			SP160,SP161(柱),SP162,SP163,SP164(柱),SP165,SP166,SP171,SP172,SP177	146	86〜88
SB5			測定不能	N−10°−E	0.11〜0.23	0.12〜0.28			SP137,SP280(柱),SP281(柱),SP282(柱),SP283(柱)	146	88
SB6	3.75	2.65	9.93	N−10°−E	0.21〜0.39	0.04〜0.22	1.70〜3.30	2.60〜2.65	SP223(柱),SP225(柱),SP227(柱),SP240,SP249(中世土師器),SP253(柱)	146	
SB7	4.40	3.60	15.31	N−73°−W	0.18〜0.50	0.08〜0.50	4.20〜4.40	1.60〜1.95	SP199,SP202,SP204,SP209,SP272,SP310	147	87
SB8	6.10	2.70	16.75	N−8°−E	0.18〜0.57	0.11〜0.24	2.20〜3.90	2.70	SP197(柱),SP201,SP215,SP233,SP238(柱),SP257(柱)	147・148	87・88
SB9	5.45	5.20	27.68	N−2°−E	0.13〜0.43	0.04〜0.24	2.70〜5.45	5.20	SP187,SP192(柱),SP208,SP275	147・148	87
SB10	4.95	1.95	7.82	N−1°−W	0.27〜0.51	0.16〜0.30	1.95〜4.45	1.50〜1.95	SP190,SP214,SP228,SP239(柱),SP258(柱)	147・148	87・88
SB11	6.40	5.50	33.87	N−8°−W	0.22〜0.48	0.13〜0.38	1.75〜2.40	1.95〜4.45	SP13(加工材),SP14(中世土師器・瀬戸美濃),SP21(中世土師器・柱),SP29,SP30,SP79,SP105(柱),SP106	149・150	89
SB12			測定不能	N−51°−E	0.23〜0.69	0.10〜0.68	1.75〜2.40	2.70〜2.80	SP19(柱),SP20(柱),SP100,SP101(柱),SP103	149・150	89

第22表　手洗野赤浦遺跡　柱穴一覧(1)

建　物	遺　構	平面形	規模(m)			出土遺物	特　　記	挿　図	写真図版
			長　さ	幅	深　さ				
SB1	SP39	円	0.16	0.13	0.12			144・145	
	SP45	円	0.23	0.21	0.20			144・145	
	SP61	円	0.23	0.21	0.12			144・145	88
	SP266	円	0.26	0.25	0.16			144・145	
	SP269	楕円	0.17	0.14	0.10			144・145	
SB2	SP32	楕円	0.28	0.24	0.18			144・145	
	SP35	円	0.24	0.21	0.09			144・145	
	SP38	円	0.16	0.15	0.16	柱		144・145	
	SP42	円	0.34	0.33	0.12			144・145	
	SP43	円	0.20	0.18	0.11			144・145	
	SP44	円	0.18	0.18	0.12			144・145	
	SP46	円	0.42	0.35	0.24			144・145	
	SP56	円	0.35	0.31	0.20			144・145	88
	SP261	円	0.13	0.13	0.10			144・145	
	SP263	円	0.09	0.08	0.12			144・145	
SB3	SP55	円	0.31	0.29	0.16			144・145	
	SP57	円	0.21	0.20	0.10			144・145	
	SP62	円	0.37	0.32	0.12			144・145	
	SP262	円	0.21	0.21	0.14			144・145	
SB4	SP160	円	0.62	0.59	0.18			146	
	SP161	円	0.36	0.34	0.26	柱		146	88
	SP162	楕円	0.45	0.33	0.08			146	
	SP163	円	0.32	0.27	0.22	柱	>SP164	146	
	SP164	円	0.18	(0.16)	0.08		<SP163	146	
	SP165	円	0.21	0.17	0.10			146	
	SP166	円	0.16	0.16	0.14			146	
	SP171	円	0.18	0.18	0.16			146	
	SP172	円	0.25	0.24	0.12			146	
	SP177	楕円	0.42	0.39	0.12			146	
SB5	SP137	円	0.23	0.21	0.18		>SD110	146	
	SP280	円	0.19	0.18	0.28	柱(*34*)		146	88
	SP281	円	0.19	0.15	0.22	柱(*35*)	>SD110	146	88
	SP282	円	0.11	0.10	0.12	柱		146	
	SP283	円				柱	柱のみ・堀形無し	146	
SB6	SP223	円	0.32	0.28	0.15	柱		146	
	SP225	楕円	0.29	0.26	0.18	柱(*37*)	>SD4	146	
	SP227	円	0.22	0.22	0.12	柱		146	
	SP240	円	0.21	0.20	0.04			146	
	SP249	円	0.39	0.37	0.22	中世土師器(*1*)		146	
	SP253	円	0.23	0.19	0.17	柱(*36*)		146	

第22表　手洗野赤浦遺跡　柱穴一覧(2)

建　物	遺　構	平面形	規模(m)			出土遺物	特　　記	挿　図	写真図版
			長　さ	幅	深　さ				
SB7	SP199	円	0.21	0.18	0.20			147	
	SP202	円	0.18	0.17	0.08			147	
	SP204	楕円	0.32	0.31	0.20		>SK12	147	
	SP209	円	0.34	0.30	0.44			147	
	SP272	円	0.50	0.48	0.50			147	
	SP310	円	0.23	0.22	0.35			147	
SB8	SP197	円	0.29	0.27	0.12	柱		147･148	
	SP201	円	0.23	0.23	0.11			147･148	
	SP215	円	0.20	0.19	0.14			147･148	
	SP238	不整	(0.49)	0.29	0.24	柱(*39*)	>SP239･SK12	147･148	88
	SP257	円				柱(*38*)	柱のみ･堀形無し	147･148	
SB9	SP187	円	0.27	0.25	0.04			147･148	
	SP192	円	0.43	0.40	0.20	柱		147･148	
	SP208	円	0.32	0.28	0.24		<SK207	147･148	
	SP275	円	0.13	0.13	0..04			147･148	
SB10	SP190	円	0.28	0.25	0.22			147･148	
	SP214	円	0.27	0.25	0.16			147･148	
	SP228	不整	0.51	0.42	0.30			147･148	
	SP239	円	(0.22)	0.21	0.23	柱(*47*)	SK12<SP239<SP238	147･148	88
	SP258	円				柱(*45･46*)	柱のみ･堀形無し	147･148	88
SB11	SP13	楕円	0.48	0.30	0.20	加工材		149･150	89
	SP14	円	0.32	0.27	0.26	中世土師器,瀬戸美濃		149･150	
	SP21	円	0.32	0.30	0.22	土師器,柱(*40*)		149･150	
	SP29	円	0.31	0.26	0.38	柱(*42*)		149･150	89
	SP30	楕円	0.24	0.23	0.31			149･150	
	SP34	円	0.28	0.28	0.34			149･150	
	SP79	円	0.47	0.45	0.22			149･150	
	SP105	円	0.24	0.21	0.24	柱(*41*)		149･150	89
	SP106	円	0.36	0.34	0.13			149･150	
SB12	SP19	円	0.23	0.18	0.30	柱		149･150	
	SP20	楕円	0.69	0.44	0.68	土師器,柱(*44*)	>SK99	149･150	89
	SP100	円	0.41	0.35	0.44			149･150	
	SP101	円	0.35	0.31	0.10	柱		149･150	
	SP103	円	0.38	0.35	0.10			149･150	
SA1	SP73	円	0.25	0.21	0.14			151	
	SP77	円	0.21	0.21	0.22			151	
	SP111	円	0.36	0.34	0.08			151	
	SP132	円	0.40	0.36	0.12	柱(*48*)		151	
SA2	SP74	円	0.19	0.17	0.24			151	
	SP75	円	0.25	0.24	0.26			151	
	SP76	円	0.33	0.30	0.30			151	
	SP112	円	0.22	0.22	0.20			151	
	SP120	円	0.28	0.28	0.28		>SK121	151	
	SP122	円	0.22	0.21	0.22	柱		151	
	SP23	円	0.22	0.19	0.20	柱(*43*)		150	89
	SP51	楕円	0.66	0.22	0.20	柱(*49*)		152	
	SP53	円	0.31	0.28	0.08			152	
	SP54	円	0.33	0.30	0.10			152	
	SP65	円	0.28	0.22	0.12	柱(*50*)		152	
	SP126	円	0.42	0.40	0.18			152	
	SP135	楕円	0.70	0.48	0.36	柱(*55*)		152	
	SP152	円	0.16	0.15	0.10	加工棒		152	
	SP157	円	0.18	0.17	0.16			152	
	SP191	円	0.31	0.28	0.46	柱		152	
	SP205	楕円	0.30	0.19	0.22	柱(*51*)		152	
	SP285	円	0.18	0.17		柱(*52*)		144	

第23表　手洗野赤浦遺跡　溝一覧

遺構	遺構種類	規模(m)		出土遺物	特　記	挿　図	写真図版
		幅	深さ				
SD4	流路	25.40	0.30	土師器,珠洲(*4·5*),中国製青磁(*2·3*),円形板(*14*),漆器(*23*),加工板(*60·62*),種実,焼石	<SP225	153·154	90
SD5	池	9.50	0.76	土師器,中世土師器(*6*),珠洲(*7·8*),中国製白磁		155·156	
SD6	溝	1.75	0.18	土師器,中世土師器(*9·10*),珠洲(*18～21*),越前,古瀬戸(*16·17*),信楽,中国製白磁(*14·15*),中国製青磁(*11～13*),加工板(*58·59·61*),曲物(*3*),底板(*15*),漆器(*20*),五輪塔(*1*),砥石(*7*),種実,焼石		155·157·158	90
SD33	溝	0.75	0.22		>SK47	161·162	98
SD63	溝	0.26	0.07			161·162	
SD64	溝	0.32	0.08			161·162	
SD69	溝	1.60	0.14			161·162	
SD80	畑	0.41	0.10			176	97
SD81	畑	0.38	0.08			176	97
SD82	畑	0.29	0.08			176	97
SD83	畑	0.26	0.07			176	97
SD84	畑	(0.25)	0.04			176	97
SD85	畑	0.31	0.04			176	97
SD86	畑	(0.24)	0.04			176	97
SD87	畑	(0.30)	0.05	瓦質土器(*70*)		176	97
SD88	畑	0.40	0.09	土師器		176	97
SD89	畑	0.35	0.04			176	97
SD90	畑	(0.46)	0.04			176	97
SD91	畑	0.30	0.04			176	97
SD92	畑	0.28	0.04			176	97
SD93	畑	0.33	0.04			176	97
SD94	畑	0.33	0.04			176	97
SD95	畑	0.27	0.04			176	97
SD96	畑	0.30	0.04			176	97
SD97	畑	0.29	0.04			176	97
SD109	溝	0.56	0.18	土師器,須恵器,加工材,加工板,種実		153·154	
SD110	溝	5.00	0.30	須恵器(*22*),中世土師器(*23*),珠洲(*24*),古瀬戸,漆器(*22·26*),種実	>SP137·SP281	153·154	90
SD138	溝	1.37	0.17	珠洲		153	99
SD139	溝	0.46	0.07			163	87
SD140	溝	0.85	0.16			163	87
SD141	溝	0.50	0.10			163	87
SD142	溝	0.54	0.08			163	87
SD147	溝	0.50	0.10			155·157	
SD150	溝	0.67	0.10			163	87
SD151	溝	0.76	0.10			153·154	
SD153	溝	0.80	0.06			159	
SD154	溝	2.50	0.17			159	
SD156	溝	0.76	0.20	珠洲,円形板(*16*)		160	
SD168	溝	0.30	0.06			160	
SD169	溝	0.45	0.07			160	
SD170	溝	1.46	0.08	須恵器,中世土師器,珠洲		155	
SD173	溝	1.30	0.10	珠洲		161·162	87
SD174	溝	0.32	0.08			161·162	87
SD175	溝	0.75	0.09			161·162	87
SD181	溝	0.60	0.10			161·162	87
SD216	溝	2.05	0.16	珠洲(*25*),杭(*53*),漆器(*28·29*)		164	
SD236	溝	1.45	0.06			164	
SD237	溝	0.68	0.09			155·157	
SD245	溝	0.50	0.10			161·162	98
SD330	溝	0.46	0.08			161	87

第24表　手洗野赤浦遺跡　井戸一覧

遺　構	平面形	規模(m)			出土遺物	特　記	挿図	写真図版
		長　さ	幅	深　さ				
SE28	楕円	3.62	2.16	0.97	土師器,,漆器(*21*)曲物(*12*),円形板(*17*),匙(*33*),加工板		165	91･92
SE40	円	2.46	2.03	0.66	中世土師器,珠洲(*28～30*),古瀬戸(*26･27*),漆器(*25･27*),曲物,加工板(*63*),加工材,柱(*54*),円形板(*18*)		166	93
SE41	不整	2.46	1.90	0.75	珠洲,曲物(*4～8*),砥石(*6*),焼石		167	93･94
SE158	不整	2.01	1.99	0.70	珠洲(*20*),曲物(*9･10*),漆器(*19*),呪符木簡(*57*),焼石		168	95
SE183	方	0.68	0.56	0.67	曲物(*11*),折敷(*30～32･66*),加工板(*64*),加工棒(*65*),部材(*67*)		169	93･95

第25表　手洗野赤浦遺跡　土坑一覧

遺　構	平面形	規模(m)			出土遺物	特　記	挿図	写真図版
		長　さ	幅	深　さ				
SK2	楕円	0.63	0.44	0.11			170	99
SK7	不整	1.14	0.85	0.31	珠洲		170	
SK8	円	0.50	0.46	0.50			170	
SK9	楕円	0.41	0.35	0.14			170	
SK10	不明	0.55	(0.45)	0.18	土師質土器		170	
SK11	楕円	0.69	0.55	0.28	珠洲		170	
SK12	不整	5.86	2.60	0.34	縄文土器,土師器,珠洲,古瀬戸(*26*),簪(*1*)	SP204･SP238･SP239＞SK12＞SK308	171	96
SK15	円	0.30	0.30	0.04			149	
SK26	楕円	1.50	0.97	0.56	土師器,加工板		171	
SK27	不整	1.64	0.75	0.16	中世土師器(*31*)		171	
SK47	楕円	3.16	1.75	0.30	中世土師器(*32*),中国製青磁(*33*),漆器(*24*),曲物	＜SD33	172	95
SK50	楕円	1.57	1.08	0.10	土師器		173	
SK67	円	0.63	0.54	0.18			173	
SK68	円	1.18	1.13	0.29			173	
SK72	隅丸方	2.85	2.21	0.28	越前		172	96
SK99	楕円	(0.74)	0.52	0.19		＜SP20	149	89
SK113	不整	2.49	2.21	0.22	珠洲(*34*)		173	
SK118	円	0.30	0.29	0.16	土師器,加工板,種実		173	
SK121	円	0.15	0.12	0.06		＜SP120	151	
SK123	楕円	2.05	1.51	0.28	加工板		173	
SK127	楕円	0.68	0.62	0.14			174	
SK128	円	0.62	(0.53)	0.16			174	
SK129	円	(0.37)	0.34	0.16			174	
SK130	楕円	1.50	1.12	0.26			174	
SK133	隅丸方	2.42	2.18	0.12	土師器,珠洲		174	87
SK134	隅丸方	2.82	2.04	0.24	中世土師器(*35*),種実		174	87
SK155	円	0.51	(0.46)	0.25	曲物(*13*)		175	96
SK182	楕円	0.62	0.58	0.32			175	
SK185	円	0.43	0.38	0.28	加工板,種実		175	
SK193	楕円	1.19	0.88	0.08		＞SK194	175	96
SK194	楕円	0.68	0.53	0.12		＜SK193	175	96
SK207	不整	0.42	0.35	0.24		＞SP208	148	
SK229	楕円	0.46	0.33	0.16		＞SK230	175	
SK230	楕円	0.94	0.65	0.22		SK229＞SK230＞SK231	175	
SK231	楕円	1.49	1.10	0.29		＜SK230･SK235	175	
SK235	楕円	0.36	0.35	0.40	鍬(*1*),柱(*56*),加工板	＞SK231	175	96
SK248	楕円	1.28	0.90	0.16	珠洲(*36*),加工板		175	96
SK252	不整	1.45	1.20			＞SD138	153･154	

3　遺物

（1）土器・陶磁器

A　掘立柱建物

6号掘立柱建物（ＳＢ６，第178図，図版100）

*1*は中世土師器皿である。口径11.9cm，器高2.6cm。非ロクロ成形で，丸みをもつ厚い底部に外反する口縁部が付く。外面は口縁部のヨコナデ部分と無調整の底部の境に尖った稜が明瞭に残ることが特徴である。底外面は型等に押し当てたものか，器面に細かいヒビ状の割れがそのまま残されている。口縁部は内外面に煤が付着し，灯明皿として使用されたと考えられる。

B　溝

4号自然流路（ＳＤ４，第178図，図版108・110）

2・*3*は中国製青磁碗である。*2*は高台は断面四角で内部の刳りが浅く，底部は肉厚となる。外面には不明瞭であるが鎬をもつとみられる蓮弁文，見込みには圏線を有し，渦巻き状の幾何学花文が印刻される。釉は高台外面にまでかかり，畳付と高台内は露胎である。高台内には焼台痕がある。太宰府分類の龍泉窯系碗Ⅱｂ類に相当し，13世紀前半のものである。*3*は高台は角ばり底部は肉厚である。見込みに圏線を有し，草花文が印刻される。釉は透明度が高く，緑がかった灰黄色を呈する。全面に施釉した後，高台内の釉を輪状に剥ぎ取る。剥ぎ取った釉の周囲に砂が溶着しており焼台痕とみられる。龍泉窯系で上田分類のＢⅡ～Ⅳ類に相当し，14世紀～15世紀のものである。

4・*5*は珠洲擂鉢である。*4*は底部で底外面は静止糸切りである。卸目は１単位が1.1cm幅に６条の櫛歯原体を用いて，まばらに施入される。*5*は口縁部で，端部は外方に屈曲するように挽き出され，端面には櫛目波状文を有する。Ⅴ～Ⅵ期に比定され，14世紀末～15世紀中頃のものである。

5号池（ＳＤ５，第178図，図版108）

*6*は中世土師器皿である。口径7.3cm，器高２cmの小皿である。非ロクロ成形で，器面調整は口縁部に一段のヨコナデを施すとみられるが，摩滅のため不明瞭である。

7・*8*は珠洲である。*7*は甕である。口縁部はくの字状に外屈し，長頸の方頭を呈する。Ⅴ期に比定され，14世紀末～15世紀前半のものである。*8*は擂鉢である。体部は直線的に開き，口縁部は端部に広く面を取る長三角形を呈し，端面は内傾する。卸目は１単位2.9cm幅に８条の櫛歯原体を用いて，口縁部より一段下がった一定の位置から施入される。Ⅴ期に比定され，14世紀末～15世紀前半のものである。

6号溝（ＳＤ６，第178図，図版100・101・108・110・111）

9・*10*は中世土師器皿である。*9*は口径8.8cm，器高2.3cmの小皿である。非ロクロ成形で，底部から口縁部にかけて，緩やかに立ち上がる器形である。口縁部はヨコナデ，底外面は無調整である。部分的に黒変している。*10*は口径8.8cm，器高3.1cmの小皿である。やや深身の丸底を呈し，粗雑な作りで形は歪んでいる。口縁部はヨコナデを施すが，内面は雑な調整で，横方向のナデを何度も重ねておこなっている。底外面は無調整である。口縁部全体に灯芯油痕が厚いタール状に付着する。

11～*13*は中国製青磁碗である。外面にヘラ描きによる蓮弁文を有するが，半濁した釉がかかっているため不明瞭である。*11*は龍泉窯系で上田ＢⅡ類に相当し，14世紀後半～15世紀前半のものである。*12*は見込みに印刻の一部がみえるが，意匠は不明である。釉は畳付を超えて高台内側にもかかる。上田ＢⅡ類またはＢⅢ類に相当し，14世紀後半～15世紀前半のものである。*13*は見込みに圏線を有し，

草花文の印刻があるが，半濁した釉のため不明瞭である。釉は畳付を超えて高台内側にまでかかるが，畳付と高台内の釉を削り取っている。高台内には輪状の焼台の一部が溶着している。太宰府分類の龍泉窯系碗Ⅳ類または上田分類ＢⅡ類に相当し，14世紀初頭～15世紀前半に位置づけられるが，高台が四角く高いので古い時期の可能性が高い。

*14・15*は中国製白磁皿である。*14*は外面は口縁部下をロクロケズリする。釉は細かい貫入がみられる。断面に漆継ぎの痕跡がある。*15*は粗製の皿で，内外面ロクロ削りを行うが，見込み中央には凸状の削り残しがある。高台部は削り出されるが，抉り込みは浅く低い高台となっている。見込みの釉を円形に掻き取り，外面は体部に施釉するが底部と高台部分は露胎である。重ね焼きを行い，見込みに４箇所目痕が残る。*14・15*はともに森田D群に属し，14世紀後半～15世紀のものである。

*16・17*は古瀬戸である。*16*は天目茶椀である。口縁端部は緩く外反する。鉄釉がかかり，高台周辺は露胎である。古瀬戸後期様式Ⅱ期に比定され，14世紀末～15世紀初頭のものである。*17*は腰折皿の底部で，底外面は削り出し高台である。内面に灰釉がかかり，外面は露胎である。周囲を円形に打ち欠いており，面子に転用された可能性がある。後期様式Ⅳ期新段階に比定され，15世紀後半のものである。

*18～21*は珠洲である。*18・19*は擂鉢である。*18*は体部は直線的に開き，口縁部は端面が拡張した水平口縁となる。端面には櫛目波状文を有する。卸目は１単位1.4cm幅に７条の櫛歯原体を用いて，口縁部より一段下がった一定の高さから密に施入される。Ⅴ期に比定され，14世紀末～15世紀前半のものである。*19*は底部で卸目は摩滅している。*20*はＳＥ158との接合資料で，甕の底部である。*21*は甕で，口径は約50cmに復元される。口縁部はくの字状に外屈し，端部はやや長めの方頭を呈する。Ⅴ期に比定され，14世紀末～15世紀前半のものである。

110号溝（ＳＤ110，第179図）

*22*は須恵器杯Ａである。底外面は回転ヘラ切り，内面はロクロナデである。

*23*は中世土師器皿である。非ロクロ成形で，口縁部にヨコナデを施すが，外面のヨコナデは口縁端部のみで，以下は軽く指頭で押さえて器面調整する。小片のため傾きは明確ではないが，外方へ開く形態である。

*24*は珠洲甕である。口縁部はくの字状に外屈し，端部は方頭を呈する。Ⅳ期に比定され，13世紀末～14世紀中頃のものである。

216号溝（ＳＤ216，第179図）

*25*は珠洲甕である。口縁部はくの字状に外屈し，端部は方頭を呈する。外面の叩打成形は口縁基部直下から行われる。Ⅳ期に比定され，13世紀末～14世紀中頃のものである。

Ｃ　井戸

40号井戸（ＳＥ40，第179図，図版108・111）

*26*は古瀬戸合子である。口縁端部から蓋受け部は幅広の凹面をなし，体部との境には稜をもつ。体部は扁平な球形を呈する。肩部から底部近くまで垂下する隆帯を貼り付け，間隙に剣先状と花文状のスタンプで施文する。粘土紐は指先で引き伸ばしたもので，断面形，長さとも一定ではない。貫入のある灰オリーブ色の灰釉がかかる。古瀬戸中期様式Ⅰ～Ⅱ期に比定され，13世紀末～14世紀初頭のものである。*27*は古瀬戸縁釉小皿である。口縁端部にのみ灰釉がかかる。後期様式Ⅳ期古段階に比定され，15世紀中頃のものである。

*28～30*は珠洲擂鉢である。体部は直線的に開き，口縁部は端部が拡張して広く面を取り，断面は長

三角形を呈する。端面は内傾して櫛目波状文が施される。Ⅴ期に比定され，14世紀末～15世紀前半のものである。

158号井戸（ＳＥ158，第178図）

ＳＤ６との接合資料に珠洲甕（*20*）がある。

Ｄ　土坑

12号土坑（ＳＫ12，第179図，図版111）

ＳＥ40との接合資料に瀬戸合子（*26*）がある。

27号土坑（ＳＫ27，第179図）

*31*は中世土師器皿である。非ロクロ成形とみられるが，摩滅のため調整は不明である。口縁端部に灯芯油痕が残る。

47号土坑（ＳＫ47，第179図，図版100・101・110）

*32*は中世土師器稜皿である。口径10.6cm，器高4.0cmの小皿である。ロクロ成形で，底部は回転糸切りである。内面は緩やかに内湾するが，外面は口縁部下に稜をもつ。口縁部はやや外反し，端部はわずかに肥厚し丸く収める。細く高い高台を貼付る。見込みに［Ｑ］字状を呈するヘラ記号状のくぼみがみられるが，胎土に含まれた繊維が焼成により燃えて無くなった痕とみられる。

*33*は中国製青磁碗である。見込みは広く，無文である。高台はやや高く，高台内は粗雑に深く抉られ，中央が凸状となる。胎土はやや暗い灰色を呈し，粗い。釉は濁ったオリーブ灰色を呈し，薄くかかる。施釉範囲は高台外側までで，畳付と内側は露胎である。太宰府分類の龍泉窯系碗Ⅳイ類～上田Ｄ類またはＥⅡ類に相当し，14世紀前半～15世紀前半のものである。

113号土坑（ＳＫ113，第179図）

*34*は珠洲甕である。口縁部はくの字状に屈折し，端部は方頭を呈する。外面叩打成形は頸部よりやや下がった位置から行われる。Ⅳ期に比定され，13世紀末～14世紀中頃のものである。

134号土坑（ＳＫ134，第179図）

*35*は中世土師器皿である。非ロクロ成形で口縁部にヨコナデを施す。口径は約10cmに復原される。

248号土坑（ＳＫ248，第179図）

*36*は珠洲壺である。内外面ロクロナデで，底外面は静止糸切りである。

Ｅ　土器集中地点（第180・181図，図版100・102～107）

37～*69*は中世土師器皿である。法量は，口径9.0～11.2cm，器高1.7～2.6cm，底径4.8～6.8cmである。ロクロ成形で，底部は回転糸切りである。底外面の回転糸切りの直径が口径の１／２前後となるものが多いが，底部から体部へなだらかに湾曲して立ち上がるため，見込みが広い形態をなす。調整は，体部はロクロナデ，見込みは摩滅のためほとんどのものが不明であるが，一方向の撫でがみられるもの（*37*・*66*）もある。ロクロ回転を利用して，体部の中程で上方へ挽き上げる際に，傾斜の変換点に弱い稜をなすものもあるが，内面は滑らかで段はみられない。口縁部の作工は特に丁寧で，外面は強くなで，口縁端部はわずかに肥厚して丸く仕上げる。*47*は口縁の一部に，上から押さえられ上面に面を取ったように見える箇所もある。*57*は見込みに一部黒変がみられるが，他はすべて均一に黄桃色を呈し，灯芯油痕はみられない。*47*と*64*の見込みには焼成前に胎土に混入した植物質が，燃えて消滅した痕跡らしい窪みがある。胎土は肉眼観察では海綿骨針と赤色粒を含み，すべて精緻である。*37*・*43*・*49*・*58*については剥片観察法による成分分析を行い，その結果，他から出土したものに比べて鉱物片の種類が少なく，海生種の珪藻と海綿骨針を含む点が特徴であることがわかった。特にカリ長石

を含まない点では，庄川扇状地堆積物の影響が及ばない地域，西山丘陵周辺では丘陵地内に入り込んだ低地の堆積物を使用したと推測された[注47]。以上のことから土器集中地点から出土した中世土師器皿は胎土，成形・調整技法に共通した特徴がみられ，かつ，他の遺構から出土したものとは異質のものといえる。年代については，ＳＫ47上面で出土した14世紀前半～15世紀前半の中国製青磁と同時期の可能性が高く，また法量的には14世紀中頃以降のものと考えられる。

Ｆ　畑

畑（ＳＤ87，第181図）

*70*は瓦質土器蓋である。口径10.6cmである。外面はケズリ後，不定方向のナデを施し，器面には凹凸がある。内面の突出部の削り出しは粗雑で，縁辺には連続した工具痕が残る。外面から内面端部にかけては黒変し，胎土には白色粒，石英を多く含む。中世末～近世のものである。

Ｇ　谷状地（ＳＤ18，第182図，図版107・109）

*71*は須恵器杯Ｂ蓋である。ボタン状の扁平なつまみが付く。

*72*は土師器高杯である。脚に円孔透かしを有する。調整は摩滅のため不明である。

73～*79*は中世土師器皿である。*73*～*78*は非ロクロ成形である。*73*・*74*・*77*は底部から口縁部にかけて緩やかに丸みを帯びて立ち上がる。８cm前後に復原される小皿で，*74*は口径7.9cm，器高2.1cmである。調整は口縁部にヨコナデを施すとみられるが，摩滅のため詳細は不明である。*77*は口縁部に灯芯油痕が残る。*75*・*76*は見込み縁辺部を外方へ押し出すようにくぼませ，やや外反する口縁部がつく。口径7.5～8.0cm，器高1.9～2.2cmの小皿である。調整は口縁部をヨコナデし，粗い筋状のナデ痕が残る。外面は無調整である。*75*～*77*は口縁部に灯芯油痕が残る。*78*は口径約11.8cmに復原される。底部から口縁部にかけて緩やかに立ち上がる。口縁部にヨコナデを施し，底外面は無調整である。*79*はロクロ成形で，土器集中地点に多くみられる形態の皿である。

80～*82*は珠洲擂鉢である。体部は直線的に開き，口縁部は端面が拡張して内傾する。端面に波状文はみられない。*82*の卸目は１単位３cm幅に11条の櫛歯原体を用いて施入される。Ｖ期に比定され，14世紀末～15世紀前半のものである。

*83*は青磁碗である。口縁端部は外反し，丸く収める。太宰府分類の龍泉窯系碗Ⅳ類～上田ＤⅡ類に相当し，14世紀前半～15世紀前半のものである。

*84*は土錘である。樽形を呈し，欠損により長さと直径は不明，孔径は2.3cm，残存部重量は13.4ｇである。

Ｈ　包含層の土器・陶磁器

須恵器（第182図，*85*～*87*）

85～*87*は杯Ｂ身である。*85*の底外面は回転ヘラ切りである。８世紀のものである。*87*は低い高台が外方へ開き気味に付く。底部は回転糸切りである。10世紀のものである。*86*は杯Ｂ蓋である。頂部は平坦で，口縁端部は角ばる。調整は，頂部はやや粗雑であるが，全面ロクロナデを施す。８世紀のものである。

土師器（第182図，*88*・*89*）

88・*89*は甕である。摩耗のため調整は不明である。胎土に粗い砂粒をやや多く含む。

中世土師器（第182図，*90*～*101*，図版107）

90～*101*は皿である。*90*はロクロ成形，*91*～*101*は非ロクロ成形である。*90*～*97*は口径7.0～8.7cm，器高1.7～2.2cmである。*90*は底部は回転糸切り，見込みを一方向ナデした後，体部にロクロナデを施

注47　第二分冊　自然科学分析　パリノ・サーヴェイ株式会社「Ⅶ．手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡の土器成分分析」

す。*91*は底部から口縁部にかけて緩やかに内湾する。口縁部はヨコナデするが，他は摩滅のため不明である。口縁部には広い範囲にタール状の灯芯油痕が付着する。*92*は口径7.8cm，器高2.2cmで，小振りだがやや深身の皿である。端部は丸く収める。調整は摩滅のため不明。口縁部に灯芯油痕が残る。*93*は底部の器厚が不均等な平底で，外反する口縁部がつく。見込みを一方向ナデの後，口縁部に一段のヨコナデを施す。底外面は無調整である。*94*～*97*はやや丸みを帯びた厚い平底に，外反する短い口縁部がつく。調整は口縁部はヨコナデ，見込みは一方向ナデ，底部外面は無調整である。*96*は口縁部に灯芯油痕が残る。*97*は黒変している。*98*～*100*は浅く，外方へ開く形態である。口径は8.9～12.0cmである。*98*・*100*の口縁端部は，つまみ上げて丸く収める。内面はほぼ全体をヨコナデするが，外面は口縁部のみで，以下は軽く指で押さえて器面調整する。*98*は広範囲に煤が付着する。*99*は口縁部がやや肥厚し，外面に面をとるように上方に尖らせた形態をとる。口縁部はヨコナデを施し，タール状の灯芯油痕が付着する。*100*は内面の一部に布状の圧痕が残る。*101*は口径7.7cm，器高2.6cmで，口径は小振りだが，深身の形態で，器壁は厚い。調整は摩滅のため不明だが作りは粗雑で，丸底の特殊な器形である。

珠洲（第183・184図，*102*～*122*，図版108・109）

102～*108*は擂鉢である。*102*～*105*は体部が直線的に開き，口縁部は端面が拡張して内傾する。Ⅴ期に比定され，14世紀末～15世紀前半のものである。*102*は端面に櫛目波状文を有する。卸目は，*102*・*103*は口縁部より一段下がった一定の位置から密に施入され，*105*はやや間隔を置いて施入される。卸目原体は，*103*が1.7cmに7条，*105*は4cm幅に14条が1単位である。*106*～*108*は底部で，底外面は静止糸切りである。卸目の櫛歯原体は，*106*は1単位が2cm幅に6条，*107*は3.2cm幅に12条の櫛歯原体を用いて密に施される。*108*は板状圧痕があり，ヘラで起こしたものと考えられる。

109～*113*は壺である。*110*・*111*は叩打成形の中壺で，外面に平行叩き，内面に円礫の当て具痕を有する。頸部は垂直に立ち上がり，口縁部は弧状に外反する。*109*の口縁部形態は外端部を挽き出し端面を拡張させる。*110*・*111*は口縁部先端を肥厚させ外方に突出させる。*112*・*113*は底部で静止糸切りである。

114～*122*は甕である。*114*～*120*は口頸部はくの字状に外屈し，口縁端部の形態は*114*が長めの円頭，*115*・*117*・*118*は長めの方頭，*116*・*119*は端部が平直な方頭，*120*は円頭を呈する。Ⅳ～Ⅴ期に比定され，13世紀末～15世紀前半のものである。*119*は口縁部内面に別個体が溶着する。*121*・*122*は口縁部を長めに挽き出し，やや垂下させて端部は丸く仕上げる。Ⅲ期に比定され，13世紀中頃のものである。

越前（第184図，*123*，図版111）

*123*は甕である。口縁部は方頭を呈し，外面口縁部下に断面三角形の稜をもつ。鉄釉がかかる。16世紀前半のものである。

信楽（第184図，*124*）

*124*は壺である。胎土に長石を多く含み，外面に灰赤色の自然釉がかかる。

瓦質土器（第184図，図版111）

*125*は火鉢である。口縁部は内傾し，上面に広く面を取る。外面に隆帯を貼り付け，雷文を連続で印刻する。胎土は骨針を含み，淡赤橙色で堅く焼き締まっている。

輸入陶磁器（第184図，*126*～*135*，図版110）

126～*131*は中国製青磁である。*126*～*130*は碗である。*126*は外面に鎬蓮弁文を有する。太宰府分類の龍泉窯系碗Ⅱb類に相当し，13世紀前半のものである。*127*はヘラ彫りの蓮弁文を有するが，細く，

釉が半濁しているため不明瞭である。*128*は鎬のない幅広の片彫り蓮弁文を有する。口径が小振りなので14世紀中頃以降の可能性が高い。釉は透明感のある緑がかったオリーブ灰色を呈する。*127*・*128*は龍泉窯系で上田ＢⅡ類に相当し，14世紀後半～15世紀前半のものである。*129*はヘラ彫り蓮弁文を有する。太宰府分類の龍泉窯系碗Ⅳ類～上田ＢⅡ類に相当し，14世紀前半～15世紀前半のものである。*130*は腰が深く見込みは広い。花文の印刻があるが，浅く明瞭でない。高台はやや高く，高台内の抉りは雑で中央が凸状になる。釉は透明感のあるオリーブ灰色を呈し，畳付を超えて高台部の内側にまでかかる。高台内は露胎である。太宰府分類の龍泉窯系碗Ⅳイ類を上限とし，14世紀前半～15世紀前半のものである。*131*は皿である。高台は低く，底部の器壁は薄い。釉は透明感のあるオリーブ灰色を呈し，全面に施釉後高台内を輪状に掻き取る。見込みに花文の印刻があるが浅く不明瞭である。丸い破片で周囲は擦れて角が無くなっていることから面子に転用されたものであろう。太宰府分類の龍泉窯系碗Ⅳイ類を上限とし，明代に下る可能性もある。

132～*134*は中国製白磁である。*132*は杯である。体部は内湾して立ち上がり，口縁部は外反する。胎土は軟質粗製で，釉は細かい貫入がみられる。*133*は皿で，小さい角高台が付く。胎土は軟質粗製で黄灰色を呈する。釉は不透明で細かい貫入があり，高台の外側までかかるが畳付と高台内は露胎である。高台内に「＋」の墨書がある。*134*は杯である。高台に抉りがあり，４足に復原される。釉は透明感があり，やや青みがかった灰白色を呈し，貫入がみられる。全体に施釉された後，接地部の釉のみ削り取る。*132*～*134*は森田Ｄ群に属し，14世紀後半～15世紀のものである。

*135*は中国製染付である。波状口縁で，口縁端部に反って概念化された稜花が描かれるが，単位は不明である。景徳鎮窯系の可能性があり，16世紀後半以降のものであろうか。

瀬戸美濃（第185図，*136*・*138*，図版111）

*136*は天目茶椀である。口縁部は短く外反する。赤味がかった鉄釉がかかり，高台周辺は露胎である。大窯Ⅳ期前半に比定され，16世紀末のものである。*138*は皿である。貼り付け高台で，高台内側に輪ドチ痕があり，その周辺まで灰釉がかかる。大窯Ⅰ～Ⅱ期に比定され，15世紀末～16世紀前半のものである。

古瀬戸（第185図，*137*，図版111）

*137*は縁釉小皿である。口縁部に鉄釉がかかる。後期様式Ⅳ期古段階で，15世紀中頃のものである。

越中瀬戸（第185図，*139*～*149*，図版112）

*139*は椀である。体部上半は直立気味で，口縁部はわずかに外反する。内外面ロクロナデで，鉄釉がかかる。16世紀末～17世紀のものである。

140～*146*は皿である。*140*～*144*は丸皿で，体部が外方へ大きく開く形態である。16世紀末～17世紀のものである。内面と外面上半はロクロナデし，*140*・*141*・*143*・*144*は外面の体部下半から底部にかけてロクロケズリし，高台を碁笥底状に削り出す。*142*は断面三角形の高台を貼り付け，高台周囲をロクロナデする。*140*・*144*は黒褐色の鉄釉，*141*～*143*は灰白色～浅黄色の灰釉が施される。施釉範囲は口縁部内外面で，体部下半は内外面とも露胎である。*141*・*142*は見込みに印花がある。*145*・*146*は向付で，体部が下半で屈曲し口縁部が直立する形態である。*145*は鉄釉，*146*は灰釉を施す。登窯期の製品で，17世紀のものである。*146*は見込みに重ね焼きの痕跡がある。

*147*は香炉である。口径は10.6cmである。体部は直立し，口縁部は内端を摘み出して，上方に面を取る。外面は残存部全体に，内面は口縁部のみに鉄釉が施される。16世紀末～17世紀のもの。

*148*は火入れである。口径は13cmに復原される。口縁部は体部よりやや窄まり，端部は肥厚して上

方に面を取る。残存部全体に鉄釉が施される。16世紀末～17世紀のもの。

*149*は鉢である。体部は直線的に開き，口縁端部は丸く収める。口径は23.6cmに復原される。内外面ロクロナデし，鉄釉を施す。16世紀末～17世紀のもの。

唐津（第185図，*150*～*154*，図版112）

*151*は椀である。削り出し高台で，高台周辺はロクロケズリである。内面に鉄釉がかかり，外面は露胎である。

150・*152*～*154*は皿である。*150*は内面に，鉄絵で草葉文が描かれる。内面全面と外面の高台部外縁まで灰釉を流しかける。高台は断面四角形でやや高く削り出す。胎土目が残る。16世紀末～17世紀初頭のものである。*152*～*154*は灰釉を内面全面と外面体部上半に流しかける。*152*・*153*は体部中位で屈曲して口縁部が外反する。*152*は見込みに胎土目積みの目痕があり，16世紀末～17世紀初頭のものである。*154*は砂目積み痕が底部内外面に残る。高台の削り出しは浅く，底部の器壁は厚くなる。17世紀前半のものである。

伊万里（第185図，*155*，図版112）

*155*は皿である。高台を三角形に削り出し，内面は染付がある。見込みは蛇の目釉剥ぎの中に重ね焼き痕が残る。外面は全面釉がかかる。波佐見窯系で，17世紀後半～18世紀前半のものである。

陶器（第185図，*156*）

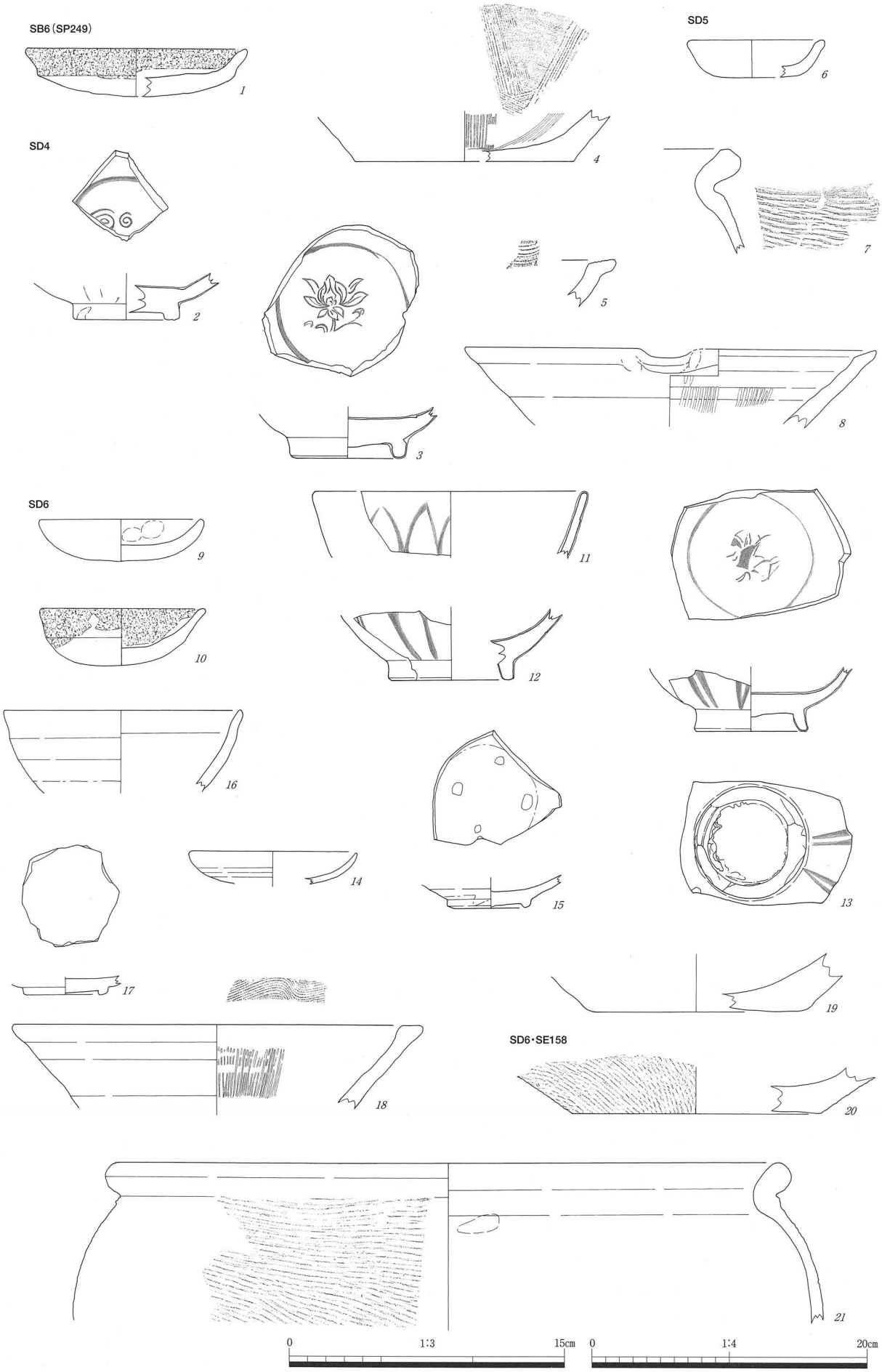
*156*は産地不明の皿である。口縁端部はわずかに外反し，体部中程で外面にはロクロ目の稜があるが内面には圏線状の凹線ができる。底外面は回転糸切りである。堅く焼き締まっている。

土錘（第185図，*157*～*160*，図版113）

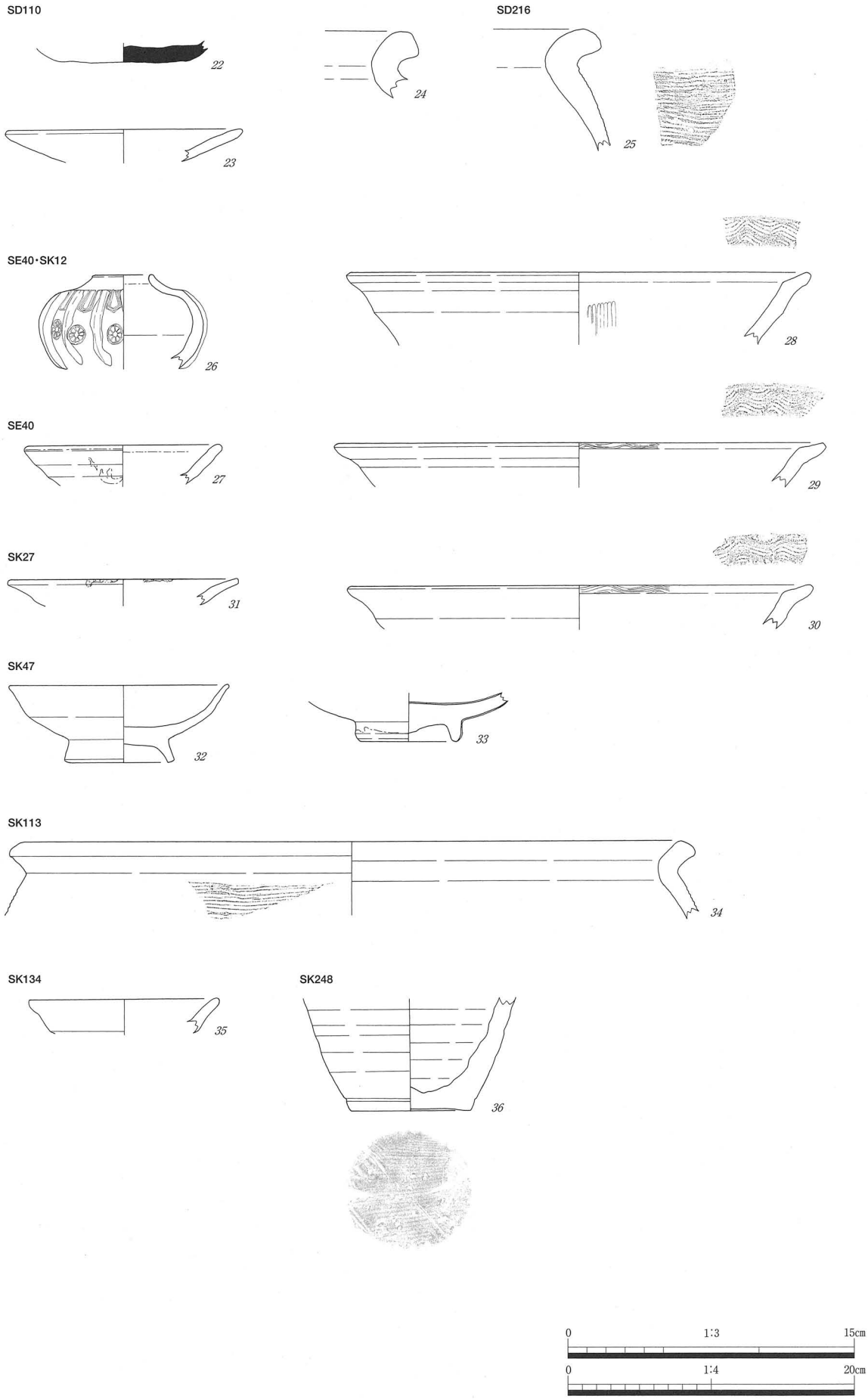
157～*160*は土錘である。球形を呈し，端部に面取りがみられるものもあるが，外面は摩滅している。*157*は長さ2.3cm，直径2.5cm，重量は10.4ｇで，小振りで軽い。*158*は端部欠損により長さ不明，直径5.3cm，孔径2.0cm，残存部重量は48.2ｇである。*159*は長さ5.0cm，直径5.4cm，孔径1.7cmであるが，欠損しており，残存部重量は76.5ｇである。*160*は長さ5.5cm，直径5.0cm，孔径1.5cmであるが，欠損しており，残存部重量は64.1ｇである。

根付（第185図，*161*，図版113）

*161*は磁器の根付である。大黒の面根付で，紐を通すための孔を有する桟が裏面にある。外面には灰黄色の釉がかかる。



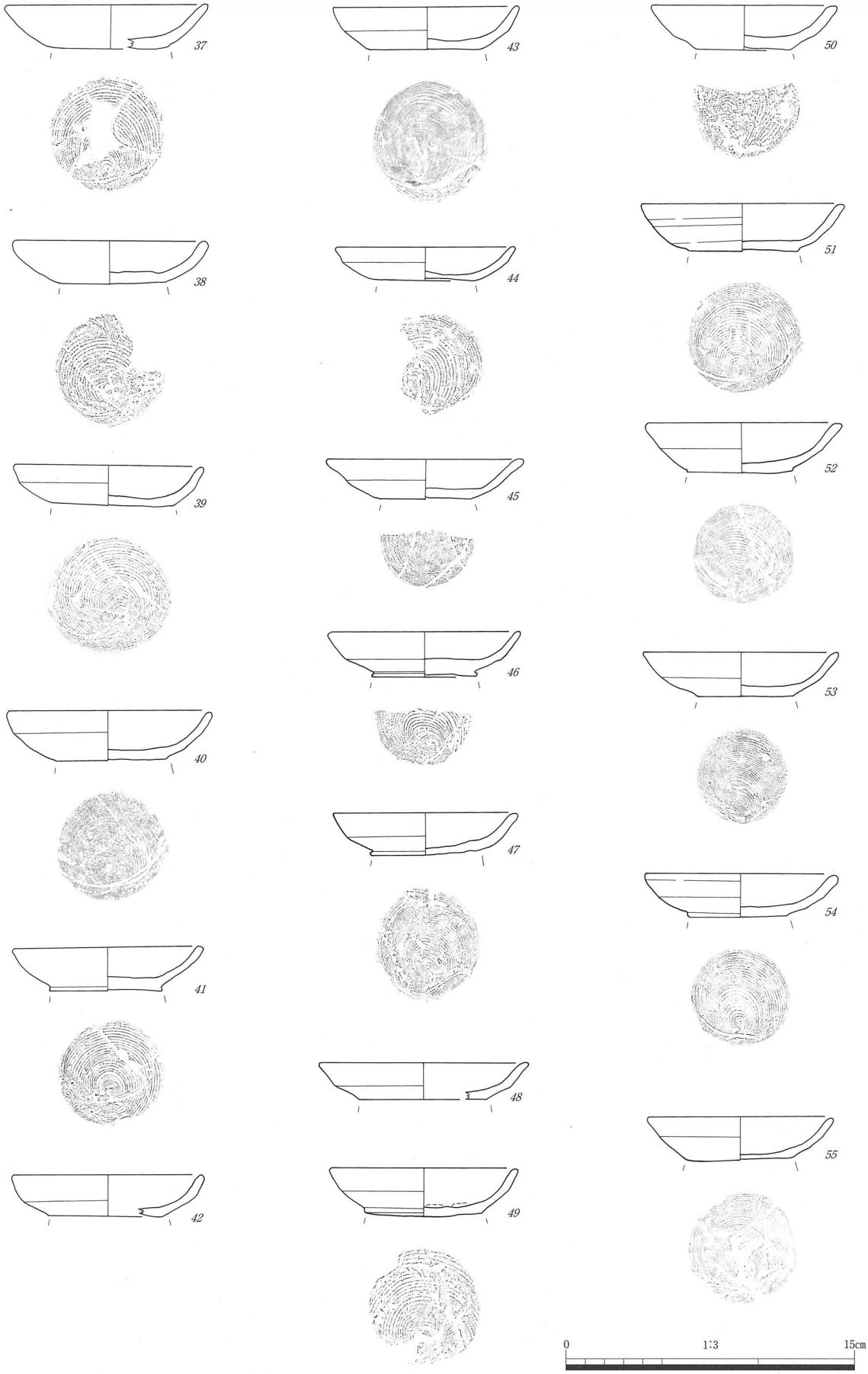
第178図　手洗野赤浦遺跡　遺物実測図　土器・陶磁器　（*1～3・6・9～17*　1/3，　*4・5・7・8・18～21*　1/4）
SB6（*1*）　SD4（*2～5*）　SD5（*6～8*）　SD6（*9～19・21*）　SD6・SE158（*20*）



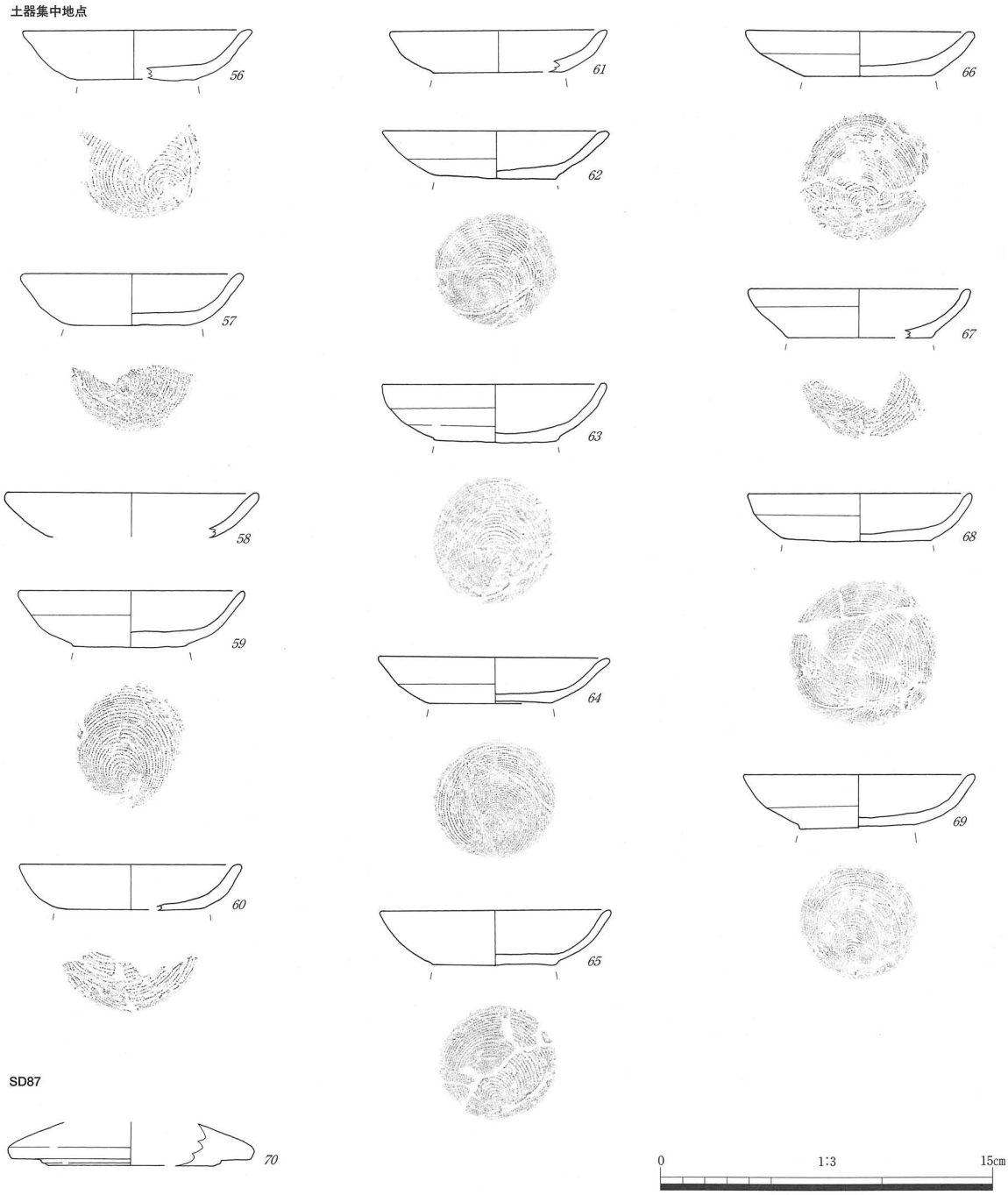
第179図　手洗野赤浦遺跡　遺物実測図　土器・陶磁器（*22・23・26・27・31～33・35* 1/3，*24・25・28～30・34・36* 1/4）

SD110（*22～24*）　SD216（*25*）　SE40・SK12（*26*）　SE40（*27～30*）　SK27（*31*）
SK47（*32・33*）　SK113（*34*）　SK134（*35*）　SK248（*36*）

土器集中地点

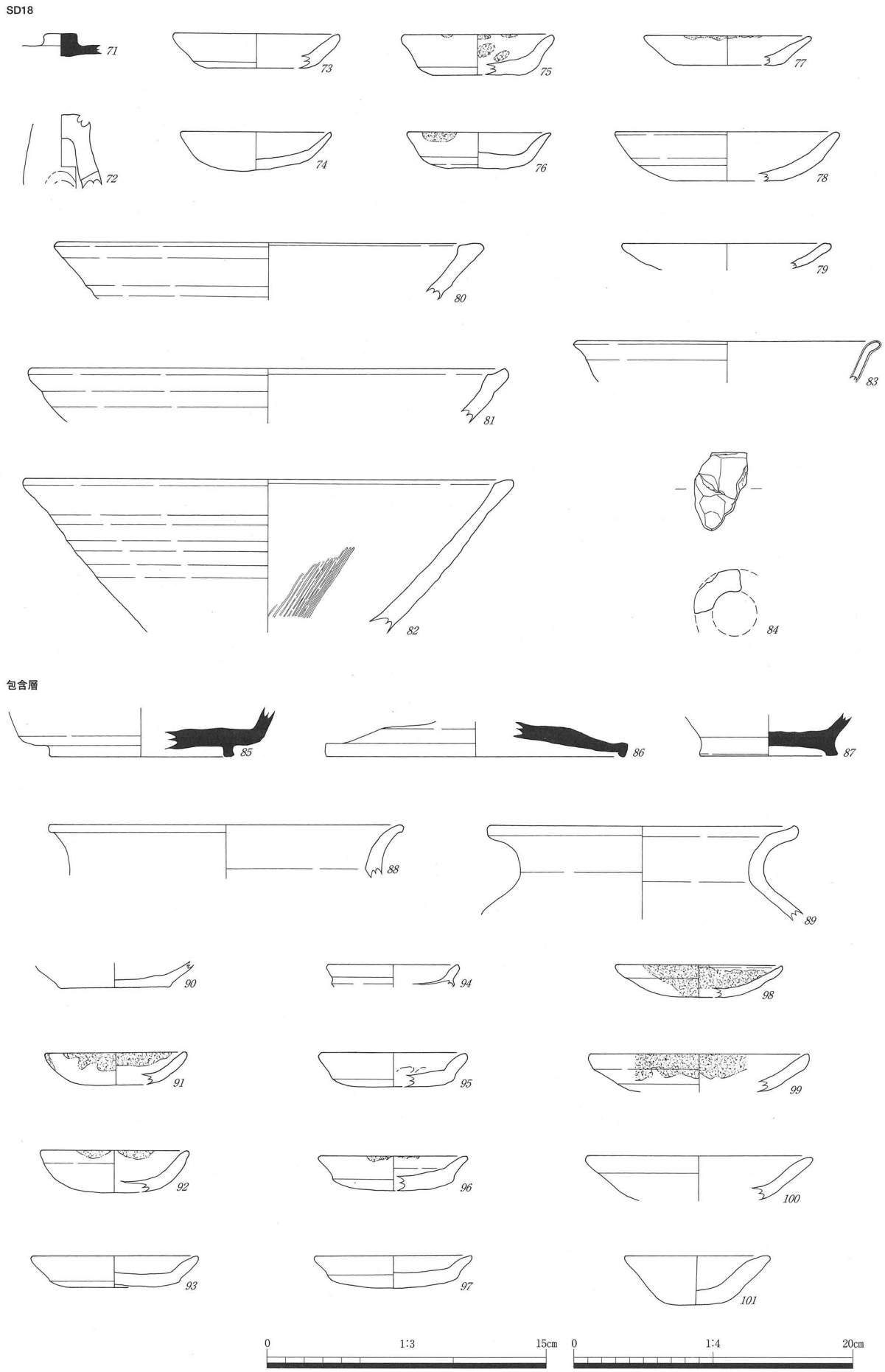


第180図　手洗野赤浦遺跡　遺物実測図　土器・陶磁器　(1/3)
土器集中地点

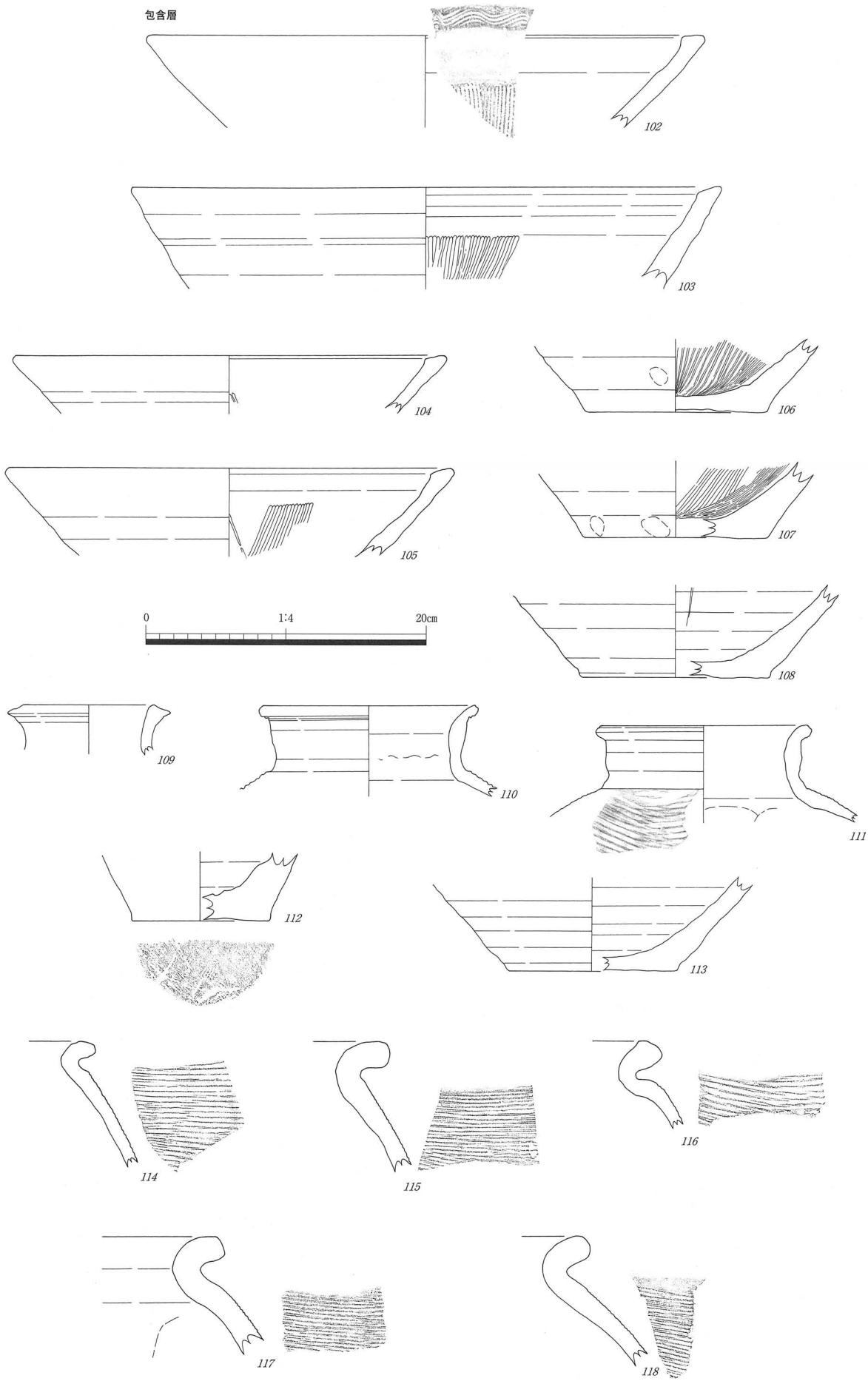


第181図　手洗野赤浦遺跡　遺物実測図　土器・陶磁器　(1/3)

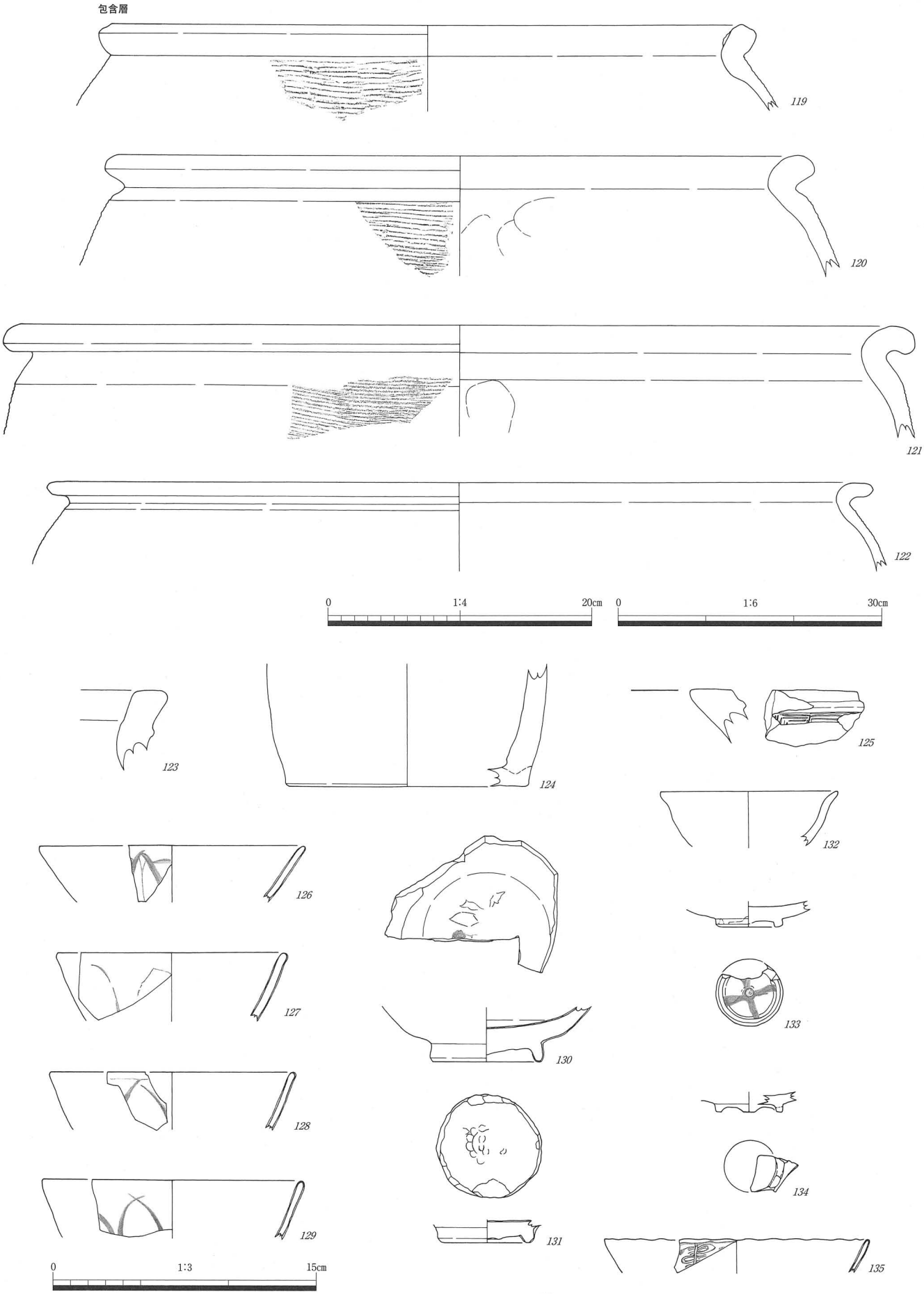
土器集中地点（*56*～*69*）　SD87（*70*）



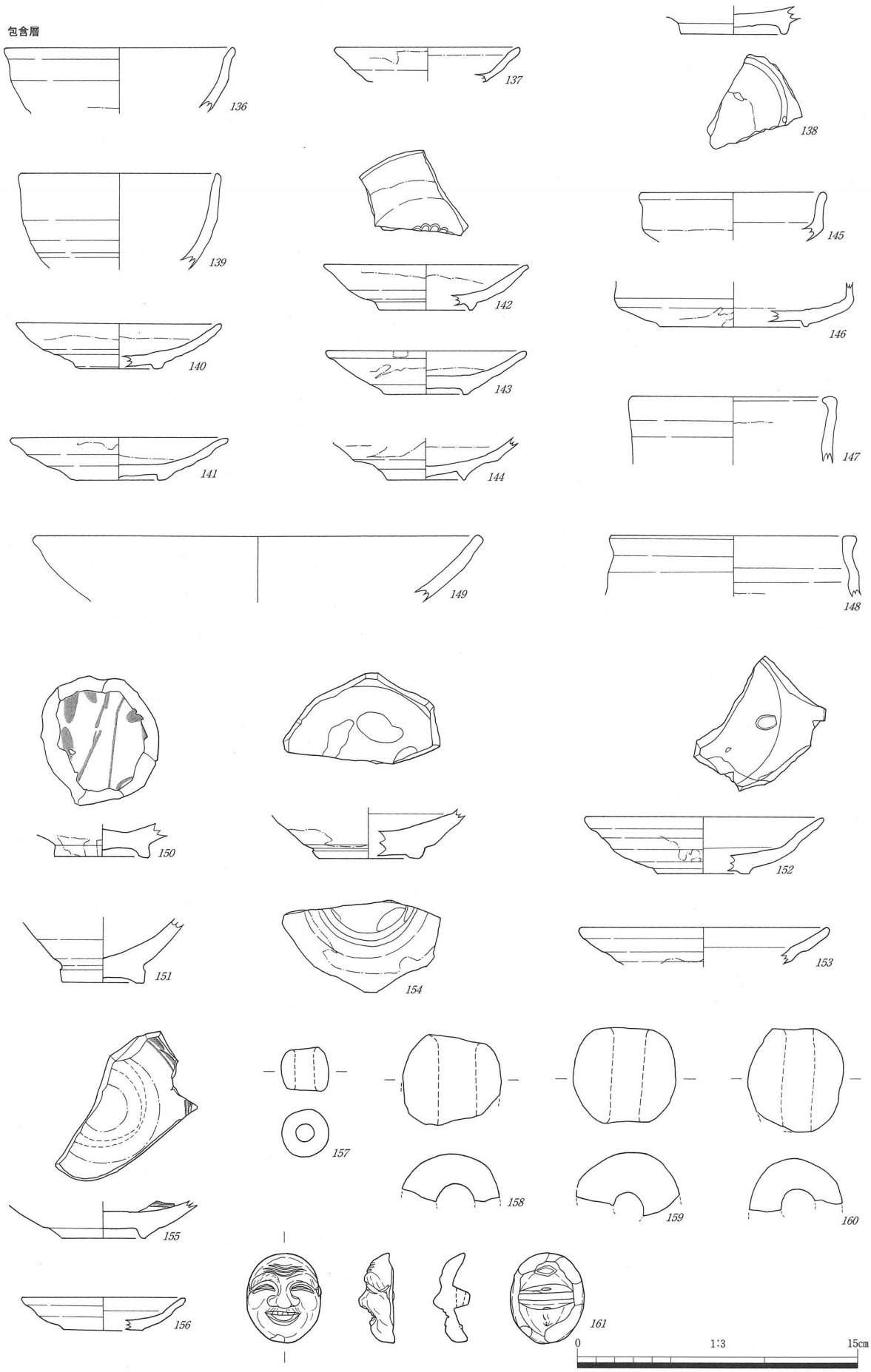
第182図　手洗野赤浦遺跡　遺物実測図　土器・陶磁器　（*71～79・83～101*　1/3，　*80～82*　1/4）
SD18（*71～84*）　包含層（*85～101*）



第183図　手洗野赤浦遺跡　遺物実測図　土器・陶磁器　(1/4)
包含層



第184図　手洗野赤浦遺跡　遺物実測図　土器・陶磁器（*123*～*135*　1/3，*119*～*121*　1/4，*122*　1/6）
包含層



第185図　手洗野赤浦遺跡　遺物実測図　土器・陶磁器　(1/3)
包含層

（2）木製品

鍬（第186図，*1*，図版114）

*1*は鍬身である。ＳＫ235から出土した。半楕円形を呈し，厚さは刃縁に向かって薄くなる。柄孔は台形で着柄角度は直角に近い。アカガシ亜属の材を使用している。

下駄（第186図，*2*，図版114）

*2*は包含層から出土した。連歯下駄で隅丸方形を呈する。長さ12.9cm，幅8.6cm，高さ3.7cmと小振りで，子供用とみられる。材はヒノキである。

曲物（第186・187図，*3*～*13*，図版114～116）

曲物の材はヒノキが多く，９・12のみスギである。

*3*はＳＤ６から出土した。直径16.6cmの小型品で，上端は焼け焦げている。側板は１枚板を２重に巻き付けて樺皮綴じする。内面にケビキはなく，外面は綴じ部に沿って１本ケビキがある。打ち合わせは左前である。

4～*8*はＳＥ41から出土した。*4*・*6*～*8*は上部を欠損している。*4*はＳＥ41の最上部の井戸枠で，出土時は完形であったが，上部は焼けて炭化しており，保管中に上半分が腐朽してしまったものである。出土時は器高が約35cmで，帯は側板の高さを二分する幅のものを上下に巻き，上下とも打ち合わせは右前であった。側板と帯はそれぞれ一枚板を樺皮綴じし，綴じ部は対称の位置にある。帯の綴じ部には曲線的に抉ったキメカキがある。内面ケビキは打ち合わせ部分のみで，外面ケビキは綴じ孔の列の端と中央に施される。側板は本綴じのみで，帯は小綴じも行われる。打ち合わせは側板，帯ともに右前である。底部には木釘が打たれている。*5*は側板の上に同様の幅の側板を巻いてそれぞれ樺皮綴じし，上下の縁に帯を巻く。綴じ部分は３枚が交互に対称位置にくるよう巻かれているので，内側の側板と帯の綴じ部の位置が同じになっている。内側の側板の綴じ方は４段の本綴じのみで，外側の側板の方が段数が多く細かく綴じられている。側板には外面ケビキがあるが，帯にはない。内面ケビキは側板にもない。キメカキはなく，打ち合わせは側板２枚と下帯が右前，上帯のみ左前である。底部には木釘孔がある。年輪年代の測定値は1296年以降とされている[注48]。*6*・*7*は欠損のため詳細は不明であるが，内面ケビキは斜め方向で粗く，部分的である。*6*は，側板は欠損のため綴じ部の詳細は不明である。帯は斜めのキメカキがあり，綴じ方は上縁の内側に紐端を残して上へ向かって一段綴じ，下へ返して紐端の上を通って一列７段綴じする。*8*は側板の上に太い帯を巻き，さらにその上に細い帯を巻いてそれぞれ樺皮綴じする。綴じ部は３枚が交互に対称位置にくるようになっている。外側の帯には斜めのキメカキがあるが，外面ケビキはない。側板の内面ケビキは斜め方向に雑に施され，間隔が広く部分的である。

9・*10*はＳＥ158から出土した。*9*の側板は半周分の２枚の板を２箇所で右前に打ち合わせて一周とする。上辺は内面返し縫いをし，一列で綴じる。内面にはケビキがある。上下の帯は，曲線的なキメカキがあり，上帯の樺紐は一部しか残存していないが，上下帯とも２列目に折り返して留める「返し留め」を行っている。帯には外面ケビキがある。打ち合わせは右前である。*10*は側板に太めの帯を巻き付け，その上にさらに細い帯を巻く。側板は内面全面にケビキがあるが，内側の帯は綴じ部のみケビキがあり，外側の帯には全くない。側板の打ち合わせ部は，端が内・外側ともに割れて欠損しているため詳細は不明だが，残存部をみると，両方とも端は斜めに切られており，少し重なるだけで樺皮で綴じられてはいない。内側の帯の綴じ部は斜めのキメカキがあり，外面ケビキはない。綴じ方は２列綴じで，返し縫いの際に前列は外側で，後列は内側で２段外して巻き付けるようにする。外側の

注48　第二分冊　自然科学分析　光谷拓実「Ⅹ．手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡出土木製品の年輪年代」

帯は樺皮綴じがあるが欠損のため詳細は不明である。

*11*はＳＥ183から出土した。楕円形で，長径61.5cm，高さ23.6cmの大型品である。側板は１枚板を長径の中心部分で左前に打ち合わせる。内面ケビキは楕円の直線部分を除いて施され，一部には斜めのケビキを重ねている。側板の綴じ部は重なった内側の上縁に曲線的なキメカキがある。打ち合わせは約14cmの重なりがあるが，内側の端で一列に綴じ，外面の端の浮きは帯を上から巻くことによって押さえている。帯は内側の側板より約４cm低い。２枚の半周分の板を２箇所で左前に打ち合わせる。２箇所とも上下縁にキメカキがあるが，どちらも上縁のキメカキの方を丁寧な曲線に仕上げ，下縁は徐々に幅を減じる斜めのキメカキになっている。綴じ部は折り返して下半を２列綴じする。それぞれ約１cmの間隔を開けた２列の外面ケビキがある。底部には木釘が密に打ち込まれ，現状で35箇所確認できる。

*12*はＳＥ28から出土した。側板は１枚板を１箇所で樺皮綴じする。内面全面にケビキがあり，一部は斜め方向のケビキを重ねる。綴じ孔に沿って，外面ケビキもある。帯は側板の高さを二分する幅のものを上下に２枚巻き，側板の綴じ部の反対側で樺皮綴じする。上下帯とも上縁・下縁に曲線的なキメカキがある。帯は打ち合わせ部にのみ，やや粗雑な内面ケビキがある。綴じ方は２列綴じで，下帯については，はじめは外に紐端を残して前列１段目から上へ向かい，キメカキの上から折り返して紐端の上を通り，数段分を外して下方を２段綴じた後，下から折り返して数段分はずし上２段を綴じる。上の帯は同様の綴じ方で，天地が逆になる。さらに，上方に３列目があるが折り返したものか不明である。底部には木釘が打たれている。

*13*はＳＫ155から出土した。欠損のため詳細は不明だが，内面にはケビキがあり，一部は斜め方向のケビキも重ねられている。樺皮綴じの孔もあるが，綴じ方の詳細は不明。

円形板（第188図，*14*～*18*，図版117）

*14*はＳＤ４から出土した。両面に漆が塗られ，一方の面には線状痕が多く残る。*15*はＳＤ６出土で，側面から目釘が打ち込まれており，曲物の底板と考えられる。両面が焼け焦げている。*16*はＳＤ156，*17*はＳＥ28，*18*はＳＥ40出土である。直径は*15*が約24cm，*16*が約40cm，*18*が約20cmに復原される。材は*14*・*17*がヒノキ，*15*がヒノキ属，*16*はスギ，*18*はサワラである。18は放射性炭素年代の測定値が12世紀末～13世紀中頃である[注49]。

漆器（第188・189図，*19*～*29*，図版117～120）

漆器の材はほとんどがブナで，*21*はモクレン属，*24*はトチノキである。木取りはすべてヨコ木（柾目）取りである。漆の下地は，*19*・*20*・*22*・*23*・*24*・*25*・*27*・*28*・*29*について塗膜分析及び赤外分光分析を行った結果，炭粉渋下地であった。また*20*・*22*～*24*・*28*・*29*の赤色漆絵について，蛍光Ｘ線による顔料分析を行った結果，朱（硫化水銀）と認められた[注50]。

19～*26*は椀である。*19*はＳＥ158から出土した。口径に対して器高が低く，半球状に開く。総黒色系漆だが，内外面の剥離が著しい。外面には赤色漆（未同定）の一部がわずかに残っている。*20*はＳＤ６から出土した。体部は斜め上方に緩やかに開く形態で，高台はやや厚手のものとみられるが，高台裏は剥離している。内面に朱漆で濃淡をつけた花弁状の絵付けがある。外面にも赤色漆絵があるが意匠は不明。*21*はＳＥ28から出土した。内外面黒色漆（未同定）で，内面に赤色漆（未同定）の絵付けがあるが意匠は不明。*22*はＳＤ110から出土した。体部は斜め上方に開き，低い高台が付く。総黒色系漆で，内面には濃淡をつけた朱漆で，矢羽根状の文様が書割で描かれる。高台裏の線刻はロクロの爪痕か。*23*はＳＤ４から出土した。体部は斜め上方に大きく開き，高台はやや高く裏は角底である。

注49　第二分冊　自然科学分析　株式会社加速器研究所「Ⅸ．放射性炭素年代測定　１．手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡出土遺物の放射性炭素年代測定」
注50　第二分冊　自然科学分析　四柳嘉章「Ⅷ．手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡・近世北陸道遺跡出土漆器の科学分析」

総黒色系漆で，内面の朱漆による絵付けは*22*に似る。*22*・*23*は14世紀末～15世紀前半のものである。*24*はＳＫ47から出土した。口径に対して器高が低く，半球状に開く。高台断面は逆三角形を呈する。全体に器壁は厚い。総黒色系漆で，内面には朱漆で松葉意匠の輪線と鶴らしき鳥が２羽描かれる。外面にも４箇所に漆絵の痕跡がある。高台裏の線刻はロクロの爪痕か。14世紀のもの。*25*はＳＥ40から出土した。体部はやや斜めに開き気味に球状に立ち上がり，やや厚手の高台が付く。総黒色系漆だが外面の塗膜は剥離しており，内面には扇文等が描かれる。16世紀のものか。*26*はＳＤ110から出土した。内外面黒色漆（未同定）で，内面に赤色漆（未同定）の絵付けがあるが意匠は不明。

27・*28*は皿である。*27*はＳＥ40から出土した。やや高めの高台から，体部は斜め上方に立ち上がる。総黒色系漆で，内面には松葉繋ぎ文が描かれる。15世紀のものである。*28*はＳＤ216から出土した。*28*は口縁は直立気味に立ち上がり，低い高台が付く。総黒色系漆で，内面には朱漆で輪線と４つの円形輪繋文が描かれる。16世紀のものである。

*29*は有段皿で，文献上では楪子とよばれる器形である。ＳＤ216から出土した。体部は内湾気味に斜め上方に開き，内面の見込み縁辺に段をもつ。高台断面は角ばる。内面赤色外面黒色系漆である。渋下地ではあるが，内面には朱漆を塗り，高台裏の塗膜もしっかりとしており，外見上は上質のものである。14世紀末～15世紀前半のものである。

折敷（第189図，*30*～*32*，図版121）

30～*32*は折敷の底板である。すべてＳＥ183から出土しているが，別個体である。方形であるが辺はやや丸みをもち，４隅を切り落として丸く仕上げる。一辺は27～29㎝，厚さは0.4～0.6㎝である。両面に線状痕が多くみられ，まな板に転用された可能性がある。*30*は三方に側板の圧痕があり，４箇所に側板と結合するための樺皮が残る。年輪年代の測定結果は1306年以降伐採である[注51]。*31*は樺皮紐の孔が一辺に２箇所みられ，割れ口に残る孔も同様の孔とみられる。*32*も樺皮紐の孔が一辺に２箇所みられ，点状の焼け焦げが表面に１箇所，裏面に３箇所ある。年輪年代の測定は辺材部がないため測定不能であった。*31*・*32*はヒノキ材を使用している。

匙（第189図，*33*，図版120）

*33*はＳＥ28から出土した。柄部を欠損しているが，イヌエンジュ，サイカチ等のマメ科の材を刳り抜いて一木から作られたものである。楕円形を呈し，断面が弧状になるよう中央を浅く抉り，縁辺は削ってやや薄くしている。

柱（第190～194図，*34*～*52*・*54*～*56*，図版122～126）

柱の材は*34*はサイカチ，*35*・*39*～*43*・*45*・*47*・*49*・*52*・*54*～*56*はクリ，*36*はウメかモモ，*37*はオニグルミ，*38*はカバノキ属，*44*はイタヤカエデ，*46*はハンノキ，*48*はヌルデ，*50*はリョウブで，10ｍ以上になる落葉高木が大半を占める。

34・*35*はＳＢ５の柱である。断面形は，*34*は長径17.4㎝の楕円形，*35*は直径16.9㎝の不整円形を呈し，太い。*34*は一部に表皮が残る。下端を側面から中央に向かって削り尖らせている。*36*・*37*はＳＢ６になる可能性のある柱穴の柱だが，ＳＢ６の柱の並びからややずれるので検討を要する。断面形は円形で，直径は*36*が8.2㎝，*37*が9.8㎝とやや細い。*36*は一部に表皮が残る。*36*・*37*とも下端を側面から削り尖らせるが，*36*は斜めに削り先端は鋭くなっている。放射性炭素年代は*36*が15世紀，*37*が15世紀中頃～17世紀前半と測定されている[注52]。*38*・*39*はＳＢ８の柱である。断面形は，*38*は直径12.8㎝の不整形，*39*は直径15.7㎝の円形を呈する。下端を水平に削っており，*39*は芯が欠損して中空になっている。*39*は下端が焼けて焦げており，腐食を防いだものと考えられる。放射性炭素年代は*38*が13世紀

注51　第二分冊　自然科学分析　光谷拓実「Ⅹ．手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡出土木製品の年輪年代」
注52　第二分冊　自然科学分析　株式会社加速器研究所「Ⅸ．放射性炭素年代測定　１．手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡出土遺物の放射性炭素年代測定」

末～15世紀初頭，*39*が15世紀前半と測定されている。*40*～*42*はＳＢ11の柱である。材はすべてクリである。*40*・*41*は下端の加工面は斜めになっている。*42*は中空になっており，下端は焦げている。断面形は円形で，*40*は直径10.6cm，*41*は10.9cm，*42*は8.6cmと，太さはほぼ揃っている。*43*はＳＰ23の柱である。断面は円形で直径は17.1cmとやや太い。*44*はＳＢ12の柱である。下端は側面から中央へ向かって削り尖らせる。断面は円形で直径は17.4cmと太く，残存長は当遺跡の柱根で最も長く，95.0cmを測る。*45*～*47*はＳＢ10の柱である。*45*・*46*はともにＳＰ258から出土したが，立った状態で出土したのは*45*である。*45*は下方に方形の孔をもつ。孔を穿った面は，片方は面全体を平坦に，もう一方は孔付近をやや斜めに削っている。材を組み合わせるための孔と考えられるが，具体的な使用形態は不明である。下端は削って尖らせている。径は22.6cmと太く，残存長は66.0cmである。*46*は断面は円形，下端はほぼ水平に削る。直径は7.7cmである。*47*は断面は円形，下端は削って尖らせる。直径は12.2cmである。*48*はＳＡ１の柱で，断面は不定形，下端はやや斜めに削る。径は25cmと太い。*49*～*52*・*54*～*56*は建物・柵と認められる柱穴以外から出土したものである。材はクリが多い。*49*・*50*は断面は楕円形，下端は斜めに鋭く削る。*49*は一部が炭化している。*51*は断面は方形に近いがやや不整形，下端はやや斜めに削る。*52*は断面は円形，下端は細かく削り丸く仕上げる。*54*はＳＥ40出土で，断面は円形，下端を丸く削る。*55*は断面やや不整な円形で，径は22.0cmと太い。*56*は両端に加工がある。片方は斜めに削って尖らせ，もう一方は丸く削る。

杭（第194図，*53*，図版126）

*53*はＳＤ216出土で，下端は鋭く削られている。材はアカマツである。

呪符木簡（第195図，*57*，図版127）

*57*は呪符木簡である。ＳＥ158の掘形から出土した。上端は欠損しており，残存長は16.3cm，幅2.8cm，厚さ0.6cmである。下端は尖らせており，突き刺して使用したものであろうか。片面に墨書がみられ，上部は欠損のため不明であるが，判読不能の梵字の下に左側に「**𑖭**」，右側に「**𑖩**ヵ」，を配し，梵字３文字で「鬼」をとり囲み押さえる意図が見受けられる。以下は「門」，十文字，「急々如律令」で，十文字内の四方に配された文字は「日」とみられる[注53]。ウルシ科の材を加工している。

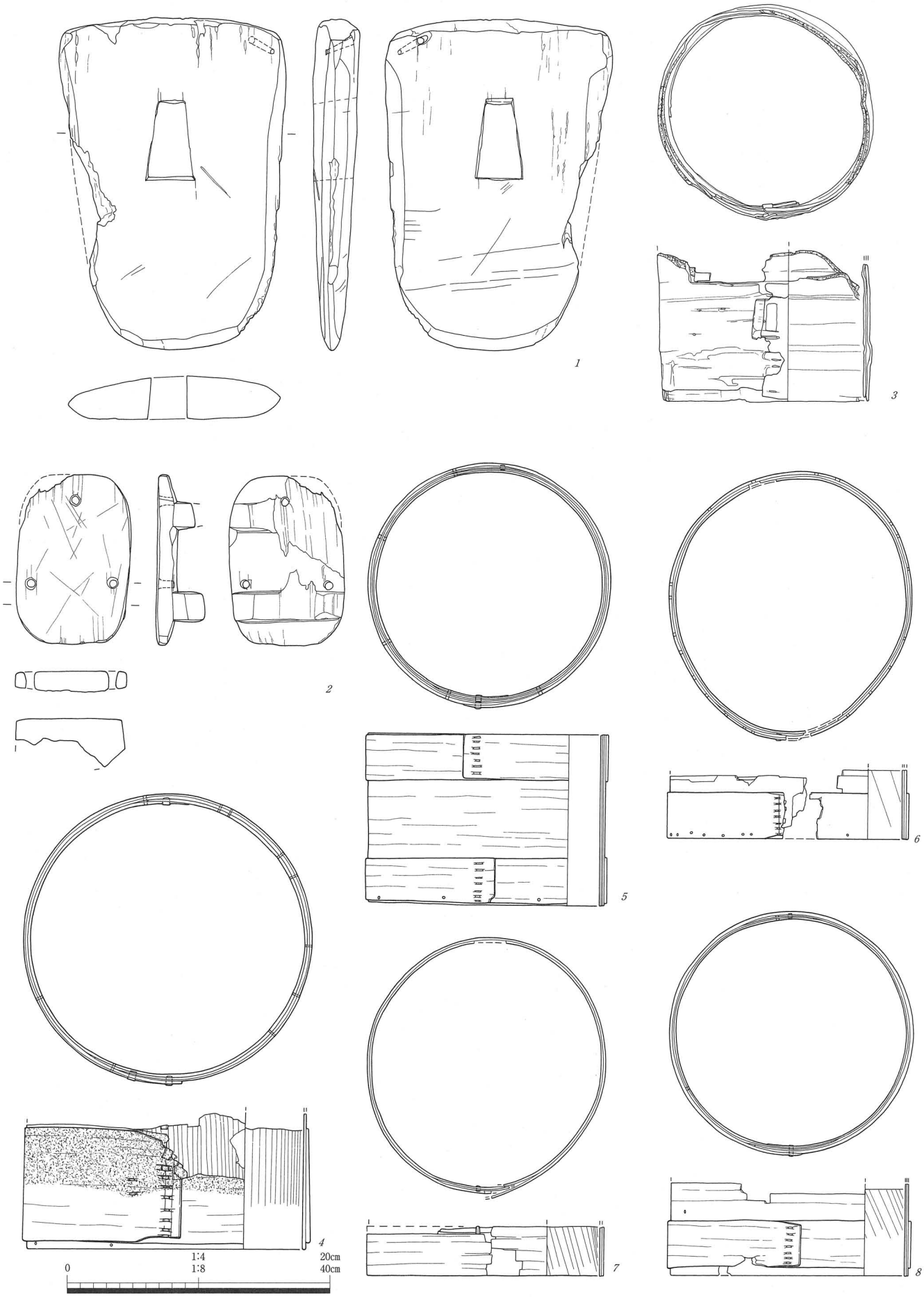
用途不明品（第195図，*58*～*67*，図版127・128）

58～*64*は板状の加工木で，用途は不明である。*58*・*59*・*61*はＳＤ６から出土した。*58*は台形に切り抜いた板の底辺側を弧状に抉り，さらに中央に切り込みを入れたものである。切り込みに沿って圧痕があり，何か別の部材と組み合わせて使用したものとみられる。材はヒノキである。*59*は円形版を転用したもので，一方は円形版の縁を残し，左右に羽子板状の抉りを入れて切り抜いている。材はヒノキである。*60*・*61*は直方体の一部を削り取ったもので，何かの部材であろうか。*60*・*62*はＳＤ４から出土した。*60*はヒノキ属である。*62*は２箇所に孔があり，一方の面は炭化しており線状痕が多くみられる。材はヒノキである。*63*はＳＥ40から出土した。円形を呈し，孔が２箇所穿たれる。部分的に焼け焦げがある。材はサワラである。*64*はＳＥ183から出土した板で，井戸枠の一部に使用されていたものであろうか。材はスギである。*65*は断面が0.6cm×0.4cmの長方形を呈する細い棒状の加工木で，２箇所に孔がみられる。材はスギである。*66*は１対の孔があり，折敷の一部とも考えられる。材はヒノキである。

*67*はＳＥ183から出土した。樹皮を残した棒状の加工木で，一方にほぞ状の突起部を削り出している。部材として使用されたものであろうか。材はサクラ属である。放射性炭素年代は14世紀末～15世紀前半の確率が高くなっている[注54]。

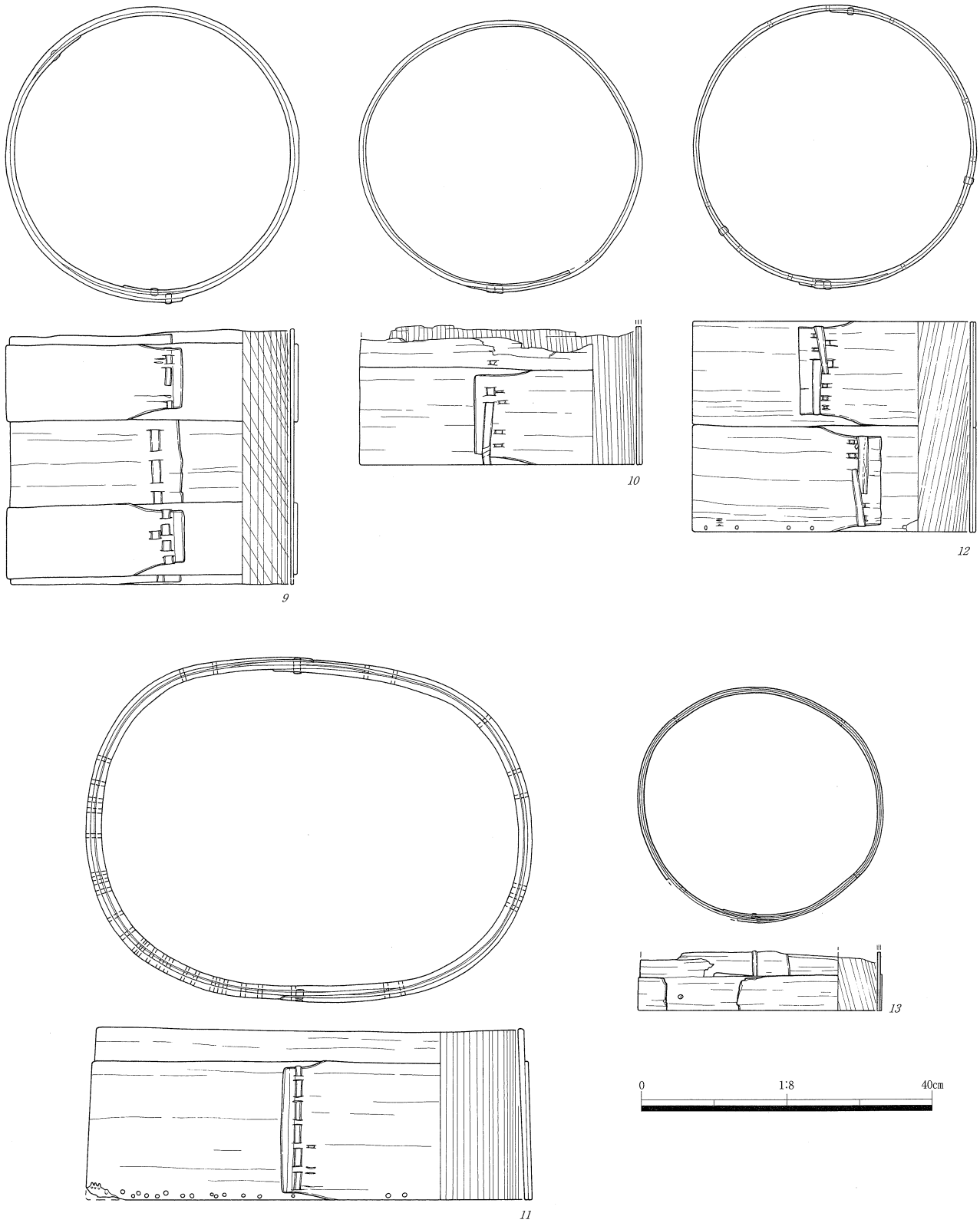
（越前慎子）

注53　釈文は水野正好氏にご教示頂いた。
注54　第二分冊　自然科学分析　株式会社加速器分析研究所「Ⅸ．放射性炭素年代測定　１．手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡出土遺物の放射性炭素年代測定」



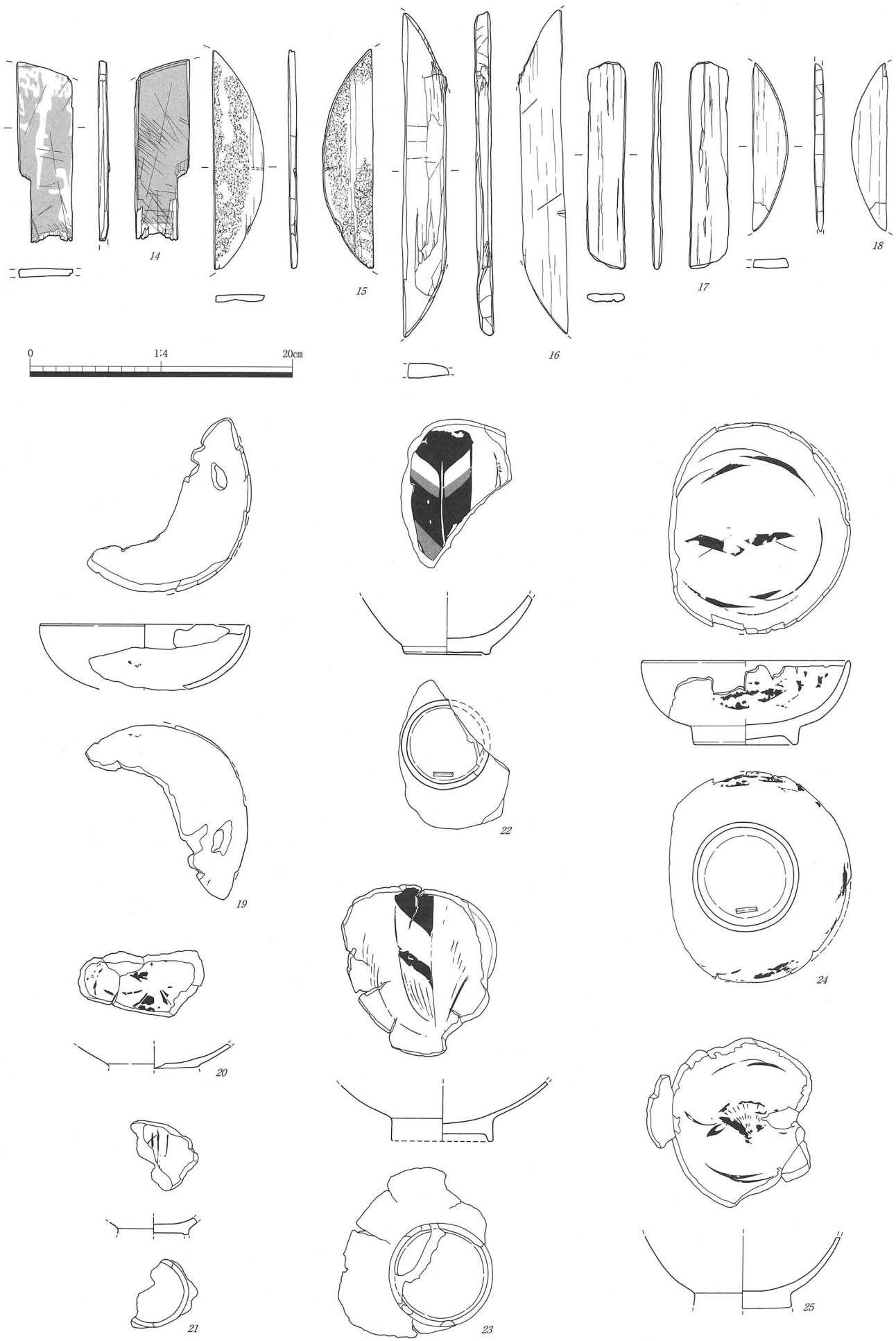
第186図　手洗野赤浦遺跡　遺物実測図　木製品　(*1*~*3*　1/4,　*4*~*8*　1/8)

SD6 (*3*)　SE41 (*4*~*8*)　SK235 (*1*)　包含層 (*2*)



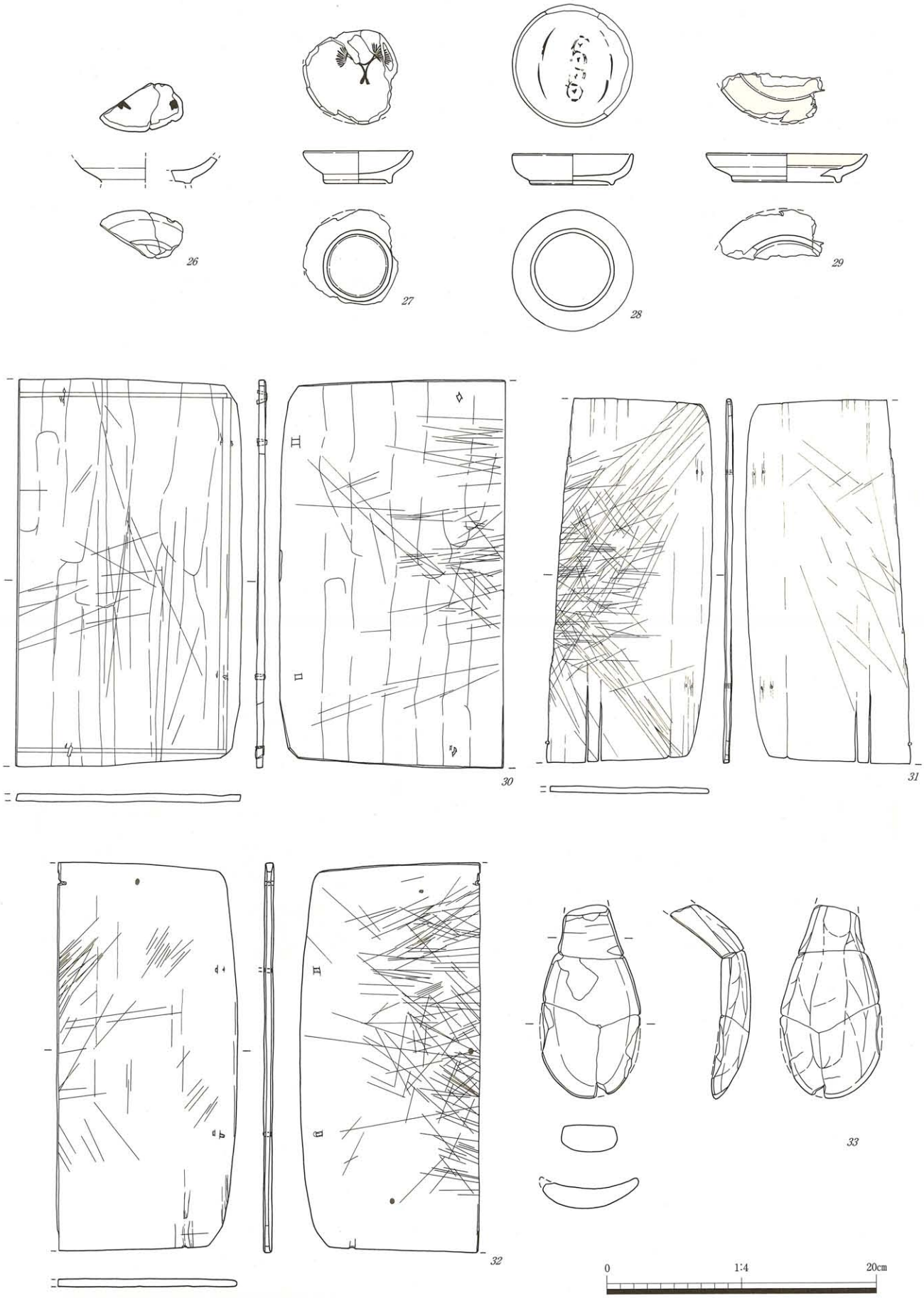
第187図　手洗野赤浦遺跡　遺物実測図　木製品　(1/8)

SE28（*12*）　SE158（*9・10*）　SE183（*11*）　SK155（*13*）



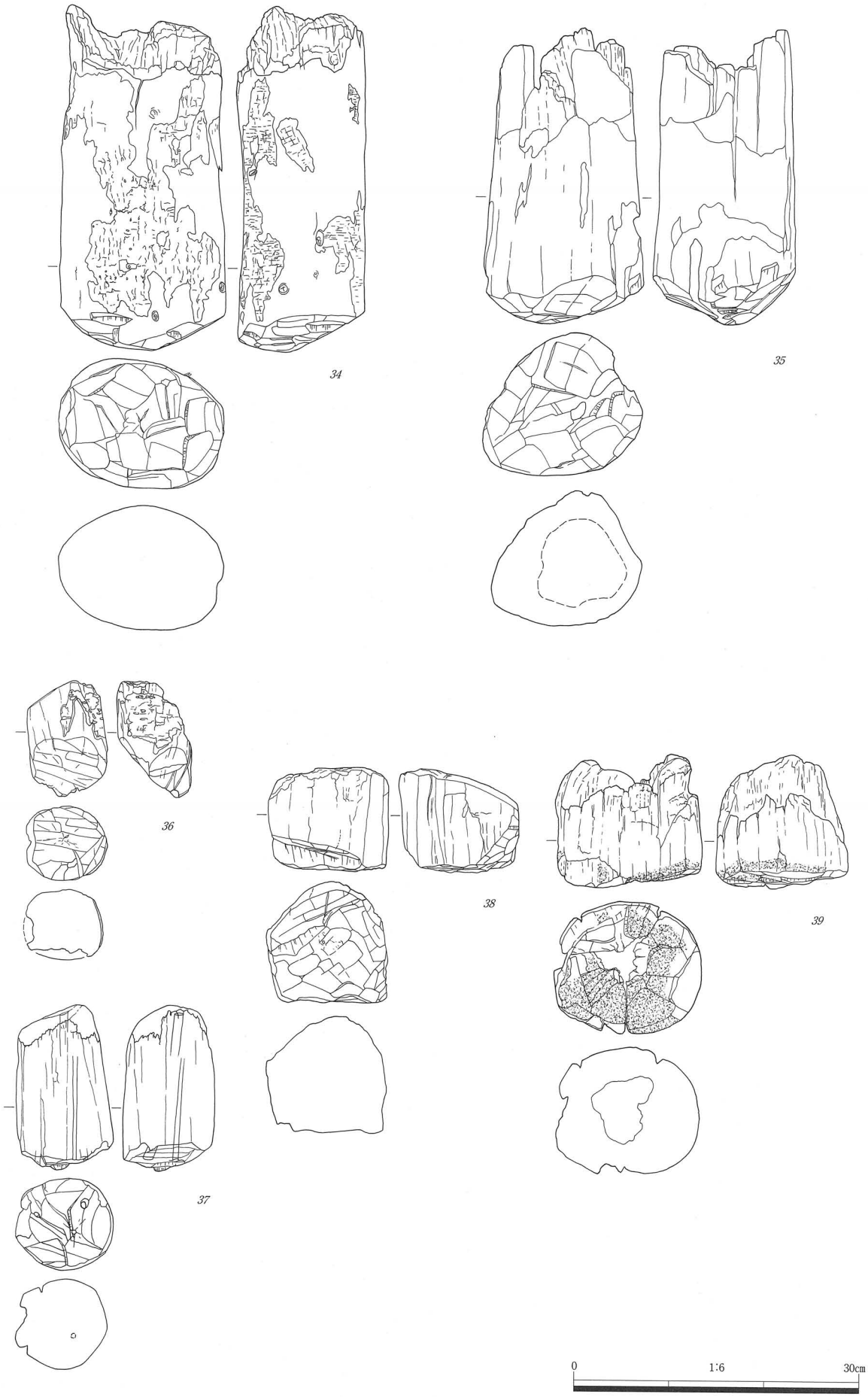
第188図　手洗野赤浦遺跡　遺物実測図　木製品　(1/4)

SD4（*14・23*）　SD6（*15・20*）　SD110（*22*）　SD156（*16*）　SE28（*17・21*）
SE40（*18・25*）　SE158（*19*）　SK47（*24*）



第189図　手洗野赤浦遺跡　遺物実測図　木製品　(1/4)

SD110（*26*）　SD216（*28・29*）　SE28（*33*）　SE40（*27*）　SE183（*30～32*）

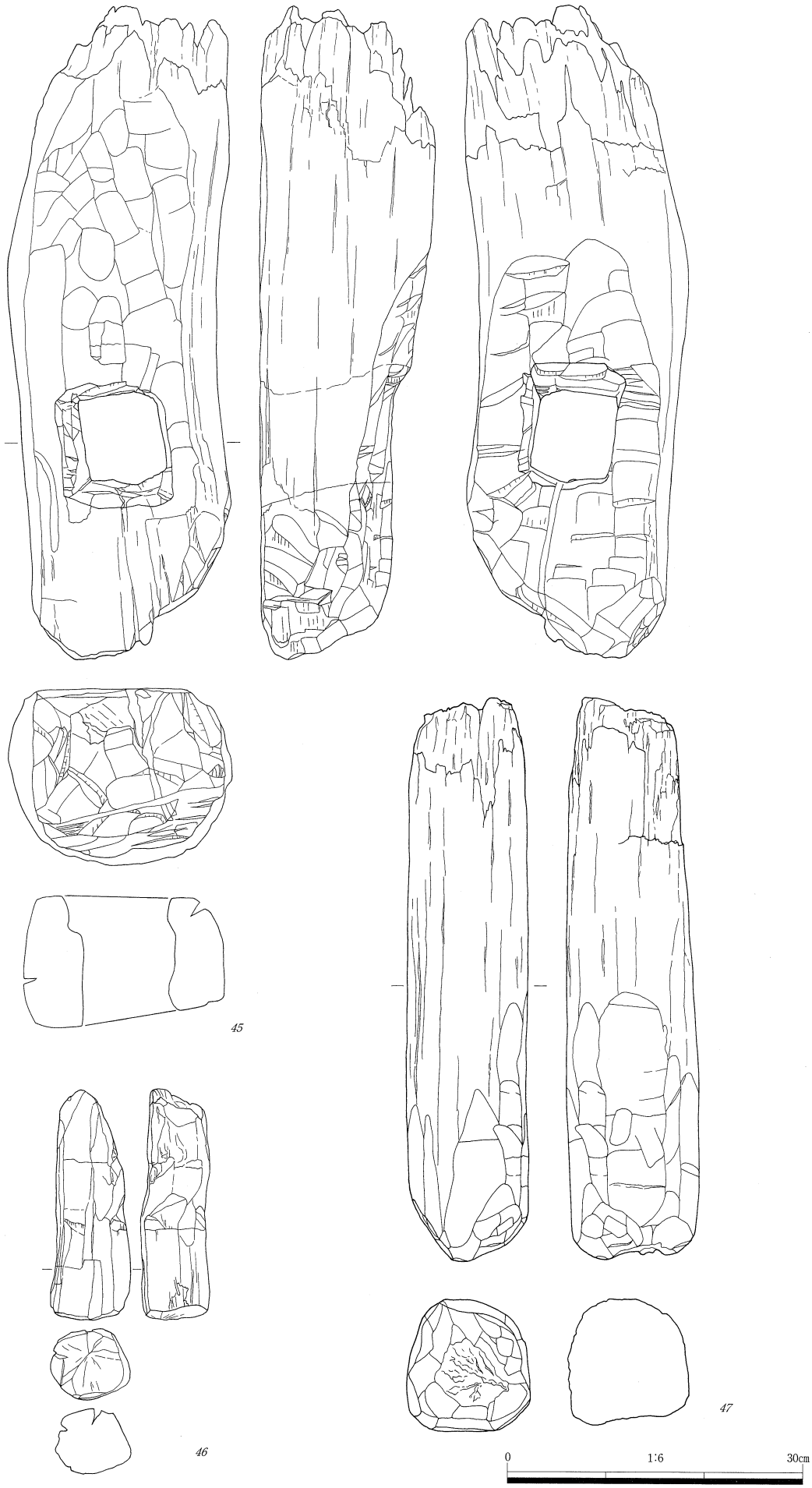


第190図　手洗野赤浦遺跡　遺物実測図　木製品　(1/6)

SB5　SP280（*34*）　SP281（*35*）　SB6　SP225（*37*）　SP253（*36*）　SB8　SP238（*39*）
SP257（*38*）

第191図　手洗野赤浦遺跡　遺物実測図　木製品　(1/6)

SB11　SP21（*40*）　SP29（*42*）　SP105（*41*）　SB12　SP20（*44*）　SP23（*43*）

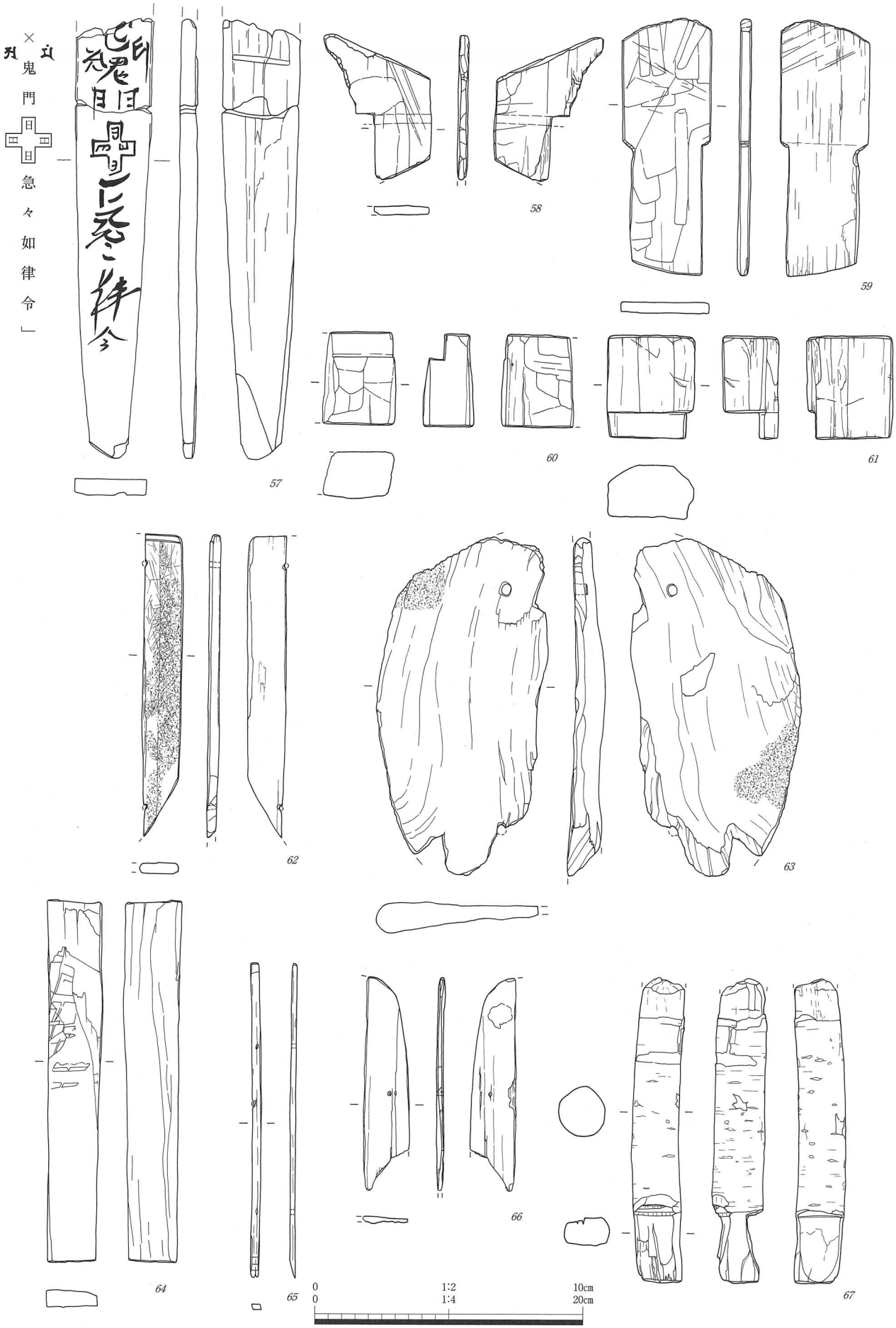


第192図　手洗野赤浦遺跡　遺物実測図　木製品　(1/6)
SB10　SP239（*47*）　SP258（*45・46*）

第193図　手洗野赤浦遺跡　遺物実測図　木製品　(1/6)

SA1　SP132（*48*）　SP51（*49*）　SP65（*50*）　SP205（*51*）　SP285（*52*）

第194図　手洗野赤浦遺跡　遺物実測図　木製品　(1/6)
SD216（*53*）　SE40（*54*）　SK135（*55*）　SK235（*56*）



第195図　手洗野赤浦遺跡　遺物実測図　木製品（*57*　1/2，*58～67*　1/4）

SD4（*60・62*）　SD6（*58・59・61*）　SE40（*63*）　SE158（*57*）　SE183（*64～67*）

（3）石製品

五輪塔（第197図，*1*，図版129）

*1*は火輪である。ＳＤ６から出土した。凝灰岩で，台座部分の窪みにはノミの加工痕が残る。下面は13.7cm×13.7cm，高さは8.5cmである。

石鉢（第197図，*2*，図版129）

*2*は底部片である。包含層から出土した。砂岩製で，成形加工の際の削り痕が残る。

砥石（第197図，*3*～*7*，図版129）

3～*5*はＳＤ18から出土した。*3*は凝灰岩製で，中砥に使用されたものである。砥面が平滑で置き砥の断片と考えられる。*4*は鳴滝産の頁岩製で，両側辺に生産地での鋸引きによる加工痕がある。仕上げ砥に使用されたもので，完形である。*5*は凝灰岩製で，手持ち砥石に転用されている。完形で，仕上げ砥として使用されたものか。*6*はＳＥ41から出土した。砂岩製で，手持ち砥石に転用されている。中砥用として使用されたもので，完形である。*7*はＳＤ６から出土した。砂岩製で，荒砥に使用されたものか。下端部の小口面に加工痕があるが，生産地のものか消費地のものか不明である。表裏に砥面があるが，砥面は波打っている。

（4）金属製品

銭貨（第198図，*1*～*8*，図版130）

ＳＤ18から出土した*6*以外は，包含層から出土した。*1*は景徳元寳である。北宋銭で，初鋳は1004年（景徳元）である。*2*は祥符元寳である。北宋銭で，初鋳は1009年であるが，本邦でも中世に模鋳される。*3*は天禧通寳である。北宋銭で，初鋳は1017年（天禧元）である。*4*は天聖元寳である。北宋銭で，初鋳は1023年（天聖元）である。字体は真書である。*5*・*6*は熙寧元寳である。北宋銭で，初鋳は1068年（熙寧元）である。字体は*5*は篆書，*6*は真書である。*7*は下の銭文が欠けているが，政和通寳と考えられる。北宋銭で，初鋳は1111年（政和元）であり，本邦でも中世に模鋳される。*7*は円孔であるため模鋳銭と考えられる。字体は篆書である。*8*は皇宋通寳である。北宋銭で，初鋳は1038年（寳元元）であるが，本邦でも1340年頃模鋳される。字体は篆書である。

煙管（第198図，*9*，図版130）

*9*は吸口である。表土から出土した。長さ8.6cm，直径0.9cmである。羅宇部の竹が残存している。

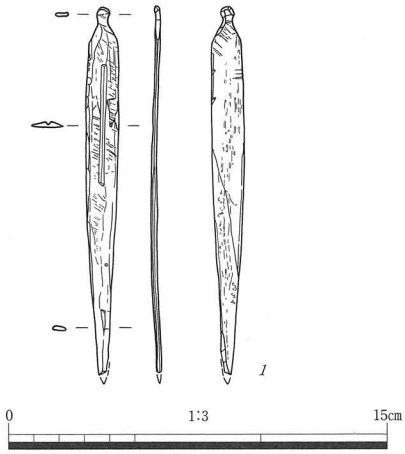
棒状製品（第198図，*10*，図版130）

*10*は棒状の鉄製品で用途は不明。包含層から出土した。Ｓ字状に屈曲し，断面は長方形を呈する。

（5）骨角製品（第196図，*1*，図版130）

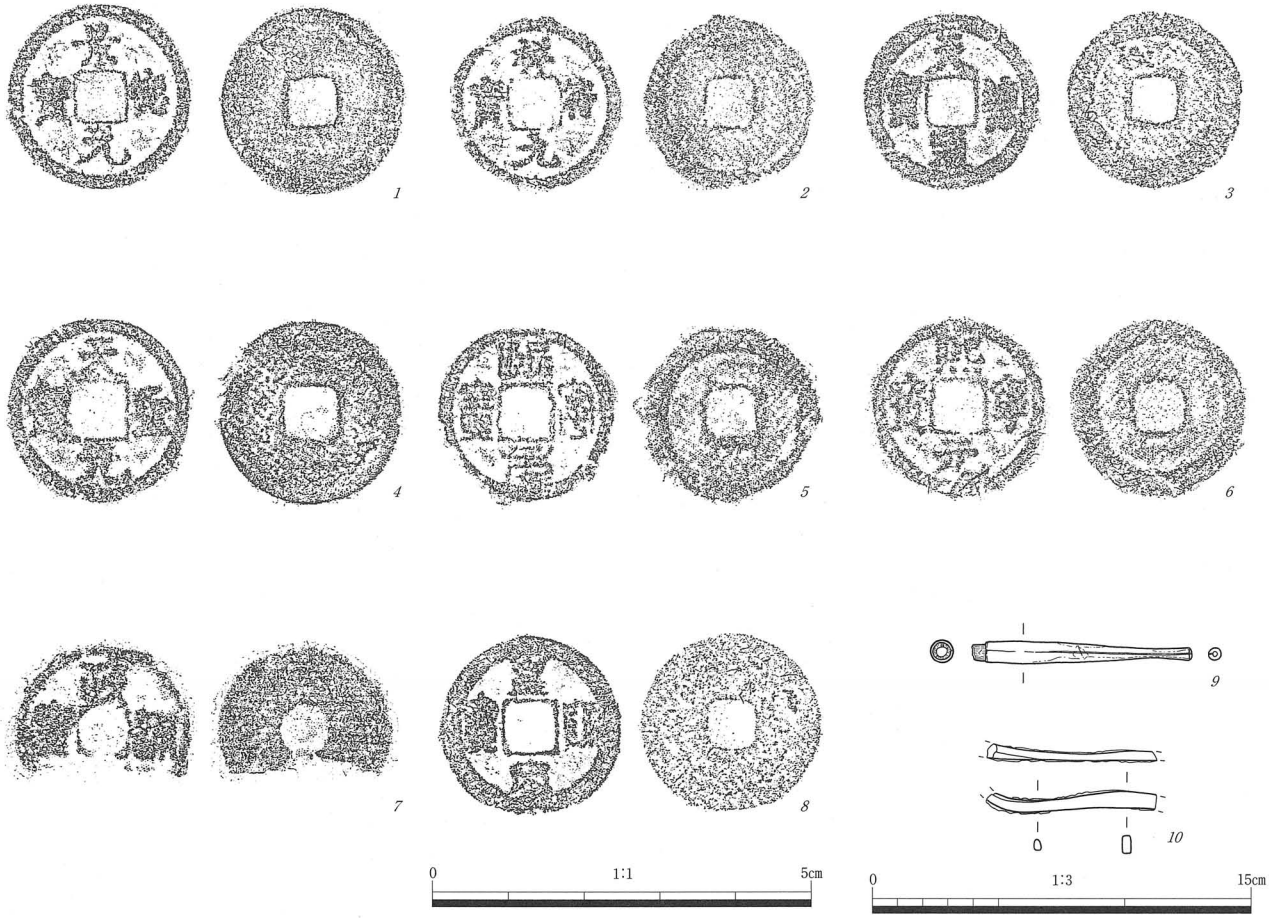
*1*は骨角製の笄である。ＳＫ12から出土した。先端を欠損しているが，残存長は14.5cm，幅1.3cm，厚さ0.2cmである。薄板状にした鹿骨を削り出し，全面を研磨している。片面に溝状の窪みをもち，端部を削り出して耳掻を作り出している。

（越前慎子）



第196図　手洗野赤浦遺跡　遺物実測図（1/3）**骨角製品**
SK12（*1*）

第197図　手洗野赤浦遺跡　遺物実測図　石製品　（*2*～*7*　1/3，*1*　1/4）
SD6（*1*・*7*）　SD18（*3*～*5*）　SE41（*6*）　包含層（*2*）



第198図　手洗野赤浦遺跡　遺物実測図　金属製品　（*1～8*　1/1，*9・10*　1/3）
SD18（*6*）　包含層（*1～5, 7～10*）

第26表　手洗野赤浦遺跡　土器・陶磁器・土製品一覧（1）

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	器種	法量（cm）			時期	胎土色調		胎土の特徴	釉色調		釉薬	備考
							口径	器高	底径								
178	*1*	100	SP249（SB6）		中世土師器	皿	11.9	2.6			2.5Y6/3	にぶい黄色					スス付着 土器成分分析№7
	2	110	SD4	X34Y40	中国製青磁	碗			5.8	13世紀前半	N7/0	灰白色	黒色粒	7.5Y5/2	灰オリーブ色	青磁釉	龍泉窯系太宰府Ⅱb類 蓮弁文 印刻
	3	110	SD4	X43Y38	中国製青磁	碗			6.2	14～15世紀	N8/0	灰白色		2.5GY6/2	灰黄色	青磁釉	龍泉窯系上田BⅡ～Ⅳ類 印刻
	4	108	SD4	X41Y46	珠洲	擂鉢			16.0		N6/0	灰色					卸目1.1cm6条
	5	108	SD4	X37Y38	珠洲	擂鉢				Ⅴ～Ⅵ期	N5/0	灰色	白色粒・骨針・石英・小礫				
	6		SD5	X48Y38	中世土師器	皿	7.3	2.0			10YR6/2	灰黄褐色	赤色粒・白色粒・骨針・雲母				
	7	108	SD5	X48Y36	珠洲	甕				Ⅴ期	N5/0	灰色	白色粒				
	8	108	SD5	X47Y37 ②層	珠洲	擂鉢	30.0			Ⅴ期	N5/0	灰色	白色粒・骨針・小礫				卸目2.9cm8条
	9	100	SD6		中世土師器	皿	8.8	2.3			10YR7/2	にぶい黄橙色	骨針				
	10	101	SD6		中世土師器	皿	8.8	3.1			10YR7/3	にぶい黄橙色	赤色粒				灯芯油痕,土器成分分析№5
	11	110	SD6	X50Y34	中国製青磁	碗	14.8			14世紀後半～15世紀前半	10YR8/1	灰白色		2.5GY7/1	明オリーブ灰色	青磁釉	龍泉窯系上田BⅡ類 蓮弁文
	12	110	SD6		中国製青磁	碗			6.8	14世紀後半～15世紀前半	N8/0	灰白色		2.5GY7/1	明オリーブ灰色	青磁釉	龍泉窯系上田BⅡorBⅢ類 蓮弁文 印刻
	13	110	SD6	X48Y33	中国製青磁	碗			6.2	14世紀初頭～15世紀前半	N7/0	灰白色		5GY7/1	明オリーブ灰色	青磁釉	龍泉窯系太宰府Ⅳ類～上田BⅡ類 重ね焼 蓮弁文 印刻
	14	110	SD6		中国製白磁	皿	9.0			14世紀後半～15世紀	2.5GY8/1	灰白色		7.5Y8/1	灰白色	白磁釉	漆継ぎ 森田D群
	15	110	SD6		中国製白磁	皿			4.4	14世紀後半～15世紀	2.5Y8/1	灰白色		10YR8/2	灰白色	白磁釉	漆継ぎ 目痕あり 森田D群,重ね焼

第26表　手洗野赤浦遺跡　土器・陶磁器・土製品一覧(2)

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	時期	胎土色調		胎土の特徴	釉色調		釉薬	備考
178	16	111	SD6	X46Y35	古瀬戸	天目茶碗	12.7			後期様式Ⅱ期	2.5Y8/2	灰白色		2.5YR1.7/1	赤黒色	鉄釉	
	17		SD6	X45Y35	古瀬戸	腰折皿			4.6	後期様式Ⅳ期新段階	2.5Y8/2	灰白色		5Y7/3	浅黄色	灰釉	
	18	108	SD6		珠洲	擂鉢	30.0			Ⅴ期	N5/0	灰色					口縁端面に櫛目波状文 卸目1.4cm7条
	19		SD6		珠洲	擂鉢			16.0		2.5Y5/1	黄灰色					漆継ぎ?
	20		SD6・SE158	④層	珠洲	甕			18.0		N6/0	灰色	骨針				
	21	108	SD6	X43・48Y33・37	珠洲	甕	50.0			Ⅴ期	2.5Y5/1	黄灰色					
179	22		SD110	X30Y35	須恵器	杯A			7.0		7.5Y6/1	灰色					
	23		SD110	X30Y34	中世土師器	皿	12.3				10YR6/2	灰黄褐色	骨針				
	24		SD110	X30Y34	珠洲	甕				Ⅳ期	N5/0	灰色					
	25		SD216		珠洲	甕				Ⅳ期	N5/0	灰色					
	26	111	SK12・SE40		古瀬戸	合子	3.2			中期様式Ⅰ～Ⅱ期	7.5Y6/1	灰色		7.5Y4/2	灰オリーブ色	灰釉	印花文
	27		SE40		古瀬戸	縁釉小皿	10.3			後期様式Ⅳ期古段階	2.5Y6/1	黄灰色		2.5GY4/1	暗オリーブ灰色	灰釉	
	28	108	SE40		珠洲	擂鉢	32.6			Ⅴ期	N7/0	灰白色					波状文
	29	108	SE40		珠洲	擂鉢	34.4			Ⅴ期	N6/0	灰色	骨針				波状文
	30		SE40		珠洲	擂鉢	34.7			Ⅴ期	N6/0	灰色	骨針				波状文
	31		SK27	上層	中世土師器	皿	11.8				10YR8/3	浅黄橙色					灯芯油痕
	32	101	SK47		中世土師器	稜皿	10.6	4.0	5.2		7.5YR6/4	にぶい橙色	白色粒・骨針・雲母				ヘラ記号
	33	110	SK47		中国製青磁	碗			5.6	14世紀前半～15世紀前半	N6/0	灰色	白色粒	2.5GY6/1	オリーブ灰色	青磁釉	龍泉窯系太宰府Ⅳ4類～上田DorEⅡ類
	34		SK113		珠洲	甕	48.1			Ⅳ期	N6/0	灰色					漆継ぎ
	35		SK134		中世土師器	皿	9.8				10YR6/2	灰黄褐色	骨針				
	36		SK248		珠洲	壺			8.4		N5/0	灰色					
180	37	102	土器集中		中世土師器	皿	10.3	2.3	6.0		7.5YR7/6	橙色	赤色粒・骨針				土器成分分析№1
	38	102	土器集中		中世土師器	皿	9.7	2.2	5.4		7.5YR7/6	橙色	赤色粒・骨針				
	39	102	土器集中		中世土師器	皿	9.6	2.1	6.3		7.5YR6/6	橙色	赤色粒・骨針				
	40	103	土器集中		中世土師器	皿	10.6	2.0	5.8		7.5YR6/6	橙色	赤色粒・骨針				
	41	102	土器集中		中世土師器	皿	9.6	2.2	5.8		7.5YR6/6	橙色	赤色粒				
	42		土器集中		中世土師器	皿	10.0	2.2	6.0		7.5YR7/6	橙色	赤色粒・骨針				
	43		土器集中		中世土師器	皿	9.5	2.2	5.9		7.5YR7/6	橙色	赤色粒・骨針				土器成分分析№2
	44	103	土器集中		中世土師器	皿	9.0	1.7	5.0		7.5YR6/6	橙色	赤色粒・骨針				
	45		土器集中		中世土師器	皿	10.0	2.0	4.8		7.5YR6/6	橙色	赤色粒・骨針				
	46	103	土器集中		中世土師器	皿	9.7	2.3	5.4		7.5YR7/6	橙色	赤色粒・骨針				
	47	103	土器集中		中世土師器	皿	9.5	2.2	5.6		7.5YR7/6	橙色	赤色粒・骨針				
	48		土器集中		中世土師器	皿	10.7	1.9	6.6		7.5YR7/6	橙色	赤色粒・骨針				
	49		土器集中		中世土師器	皿	9.4	2.5	6.0		10YR7/4	にぶい黄橙色	赤色粒・骨針				土器成分分析№3
	50	104	土器集中		中世土師器	皿	9.4	2.2	4.9		7.5YR7/6	橙色	赤色粒・骨針				
	51	104	土器集中		中世土師器	皿	10.5	2.4	5.6		7.5YR6/6	橙色	赤色粒・骨針				
	52	104	土器集中		中世土師器	皿	10.2	2.6	5.4		7.5YR7/6	橙色	赤色粒・骨針				
	53	104	土器集中		中世土師器	皿	10.1	2.3	4.9		7.5YR7/6	橙色	赤色粒・骨針				
	54		土器集中		中世土師器	皿	10.0	2.2	5.6		5YR6/6	橙色	赤色粒・骨針				
	55	105	土器集中		中世土師器	皿	9.6	2.2	5.6		7.5YR7/6	橙色	赤色粒・骨針				
181	56	105	土器集中		中世土師器	皿	10.1	2.2	5.8		7.5YR7/6	橙色	赤色粒・骨針				
	57	105	土器集中		中世土師器	皿	9.7	2.3	6.1		7.5YR7/6	橙色	赤色粒・骨針				
	58		土器集中		中世土師器	皿	11.2				7.5YR7/6	橙色	赤色粒・骨針				土器成分分析№4
	59		土器集中		中世土師器	皿	10.0	2.6	5.0		10YR7/4	にぶい黄橙色	赤色粒・骨針				
	60		土器集中		中世土師器	皿	9.8	2.0	6.8		7.5YR7/6	橙色	赤色粒・骨針				
	61		土器集中		中世土師器	皿	9.6	1.9	5.9		7.5YR7/6	橙色	赤色粒・骨針				
	62	105	土器集中		中世土師器	皿	10.2	2.1	5.5		5YR7/6	橙色	赤色粒・骨針				
	63	106	土器集中		中世土師器	皿	10.1	2.6	5.5		7.5YR7/6	橙色	赤色粒・骨針				
	64	106	土器集中		中世土師器	皿	10.3	2.1	5.5		7.5YR6/6	橙色	赤色粒				

第26表　手洗野赤浦遺跡　土器・陶磁器・土製品一覧(3)

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	時期	胎土色調		胎土の特徴	釉色調		釉薬	備考
181	65	106	土器集中		中世土師器	皿	10.2	2.5	5.5		10YR6/6	明黄褐色	赤色粒				
	66	106	土器集中		中世土師器	皿	10.3	2.0	5.8		7.5YR7/6	橙色	赤色粒・骨針				
	67		土器集中	X41Y23	中世土師器	皿	9.6	2.2	6.4		10YR6/6	明黄褐色	赤色粒・骨針				
	68	107	土器集中		中世土師器	皿	10.0	2.2	6.6		7.5YR7/6	橙色	赤色粒・骨針				
	69	107	土器集中		中世土師器	皿	10.4	2.4	5.2		7.5YR7/6	橙色	赤色粒・骨針				
	70		SD87		瓦質土器	蓋	10.6		6.0	中世末～近世	2.5Y6/2	灰黄色	石英				
182	71		SD18	X23Y34 ②層	須恵器	杯B蓋				8～9世紀	2.5Y7/1	灰白色					
	72		SD18	X42Y27 ①層 X35Y25 ②層	土師器	高杯(脚)					7.5YR7/6	橙色	赤色粒				
	73		SD18	X23Y27 ①層	中世土師器	皿	8.8	1.8			2.5Y7/3	浅黄色	赤色粒・骨針				
	74	107	SD18	X32Y27 ②層	中世土師器	皿	7.9	2.1			10YR8/3	浅黄橙色	赤色粒				土器成分分析No.6
	75		SD18	X22Y33 ①層	中世土師器	皿	8.0	2.2			5YR7/4	にぶい橙色	赤色粒				灯芯油痕
	76		SD18	X34Y17 ②層	中世土師器	皿	7.5	1.9			7.5YR7/4	にぶい橙色					灯芯油痕
	77		SD18	X20Y29 ①層	中世土師器	皿	8.8	1.6			7.5YR7/4	にぶい橙色	赤色粒				灯芯油痕
	78		SD18	X32Y28 ②層	中世土師器	皿	11.8	2.6			10YR8/3	浅黄橙色	赤色粒				
	79		SD18	X38Y25 ②層	中世土師器	皿	10.8				7.5YR7/6	橙色	赤色粒・骨針				
	80	109	SD18	X38Y25 ①層	珠洲	擂鉢	30.9			V期	5Y8/1	灰白色	骨針				
	81	109	SD18	X34Y28 ②層	珠洲	擂鉢	34.0			V期	7.5YR7/4	にぶい橙色	赤色粒・骨針				
	82	109	SD18	X48Y29 ②層 X50Y27 ①層	珠洲	擂鉢	35.3			V期	N6/0	灰色	骨針				卸目3.0cm11条
	83		SD18	X23Y27 ①層	中国製青磁	碗	16.4			14世紀前半～15世紀前半	7.5Y7/1	灰白色		2.5GY6/1	オリーブ灰色	青磁釉	龍泉窯系太宰府Ⅳ類～上田DⅡ類
	84		SD18	X32Y17 ②層	土製品	土錘	(6.2)	(2.8)	2.3		7.5YR7/4	にぶい橙色	赤色粒				重量13.4g
	85			X24Y13 Ⅱ層	須恵器	杯B			9.8	8世紀	N7/0	灰白色	白色粒・砂粒				
	86			X25Y29 Ⅰ層	須恵器	杯B蓋	16.1			8世紀	10YR5/1	褐灰色					
	87			X38Y30 Ⅰ層	須恵器	杯B			7.4	10世紀	N5/0	灰色					
	88			X18Y20 Ⅱ層	土師器	甕	19.0				7.5YR7/6	橙色	赤色粒・砂粒				
	89			X27Y14 Ⅱ層	土師器	甕	16.6				7.5YR7/6	橙色	赤色粒・砂粒				
	90			X19Y20 Ⅰ層	中世土師器	皿			5.8		7.5YR7/6	橙色					
	91			X50Y40	中世土師器	皿	7.5	1.7			2.5YR6/2	灰黄色					灯芯油痕
	92			X25Y30 Ⅱ層	中世土師器	皿	7.8	2.2			2.5Y7/2	灰黄色	白色粒・骨針・雲母				灯芯油痕
	93			X41Y42 Ⅱ層	中世土師器	皿	8.7	1.7			10YR7/3	にぶい黄橙色	白色粒・骨針・雲母				
	94			X50Y43 Ⅱ層	中世土師器	皿	7.0				10YR7/4	にぶい黄橙色					
	95			X41Y27 Ⅱ層	中世土師器	皿	7.8	1.8			7.5YR8/4	浅黄橙色	赤色粒				
	96			X44Y31 Ⅱ層	中世土師器	皿	7.8	1.8			2.5Y7/2	灰黄色	白色粒・石英				灯芯油痕
	97			X26Y32 Ⅱ層	中世土師器	皿	8.3	1.7			2.5Y7/1	灰白色	骨針				内外面に黒斑
	98			X26Y17 Ⅰ層	中世土師器	皿	8.9	1.7			2.5Y7/2	灰黄色	白色粒・石英・雲母				スス付着
	99			X49Y28 Ⅰ層	中世土師器	皿	11.6				10YR6/3	にぶい黄橙色					灯芯油痕
	100			X40Y39 Ⅱ層	中世土師器	皿	12.0				2.5Y6/1	黄灰色	赤色粒・骨針				
	101	107		X41Y18 Ⅱ層	中世土師器	皿	7.7	2.6			7.5YR8/4	浅黄橙色	白色粒				
183	102	109		X43Y45 Ⅱ層	珠洲	擂鉢	40.0			V期	N5/0	灰色	白色粒・骨針				櫛目波状文
	103	109		X32・20Y21・29 Ⅰ層	珠洲	擂鉢	42.3			V期	5Y6/1	灰色	骨針				卸目1.7cm7条
	104	109		X41Y24 Ⅱ層	珠洲	擂鉢	31.0			V期	N7/0	灰白色	白色粒・砂粒・骨針				
	105	109		X55Y32 Ⅱ層	珠洲	擂鉢	32.0			V期	N6/0	灰色	白色粒・骨針				卸目4.0cm14条
	106	109		X52Y35 Ⅱ層	珠洲	擂鉢			13.0		5Y6/1	灰色					卸目2.0cm6条 漆継ぎ
	107	109		X53Y35 Ⅱ層	珠洲	擂鉢			13.0		2.5Y6/1	黄灰色					卸目3.2cm12条
	108			X50Y35 Ⅱ層	珠洲	擂鉢			13.4		2.5Y6/1	黄灰色	骨針				板状圧痕
	109			X45Y43 Ⅱ層	珠洲	壺	11.6				N6/0	灰色					
	110			X57Y31 Ⅱ層	珠洲	壺	15.6				N5/0	灰色					
	111			X48Y33 Ⅱ層	珠洲	壺	15.3				N5/0	灰色	白色粒・雲母				
	112			X46Y45	珠洲	壺			9.9		N6/0	灰色					
	113			X39Y36 Ⅱ層	珠洲	壺			12.0		2.5Y6/1	黄灰色	骨針				漆継ぎか

第26表　手洗野赤浦遺跡　土器・陶磁器・土製品一覧(4)

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	時期	胎土色調		胎土の特徴	釉色調		釉薬	備考
183	114			X41Y35 Ⅱ層	珠洲	甕				Ⅳ～Ⅴ期	N6/0	灰色	白色粒・黒色粒				
	115			X50Y35 Ⅱ層	珠洲	甕				Ⅳ～Ⅴ期	N6/0	灰色	白色粒・骨針				
	116			X49Y36 Ⅱ層	珠洲	甕				Ⅳ～Ⅴ期	N6/0	灰色	白色粒・石英				
	117			X41Y44 Ⅰ層	珠洲	甕				Ⅳ～Ⅴ期	N5/0	灰色	骨針				
	118			X45Y34 Ⅱ層	珠洲	甕				Ⅳ～Ⅴ期	N5/0	灰色	白色粒・骨針				
184	119	108		X58Y32 Ⅱ層	珠洲	甕	50.0			Ⅳ～Ⅴ期	N5/0	灰色	白色粒・骨針				重ね焼
	120	108		X45Y48 Ⅱ層	珠洲	甕	54.0			Ⅳ～Ⅴ期	N5/0	灰色	白色粒・骨針				
	121	108		X48Y30 Ⅰ層	珠洲	甕	69.4			Ⅲ期	7.5Y5/1	灰色	骨針				
	122	108		X58Y31 Ⅱ層	珠洲	甕	94.0			Ⅲ期	N5/0	灰色	白色粒・骨針				
	123	111		X60Y33 Ⅰ層	越前	甕				16世紀前半	N7/0	灰白色	白色粒・黒色粒	7.5YR3/3	暗褐色	鉄釉	
	124			X42Y41 Ⅱ層	信楽	壺			13.4		N8/0	灰白色	白色粒・黒色粒・長石	2.5Y4/2	灰赤色	自然釉	
	125	111		X39Y32 Ⅱ層	瓦質土器	火鉢					2.5Y7/4	淡赤橙色	白色粒・骨針・雲母				雷文
	126	110		X43Y46 Ⅰ層	中国製青磁	碗	15.1			13世紀前半	N8/0	灰白色		5G7/1	明緑灰色	青磁釉	龍泉窯系太宰府Ⅱb類 鎬蓮弁文
	127	110		X41Y46 Ⅰ層	中国製青磁	碗	13.0			14世紀後半～15世紀前半	N8/0	灰白色		10Y6/2	オリーブ灰色	青磁釉	龍泉窯系上田BⅡ類 蓮弁文
	128			X50Y35 Ⅱ層	中国製青磁	碗	13.6			14世紀後半～15世紀前半	N8/0	灰白色	白色粒・黒色粒	2.5GY6/1	オリーブ灰色	青磁釉	龍泉窯系上田BⅡ類 蓮弁文
	129	110		X52Y34 Ⅱ層	中国製青磁	碗	14.9			14世紀前半～15世紀前半	N8/0	灰白色		10Y6/2	オリーブ灰色	青磁釉	龍泉窯系太宰府Ⅳ類～上田BⅡ類 蓮弁文
	130	110		X39Y43 Ⅱ層	中国製青磁	碗			6.2	14世紀前半～15世紀前半	N7/0	灰白色	白色粒・黒色粒	5GY6/1	オリーブ灰色	青磁釉	龍泉窯系太宰府Ⅳ4類(上限) 印刻
	131	110		X35Y25 Ⅰ層	中国製青磁	皿			5.2	14世紀前半～16世紀	5Y8/1	灰白色		10Y5/2	オリーブ灰色	青磁釉	龍泉窯系太宰府Ⅳ類(上限) 印刻
	132	110		X46Y30 Ⅱ層	中国製白磁	杯	10.0			14世紀後半～15世紀	5Y8/1	灰白色		7.5Y8/1	灰白色	白磁釉	森田D群
	133	110		X34Y32 Ⅱ層	中国製白磁	皿			3.6	14世紀後半～15世紀	7.5Y8/1	灰白色		5Y8/1	灰白色	白磁釉	森田D群,墨書
	134	110		X43Y46 Ⅰ層	中国製白磁	杯			3.8	14世紀後半～15世紀	7.5Y8/1	灰白色		10Y8/1	灰白色	白磁釉	森田D群
	135	110		X38Y35 Ⅰ層	中国製染付	皿?	11.0			16世紀後半～?	10Y8/1	灰白色				透明釉	染付 7.5B6/3 青灰色 景德鎮窯系 染付
185	136	111		X46Y33 Ⅰ層	瀬戸美濃	天目茶椀	12.2			大窯Ⅳ期前半	2.5Y8/2	灰白色		5YR4/3	にぶい赤褐色	鉄釉	
	137	111		X42Y30 Ⅱ層	古瀬戸	緑釉小皿	9.8			後期様式Ⅳ期古段階	5Y7/1	灰白色		2.5Y2/1	赤黒色	鉄釉	
	138	111		X46Y35 Ⅱ層	瀬戸美濃	皿			5.6	大窯Ⅰ～Ⅱ期	5Y8/1	灰白色		5Y5/4	オリーブ色	灰釉	輪ドチ痕
	139	112		X50Y43 Ⅱ層	越中瀬戸	椀	10.6			16世紀末～17世紀	10YR7/2	にぶい黄橙色		10YR3/3	暗褐色	鉄釉	
	140	112		X45Y46 Ⅱ層	越中瀬戸	皿	10.8	2.4	4.6	16世紀末～17世紀	10YR7/3	にぶい黄橙色	白色粒・石英	7.5YR3/2	黒褐色	鉄釉	
	141	112		X51Y32 Ⅰ層	越中瀬戸	皿	11.5	2.3	4.3	16世紀末～17世紀	2.5Y8/3	淡黄色		2.5Y8/1	灰白色	灰釉	印花?
	142	112		X14Y25 Ⅰ層	越中瀬戸	皿	10.8	2.4	5.0	16世紀末～17世紀	2.5Y5/4	にぶい赤褐色	白色粒	2.5Y8/2	灰白色	灰釉	印花
	143	112		X30Y36 Ⅱ層	越中瀬戸	皿	10.6	2.3	4.5	16世紀末～17世紀	10YR8/3	浅黄橙色	白色粒	N10YR8/2	浅黄色	灰釉	
	144	112		X24Y10 Ⅰ層	越中瀬戸	皿			4.1	16世紀末～17世紀	10YR8/4	浅黄橙色		5YR5/3	にぶい赤褐色	鉄釉	
	145	112		X50Y29 Ⅰ層	越中瀬戸	向付皿	9.7			17世紀	2.5Y6/2	灰黄色		7.5YR3/2	黒褐色	鉄釉	
	146	112		X45Y21 Ⅱ層	越中瀬戸	皿			7.8	17世紀	N7/0	灰白色	白色粒・黒色粒	7.5Y5/2	灰オリーブ色	灰釉	重ね焼
	147	112		X53Y30 Ⅰ層	越中瀬戸	香炉	10.6			16世紀末～17世紀	2.5Y6/2	灰黄色		7.5Y6/3	オリーブ黄色	灰釉	
	148	112		X47Y41 Ⅰ層	越中瀬戸	火入れ	13.0			16世紀末～17世紀	2.5GY8/1	灰白色		7.5YR4/4	褐色	鉄釉	
	149			X50Y27 Ⅰ層	越中瀬戸	鉢	23.6			16世紀末～17世紀	7.5YR8/4	浅黄橙色		5YR4/1	褐灰色	鉄釉	
	150	112		X33Y43 Ⅰ層	唐津	皿			5.2	16世紀末～17世紀初頭	5YR6/4	にぶい橙色		7.5YR6/1	灰色	灰釉	鉄絵色調 5GY3/1 暗オリーブ灰色、胎土目
	151			X53Y31	唐津	椀			4.4		7.5Y7/1	灰白色		5Y2/2	オリーブ黒色	鉄釉	
	152	112		X51Y31 Ⅰ層	唐津	皿	12.7	3.0	5.2	16世紀末～17世紀初頭	2.5Y7/3	浅黄色		5Y6/2	灰オリーブ色	灰釉	胎土目
	153	112		X46Y37	唐津	皿	13.0				10YR7/1	灰白色		7.5YR6/2	灰オリーブ色	灰釉	
	154	112		X25Y15 Ⅱ層	唐津	皿			5.4	17世紀前半	N7/0	灰白色	白色粒・黒色粒	5Y7/2	灰白色	灰釉	砂目
	155	112		X23Y16 Ⅰ層	伊万里	皿			4.4	17世紀後半～18世紀前半	N8/0	灰白色				透明釉	染付 10BG5/1 青灰色 波佐見窯系 蛇の目釉剥ぎ 重ね焼
	156			X46Y36 Ⅱ層	陶器	皿	8.8	1.7	4.2	近世	10YR6/1	褐灰色	白色粒・黒色粒				
	157	113		X48Y20 Ⅰ層	土製品	土錘	2.3	2.5	1.0		5YR7/4	にぶい橙色	白色粒				重量10.4g
	158	113		X43Y46 Ⅱ層	土製品	土錘	(4.8)	5.3	2.0		2.5Y7/2	灰黄色	白色粒・骨針・石英				重量48.2g
	159	113		X45Y43 Ⅱ層	土製品	土錘	5.0	5.4	1.7		10YR5/2	灰黄褐色	白色粒・石英				重量76.5g
	160	113		X35Y23 Ⅱ層	土製品	土錘	5.5	5.0	1.5		10YR7/2	にぶい黄橙色	白色粒・骨針・石英				重量64.1g
	161	113		X46Y21 Ⅰ層	陶磁器	根付	4.8	3.9		近世	2.5Y8/2	灰白色		2.5Y7/2	灰黄色	灰釉	

第27表　手洗野赤浦遺跡　木製品一覧(1)

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	材質	備考
186	1	114	SK 235		鍬	25.2	17.2	3.3	アカガシ亜属	
	2	114		X42Y43 Ⅱ層	下駄	12.9	8.6	3.7	ヒノキ	
	3	114	SD 6		曲物	16.6	12.5	0.3		
	4	114	SE 41		曲物	44.0	(20.6)	0.7	ヒノキ	
	5	115	SE 41		曲物	37.0	26.0	0.4	ヒノキ	年輪年代 No.3
	6	115	SE 41		曲物	(41.0)	(10.5)	0.3	ヒノキ	
	7	115	SE 41		曲物	(39.0)	7.4	0.2	ヒノキ	
	8	115	SE 41		曲物	37.0	(14.0)	0.4	ヒノキ	
187	9	116	SE 158		曲物	40.5	35.0	0.7	スギ	
	10	115	SE 158		曲物	39.0	(19.0)	0.5	ヒノキ	
	11	116	SE 183		曲物	61.5	23.6	0.8	スギ	
	12	116	SE 28	上層	曲物	39.0	29.0	0.4	ヒノキ	
	13	116	SK 155		曲物	33.6	(8.0)	0.3	ヒノキ	
188	14	117	SD 4	X42Y47	円形板	(13.8)	(4.1)	0.6	ヒノキ	
	15	117	SD 6		底板	16.7	3.8	0.5	ヒノキ属	
	16	117	SD 156		円形板	24.7	(3.3)	1.1	スギ	
	17	117	SE 28	上層	円形板	15.8	(2.9)	0.6	ヒノキ	
	18	117	SE 40		円形板	12.8	2.7	0.7	サワラ	放射性炭素年代 No.1
	19	117	SE 158		漆器椀	16.0	(2.4)		ブナ	内外面黒色,外面赤色絵・漆器分析 No.7
	20	118	SD 6		漆器椀		(1.7)	(6.8)	ブナ	内外面黒色,内面赤色絵・漆器分析 No.2
	21	118	SE 28	上層	漆器椀		(1.3)	(5.4)	モクレン属	内外面黒色,内面赤色絵
	22	118	SD 110	X34Y34	漆器椀		(4.4)	6.7	ブナ	内外面黒色,内面赤色絵・漆器分析 No.6
	23	118	SD 4	X41Y46	漆器椀		(4.2)	(7.8)	ブナ	内外面黒色,内面赤色絵・漆器分析 No.1
	24	119	SK 47		漆器椀	16.0	6.4	8.0	トチノキ	内外面黒色,内面赤色絵・漆器分析 No.5
	25	119	SE 40		漆器椀		(5.5)	(7.5)	ブナ	内外面黒色,内面赤色絵・漆器分析 No.3
189	26		SD 110	X29Y35	漆器椀		(1.8)	(6.6)	ブナ属	内外面黒色,内面赤色絵
	27	120	SE 40		漆器皿	7.8	2.4	5.2	ブナ	内外面黒色,内面赤色絵・漆器分析 No.4
	28	120	SD 216		漆器皿	9.0	2.3	6.2	ブナ	内外面黒色,内面赤色絵・漆器分析 No.8
	29	120	SD 216		漆器有段皿	12.0	2.1	8.0	ブナ	外面黒色,内面赤色・漆器分析 No.9
	30	121	SE 183		折敷	28.8	16.6	0.6	ヒノキ	年輪年代 No.1
	31	121	SE 183	②層	折敷	27.0	(11.5)	0.4	ヒノキ	
	32	121	SE 183		折敷	29.0	13.3	0.6	ヒノキ	年輪年代 No.2
	33	120	SE 28	上層	匙	(14.4)	7.3	1.5	マメ科(イヌエンジュ,サイカチ等)	
190	34	122	SP 280		柱	36.6	17.4	13.1	サイカチ	
	35	122	SP 281		柱	31.4	16.9	15.1	クリ	
	36	122	SP 253		柱	12.3	8.1	7.1	ウメorモモ	放射性炭素年代 No.5
	37	122	SP 225		柱	17.6	9.8	9.6	オニグルミ	放射性炭素年代 No.3
	38	122	SP 257		柱	11.1	12.8	12.8	カバノキ属	放射性炭素年代 No.6
	39	122	SP 238		柱	14.2	15.7	14.0	クリ	放射性炭素年代 No.4
191	40	123	SP 21	上層	柱	38.2	10.6	10.6	クリ	
	41	123	SP 105	上層	柱	32.1	10.9	9.5	クリ	
	42	123	SP 29	上層	柱	31.1	8.6	7.5	クリ	
	43	123	SP 23	上層	柱	22.1	17.1	15.6	クリ	
	44	123	SP 20	上層	柱	95.0	17.4	17.4	イタヤカエデ	
192	45	124	SP 258		柱	66.0	22.6	17.6	クリ	
	46	124	SP 258		柱	23.7	7.7	6.7	ハンノキ	
	47	124	SP 239		柱	57.2	12.2	12.2	クリ	
193	48	125	SP 132		柱	41.6	25.0	20.0	ヌルデ	
	49	125	SP 51		柱	35.7	14.0	11.3	クリ	

第27表　手洗野赤浦遺跡　木製品一覧(2)

挿図	遺物	写真図版	遺　構	出土地点	種　類	法量(cm)			材　質	備　考
						長　さ	幅	厚　さ		
193	50	125	SP 65		柱	18.2	16.3	13.4	リョウブ	
	51	126	SP 205		柱	9.2	6.8	6.1		
	52	126	SP 285		柱	40.1	15.5	14.5	クリ	
194	53	126	SD216		杭	24.3	7.1	5.5	アカマツ	
	54	126	SE 40		柱	26.3	12.1	11.2	クリ	
	55	126	SP 135		柱	48.8	22.0	20.2	クリ	
	56	126	SK 235		柱	33.0	12.0	9.7	クリ	
195	57	127	SE 158		呪符木簡	(16.3)	2.8	0.6	ウルシ科(ヌルデ,ヤマウルシ等)	墨書
	58	127	SD6	X47Y34	加工板	(10.8)	8.0	0.7	ヒノキ	
	59	127	SD6		加工板	19.0	6.7	0.8	ヒノキ	
	60	127	SD4	X41Y48	加工板	6.9	(5.4)	3.5	ヒノキ属	
	61	127	SD6		加工板	7.6	6.5	3.9		
	62	128	SD4		加工板	22.6	(2.9)	0.8	ヒノキ	表面炭化
	63	128	SE 40		加工板	25.4	12.2	2.3	サワラ	
	64	128	SE 183		加工板	27.0	4.2	1.3	スギ	
	65		SE 183	②層	加工棒	23.5	0.6	0.4	ヒノキ	
	66		SE 183		折敷?	(15.9)	3.4	0.5	ヒノキ	
	67	128	SE 183		部材?	22.7	3.7	3.5	サクラ属	放射性炭素年代 №2

第28表　手洗野赤浦遺跡　石製品一覧

挿図	遺物	写真図版	遺　構	出土地点	種　類	法　量(cm・g)				材　質	備　考
						長　さ	幅	厚　さ	重　さ		
197	1	129	SD6		五輪塔	13.7	13.7	8.5	2320	凝灰岩	
	2	129		X43Y31 Ⅱ層	石鉢片	7.0	9.0	3.0	209.5	砂岩	
	3	129	SD18	X46Y29 ②層	砥石	10.0	4.3	1.0	92.1	凝灰岩	
	4	129	SD18	X48Y29	砥石	8.5	3.2	1.0	41.4	頁岩	
	5	129	SD18	X48Y29 ②層	砥石	6.6	3.0	2.1	55.2	凝灰岩	
	6	129	SE41		砥石	10.3	8.7	5.1	682	砂岩	
	7	129	SD6		砥石	13.5	9.3	6.0	1260	砂岩	

第29表　手洗野赤浦遺跡　金属製品一覧

挿図	遺物	写真図版	遺　構	出土地点	種　類	法　量(cm・g)			
						長　さ	幅	厚　さ	重　さ
198	1	130		X35Y30	銭(景徳元寶)	2.48	2.5	1.07	2.59
	2	130		X37Y14	銭(祥符元寶)	2.31	2.2	1.30	2.08
	3	130		X40Y20	銭(天禧通寶)	2.38	2.4	1.05	2.58
	4	130		X25Y30	銭(天聖元寶)	2.46	2.4	1.16	2.79
	5	130		X25Y30	銭(熙寧元寶)	2.37	2.3	1.52	2.66
	6	130	SD18	X46Y27	銭(熙寧元寶)	2.32	2.3	1.42	2.17
	7	130		X38Y16	銭(政和通寶?)	2.33	1.4	0.79	1.07
	8	130		X25Y30	銭(皇宋通寶)	2.42	2.4	0.17	3.22
	9	130		X47Y38 Ⅰ層	煙管吸口	8.6	0.9	0.1	8.6
	10	130		X26Y29 Ⅱ層	棒状鉄製品	6.7	0.6	0.3	6.4

第30表　手洗野赤浦遺跡　骨角製品一覧

挿図	遺物	写真図版	遺　構	出土地点	法　量(cm・g)				材　質	種　類
					長　さ	幅	厚　さ	重　さ		
196	1	130	SK 12		14.5	1.3	0.2	4.1	鹿骨	笄

4　地震痕跡（第199・200図，図版98・99）

手洗野赤浦遺跡では，重機による表土掘削後直ぐに大きな砂脈を数条確認し，調査当初はあまりに大きな砂脈のためそれを噴砂と認識できなかったが，断面観察や寒川氏による視察によりそれを確認するに至った[注55]。調査を進めると噴砂は，ほとんどの遺構を切り変形させ，遺物（中世土師器皿）までも割っていて，しかもこの噴砂によって地下水を吸い上げ遺構の検出や崩壊に悩まされた。調査時でこのような状態であったから，実際に地震の起こった時期は甚大な被害であったのであろう。なお，手洗野赤浦遺跡で検出した地震痕跡は，噴砂のみである。

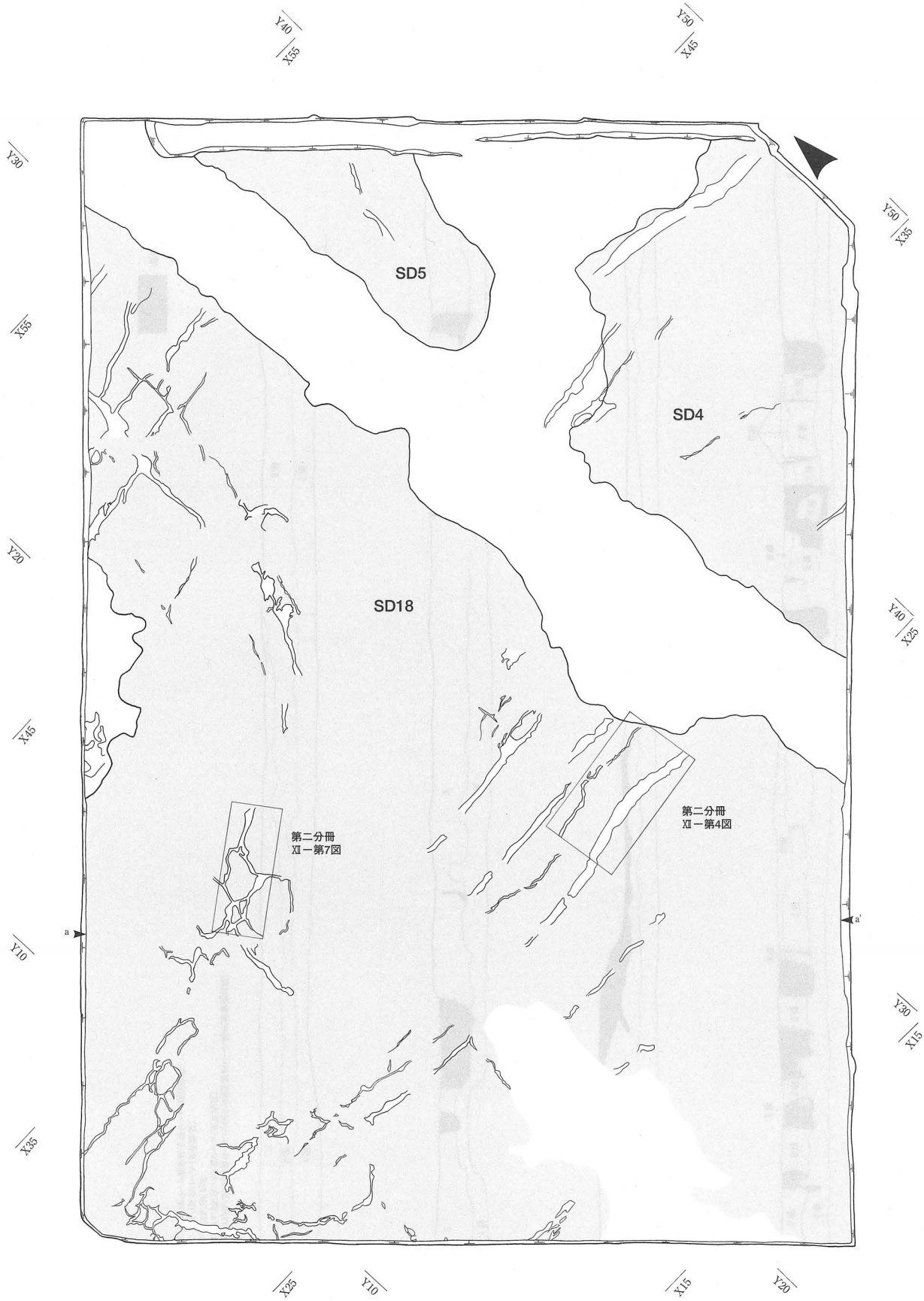
（1）噴砂

噴砂は，下層中世遺構確認面であるⅢ層の下にあるⅣ層（砂層）から吹き出し，上層の中世～近世遺物包含層にあたるⅡ層の上面で吹き上がる。噴砂の時期は，近世以降で旧表土より下という土層を引き裂いていることから飛越地震（1858年）と比定される。砂脈の幅は約20㎝～１ｍで，砂脈の長さは長いもので14ｍ以上ある。砂脈の走る向きは，概ね東西方向と南北方向の２方向に限定され，特に東西方向に走るものが太い。これらの様相は，土層の堆積と地山の凹凸に対応しているようである。それは，ＳＤ５の部分では南北方向，ＳＤ４の部分では東西方向と遺構の状況を反映してその向きを変えている。また，西側の大部分を占める一段下がった部分（ＳＤ18）では東西と南北方向の２方向のものがあるが，これはまず震源地の跡津川断層がある東方からの揺れによって南北方向に噴砂が形成され，つづいて西方にある西山丘陵によるなぎさ現象で東西方向に噴砂が形成されたものと見られる。つまり，噴砂の吹き上がりは中世～近世の包含層直上に見られるものの，この形状はその下に作られた遺構や地形を大きく反映したものなのである。

飛越地震は，富山県と岐阜県の境にある跡津川断層で発生した大地震で，マグニチュードは7.0～7.1と推定されている。この地震は，富山平野を中心に加賀・飛彈・越前に甚大な被害をもたらした。特に県東部では，立山カルデラが崩壊（大鳶崩れ）し，土石流となって平野部に押し寄せ，民家や田畑に被害をもたらせ，現在でもその爪痕は残っており，富山の地震と言えばこの飛越地震のことを指すようなものである。手洗野赤浦遺跡のある県西部の高岡市では，『瑞龍寺文書』などに地面が割れて水や砂が吹き出したと記されており，文書に記されていた様子が今回の調査で明らかになったと言えよう。

（町田賢一）

注55　第二分冊　自然科学分析　寒川　旭「Ⅶ．手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡で検出された地震痕跡」



谷状地等の低地　　微高地

0　1:400　20m

※枠内は，第二分冊　自然科学分析　寒川　旭「Ⅻ．手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡で検出された地震跡」砂脈の平面図位置。

第199図　手洗野赤浦遺跡　遺構実測図
地震痕跡　噴砂

第200図　手洗野赤浦遺跡　遺構実測図

地震痕跡　噴砂

第Ⅴ章　近世北陸道遺跡

1　遺跡の概要

（1）概　要

今回調査した近世北陸道遺跡は，国道８号線と市道立野笹川２号線の交差点東側に位置しており，この市道を挟んで南北に調査区を設定した。

近世の北陸道は，幕藩体制と参勤交代制の確立によって近世初期に整備されているが，越中国内においてはその後も改変が行われた。当時の北陸道は倶利伽羅峠を越えて，砺波平野北部を東西につききるルートであったが，慶長14（1609）年に前田利長が高岡に居城するにあたり，城下の繁栄のため，高岡を通る迂回路「高岡廻り街道」の整備を開始した。整備には時間を要し，正保４（1647）年の『越中道記』には「大道」ではなく，「脇道」として記述されているが，文政13（1830）年の『加能越三州地理志稿』には「官道」と記述されており，本街道の扱いがなされている。この街道に前出の市道が比定されているため，近世北陸道遺跡として調査を行ったものである。

調査では溝５条・不明遺構１基を検出した。溝は北調査区に２条，南調査区に３条で，市道にほぼ沿う形で伸びている。なかでもＳＤ１とＳＤ２は両調査区の東端から西端まで平行して伸びており，道路の側溝として機能していたと考えられる。この両溝を両側溝と考えられるかどうかだが，ＳＤ１とＳＤ２の心々距離は約10ｍもある。寛永17（1640）年の富山藩分封を契機に，高岡廻り街道も含む「下街道」の整備が開始されたが，この下街道を調査した大島町水上・本開発遺跡の例（道路使用部分：約2.7ｍ・新側溝の心々距離：約５～5.5ｍ）と比べると，あまりにも規模が大きすぎる。また，『越中道記』では当該区間の「道幅弐間」（約3.8ｍ）と記述しているが，この「道幅」を道路使用部分と捉えても，両側溝の心々距離が10ｍになることはまずない。どちらの溝も遺物は少量ながら，時期差はほとんどないように考えられるのだが，市道部分は調査できなかったこともあり，それぞれを道路の側溝と考えることはできるが，両溝をもって，対となる側溝と考えることは難しい。

道路面は市道の下にあると考えられるが，調査は行っていない。市道側の調査区端と検出した溝との間の狭い空間ではあったが，路面の手がかりを得ようと精査を行った。溝から市道に向かってやや傾斜が上がっていくこと，市道に近い部分に小砂利が多く散らばっていること，土の締まり具合が溝の外側に比べて内側のほうが締まっている感があることがわかった。特に土の締まり具合は，南調査区の東側において顕著であった。

今回の調査では，道路の構造は市道部分が調査できなかったために詳細不明であり，側溝と考えられる溝を検出したのみである。現在の道路は近世北陸道をほぼ踏襲しているため，近世北陸道自体の調査例が少ない。今後の資料の増加に期待したい。

（2）土　層

現況は南北調査区のいずれにおいても東側は水田，西側は工場跡地となっており，西側は砂および砂礫が約60㎝盛土されていた。盛土の下はⅠ層（耕作土）で暗オリーブ褐色シルトが約20㎝堆積し，Ⅱ層は灰オリーブ色砂質ロームで，遺構検出面である。耕作土直下が遺構検出面となり，耕作土が浅いことから，遺構検出面が削平されている可能性がある。遺構検出面の標高は11.6～11.8ｍである。

2　遺構と遺物

（1）溝

1号溝（ＳＤ１，第202・203図，図版132～134）

北調査区を東西に伸びる溝。南側にあるＳＤ３との切り合いは，ややＳＤ１が切っていると考えられる。幅は62cmで，溝の内部は規則性なく連続する土坑状を呈し，深さは浅い部分で10cm，土坑状の深い部分で36cmを測る。埋土は深い部分で２層に分かれ，浅い部分は単層である。

遺物は産地不明陶器擂鉢（*1*），伊万里の青磁火入れ（*2*），金属製の火箸（*15*）が出土している。*1*は内外面に鉄釉，体部外面はロクロナデを施す。卸目は１単位14条以上を数える。19世紀頃のもの。

2号溝（ＳＤ２，第202・203図，図版132～134）

南調査区を東西に伸びる溝。東側にあるＳＤ６を切る。幅は0.7～1.4mと均一ではなく，ＳＤ１と同様に，溝の内部は規則性なく連続する土坑状を呈し，深さは浅い部分で12cm，土坑状の深い部分で30cmを測る。この深い部分は大まかに上下２層に分かれ，浅い部分は単層となる。土層断面から，先に土坑状の深い部分が掘られ，埋没した段階で浅い部分が掘り直されたものと考えられる。

遺物は越中瀬戸（*3*～*5*），伊万里（*6*），瀬戸磁器（*7*），曲物底板（*14*）が出土している。

3・*4*は越中瀬戸の皿。*3*は体部内外面に鉄釉を施す内禿皿。*4*は体部外面と内面見込みまで鉄釉を施す。底部は糸切り痕を残す。いずれも18世紀のもの。*5*は火入れか。内外面に鉄釉を施す。*6*は伊万里の鉢。蛇の目高台で，見込みに山水文，体部外側には源氏香文を描く。18世紀以降のもの。7は溝の浅い部分から完形で出土した瀬戸磁器の小碗で，端反り形，見込みに「米」文，体部外側に桜花形のスタンプを押し，その上に呉須をかける。明治初期以降のもの。*14*は曲物底板で，直径８cm，厚さ0.6cmのスギ材である。表面の縁と裏面に漆を塗布し，側面にはみられない。漆は底板をはめ込んだ後，底板と側板の接着のため表面（内底面）の縁に塗ったものと考えられるが，幅が0.5～1.5cmと均一ではなく，粗い仕上がりである[注56]。

3号溝（ＳＤ３，第202図）

北調査区の東側で東西に伸びる溝。ＳＤ１よりも市道側を平行して伸び，西端で切られている。幅は40cm，深さは５cm程度と浅い。埋土は単層である。遺物は出土しなかった。

5号溝（ＳＤ５，第202図，図版132）

南調査区の東側で東西に伸びる短い溝。ＳＤ２・６よりも市道側を平行して伸び，西端でＳＤ６と切り合うが不明である。幅は36cm，深さは14cmで，埋土は単層である。遺物は出土しなかった。

6号溝（ＳＤ６，第202図）

南調査区の東側で東西に伸びる溝。ＳＤ２よりも市道側を平行して伸び，ＳＤ２に切られている。幅は0.4～0.8m，深さは６cmと浅く，埋土は単層である。遺物は出土しなかった。

4号不明遺構（ＳＸ４，第202・203図，図版132～134）

北調査区の西端にある。他の遺構とは異なり，南北に伸びているように見えるが，調査区外に広がっているため，土坑か溝かも不明で，撹乱の可能性もある。長さは2.5m，深さ10cmで，埋土は単層である。遺物は出土しなかった。

（2）遺構外出土遺物（第203図，図版133・134）

今回の調査では耕作土直下が遺構検出面であったため，遺物包含層は存在しなかった。ただ，遺構内出土遺物がごく少量であったため，ここではＩ層とした耕作土および遺構検出面直上で採集した遺

注56　第二分冊　自然科学分析　四柳嘉章「Ⅷ．手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡・近世北陸道遺跡出土漆器の科学分析」

物を取り扱うことにする。

*8*は越中瀬戸の皿で，体部内外面に鉄釉を施し，底部は削りだし高台となる。*9*は唐津で京焼風の碗。*10*～*13*は伊万里で*10*～*12*は碗。いずれも18世紀のもの。*13*は磁器小杯で，体部外面に文字が書かれる。*16*はキセルの吸口。このほか，越中瀬戸匣鉢，刷毛目唐津，明治以降の磁器摺絵皿などが出土した。

（新宅　茜）

第31表　近世北陸道遺跡　溝一覧

遺　構	遺構種類	規模(m)		出土遺物	時　期	挿　図	写真図版	特　記
		幅	深さ					
SD1	溝	0.62	0.36	陶器(*1*)・伊万里(*2*)・火箸(*15*)	近世・近代	201・202	131・132	>SD3
SD2	溝	1.40	0.30	瀬戸(*7*)・越中瀬戸(*3*～*5*)・伊万里(*6*)・曲物底板(*14*)	近世・近代	201・202	131・132	>SD6
SD3	溝	0.40	0.05	なし	近世・近代	201・202	131・132	<SD1
SD5	溝	0.36	0.14	なし	近世・近代	201・202	131・132	
SD6	溝	0.80	0.06	なし	近世・近代	201・202	131・132	<SD2
SX4	不明	2.50	0.10	なし		201・202	131・132	

第32表　近世北陸道遺跡　土器・陶磁器一覧

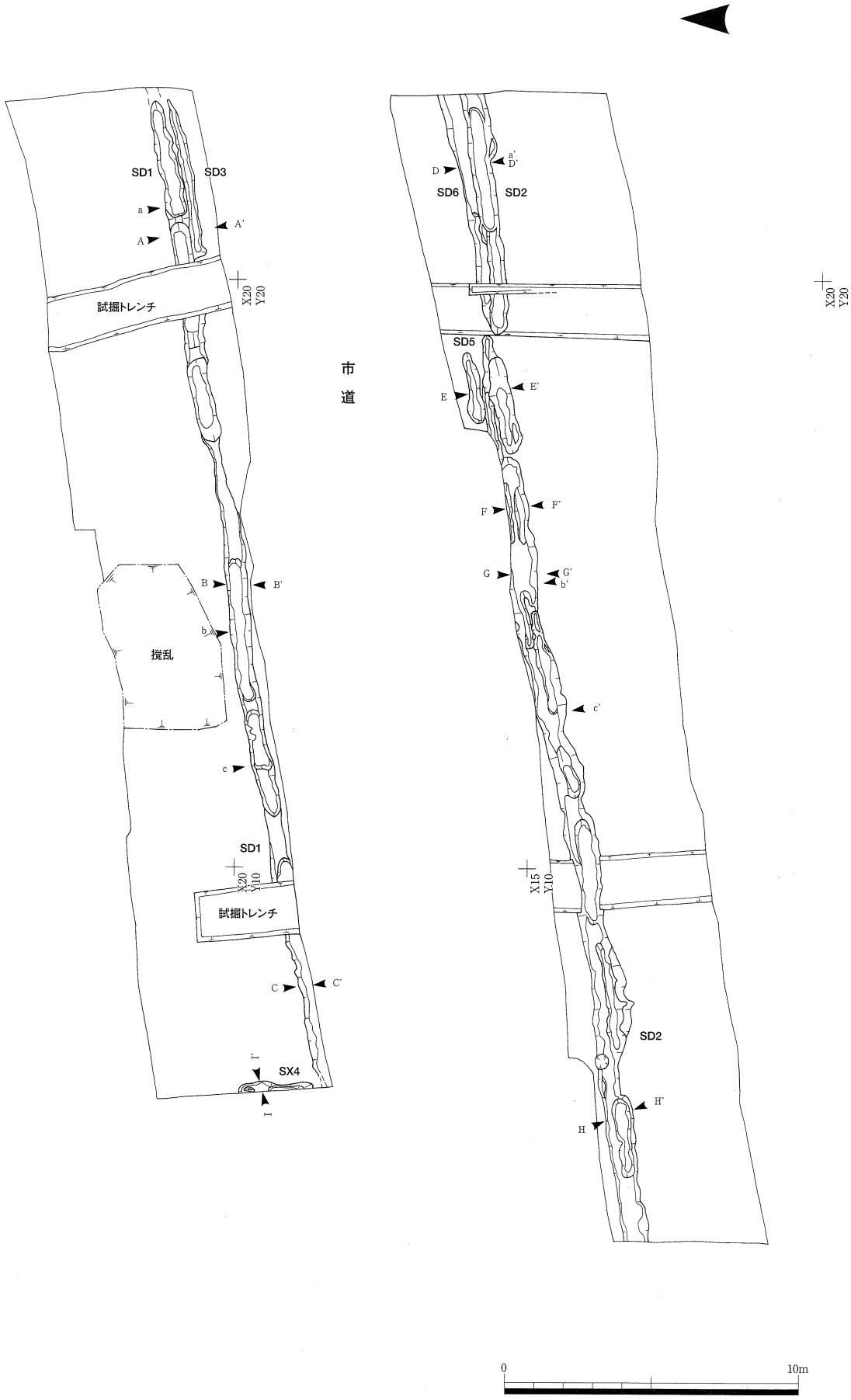
挿図	遺物番号	写真図版	遺構	出土地点	種　類	器　種	法量(cm)			時　期	胎土色調	胎土の特徴	釉色調	釉薬	備考
							口径	器高	底径						
203	*1*	133	SD1	X21Y22	陶器	擂鉢				19世紀	2.5YR5/4にぶい赤褐色		10YR2/2 黒褐色	鉄釉	
	2	133	SD1	X21Y22	伊万里(青磁)	火入れ				19世紀	10Y8/1 灰白色		10Y7/1 灰白色	青磁釉	
	3	133	SD2	X17Y23	越中瀬戸	皿				18世紀	10YR8/2 灰白色	砂粒	7.5YR3/2 黒褐色	鉄釉(内面)	
	4	133	SD2	溝上面	越中瀬戸	皿			4.0	18世紀	7.5YR7/3 にぶい橙色		7.5YR4/3 褐色	鉄釉	
	5	133	SD2	X14Y5	越中瀬戸	火入れ	14.0				10YR7/2 にぶい黄橙色	漆付着	7.5YR2/3 極暗褐色	鉄釉	
	6	133	SD2	X15Y11	伊万里	鉢	18.8	5.6	10.8	18世紀以降	10BG7/1 明青灰色		2.5PB3/4 くすんだ青色	透明釉	染付
	7	133	SD2	X15Y14	瀬戸	小碗(端反形)	8.6	4.5	3.3	明治初期以降	10Y8/1 灰白色		5PB3/6 くすんだ青色	透明釉	染付
	8	133		X19Y6 Ⅱ層	越中瀬戸	皿			5.4	18世紀	10YR7/3 にぶい黄橙色		10YR3/1 黒褐色	鉄釉	
	9	133		Ⅱ層	京焼風唐津	碗			5.0	18世紀	2.5Y8/2 灰白色			透明釉	
	10	133		X15Y9 Ⅱ層	伊万里	碗	11.8			18世紀	10Y8/1 灰白色		10BG5/2 暗い灰青色	透明釉	染付
	11	133		X19Y7 Ⅱ層 X20Y8 Ⅱ層	伊万里	碗	14.0			18世紀	N8/0 灰白色		2.5PB6/4 くすんだ青色	透明釉	染付
	12	133		X21Y13 Ⅱ層	伊万里	碗				18世紀	10Y8/1 灰白色		5PB4/6 くすんだ青色	透明釉	染付
	13	133		X15Y14 Ⅱ層	伊万里	小杯	6.0				N8/0 灰白色		5PB3/6 くすんだ青色	透明釉	染付

第33表　近世北陸道遺跡　木製品一覧

挿　図	遺物番号	写真図版	遺　構	出土地点	種　類	法量(cm)			材質	備　考
						長　さ	幅	厚　さ		
203	*14*	134	SD2	X15Y12	曲物底板	8.0	8.0	0.6	スギ	漆器分析№15

第34表　近世北陸道遺跡　金属製品一覧

挿　図	遺物番号	写真図版	遺　構	出土地点	種　類	法量(cm・g)		
						長　さ	幅	厚　さ
203	*15*	134	SD1	X16Y23	火箸	25.30	0.60	0.55
203	*16*	134		X20Y8 Ⅱ層	煙管(吸い口)	3.50	0.90	0.10



第201図　近世北陸道遺跡　遺構全体図　（1：200）